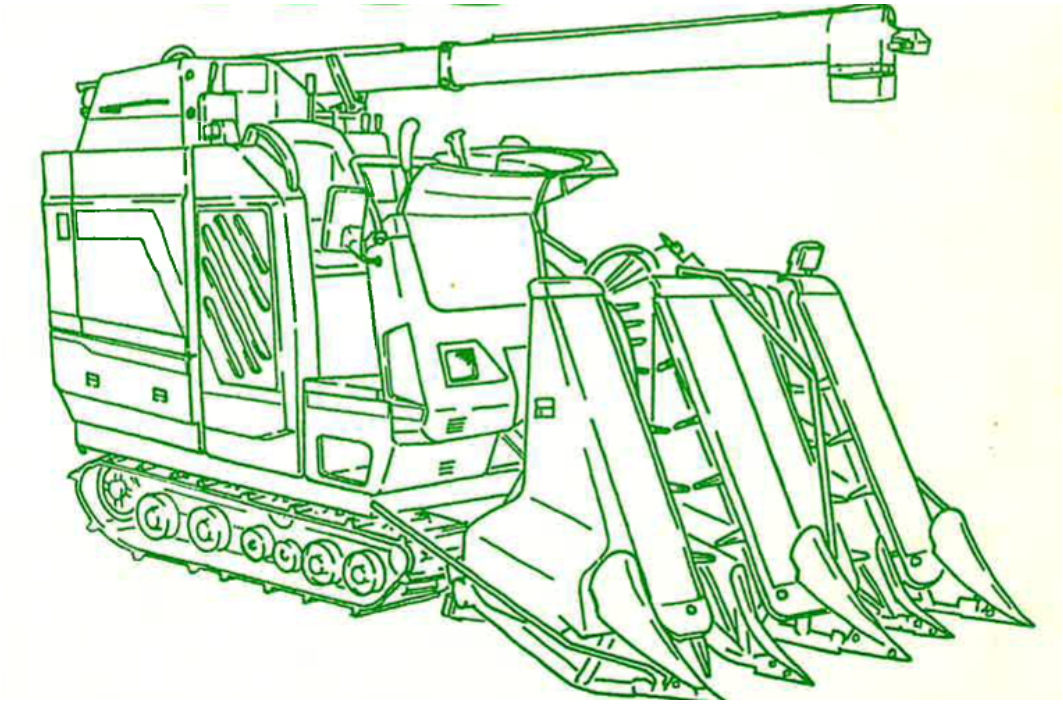
コンバイン

取扱説明書

MC330



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。
（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，安全作業のためにからお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● 安全な作業をするための注意事項は？ **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● 使用前に知っておかなければならないことは？ **ご使用まえに 1**

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● 各部のはたらきを知るには？ **各部のはたらき 5**

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● コンバインを動かすには？ **運転のしかた 25**

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

● 収穫作業を行うには？ **作業のしかた 33**

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

● 自動装置を使用して作業するには？ **自動装置について 56**

各自動装置の取扱いについて説明しています。

● キャビン仕様機の取扱いは？ **キャビンについて 67**

各装置の取扱いについて説明しています。

● 機械を長もちさせるには？ **手入れのしかた 70**

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● 機械を3ケ月以上格納するときは？ **長期格納のしかた 133**

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● 故障かなと思ったら？ **不調時の処置 135**

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-22)
(安全作業説明編)

ご使用まえに……1
1．保証とサービスについて……1
2．仕様（装備）について……2
3．用語について……3
4．小型特殊自動車について……4

各部のはたらき……5
1．各部の名称……5
2．運転装置の取扱い……8
1．スイッチ・計器関係……8
2．ペダル・レバー関係……15
3．電装関係……22

運転のしかた……25
1．運転まえの点検……25
2．エンジンの始動と停止……27
1．エンジン始動のしかた……27
2．エンジン停止のしかた……27
3．走行・停車のしかた……28
1．走行のしかた……28
2．停車のしかた……29
4．自動車への積込み・積降ろし……30
1．自動車・アユミについて……31
2．コンバインの取扱い……31
5．ほ場への出入り……32

作業のしかた……33
1．作業まえの準備……33
1．作物の条件について……33
2．ほ場の条件について……33
3．ほ場の準備……34
4．機械の準備……34
2．刈取り作業のしかた……37
1．刈取り操作の手順……37
2．作業速度の選びかた……40
3．こく粒の排出操作方法……43
4．グレンタンク補助樋口の取扱い……45
5．リフトシャットの取扱い……46
6．夜間作業……46
7．トルクリミッタの取扱い……47
8．エンジン自動停止の取扱い……48
9．手こぎ作業……49
10．エンジン停止スイッチの取扱い……50
11．刈取り作業終了後の取扱い……50
12．警報装置について……51
3．ワラ処理部の取扱い……52
1．カッタ作業……52
2．排ワラ作業……54
4．麦刈り作業時の調整のしかた……54
1．選別ダイヤルの調節……54
2．スーパーワイドセレクタの調節……55
3．こぎ胴回転数のセット……55
5．刈刃の高さ調節のしかた……55

自動装置について……56
1．こぎ深さ自動制御……56
1．運転装置……56
2．こぎ深さセンサの調整……56
3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……57
2．方向自動制御［A，D仕様］……57
1．運転装置……57
2．作業のしかた……58
3．方向自動制御の使えない条件……58
3．刈高さポジションコントロール……59
1．運転装置……59
2．自動での作業のしかた……60
3．手動での作業のしかた……61
4．水平自動制御（ジャストマチック）［L仕様］…61
1．運転装置……61
2．作業のしかた……62
5．選別自動制御……63
1．運転装置……63
6．排出オーガ自動制御……64
1．運転装置……64
7．マイコン（マイクロコンピュータ）……66

キャビンについて ……67

1．各部の取扱い……67
1．ドア・ウインドウの開閉のしかた……67
2．スイッチ類の取扱い……68
3．クーラの取扱い……68
4．格納のしかた……69-1

手入れのしかた ……70

1．定期点検整備……70
「定期点検整備表」……70
2．給油・注油・給水のしかた……74
「給油・注油・給水表」……74
1．燃料の補給……76
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換…76
3．ラジエータ冷却水の点検・交換……77
4．ミッションケースのオイル点検・交換…79
5．油圧作動油の点検・交換……79
6．こぎ深さギヤケース……81
7．トルクリミッタケース右，左（刈取部）…81
8．刈刃駆動ギヤケース……81
9．脱こくギヤケース……81
10．こぎ胴ギヤケース……82
11．脱こくフィードチェンギヤケース……82
12．グレン入力ギヤケース……82
13．集中注油タンク……82
14．水平制御リフトアーム軸受部［L仕様］…83
15．ウォッシャタンク［キャビン仕様］……83
16．各部の注油……84
3．各部の点検と掃除のしかた……86
1．ラジエータ吸気部の掃除……86
2．エアクリーナの掃除……86
3．燃料フィルタの掃除・交換……87
4．燃料のエア抜きのしかた……87
5．電気配線の点検と掃除……88
6．バッテリの点検と充電……88
7．グレンタンクの回動のしかた……91
8．こぎ胴部の開きかた……92
9．脱こくファンケースの開きかた……93
10．脱こく内部の掃除……94
11．揺動流板の掃除……97
12．グレンタンク部の掃除…… 100
13．カッタのオープンのしかた…… 101
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 102
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 102
2．爪の交換のしかた…… 110
3．ホース類の点検と交換…… 110
4．ワラ切カマの手入れ…… 111
5．こぎ歯の点検と交換…… 112
5．各部の点検と調整のしかた…… 113
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．マルチステアリングレバー…… 113
2．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 114
3．刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバー… 115
4．こく粒排出レバー…… 116
5．カッタ・排ワラ切替レバー…… 117
6．リフトシャットレバー…… 118
「ベルトの点検・調整」
7．エンジンファンベルト…… 119
8．走行ベルト…… 119
9．こぎ胴伝動ベルト…… 120
10．こぎ胴ベルト…… 120
11．脱こくフィードチェン駆動ベルト…… 121
12．１番ラセン駆動ベルト…… 121
13．カッタベルト…… 121
14．選別ベルト…… 122
15．カッタ拡散ベルト…… 122
16．排ワラ駆動ベルト…… 123
17．グレン入力ベルト…… 123
18．かき込みベルト（刈取部）…… 124
19．コンプレッサベルト［キャビン仕様］… 124
「チェンの点検・調整」
20．株元搬送チェン（左）…… 125
21．株元搬送チェン（右）…… 125
22．こぎ深さ搬送チェン…… 126
23．穂先搬送チェン…… 126
24．かき込み搬送チェン…… 127
25．脱こくフィードチェン…… 128
26．穂先排ワラチェン…… 129

27. 排ワラチェン…… 129
「クローラの点検・調整」
28. クローラ…… 130
「刈刃の上下調節」…… 131

長期格納のしかた ……133
1．機械の掃除と洗浄…… 133
2．錆止めと注油…… 133
3．エンジンの手入れ…… 133
4．点検・整備…… 133
5．格納…… 134
6．再使用にあたって…… 134

不調時の処置 ……135
1．エンジン部…… 135
2．走行・運転操作部…… 136
3．電気・自動制御部…… 139
4．刈取部…… 140
5．脱こく部…… 142
6．ワラ処理部…… 145
7．グレンタンク部…… 146
8．キャビン部 …… 146-1

付　　表 ……147
1．主要諸元…… 147
2．電気配線図…… 148
3．ベルト一覧表…… 152
4．主な消耗部品…… 153
1．爪関係…… 153
2．刈刃・カマ関係…… 154
3．カッタ関係…… 155
4．ヒュージブルリンク・ヒューズ…… 155
5．アタッチメント（別売り） …… 156
6．潤滑油について…… 157
1．エンジンオイル…… 157
2．油圧作動油…… 157
3．ギヤオイル…… 157
4．三菱農機(純正油)マルチオイルペア… 158
7．コンバイン関連商品…… 159
8．用語解説…… 160

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をする時は……（安-5）

⚠エンジンを始動する時は……（安-9）

⚠路上走行をする時は……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-12）

⚠ほ場で作業をする時は……（安-13）

⚠１日の作業が終わったら……（安-16）

⚠長期格納する時は……（安-17）

2．表示ラベルについて……（安-18）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

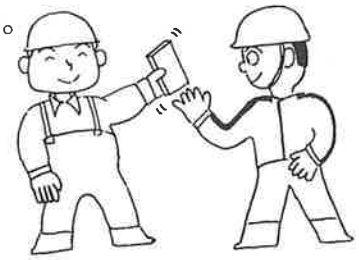
安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作したりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。 	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠ 安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする

始業・点検 準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
- 方向指示灯などの保安部品の作動を確認する
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する



エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》（中立）または《切》にする
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- エンジンの始動はシートに座って行う（乗用型）歩行型は正しい姿勢で行う
- 始動のときは周囲の人に「合図」をする

走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける
- サブタンク，ナローガイド，排出オーガを収納する
- 機械に子供等，人や物をのせない
- 走行する前にホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出する
- 発進時は周囲をたしかめる
- 走行時の旋回は低速で行う
- 後進時は後方を確認する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない
- 作業機クラッチ，刈取クラッチを《切》にする
- 運転中は子供等，人を機械に近づけない

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間走行は前照灯をつける（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行



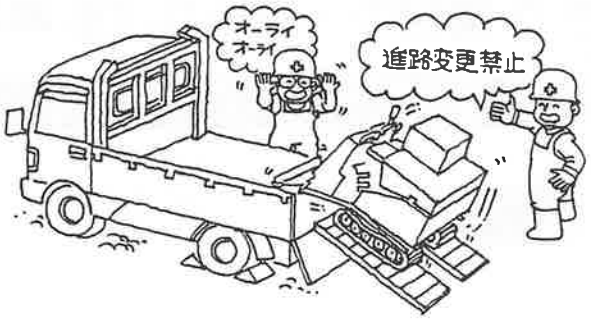
- 速度を落として走行する
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する
- 急傾斜地は走行しない
- 坂道での旋回は低速で行う

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 主・副変速は「低速」に入れておく
- 傾斜地では駐車しない
  （やむを得ず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れるときは始動キーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械の周囲には人を近づけない
- 作業機，刈取クラッチは《切》にする
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行う
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない
- キャビン仕様機以外は機械から降りて行う



ほ場作業　ほ場の出入り

- ホッパやグレンタンク内のこく粒を排出して行う
- 変速は低速であぜに対して直角に行う
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う

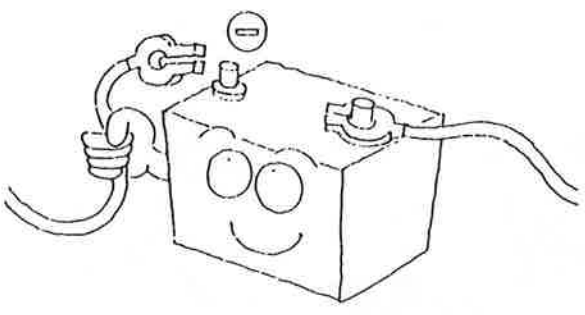


ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する
- 刈取り作業は機械の周囲に子供等，人を近づけない
- 旋回時は周囲の状況を確認し，低速で行う
- 排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内に手を入れない
- 運転走行中の乗り降りはしない
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる
- あぜぎわでの旋回時は周囲を確認する
- ノッタの結束ひもを交換するときはエンジンを停止する（ノッタ仕様）
- ノッタのそばに手や身体を近づけない

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う
- 手袋は使用しない
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない
- カッタの切ワラがたまったら，手こぎを中断して移動する
- ワラクズの近くに機械を停止しない



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 詰まり等の異常時にはエンジンを停止して行う
- 脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いたらストッパをかける
- カッタをオープンしたときはストッパをかける
- 取外したカバー類はすべて取付けて作業を始める

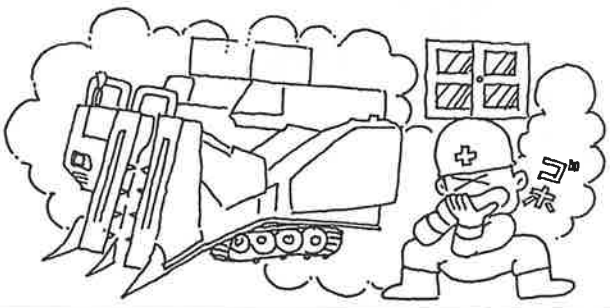
終業・格納　１日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする
- 始動キーを抜取っておく
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- マフラやラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

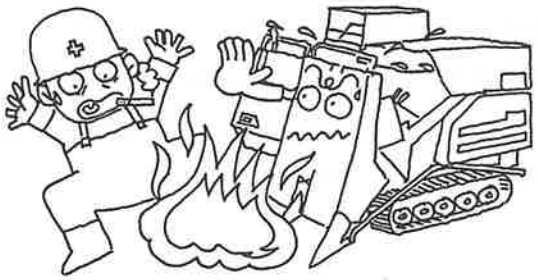
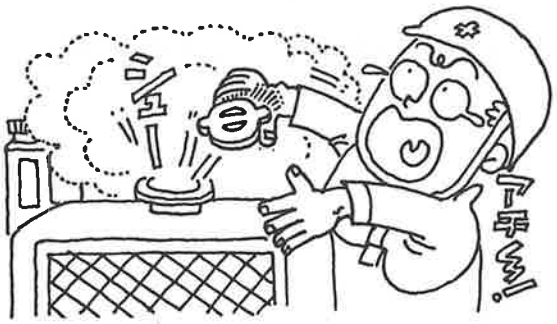
- １シーズンごとに定期点検をする
- 燃料コックを閉じる（ガソリン車は燃料を抜取る）
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする
  格納フックまたはプレートのあるものは走行クラッチペダルを固定し，クローラに歯止めをして駐車ブレーキを解除する
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

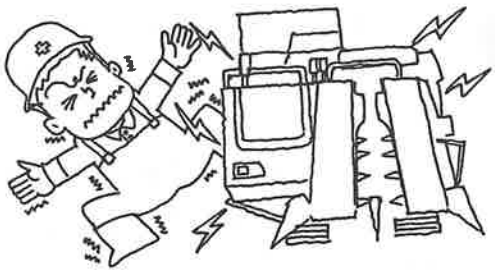
⚠作業前の一般的な注意事項

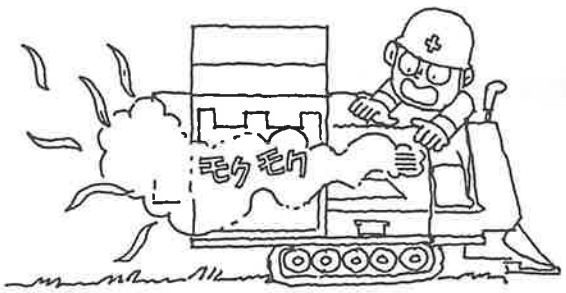
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆１年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 

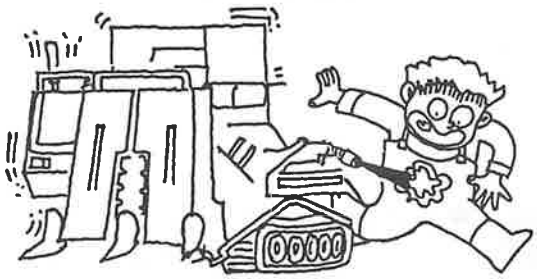
⚠点検・整備及び掃除をする時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠危険 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ●エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ◆燃料ホースの破損や燃料もれがないか，点検してください。 ●燃料ホースは2年ごとに交換する。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンオイル等の油脂類や不凍液の廃却は，廃却設備のある所で処理してください。	環境汚染の原因となります。

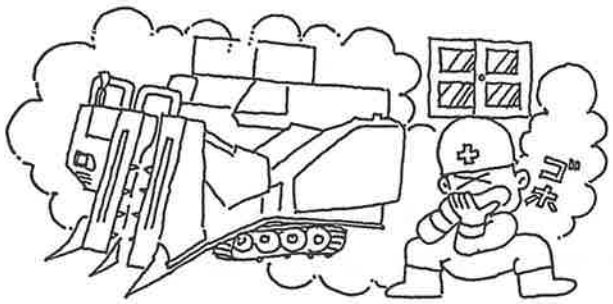
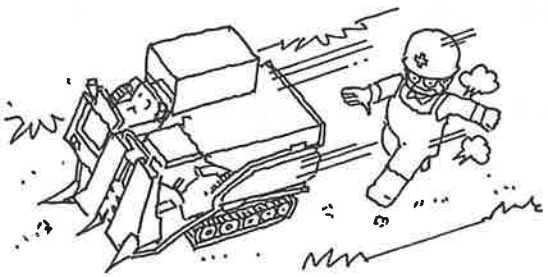
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。		バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。		バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外す時は，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ●㊉，㊀を逆に接続しない。		ショートして，ヤケドや火災の原因となります。

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ● クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。		火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ● ベルトカバー内のワラクズを取除く。		火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示灯などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。		交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバー（サイドクラッチレバー）のきき具合や，片ぎきなどがないか点検調整してください。		正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。 

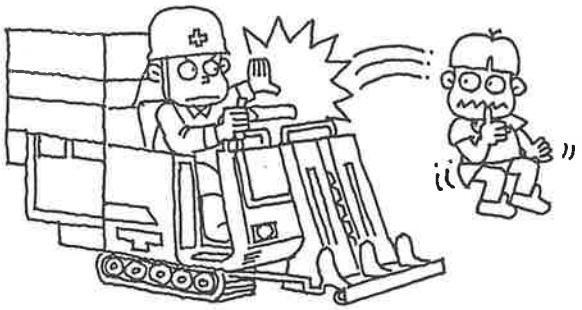
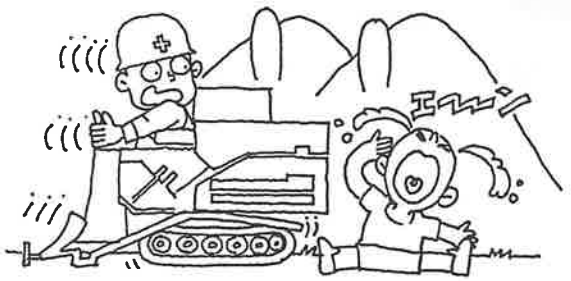
必ず守ってください	→ 守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 
⚠警告 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆グレンタンク仕様の排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線等に引っ掛けない。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っ掛けて損害事故を起こすことがあります。 

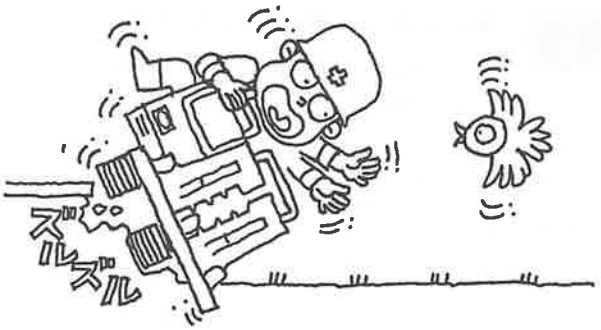
⚠エンジンを始動する時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

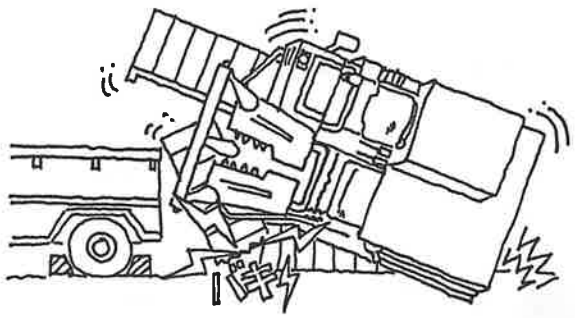
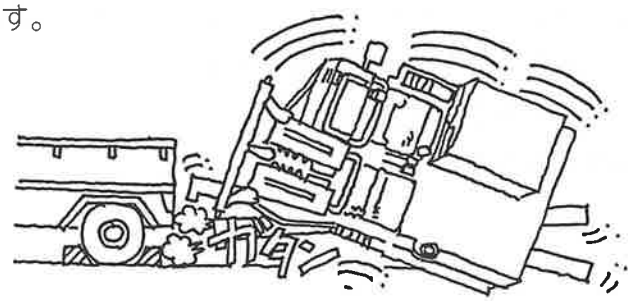
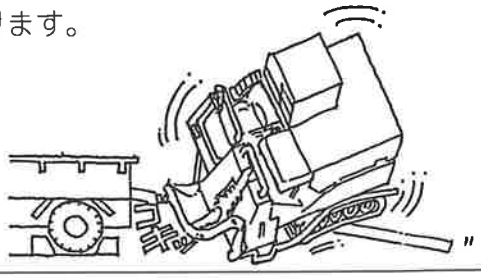
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《N》（中立）にしてください。 ◆作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にしてください。 ◆取外したカバーなどはすべて取付けてください。 ●変速レバーが《N》（中立）になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆始動は運転席のシートに座って（乗用型）で行なってください。 ◆歩行型は正しい姿勢で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速（無段変速），副変速を《N》（中立），作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。 

⚠路上走行をする時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆走行時はサブタンク，サイドステップ，ナローガイド，排出オーガを収納し，人や物をのせないでください。 ●子供等，人や物を機械にのせない。 ●荷物は別の自動車（運搬車）などで運ぶ。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆路上走行するときは刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は取外してください。 ◆合わせマークの位置まで刈取部を上げて油圧を固定してください。 ●合わせマークのない機械は刈取部先端を30cm程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ◆作業機・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆路上走行時は交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は前照灯をつける。作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん停止して，変速を低速に入れ変えてから，登り降りする。 ●坂道での旋回は低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむをえず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は下げておく。 ●機械から離れるときは，始動キーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を1速か後進に入れ，タイヤに歯止めをする。 ◆アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●アユミの幅はクローラ幅に合ったものを使う。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行にまっすぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。	アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で変速は低速で行なってください。 ●補助者立合誘導のもとに行う。機械の周囲に子供等，人を近づけない。 ◆キャビン仕様機以外は機械から降りて行なってください。 ◆[水平制御仕様]は自動スイッチを「切」にして機体を一番下げた状態で行なってください。 ◆[方向制御仕様]は自動スイッチを「切」にして行なってください。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対してまっすぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆あぜ，溝，急傾斜のある**ほ場への出入り**はアユミを使ってください。

- ホッパおよびグレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- キャビン仕様機以外は，機械から降りて行う。
- アユミ上では進路変更しない。

バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。



⚠警告

◆**あぜ越え**は，変速を低速にしてあぜに直角に横切るようにしてください。

- キャビン仕様機以外は，機械から降りて行う。
- あぜがくずれないことを確認して行う。

転倒事故を引起こすことがあります。



⚠警告

◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。

- エンジン始動や発進するとき，作業機・刈取クラッチを入れるときはホーンで合図する。

◆作業時の旋回は低速で行なってください。

- 旋回するときは周囲を確認し，低速で行う。
- 機械の周囲に人を近づけない。

傷害事故の原因となります。



⚠警告

◆手こぎ作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。

- 手袋は使用しない。
- 供給口が見えなくなるほど多量の作物を供給しない。
- カッタ切ワラがたまったら，手こぎ作業を中断して移動する。
- 手こぎ作業は走行を停止して刈取クラッチを《切》にして行う。

機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。



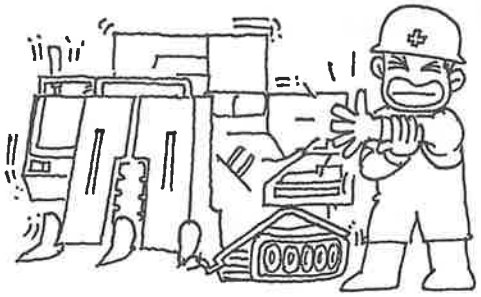
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

- 脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。
- エンジンを停止して各部の動きが止まってから行う。
- 脱こくこぎ室カバーまたはこぎ胴部を開いたときはストッパをかける。

傷害事故を引起こすことがあります。



⚠警告

◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。

◆補助者は機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。

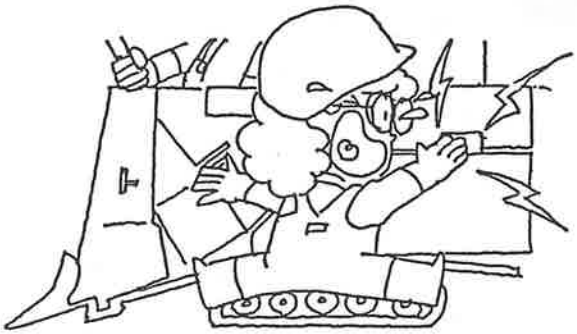
◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。

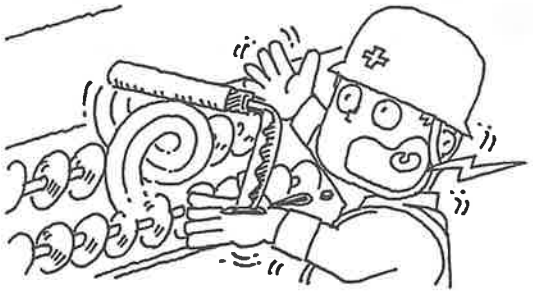
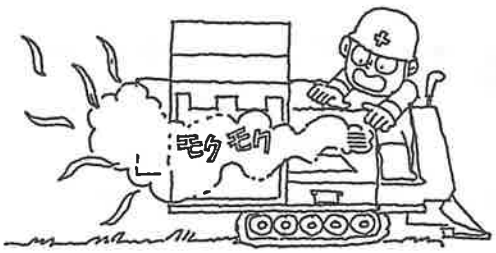
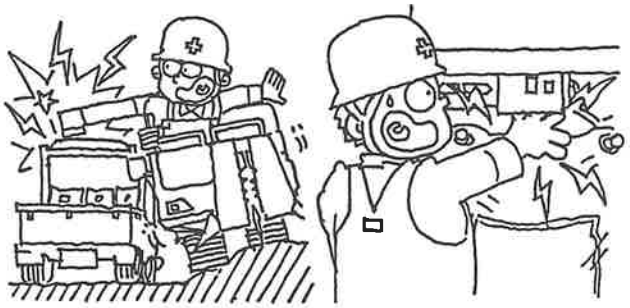
- カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておく。
- エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。
- 補助者に機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。
- 作業中は機械に人を近づけない。
- モミ袋を交換するときは機械を止めて行う。
- 運転者は常に補助者の状態を確認しながら作業をする。
- 特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。
- ワラなどの巻付き・詰まり等が発生しても，作動中は手を出さない。
- 運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業する。

傷害事故を引起こすことがあります。

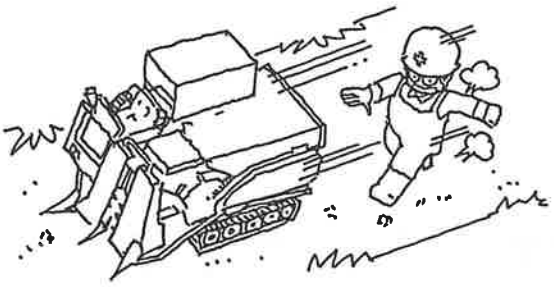






必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止する。 ●カッタをオープンしたときはストッパをかける。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに止める。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズがたまった場合はエンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの排出口やホッパのシャッタ内には手を入れないでください。 ◆グレンタンク仕様の場合排出オーガの操作は周囲を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。	ラセンに巻込まれたり，シャッタに手をはさまれたりして負傷することがあります。 排出オーガが周囲の人にあたり，負傷したりすることがあります。 

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを「低速」に入れ，駐車ブレーキをかける。 ●始動キーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱い時は，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

⚠長期格納する時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告

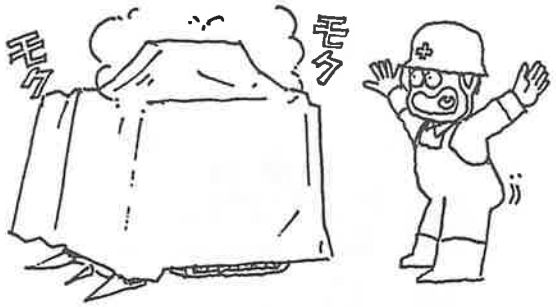
◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。

- １ケ月に１回程度補充電をする。

◆燃料コックを閉じてください。

- ガソリン車の場合は，燃料を抜取る。

思わぬ火災事故を起こす場合があります。



⚠警告

◆平坦な場所に置き刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。

（走行クラッチペダルに格納用フックまたはプレートのあるものは，ペダルを固定し，駐車ブレーキを解除してください。
……クラッチのこう着防止）

- 副変速を「低速」に入れ，クローラに歯止めをする。
- 始動キーを抜取っておく。

機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。



⚠警告

◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

- １年ごとに定期点検・整備をお買いあげ先で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談して処理します。



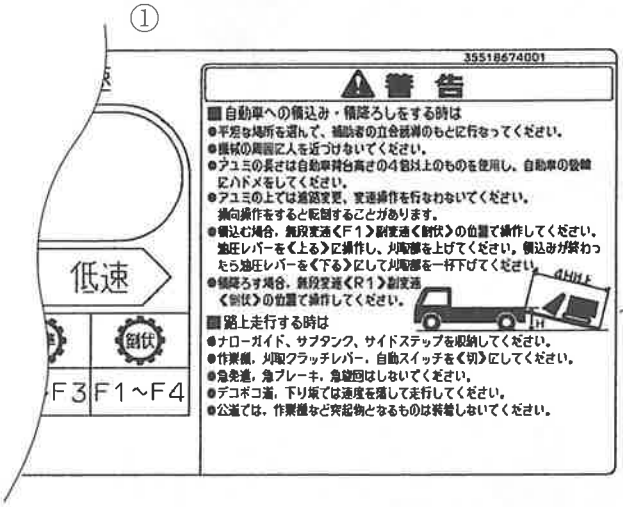
整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

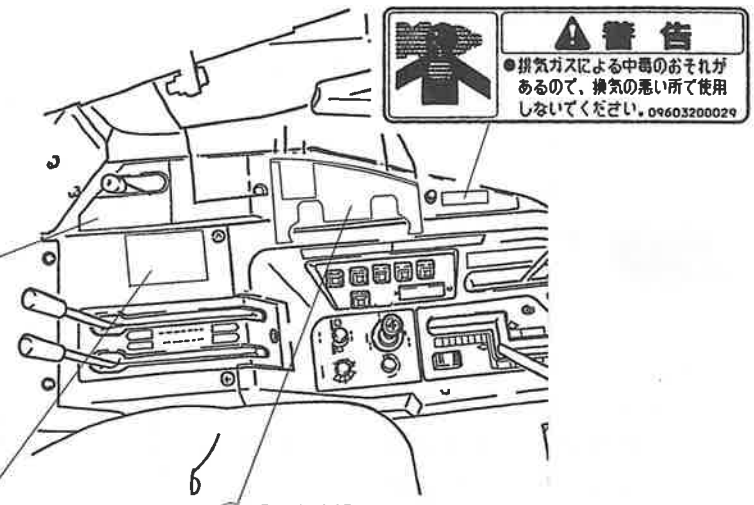
この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

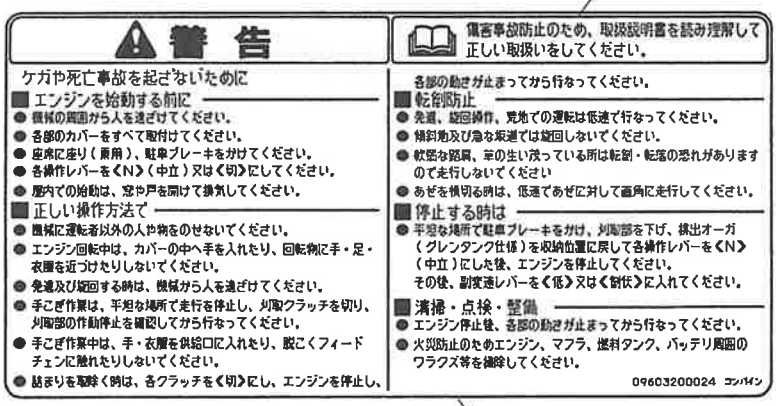
①



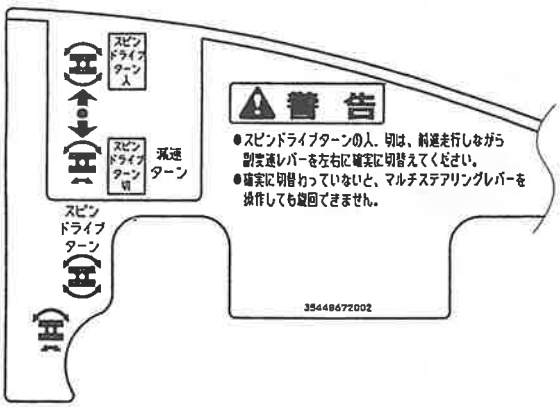
②



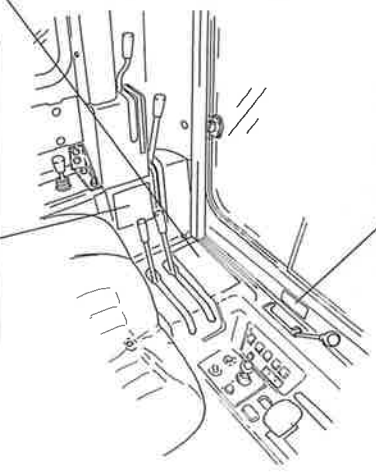
③



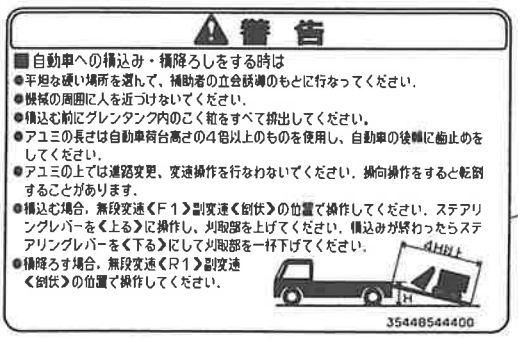
④［D仕様］



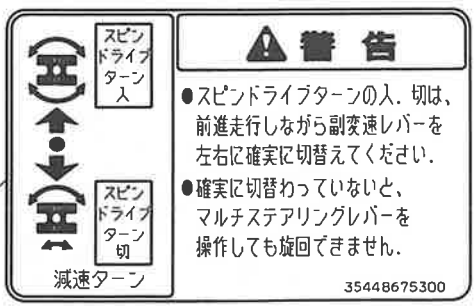
［キャビン仕様］

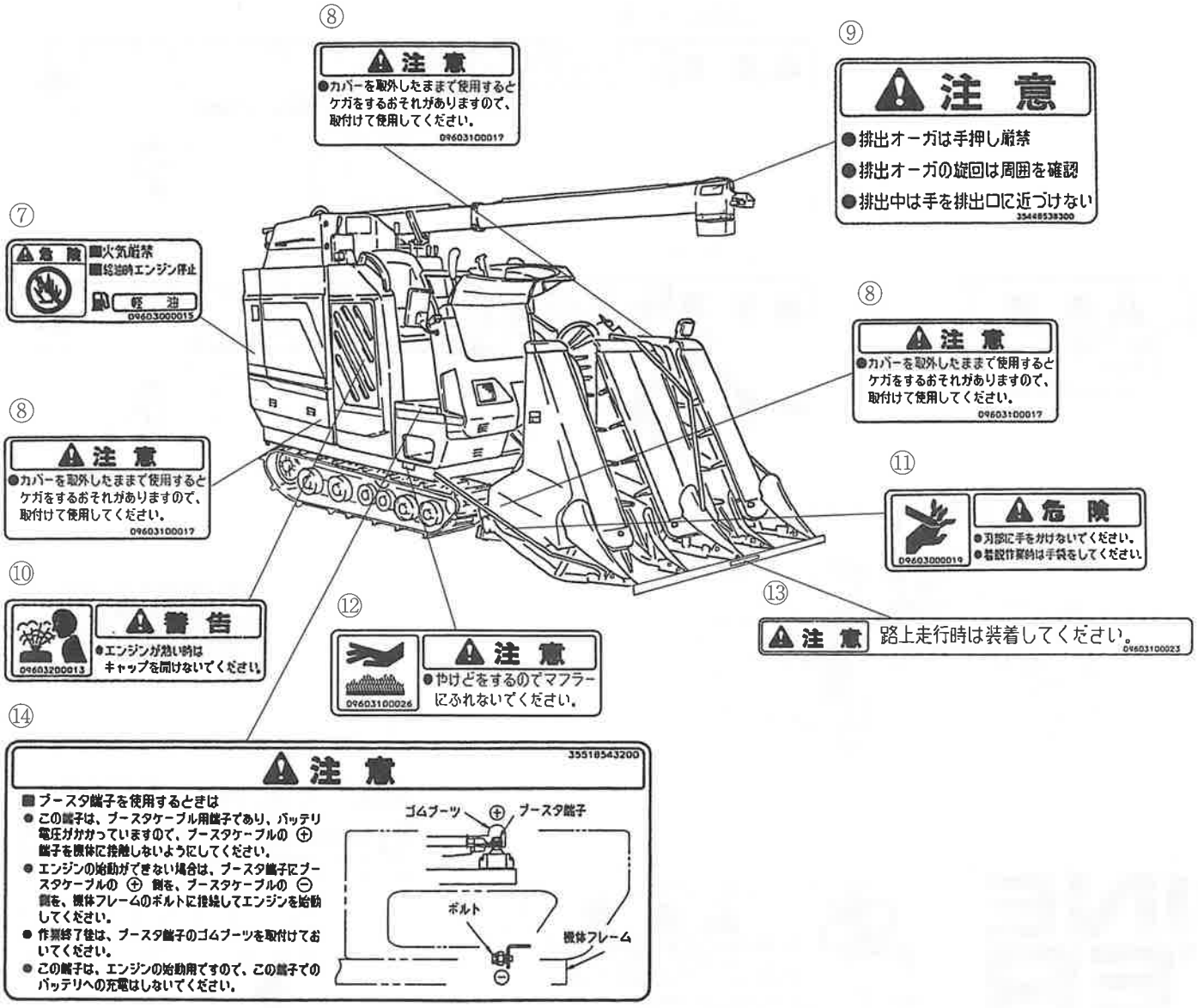


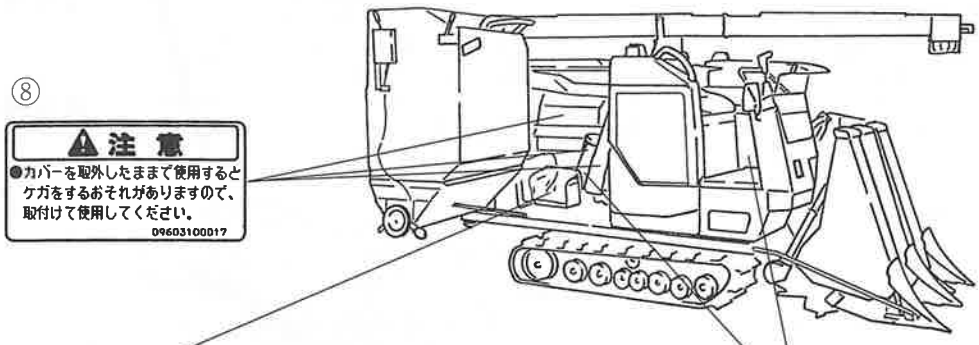
⑤



⑥［D仕様］



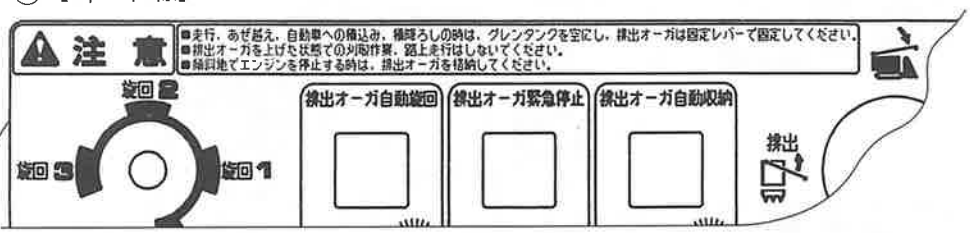

⑧
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
⑨
注 意
●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない
35448538300
⑦
危 険
■火気厳禁
■給油時エンジン停止
軽 油
09603000015
⑧
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
⑧
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
⑪
危 険
●刃部に手を掛けないでください。
●着設作業時は手袋をしてください。
09603000019
⑩
警 告
●エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。
09603200013
⑫
注 意
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。
09603100026
⑬
注 意 路上走行時は装着してください。
09603100023
⑭
注 意
35518543200
■ブースタ端子を使用するときは
● この端子は、ブースタケーブル用端子であり、バッテリ電圧がかかっていますので、ブースタケーブルの ⊕ 端子を機体に接触しないようにしてください。
● エンジンの始動ができない場合は、ブースタ端子にブースタケーブルの ⊕ 側を、ブースタケーブルの ⊖ 側を、機体フレームのボルトに接続してエンジンを始動してください。
● 作業終了後は、ブースタ端子のゴムブーツを取付けておいてください。
● この端子は、エンジンの始動用ですので、この端子でのバッテリへの充電はしないでください。
ゴムブーツ
⊕
ブースタ端子
ボルト
機体フレーム
⊖


⑧
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
⑧
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
⑮
火気禁止
メガネ着用
こども禁止
破裂注意
説明書熟読
爆発注意
危険
バッテリは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
●この12Vバッテリはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
●充電は風通しのよいところで行ない、ショートやスパークをさせないでください。
●ブースタケーブルの使用は車両またはバッテリの取扱説明書をお読みください。
バッテリ液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
液面がLOWER LEVEL近くなったら補水し、UPPER LEVEL以上入れないでください。
09603000017

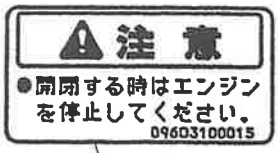
⑯［自動旋回無仕様］

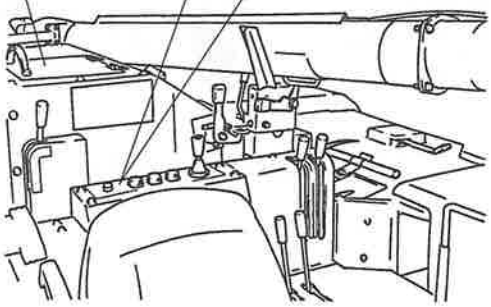


⑯［A，D仕様］

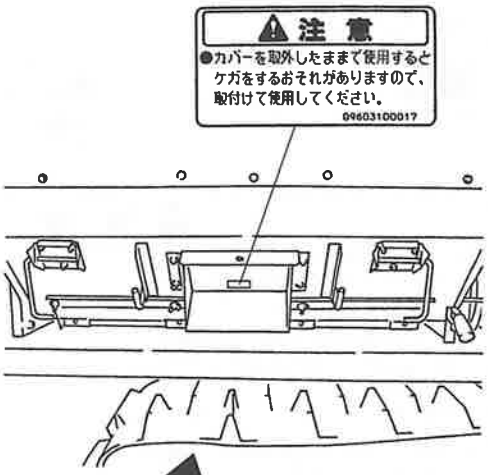


⑰

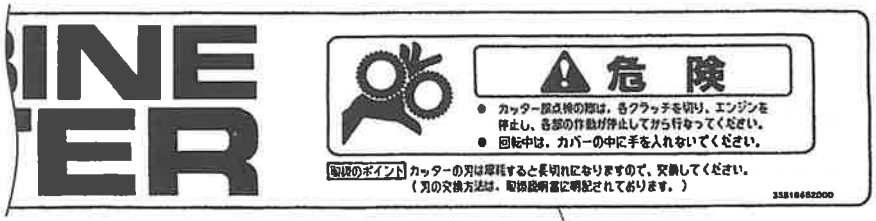




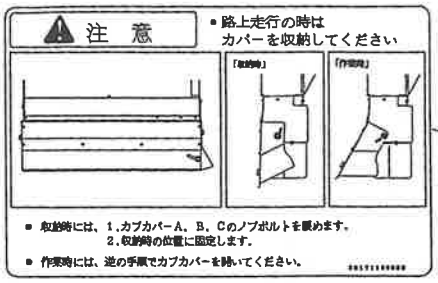
⑧



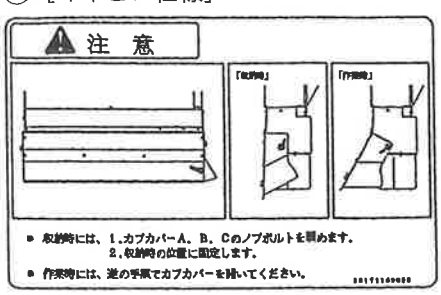
⑱

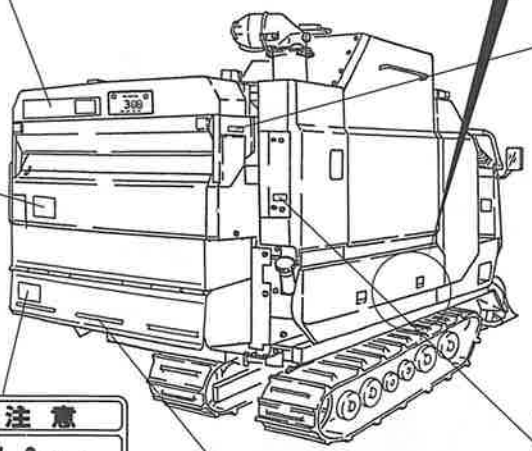


⑲

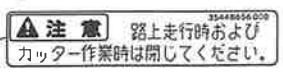


⑲［キャビン仕様］

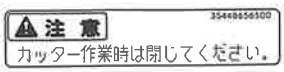




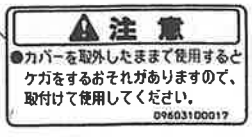
⑳



⑳［キャビン仕様］



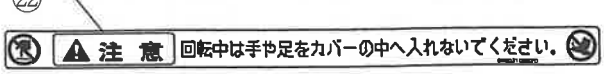
⑧

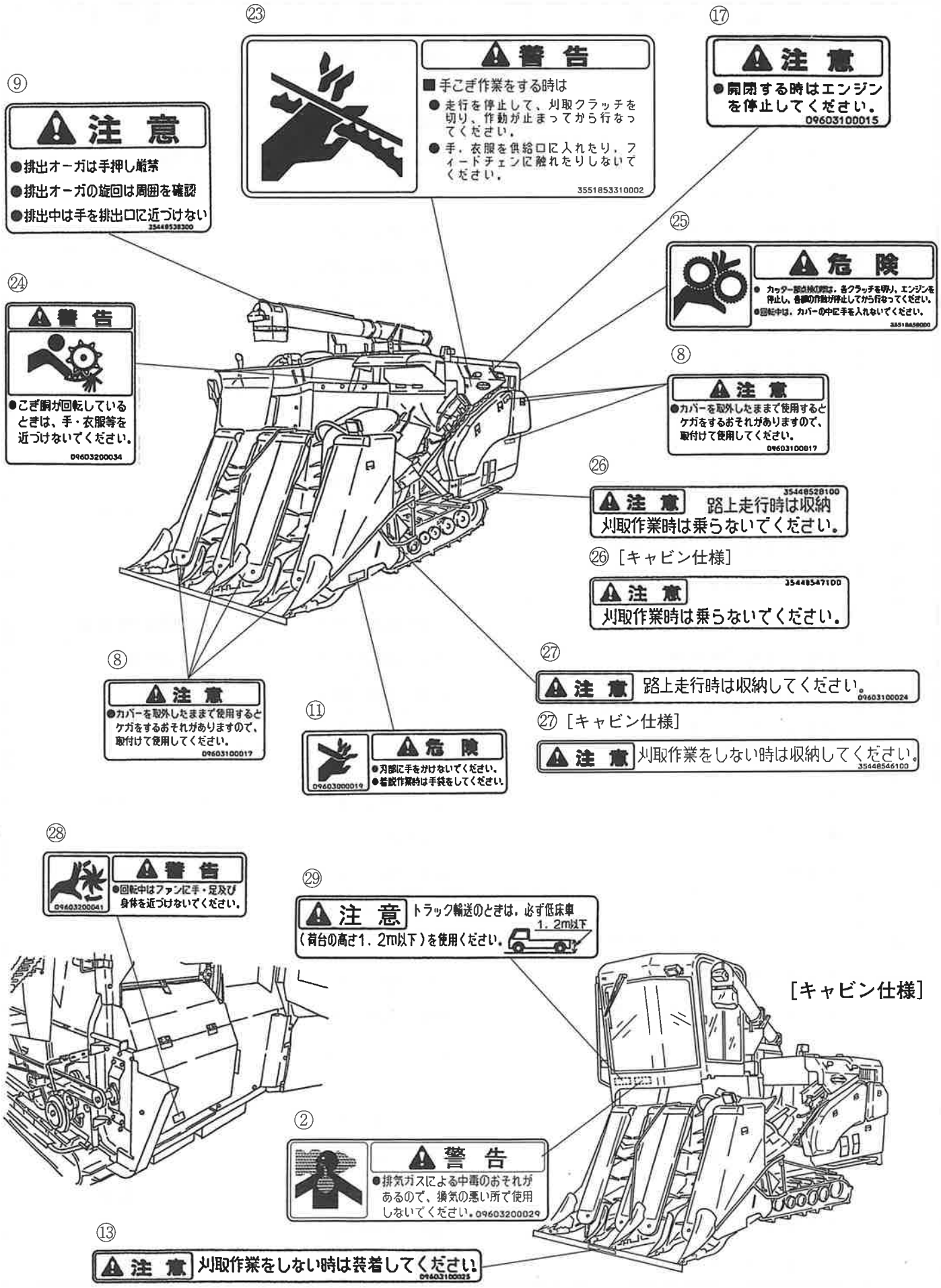


㉑



㉒



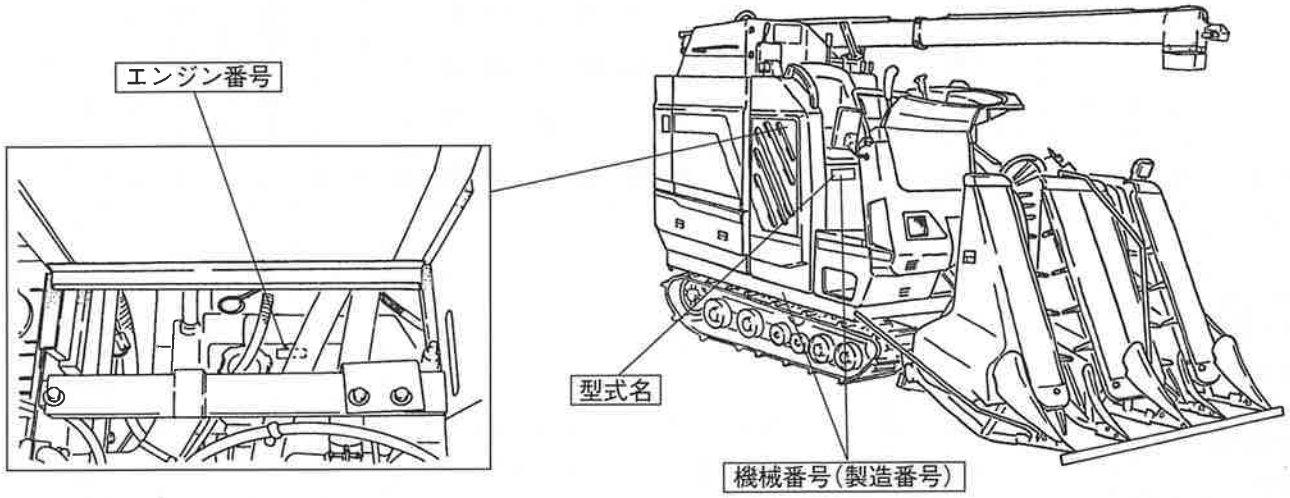

⑨
注 意
●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない
35448538300
㉓
警 告
■手こぎ作業をする時は
●走行を停止して、刈取クラッチを切り、作動が止まってから行なってください。
●手、衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。
3551853310002
⑰
注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015
㉕
危 険
●カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は、カバーの中に手を入れないでください。
㉔
警 告
●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。
09603200034
⑧
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
㉖
注 意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。
35448528100
㉖［キャビン仕様］
注 意
刈取作業時は乗らないでください。
35448547100
⑧
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017
㉗
注 意 路上走行時は収納してください。
09603100024
㉗［キャビン仕様］
注 意 刈取作業をしない時は収納してください。
35448546100
⑪
危 険
●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。
09603000019
㉘
警 告
●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。
09603200041
㉙
注 意 トラック輸送のときは，必ず低床車
（荷台の高さ1．2m以下）を使用ください。
1．2m以下
［キャビン仕様］
②
警 告
●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。09603200029
⑬
注 意 刈取作業をしない時は装着してください
09603100025

No.	部品名称	部品番号	備考
①	トリアツカイマーク	3551 8674 001	
②	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	
③	ケイコクラベル・コンバイン	0960 3200 024	
④	トリアツカイマーク	3544 8672 002	[D仕様]
⑤	ケイコクラベル	3544 8544 400	
⑥	ケイコクマーク・スピンターン	3544 8675 300	[キャビン付D仕様]
⑦	キケンラベル・ケイユ	0960 3000 015	
⑧	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	
⑨	チュウイマーク	3544 8538 300	
⑩	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	
⑪	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	
⑫	チュウイラベル・マフラ	0960 3100 026	
⑬	チュウイラベル・バンパC	0960 3100 023	
	チュウイラベル・バンパB	0960 3100 025	[キャビン仕様]
⑭	チュウイラベル・ブースタ	3551 8543 200	
⑮	チュウイラベル・バッテリ	0960 3000 017	
⑯	トリアツカイマーク	3551 8662 000	[自動旋回無仕様]
	トリアツカイマーク	3551 8663 000	[A，D仕様]
⑰	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	
⑱	メイショウマーク	3551 8652 000	
⑲	チュウイマーク	3817 1109 000	
	チュウイマーク	3551 8657 500	[キャビン仕様]
⑳	チュウイマーク	3544 8656 000	
	チュウイマーク	3544 8656 500	[キャビン仕様]
㉑	チュウイラベル・ハイジン	3532 8557 000	
㉒	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	
㉓	ケイコクラベル・チェン	3551 8533 100	
㉔	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	
㉕	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	
㉖	チュウイマーク	3544 8528 100	
	チュウイマーク	3544 8547 100	[キャビン仕様]
㉗	チュウイラベル・シュウノウ	0960 3100 024	
	チュウイラベル・シュウノウ	3544 8546 100	[キャビン仕様]
㉘	ケイコクラベル・ファン	0960 3200 041	
㉙	チュウイマーク	3540 8529 001	[キャビン仕様]

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは**「お買いあげ先」**にご相談ください。その際**「型式名」**・**「機械番号（製造番号）」**と**「エンジン番号」**をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

2. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は次のようになっています。
仕様の異なる場合は都度［○○**仕様**］と表示し追加説明していますので，お買いあげの機械の仕様区分をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の区分と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

型式名	装備 / 区分	エンジン33PS	フルオートマチック(HST)	4モードターン	チアグマルテンスリ ジャストディレクタ無	チアグマルテンスリ ジャストディレクタ付	エンジン回転負荷モニタ	防じんカバー	リフトシャット	刈幅調節	集中注油	自動化 刈高ポジション	自動化 こぎ深さ自動	自動化 方向自動	自動化 選別自動	自動化 水平自動	排出オーガ 自動収納	排出オーガ 旋回自動	フィードチェン変速	コンポアップ	増速ツインこぎ胴	クローラ(mm) 湿田広幅450	クローラ(mm) 超湿田片ハシゴ450	クローラ(mm) 皿型400	キャビン	カッタ(mm) マルチ(M) 60／180	カッタ(mm) スーパーマルチ(MB) 40／160	自動スライドノッタ(N)
MC330G	GM	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○	○				○		
	GAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○				○		
	GWAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○			○		
	GLAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		
	GLWAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	DGLM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		
	DGLWM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	GFM	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○			○		○		
	GFAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○		○		
	GLFAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○		
	DGLFM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○		
	GCAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○		
	GCLAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	GCLWAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		
	DGCLM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	DGCLWM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		
	GCFAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○		
	GCLFAM	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		
	DGCLFM	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		

・区分記号の説明
A＝方向自動・ジャストディレクタ・オーガ旋回自動　**M**＝マルチカッタ　**G**＝グレンタンク
L＝水平自動制御　**D**＝方向自動・ジャストディレクタ・オーガ旋回自動・※4モードターン
W＝超湿田片ハシゴクローラ　**F**＝皿型クローラ　**C**＝キャビン
※4モードターンとはブレーキターン，スピンドライブターン，減速ターン，ジャストディレクタの4種の操舵方式をいいます。

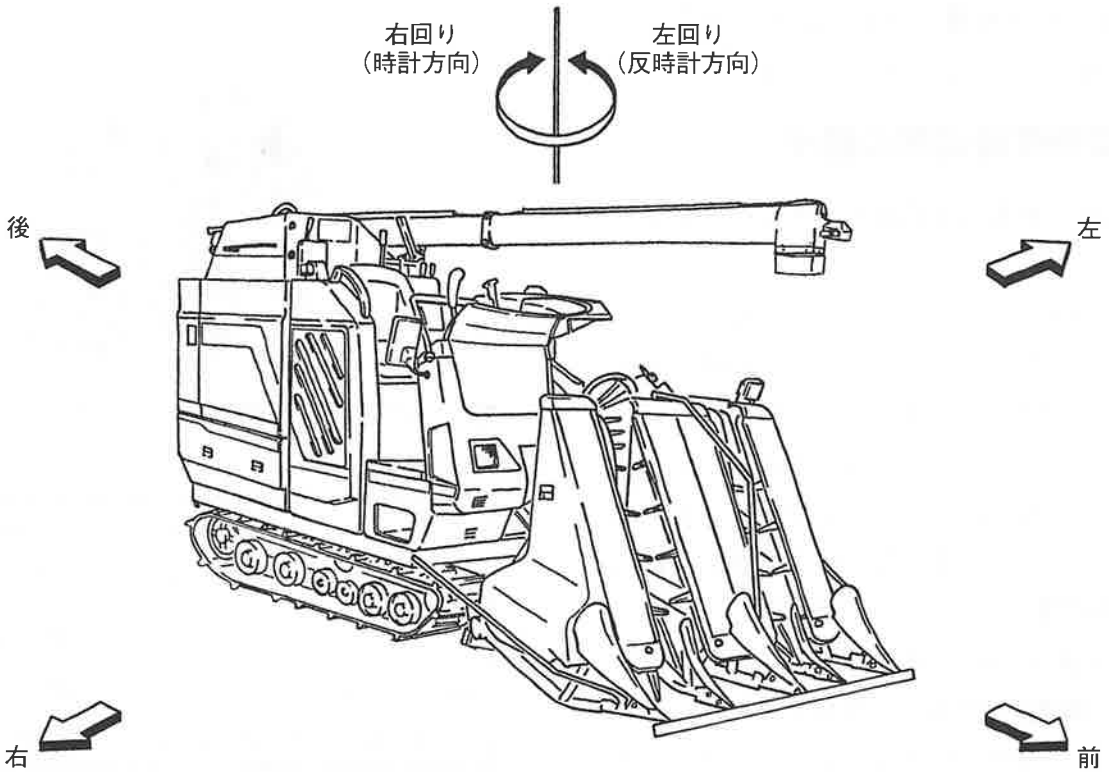
・上記区分以外に**MB**＝スーパーマルチカッタ，**N**＝自動スライドノッタ（大玉バスケット付）仕様があります。

取扱いのポイント

- **これらの機械は工場から出荷のときは「稲作業セット」に調整してあります。**
麦作業のときは，「取扱説明書」の54～55ページ「麦刈り作業のしかた」の項を参考に調整してご使用ください。

3. 用語について

(1) この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



(2) **型式表示**

型式（区分）により仕様（装備）が異なるため取扱い方法が変わる点は，都度「**○○仕様**」で表示し、説明しています。

(3) **マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

4．小型特殊自動車について

このコンバインは，道路交通法，道路運送車両法の「**小型特殊自動車**」に該当し，型式認定を受けており，公道走行が行えます。

但し，［**キャビン仕様**］は道路運送車両法に適合していませんので公道走行はできません。

1．小型特殊自動車の届出

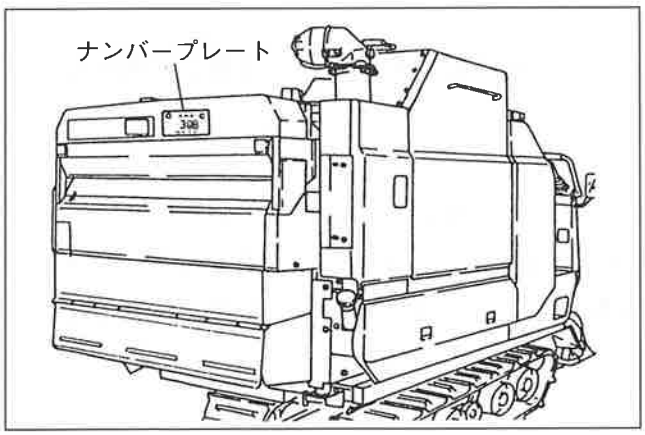
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方，または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

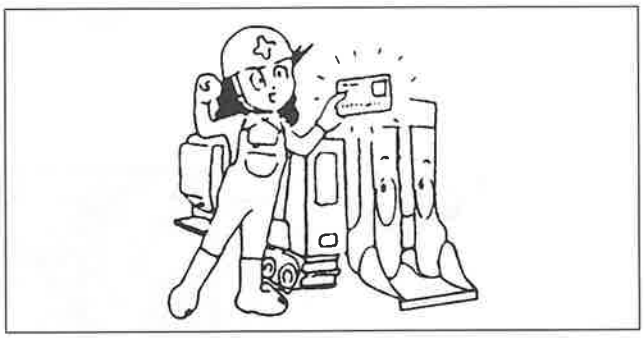
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2．公道走行するためには

❶ 運転免許

公道を走行するときは，「**小型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ 「小型特殊自動車」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

❸ 指定作業機以外の作業機を取付けた状態では公道走行はできません。

・指定作業機：カッタ

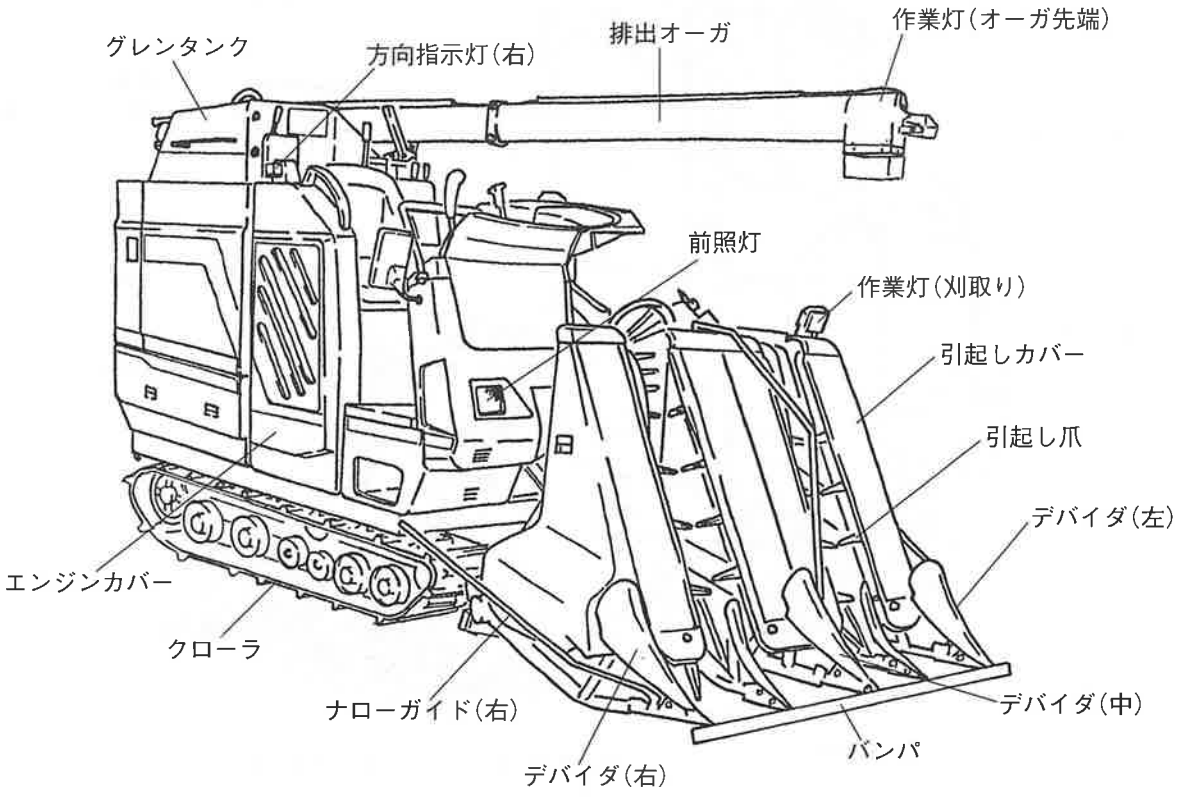
カッタは，装着したままで走行できます。但し，下部カバーは収納してください。

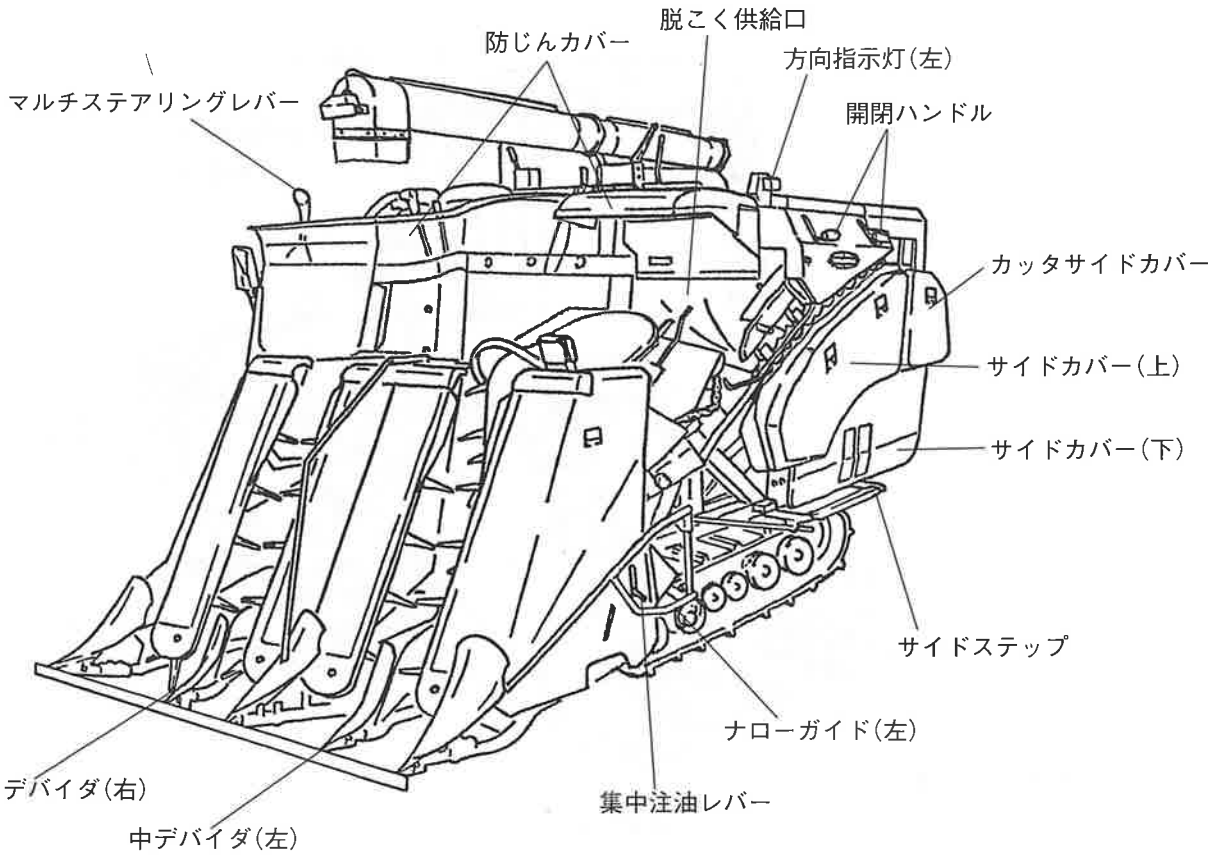
❹ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ，任意自動車保険に加入されるようお勧めします。

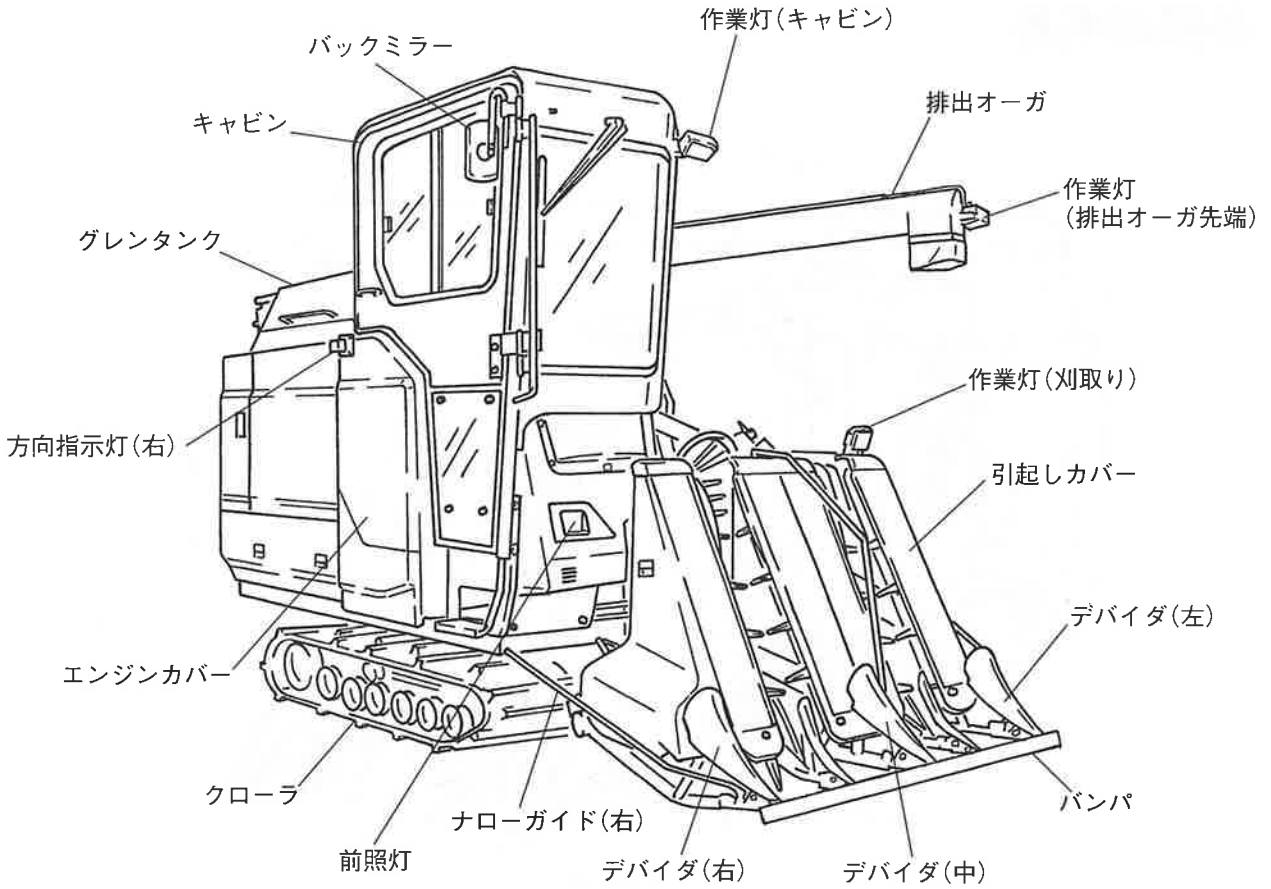
各部のはたらき

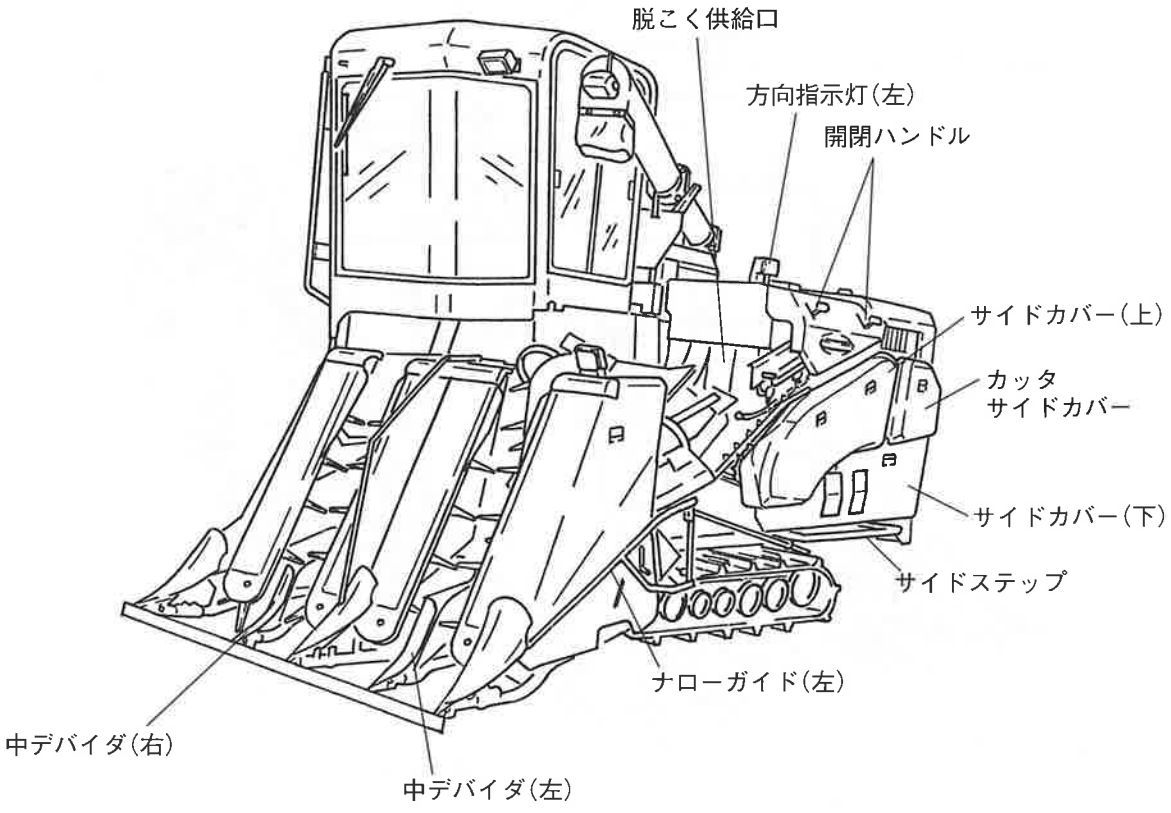
1．各部の名称





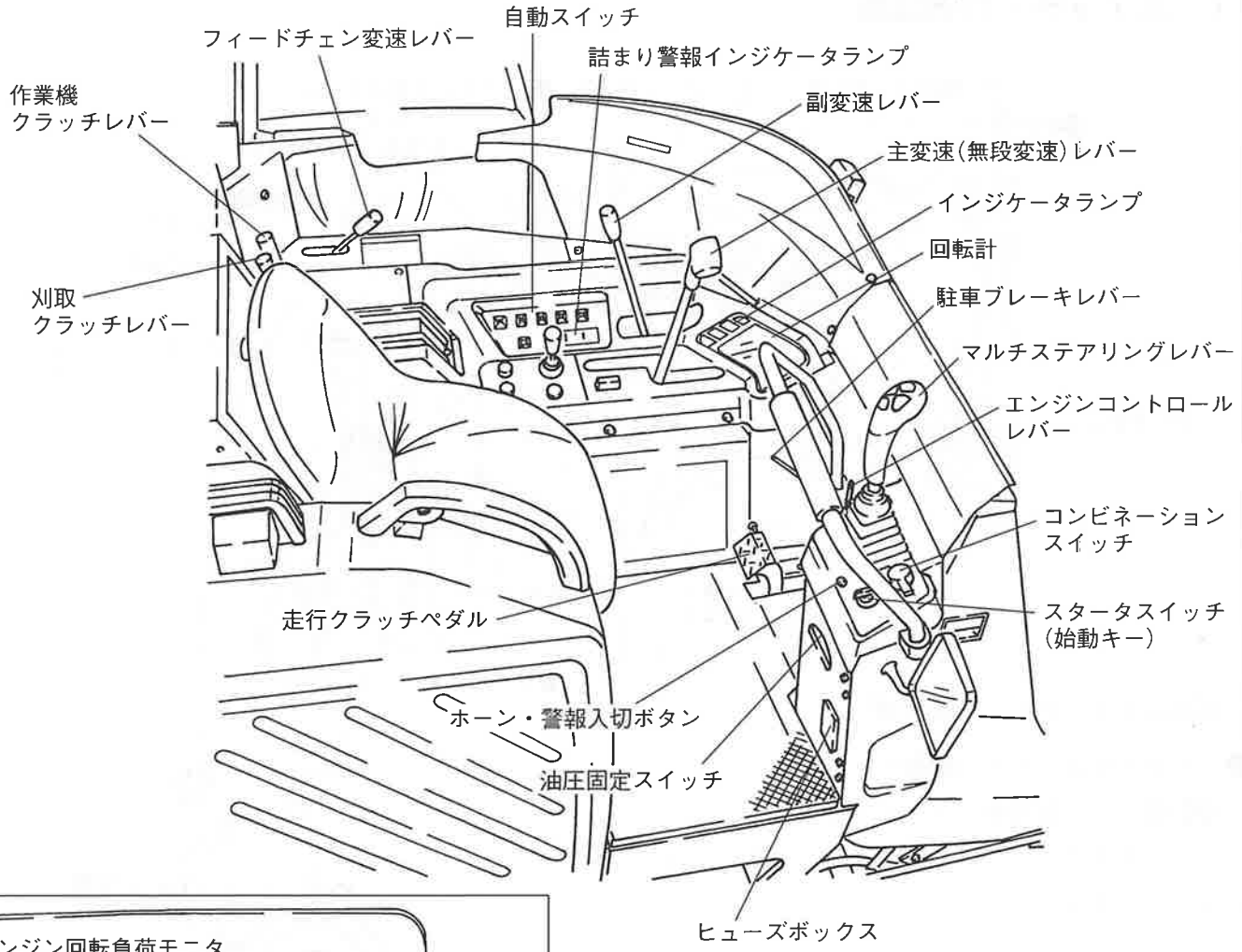
[キャビン仕様]

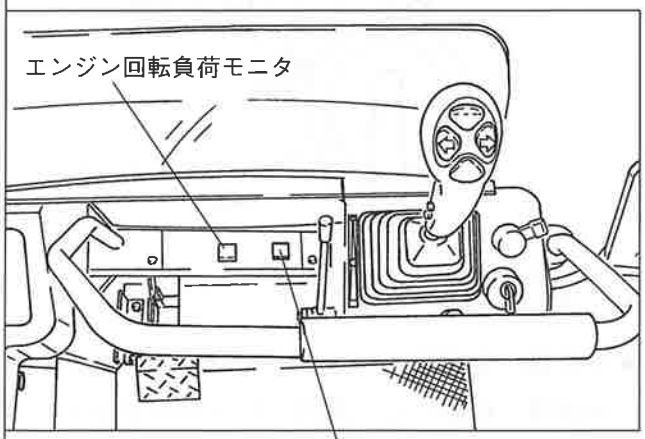

作業灯(キャビン)
バックミラー
キャビン
排出オーガ
作業灯
(排出オーガ先端)
グレンタンク
作業灯(刈取り)
方向指示灯(右)
引起しカバー
デバイダ(左)
エンジンカバー
クローラ
ナローガイド(右)
バンパ
前照灯
デバイダ(右)
デバイダ(中)


脱こく供給口
方向指示灯(左)
開閉ハンドル
サイドカバー(上)
カッタ
サイドカバー
サイドカバー(下)
サイドステップ
ナローガイド(左)
中デバイダ(右)
中デバイダ(左)

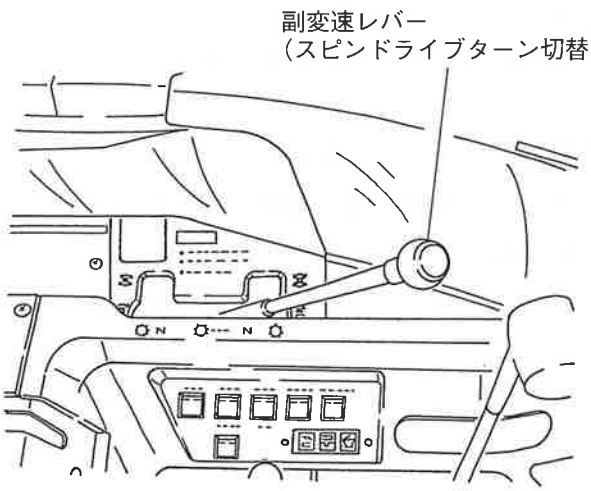
運転操作部

［4モードターン無仕様］



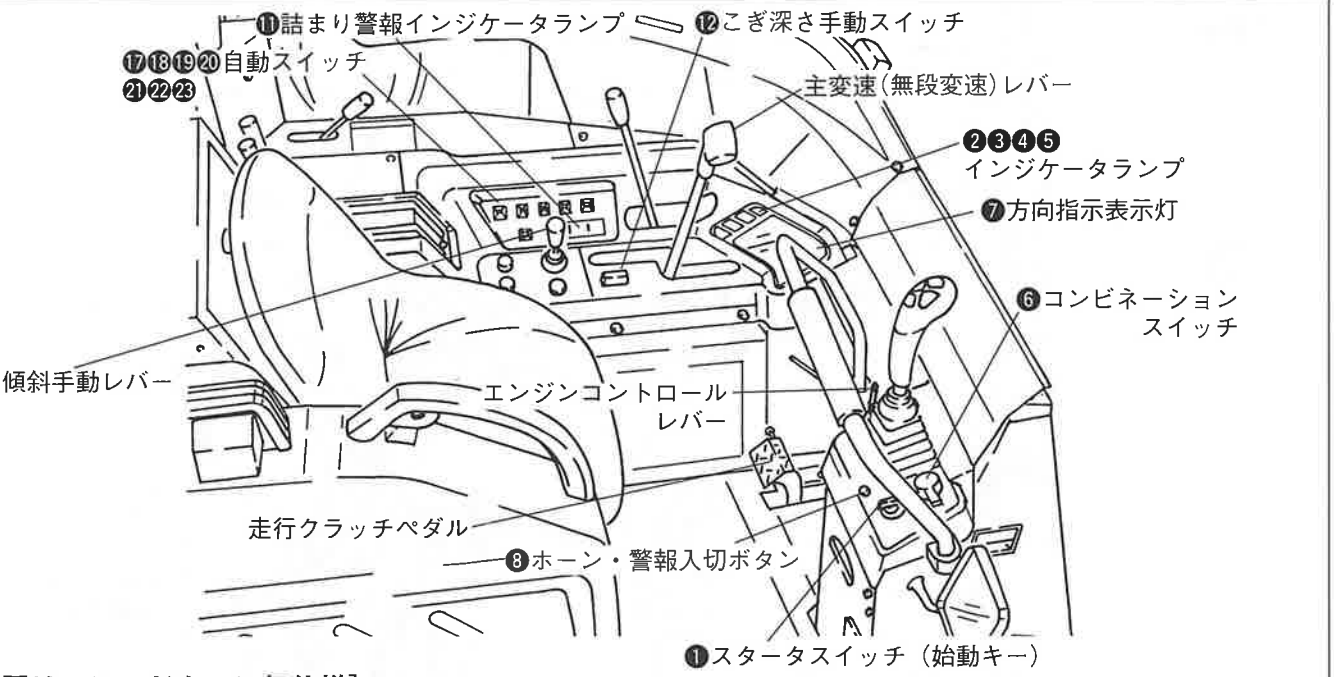


［D仕様］



2．運転装置の取扱い

1．スイッチ・計器関係



［本図は 4 モードターン無仕様］

❶ スタータスイッチ（始動キー）

《 切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《 切》にするとエンジンが停止します。

《 入》（運転・予熱）……電源入（運転中）

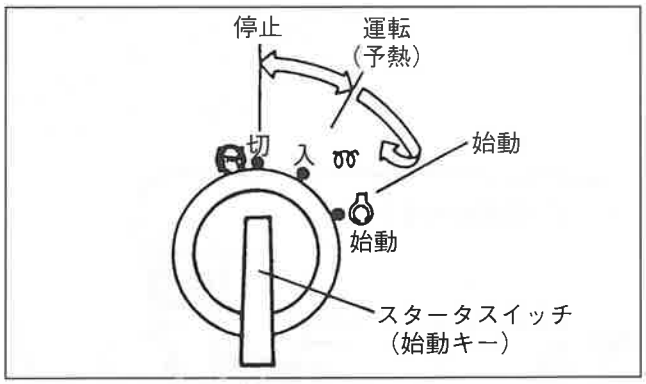
スタータスイッチを《 入》にするとメータ内の予熱インジケータランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約 3 秒後に消灯して予熱が完了します。

《 始動》……エンジン始動

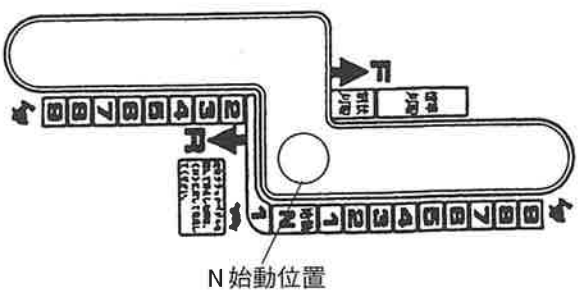
スタータスイッチを《 始動》位置に回すとエンジンが始動します。

手を放せば自動的に《 入》位置に戻ります。



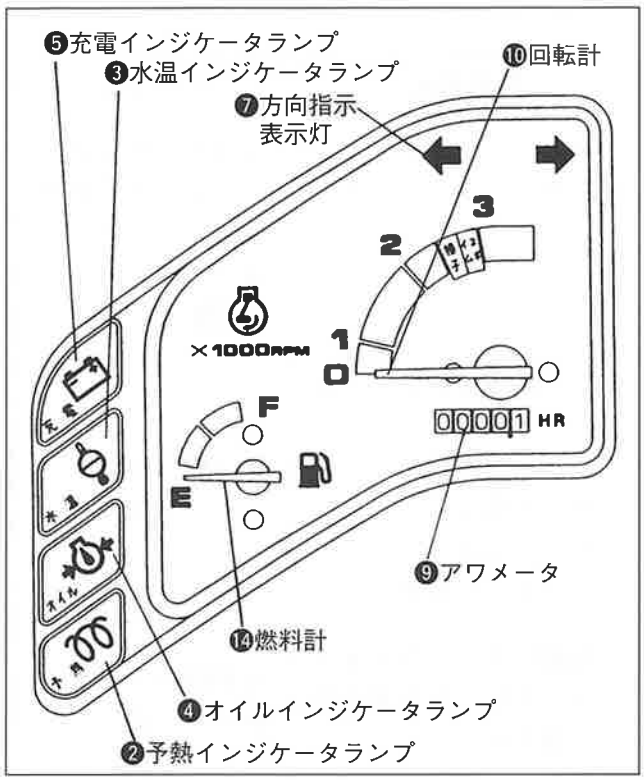
取扱いのポイント

- **主変速（無段変速）レバーを《N 始動》（前進側 N 位置）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**



❷ 予熱インジケータランプ

スタータスイッチを《 入》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約３秒後に消灯し予熱が完了します。



❸ 水温インジケータランプ

エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）すると，「点灯」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯したら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン，オイルクーラフィン等のラジエータ吸気部（86ページ参照）・エンジンファンベルトの張り（119ページ参照），および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**

❹ オイルインジケータランプ

エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「点灯」します。

正常なときはスタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（76ページ参照）**
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

❺ 充電インジケータランプ

エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。（119ページ参照）**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

❻ コンビネーションスイッチ

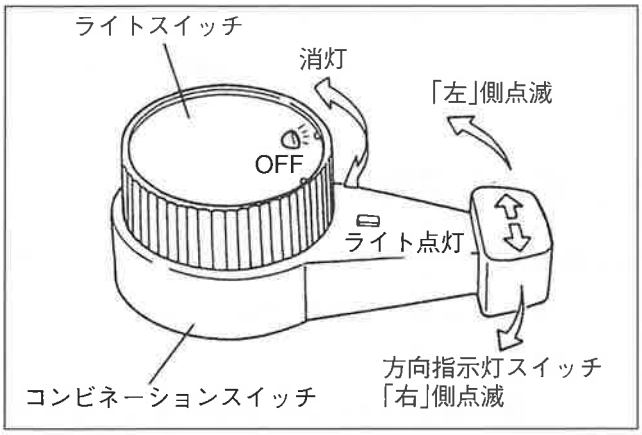
(1) ライトスイッチ

《ＯＦＦ》……消灯

《 ≡D 》……メータ類ランプの点灯及び，前照灯が点灯します。

(2) **方向指示灯スイッチ**

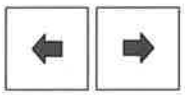
スイッチを前後へ操作すると左側又は右側の方向指示灯及び方向指示表示灯が点滅します。



取扱いのポイント

- **作業灯の点灯は，ライトスイッチの位置に関係ありません。作業灯のスイッチで，点灯，消灯をしてください。**

❼ 方向指示表示灯



方向指示灯スイッチに合わせ，方向指示表示灯が点滅します。

❽ ホーン・警報入切ボタン



・スタータスイッチを《 入》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・モミ処理インジケータランプの点灯（タンク充満），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴りやみます。

取扱いのポイント

- **つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。下記の方法で警報を解除してください。**

警報機能	解除方法
・水温インジケータランプ点灯（オーバーヒート）	（水温が下がるまでエンジンを「低速運転」にしてスタータスイッチ《 切》）
・ワラ処理インジケータランプ点灯（脱こく搬送詰まり，排ワラ詰まり，カッタ詰まり，ノッタひも切れ）	作業機クラッチレバー《切》
・前処理インジケータランプ点灯（こぎ深さ搬送詰まり）	作業機クラッチレバー《切》
・エンジン回転負荷モニタランプ点滅（13ページ参照）	走行速度を下げる

❾ アワメータ

エンジンの積算時間を示します。

積算時間を目安に定期点検整備を行います。

❿ 回転計

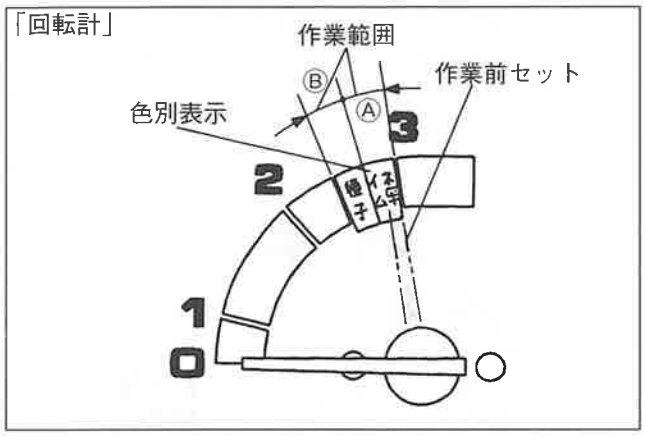
１分間のエンジン回転数を示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子等，刈取る作物によって変えます。

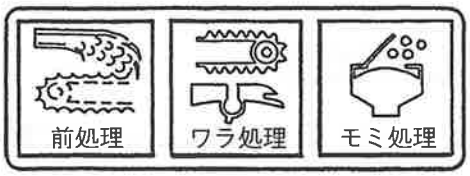
・こぎ胴回転数の調整はエンジンを始動し，作業機クラッチレバーを入れ，回転計を見ながら「**色別表示**」の上限まで徐々にエンジンコントロールレバーで調整します

・刈取り作業中は回転計の針が常時「**色別表示**」の範囲内に位置するように主変速（無段変速）レバーで作業速度を調整して使用します。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲
・種子の場合……Ⓑの範囲



⓫ 詰まり警報インジケータランプ



(1) モミ処理インジケータランプ

グレンタンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，充満時には点灯し警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けるとグレンタンク上側からオーバーフローし，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーはパネルの警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。**
- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **作業機クラッチレバーを《切》にすればエンジンの再始動ができます。**

(2) ワラ処理インジケータランプ

排ワラチェン終端部または脱こくフィードチェン終端部に詰まりが発生すると，インジケータランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

・手こぎ作業などで，カッタ下部カバー内に切ワラがたまるとランプが点滅し，同時に警報ブザーが鳴ります。ただちに作業を止めて作業クラッチレバーを《切》にし，コンバインを移動させ，エンジンを停止してから点検します。
・「ノッタ仕様機」でノッタ作業中，ひもが切れたときや，ひもがなくなったときにランプが点滅し，同時に警報ブザーが鳴ります。ただちに作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから点検をします。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **作業機クラッチレバーを《切》にすればエンジンの再始動ができます。**
- **ノッタのひも切れ警報については「ノッタ」の取扱説明書を参照してください。**

(3) 前処理インジケータランプ

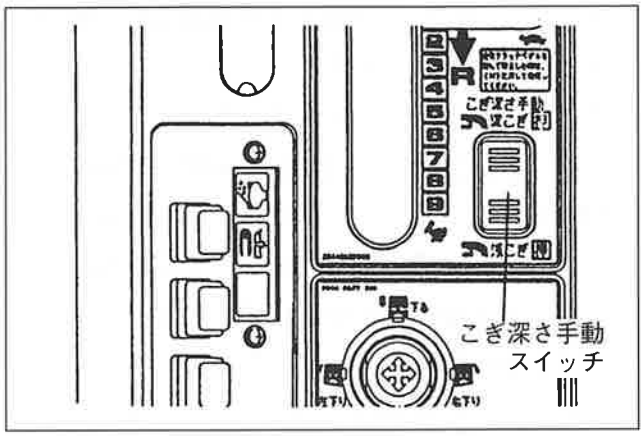
こぎ深さ搬送部に詰まりが発生すると，インジケータランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **作業機クラッチレバーを《切》にすればエンジンの再始動ができます。**

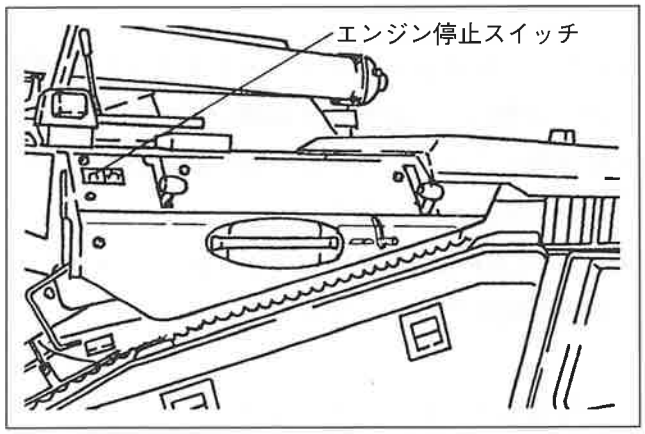
⑫ こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。



⑬ エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時等のトラブル発生時にこのスイッチを押すと，エンジンが停止します。



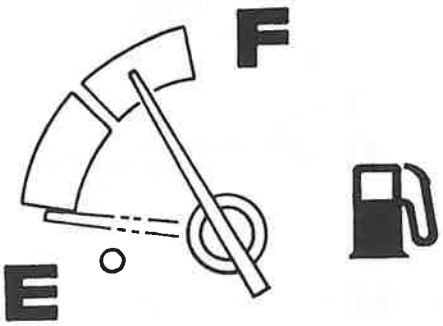
取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 切》位置にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**

⑭ 燃料計



スタータスイッチが《 入》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《F》は満量（約42ℓ），《E》（ラベル下限）は約５～６ℓを示します。



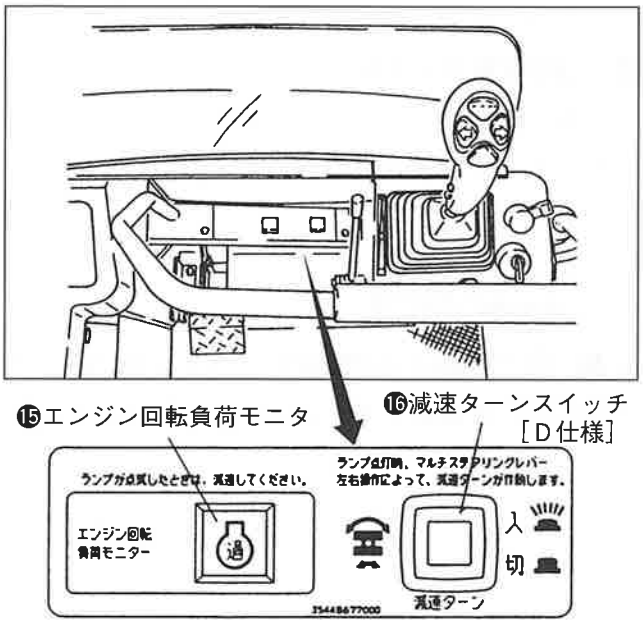
取扱いのポイント

- **燃料計が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。**

⑮ エンジン回転負荷モニタ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅したら，主変速（無段変速）レバーで走行速度を下げます。



取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。走行速度を下げてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。**

⑯ 減速ターンスイッチ［D仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆減速ターンは通常の旋回より旋回半径が大きくなります。狭い所では減速ターンは使用しないでください。

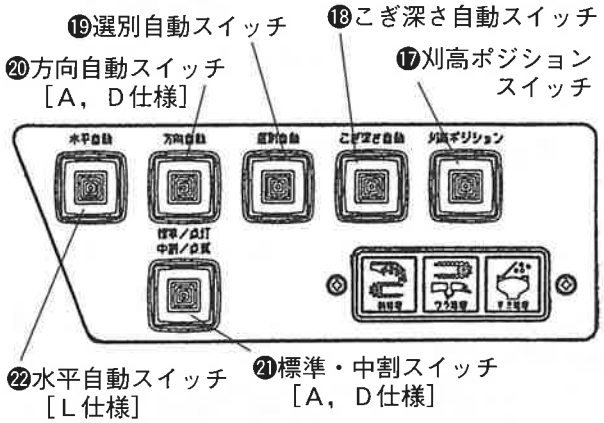
（減速ターンで1分30秒以上連続して旋回すると自動的に通常のブレーキターンとなり急激に旋回します。）

減速ターンスイッチを《**入**》にするとランプが点灯し，マルチステアリングレバーを左または右にいっぱいに倒した状態で使用すると減速ターンが作動します。（操作方法は17ページ参照）

⑰ 刈高ポジションスイッチ

スタータスイッチを《 **入**》位置にするとランプが点灯し，刈高ポジション自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し自動は働きません。

（詳細は59～61ページ参照）



⑱ こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《 **入**》位置にするとランプが点灯し，こぎ深さ自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

（詳細は56～57ページ参照）

⑲ 選別自動スイッチ

スタータスイッチを《 **入**》位置にするとランプが点灯し，選別自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

（詳細は63～64ページ参照）

⑳ 方向自動スイッチ［A，D仕様］

方向自動を使用する時は，スイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

（詳細は57～59ページ参照）

㉑ 標準・中割スイッチ［A，D仕様］

方向自動スイッチ「**入**」（ランプ点灯）で使用します。

・《**標準**》（条刈り，横刈り作業）の時は，ランプ点灯で使用します。

・《**中割**》（中割作業）の時は，ランプ点滅で使用します。

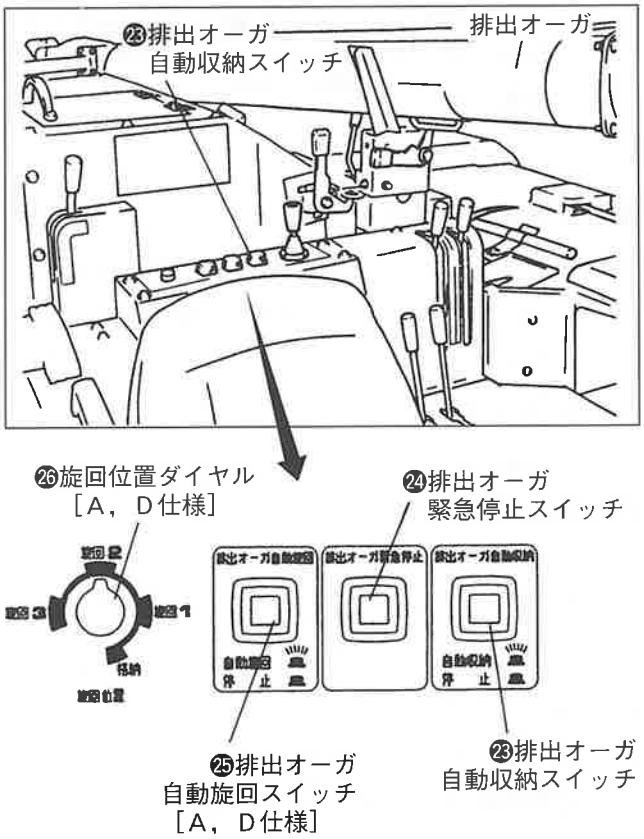
㉒ 水平自動スイッチ［L仕様］

水平自動を使用する時は，スイッチを押してランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すとランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にしたら，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

㉓ 排出オーガ自動収納スイッチ

スイッチを「**入**」にするとランプが点灯し，排出位置から排出オーガを自動的に収納します。



㉔ 排出オーガ緊急停止スイッチ

排出オーガ自動収納途中および自動旋回途中での排出オーガの停止に使用します。

㉕ 排出オーガ自動旋回スイッチ［A，D仕様］

スイッチを《**入**》にするとランプが点灯し，旋回位置ダイヤルのセット位置に排出オーガが自動的に旋回します。

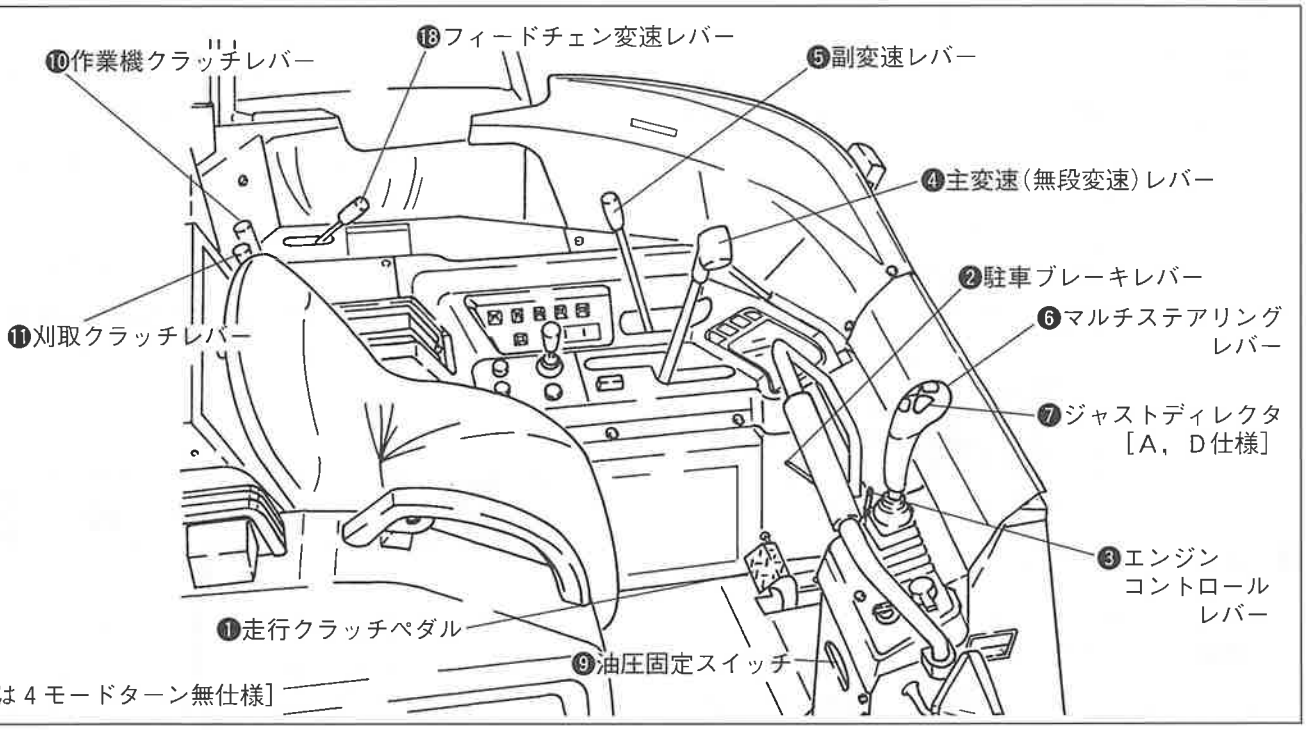
㉖ 旋回位置ダイヤル［A，D仕様］

排出オーガ自動旋回で排出オーガの停止位置を調節するダイヤルです。

取扱いのポイント

- **⑰～㉖の詳細は自動装置についての項（56～65ページ）を参照してください。**

2. ペダル・レバー関係



❶ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろし等アユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆走行クラッチペダルを踏んで停止した時は，主変速（無段変速）レバーを《N》に戻してください。戻さないで発進すると急発進することがあります。

走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱい踏込むと，トランスミッションへの動力が断たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

つぎの操作を行うときには，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで行います。

・エンジンを始動するとき。

主変速（無段変速）レバーを《N始動》（前進側N位置）にし，ペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。

・副変速レバーを操作するとき。

取扱いのポイント

- 主変速（無段変速）レバーは走行クラッチペダルを踏まなくても操作できます。
- 走行クラッチペダルを半クラッチ状態で使用すると走行ベルトが焼損する恐れがあります。

❷ 駐車ブレーキレバー

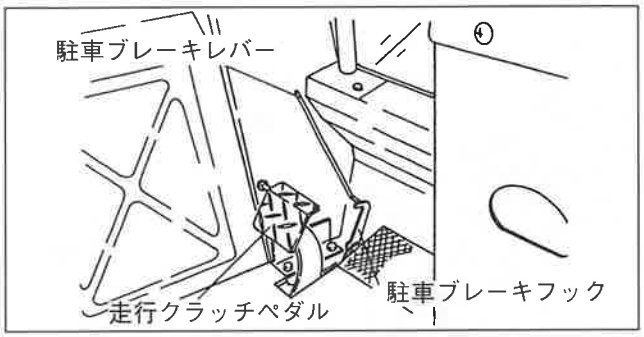
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をします。

◆駐車ブレーキは，自動車への積込み，積降ろし等アユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，レバーを操作してペダルに駐車ブレーキフックをかけます。

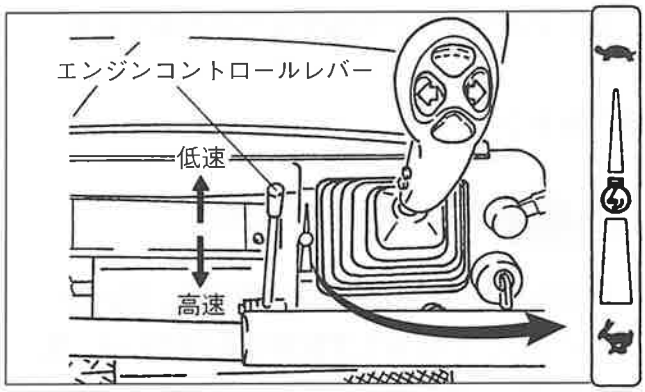
解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的に駐車ブレーキフックが外れます。



❸ エンジンコントロールレバー

エンジンを加速・減速するレバーです。

- 「**始動**」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。
- 「**作業**」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。
- 「**停止**」のときは……《🐢》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



❹ 主変速（無段変速）レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆走行中，主変速レバーを急激に減速操作しないでください。

◆前後進の切替えは機械が停止してから行なってください。

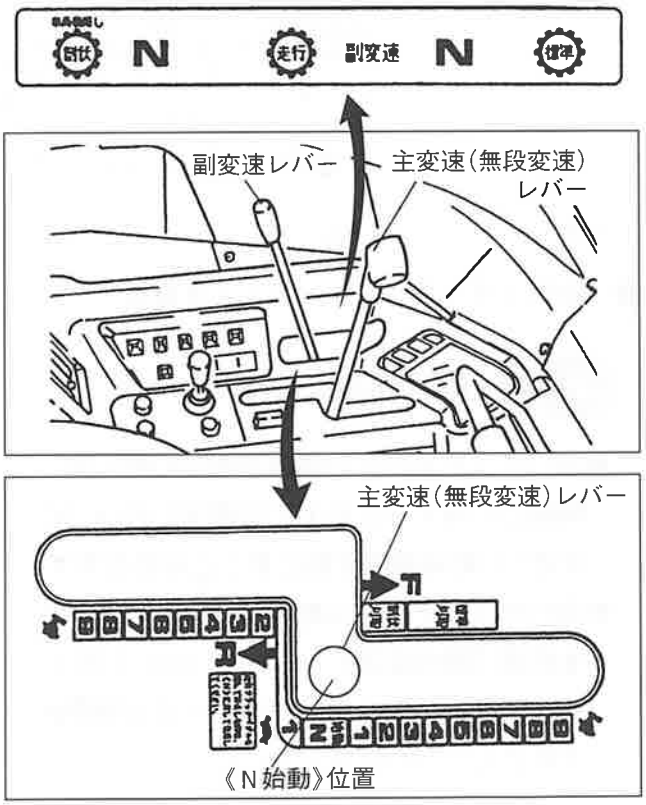
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，

アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進（F）・後進（R）いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

ラベルの数字が大きくなると速度が速くなります。

エンジンを始動する時は，《**N始動**》（**前進側N位置**）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。



作業内容	副変速	主変速（無段変速）
積込み，あぜ越え	倒伏	F 1
倒伏刈取り		F 1～3
標準刈取り	標準	F 3～7
集中注油	N	F 9
路上，ほ場走行（前進）	倒伏，標準，走行	F 1～9
路上，ほ場走行（後進）	倒伏，標準	R 1～9
積降ろし，あぜ越え	倒伏	R 1
刈取りのときの後進	倒伏，標準	R 1～9

❺ 副変速レバー

［4モードターン無仕様］

作業目的や刈取り条件により《 倒伏 》（低速），《 標準 》（中速），《 走行 》（高速）の3段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速（無段変速）レバーを《N》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。

・倒伏材の刈取り作業や自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《 倒伏 》位置で行います。

・刈取り作業は《 倒伏 》または《 標準 》位置で行います。《 走行 》位置での刈取り作業はできません。

・見通しが良く平坦な道路では《 走行 》位置で走行します。せまい道路や凹凸のある道路は《 倒伏 ，標準 》で走行します。

［D仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンの「入，切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。

作業目的や刈取り条件により《 倒伏 》，《 標準 》，《 走行 》の3段に変速ができます。

・通常の副変速としての使い方は［4モードターン無仕様］と同じ要領で行います。

・「スピンドライブターン」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。

取扱いのポイント

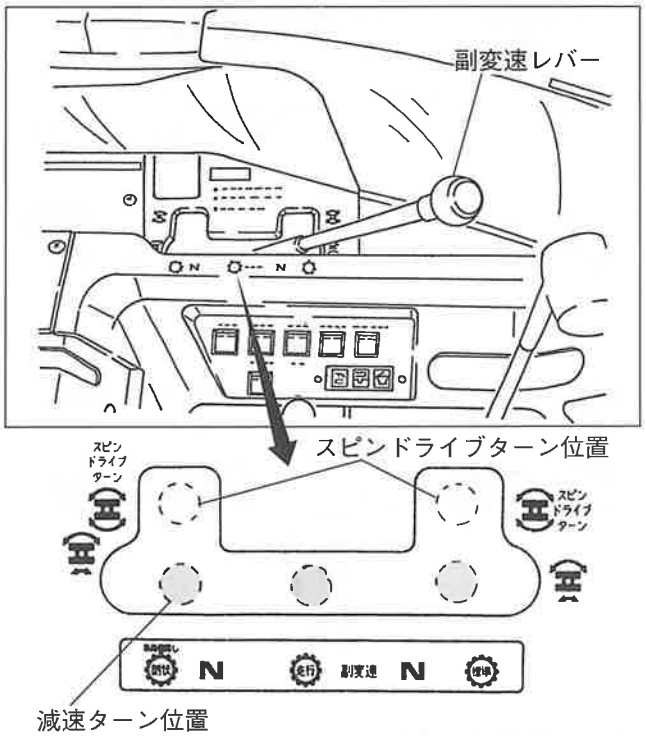
- ほ場条件により「スピンドライブターン」で旋回できない場合は，副変速を《 倒伏 》位置で使用してください。

《 スピンドライブターン》への切替えは，《 倒伏 》位置または《 標準 》位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えます。旋回する時は，マルチステアリングレバーを左または右にいっぱい倒して行います。

・「減速ターン」とは，片側のクローラが減速し，左右のクローラが同じ方向に回転して旋回します。ほ場の荒れを少なくします。

《 減速ターン》は，減速ターンスイッチを《入》にして使用します（13ページ参照）。旋回はマルチステアリングレバーを左または右にいっぱいに倒して行います。

減速ターンスイッチを《切》にして旋回操作すると，通常のブレーキターンになります。



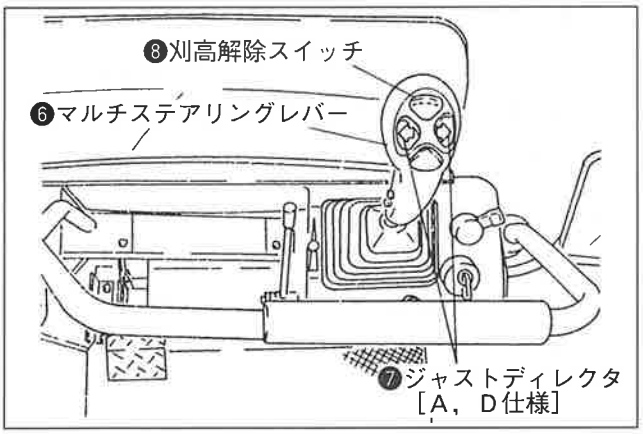
取扱いのポイント

- スピンドライブターンを使用するときは，減速ターンスイッチを《切》にして行なってください。（13ページ参照）
- 副変速を《 走行 》で，主変速（無段変速）を低速にすると旋回しにくい場合があります。そのときは副変速を《 標準 》にしてください。

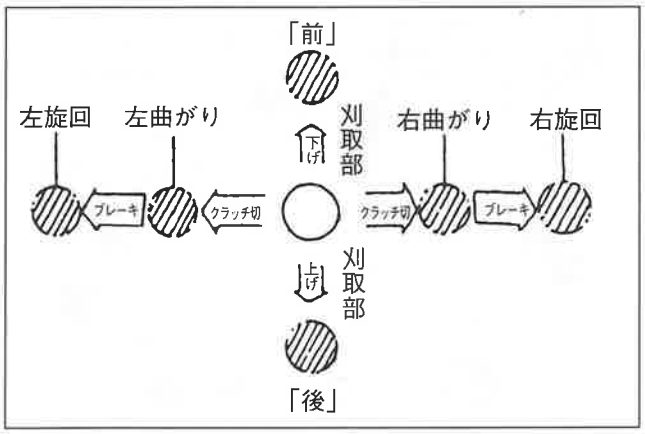
❻ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回する時は主変速（無段変速）レバーで速度を落として行なってください。
◆自動車等への積込み・積降ろしの時は，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「旋回」，前後操作で刈取部の「上げ」「下げ」ができます。



［4モードターン無仕様］
・マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。

［4モードターン仕様］
《スピンドライブターン》又は《減速ターン》で旋回する時は，マルチステアリングレバーを左又は右にいっぱいに倒して行います。

取扱いのポイント

- **マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。**

❼ ジャストディレクタ

［A，D仕様］

・マルチステアリングレバーに内装されています。
・ジャストディレクタスイッチの《左》を押すと左方向に，《右》を押すと右方向に機械の進行方向を修正します。
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

- **ジャストディレクタとマルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。**
- **ジャストディレクタは旋回力が小さいので旋回には使用しないでください。**

❽ 刈高解除スイッチ

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを解除するスイッチです。

刈高解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを《下げ》にすると刈取部は刈高さポジションコントロール位置に関係なく通常のマルチステアリングレバー操作の「下げ」となります。

取扱いのポイント

- **レバーの刈高解除スイッチの操作については，「刈高さポジションコントロール」（59〜61ページ）を参考に取扱いをしてください。**

❾ 油圧固定スイッチ

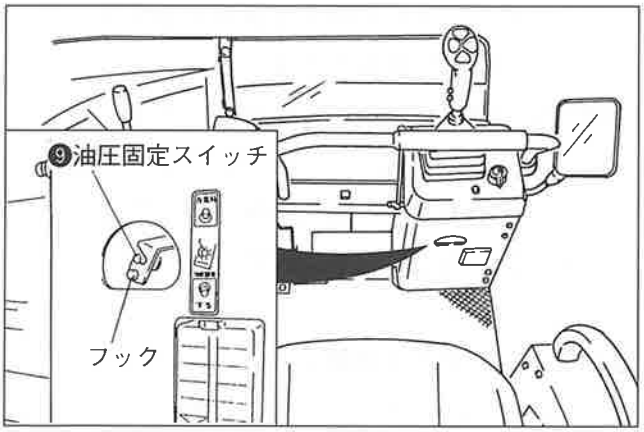
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備等する時は，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく，刈取部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。
◆油圧固定スイッチを操作する時は，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「上げ」・「下げ」を固定します。

・《油圧固定》位置にするとマルチステアリングレバーを操作しても作動しません。**油圧固定位置では，フックをかけて**使用します。
路上を走行するときは，《油圧固定》位置で行います。
・作業時には，油圧固定スイッチを《作業時》の位置で使用します。
・刈取部全体を取外すときには油圧固定スイッチを《下る》の位置で使用します。

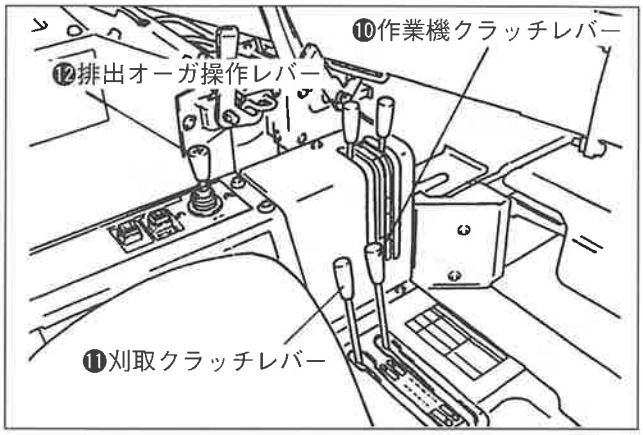


❿ 作業機クラッチレバー
⓫ 刈取クラッチレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機クラッチレバーまたは刈取クラッチレバーを《入》に操作する時は，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。
◆作業機クラッチレバーまたは刈取クラッチレバー《入》の状態ではエンジンを始動しないでください。

・**作業機クラッチレバー**は脱こく部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。



取扱いのポイント

● **刈取り作業を行う時は，作業機クラッチレバーは，回転計のそれぞれの「色別表示」以下では《入》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

・**刈取クラッチレバー**は刈取部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。
刈取クラッチレバーを《入》にすると，作業機クラッチレバーも連動して《入》となります。また，作業機クラッチレバーを《切》ると，刈取クラッチレバーも連動して《切》となります。

⓬ 排出オーガ操作レバー

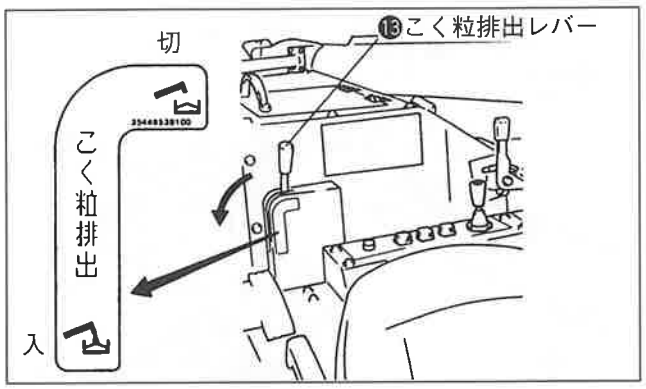
⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガを上げたままでの移動および刈取り作業はしないでください。上げたままで走行すると，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

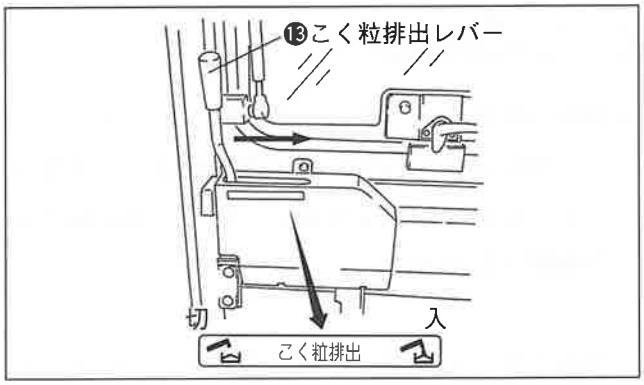
排出オーガを《上げ》，《下げ》および《左》旋回，《右》旋回させるレバーです。
・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを《上げ》てから行います。

⑬ こく粒排出レバー

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。



［キャビン仕様］



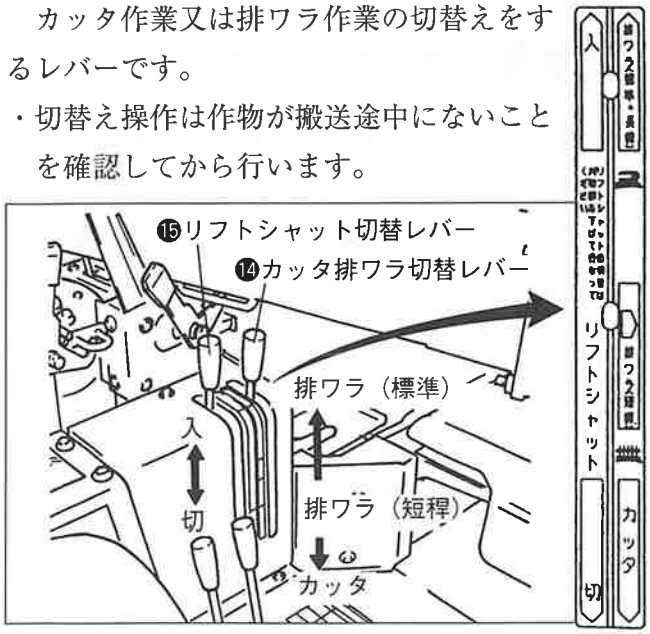
取扱いのポイント

- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。回転が低いと詰まりの原因となります。**

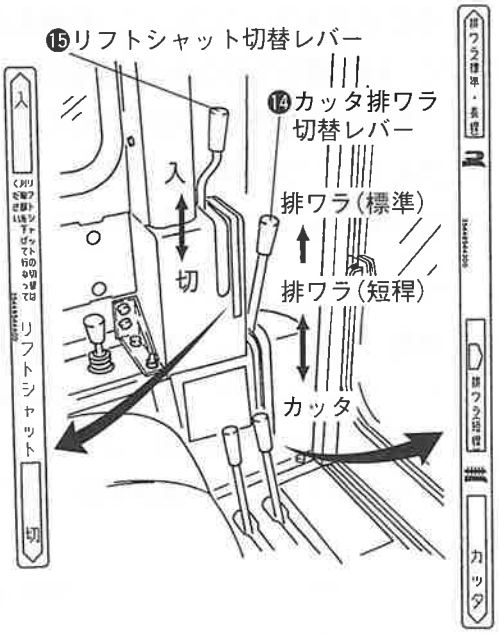
⑭ カッタ排ワラ切替レバー

カッタ作業又は排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。



［キャビン仕様］



《カッタ》……ワラをカッタで切断します。

《排ワラ（標準・長稈）》……ドロッパ作業，ノッタ作業，ワラをそのまま排出する作業。通常はこの位置で使用します。

《排ワラ（短稈）》……ワラが短いとき，ノッタで穂先側を結束したいとき，ドロッパ作業で排ワラがドロッパ装置の穂先側に片よりバランスがとれないときに使用します。

⑮ リフトシャット切替レバー

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。切替レバーを上下方向に操作し，リフトシャットの《入》《切》の切替えを行います。

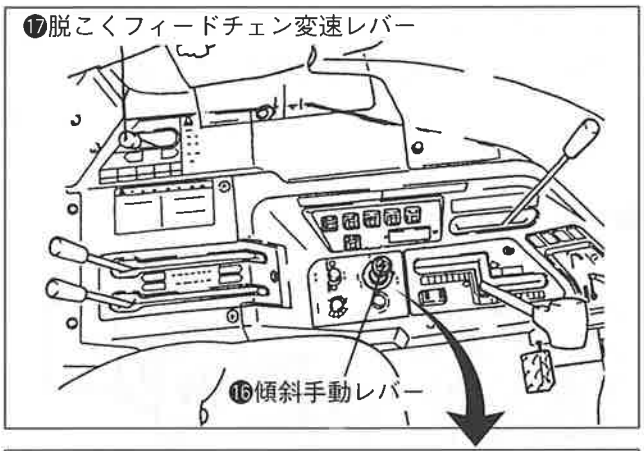
取扱いのポイント

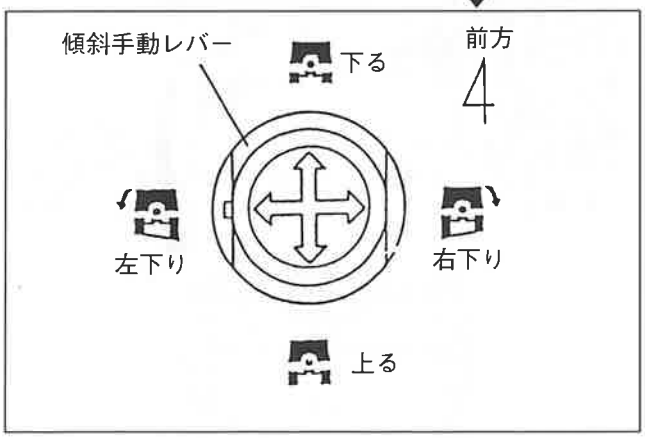
- **リフトシャットの切替え操作は刈取部をいっぱい下げて行なってください。上げた状態で切替えると故障の原因になります。**
- **あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取り作業をする前にリフトシャットの作動を確認してから作業を始めてください。**

⑯ 傾斜手動レバー［L仕様］

機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右下げ**」「**左下げ**」をします。

・レバーを《**上る**》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《**下る**》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《**右下り**》の方向に倒すと，まず右側が下がり，次に左側が上がります。
・レバーを《**左下り**》の方向に倒すと，まず左側が下がり，次に右側が上がります。





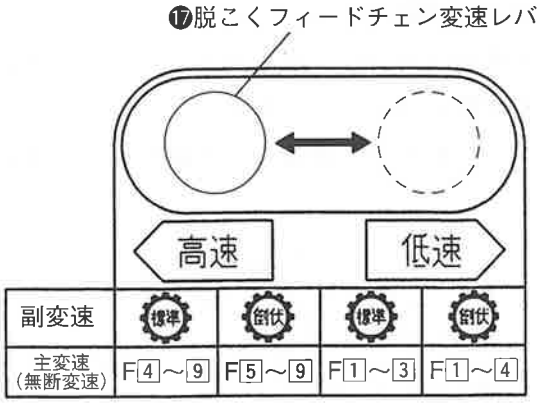
取扱いのポイント

- **刈取り作業時以外は傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。**

⑰ 脱こくフィードチェン変速レバー

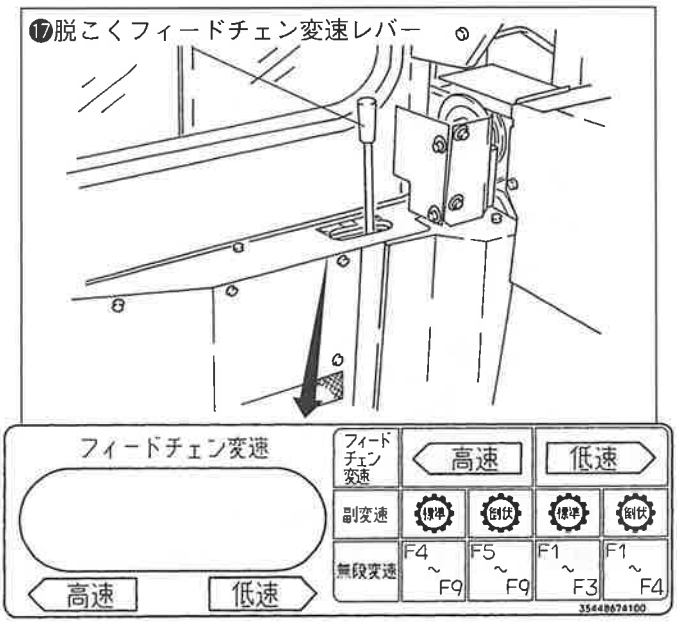
作物条件や刈取りスピードにより脱こくフィードチェンの速度を切替えます。

・切替えは，作業機クラッチレバーを《**切**》にして行います。



［キャビン仕様］

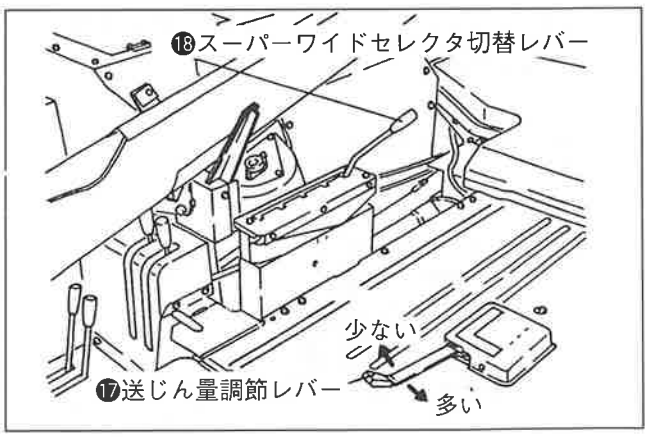
・キャビンの外側（左）にあります。



⑱ スーパーワイドセレクタ切替レバー（選別調節）

作物の種類や刈取り条件により揺動流板のセット位置を切替えるレバーです。

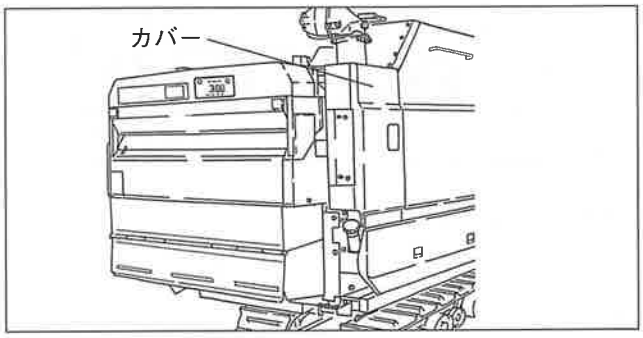
（調節のしかたは39，55ページ参照）

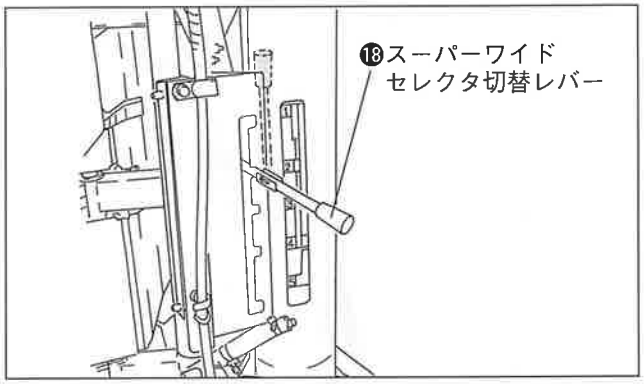


[キャビン仕様]

右側後方のカバーを開けるとスーパーワイドセレクタ切替レバーがあります。

・レバーは折タタミ格納式で上側へ折って格納します。





⑲ 送じん量調節レバー

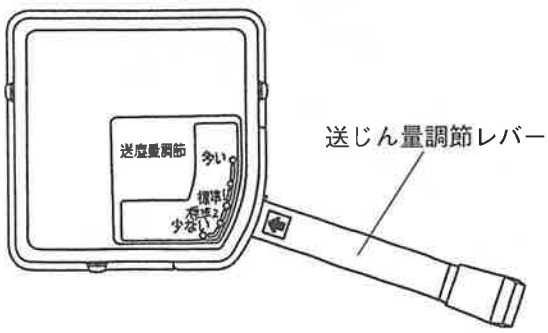
こぎ室内の送じん量を調節します。

《**標準１**》位置で作業を始め，作業の状態に合わせて調節します。

・モミに枝梗付着があるときは《**標準２**》位置で使用します。

・モミに枝梗付着が多いときは，《**少ない**》側で使用します。

・こぎ室内でゴトゴト音がして送じんがスムーズでないときは，レバーを《**多い**》側で使用します。(倒伏時等)



3. 電装関係

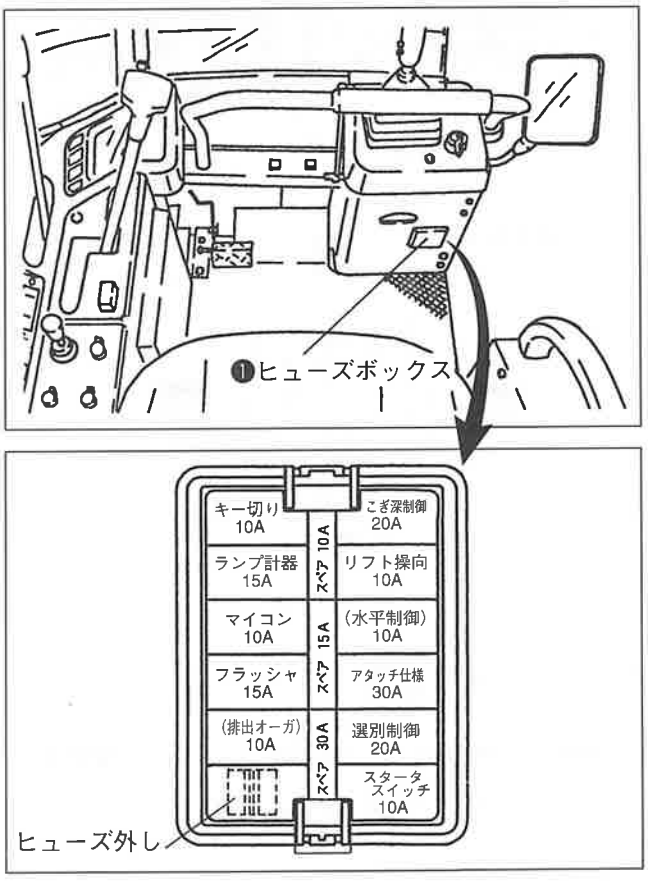
⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると配線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズ及びヒュージブルリンクが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズ及びヒュージブルリンクの状態をチェックします。

❶ヒューズボックス

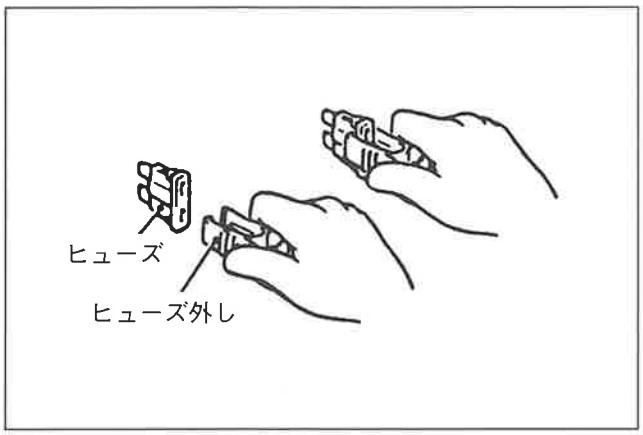


・ヒューズの交換

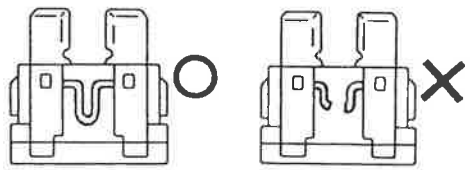
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは次のように処置してください。

(1) スタータスイッチを《 切》位置にします。

(2) ヒューズ外しを使ってヒューズを引き抜きます。(ヒューズ外しはヒューズボックスの中に入っています。)

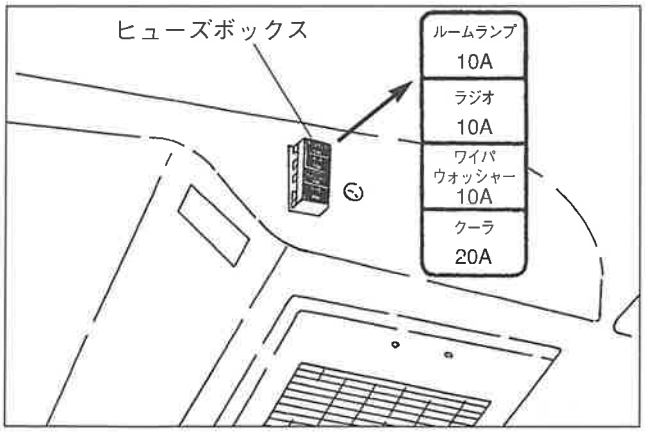


(3) ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。

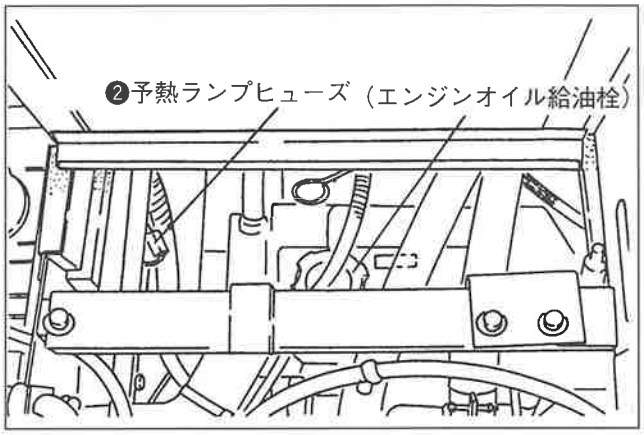


[キャビン仕様]

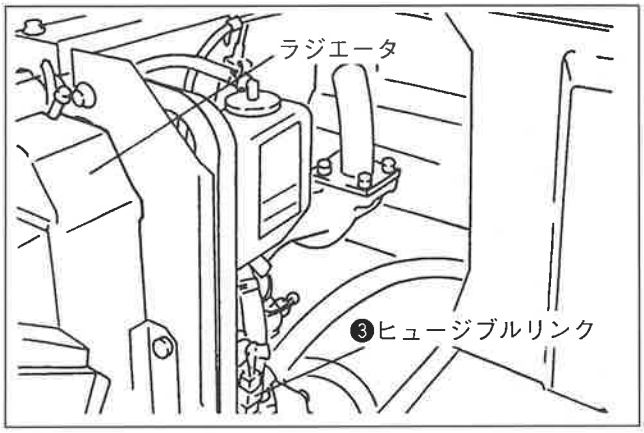
キャビン仕様には再にキャビン専用のヒューズボックスがあります。



❷ 予熱ランプヒューズ（10A）



❸ ヒュージブルリンク



❹ ヒューズ，ヒュージブルリンクの機能

・ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

ヒューズの種類 ＼ 影響の出る機能	エンジン始動	計器類のモニタランプ	前照灯・作業灯	ホーン	バックブザー	燃料の供給	マルチステアリングレバー	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	選別自動制御	水平自動制御(OP)	こぎ深さ自動制御	方向自動制御(OP)	刈高ポジションコントロール	方向指示灯	こぎ深さ手動操作	傾斜手動操作(OP)	結束位置自動モータ(OP)	エンジン自動停止	エンジン停止スイッチ	ジャストディレクタ(OP)	エンジン回転負荷モニタ(OP)	減速タイン(OP)
キー切り	×																						
ランプ・計器		×	×	×	×	×																×	
マイコン				×	×		×	×	×	×	×	×	×	×			×		×	×	×		×
フラッシャ															×								
(排出オーガ)									×														
こぎ深さ制御												×				×							
リフト・操向							×		×		×		×	×			×				×		×
(水平制御)											×						×						
アタッチ仕様																		×					
選別制御										×													
スタータスイッチ	×																						
予熱ランプ		×																					
ヒュージブルリンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(OP……オプション)

[キャビン仕様]

ヒューズの種類 ＼ 影響の出る機能	クーラ	ワイパ・ウォッシャ	ラジオ	ルームランプ
クーラ	×			
ワイパ・ウォッシャ		×		
ラジオ			×	
ルームランプ				×

取扱いのポイント

- 取りかえてもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時には機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した時は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷によるもれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷やもれがあれば交換してください。

「**運転まえの点検表**」

点検個所	内　容	処　置	参照ページ
エンジンカバー 及び金網 ラジエータフィン オイルクーラフィン クーラコンデンサ［キャビン仕様］	・金網の目詰まりはありませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンは，コンプレッサでエアを吹きつける。	86 69
マフラやエンジン回り，サイドカバー（上）（下）	・ワラクズがたまっていませんか。	・掃除をする。	—
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみは締める。 ・損傷したものは交換してください。	—
油もれ	・各給油個所部に油もれがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締めてください。 ・直らない時は点検を受けてください。	76～82
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料もれがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締めてください。	110
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線は交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。	88

点検個所	内　容	処　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	86
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	76〜77
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	77〜78
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。 タンク容量：42 ℓ	76
脱こくフィードチェン	・スムーズに動きますか。	・注油する。	84
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	22〜24
方向指示灯等の保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	22〜24
バックブザー	・主変速（無段変速）レバーを「後進（R）」位置にした時，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	22〜24
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・バッテリを充電する。 ・異常個所を調べ，処置する。	9 76〜77
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・異常個所を調べ，処置する。	10〜11
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・異常個所を調べ，処置する。	18 113
走行クラッチペダル	・ゆっくり走行してペダル操作した時に正常に作動しますか。	・異常個所を調べ，処置する。	114
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	119〜130

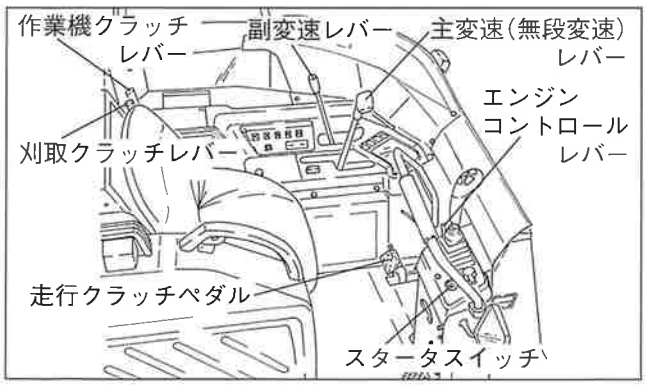
2．エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

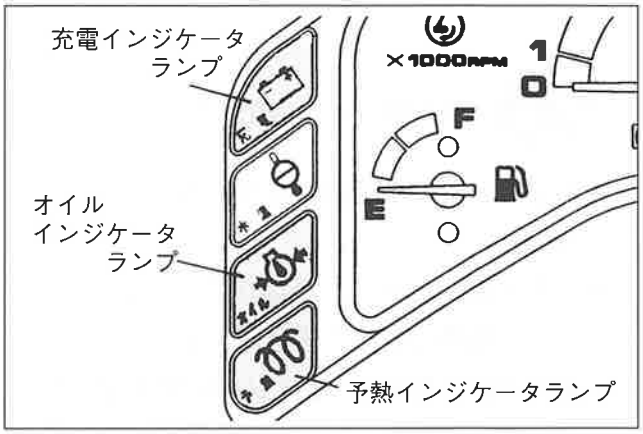
◆点検整備などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆変速レバーが《N》(中立)，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《切》位置であることを確認してください。
● 機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆屋内での始動は窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速（無段変速）レバー，副変速レバー《N》(中立)にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバー《切》で駐車ブレーキをかけて行なってください。運転者はエンジンをかけた状態では機械の周囲から離れないでください。
◆空運転する時はこぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

1．エンジン始動のしかた

❶ 主変速（無段変速）レバーを《N始動》(前進側N位置)，副変速レバーを《N》(中立)にします。



❷ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《切》位置にあることを確認します。
❸ エンジンコントロールレバーを《 》(高速)位置にセットします。
❹ スタータスイッチを《 入》位置にし，「オイル」「充電」「予熱」のインジケータランプが点灯することを確認します。



❺ 「予熱インジケータランプ」が消えるまで待ちます。(約3秒)
❻ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込みスタータスイッチを《 始動》位置に回し，エンジンを始動します。
❼ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「2000回転」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **主変速（無段変速）レバーを《N始動》(前進側N位置）にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「オイル」「充電」のインジケータランプが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは5秒以上の連続使用はしないでください。**
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので5秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

2．エンジン停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《 》(低速)にします。
❷ スタータスイッチを《 切》位置にするとエンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

1．走行のしかた

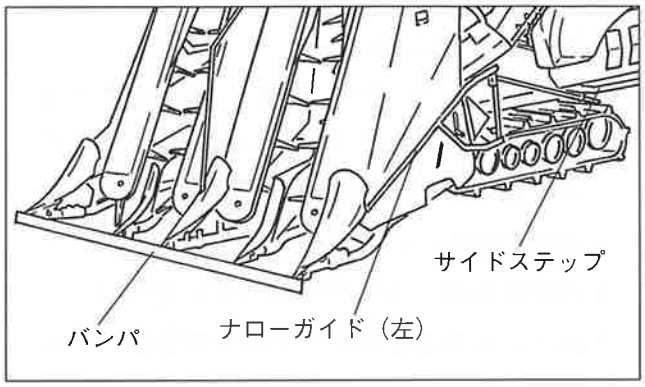
⚠警告 傷害事故防止のために

◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
- ［キャビン仕様］は公道の走行はできません。自動車に載せて移動します。
- カッタ以外のアタッチメントを取外します。
- 排出オーガ受を「下セット」（［キャビン仕様］機を除く）にします。

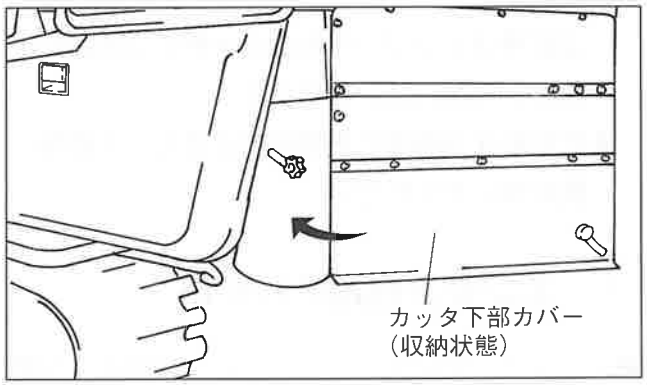
◆走行する前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してサブタンクを収納してください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落としてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてください。［L 仕様］
◆方向自動スイッチを「切」にしてください。［A，D仕様］
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆運転者の他に子供等，人や物を機械にのせないでください。
◆走行中に走行クラッチペダルを踏んで停止するときは，主変速（無段変速）レバーを《N》に戻し，発進するときは低速から徐々に速度を上げてください。
◆走行時に排出オーガ先端部を障害物等にあてないようにしてください。

つぎのことを守り，運転をします。

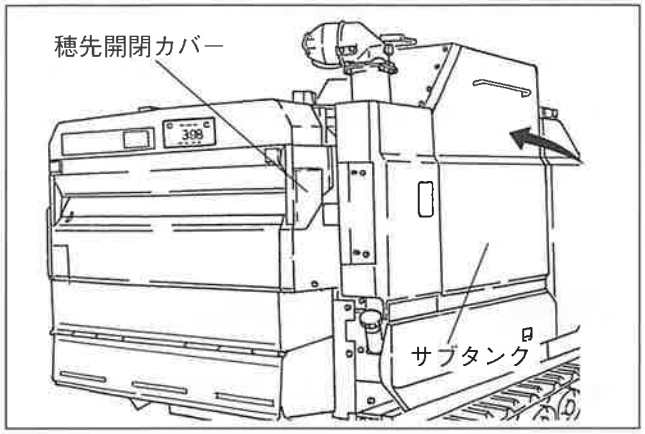
❶ デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けます。
❷ 「**ナローガイド（左）**」を内側に収納します。
❸ 「**サイドステップ**」を収納します。（点検，整備時以外ではサイドステップを収納します。）



❹ ・公道を走行するときは，カッタ以外のアタッチメント（ノッタ等）を取外します。
・カッタは下部カバーを収納状態にします。
（52～53ページ参照）

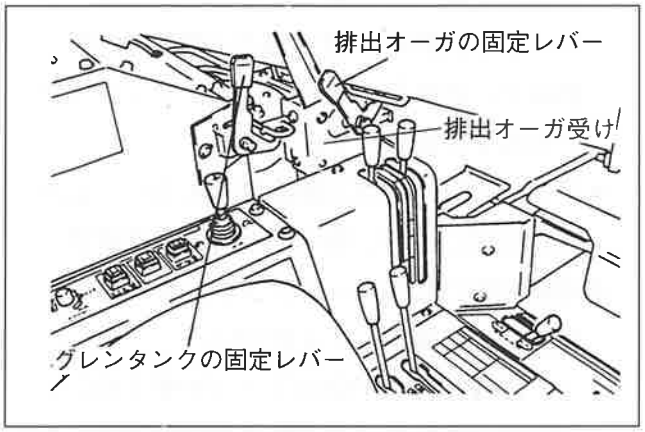


・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。



❺ グレンタンク内のこく粒をすべて排出し，サブタンクを収納します。

❻ 排出オーガ受を「**下セット**」にします。(35ページ参照) 排出オーガ，グレンタンクの「**固定レバー**」がかかっていることを確認します。

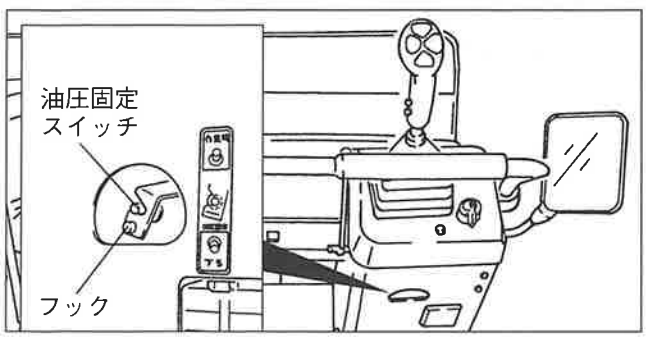


❼ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**切**》にし，自動スイッチをすべて「**切**」にします。

❽ エンジンを始動してエンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❾ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**30cm**」程度上げます。

❿ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけ，刈取部を固定します。



⓫ ［**L仕様**］は水平自動スイッチを「**切**」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

⓬ ［**A，D仕様**］は方向自動スイッチを「**切**」にします。

⓭ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓮ 主変速（無段変速）レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓯ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示灯を点灯し合図をします。

⓰ 発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンで行います。

⓱ 路上走行時は，作業灯は消灯します。

2．停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げ，排出オーガを収納位置に戻して，各操作レバーを《N》(中立)，副変速レバーを《 倒伏 》に入れてください。

◆燃えやすいものの近くには止めないでください。

◆機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。［キャビン仕様］はドアキーをかけてください。

❶ 主変速（無段変速）レバー，副変速レバーを《**N**》(**中立**) にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，5分間程度空運転を行います。

❹ エンジンコントロールレバーを《 》(**低速**) にして，エンジンを停止します。

❺ 副変速レバーを《 倒伏 》に入れて，駐車ブレーキレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

- 駐車ブレーキを解除する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。
- 走行クラッチペダルは半クラッチでは使用しないでください。機械がずり落ちたり，走行ベルトが焼損する恐れがあります。

4．自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車を停車し，アユミを自動車にセットする時はアユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び，自動車は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

- アユミは機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。
- アユミのフックは段差のないように，またはずれないように荷台に平行にかけます。

◆機械は積込むまえにグレンタンク内のこく粒はすべて排出してください。

- ［L 仕様］は水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。
- ［A，D仕様］は方向自動スイッチを「切」にします。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

- アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

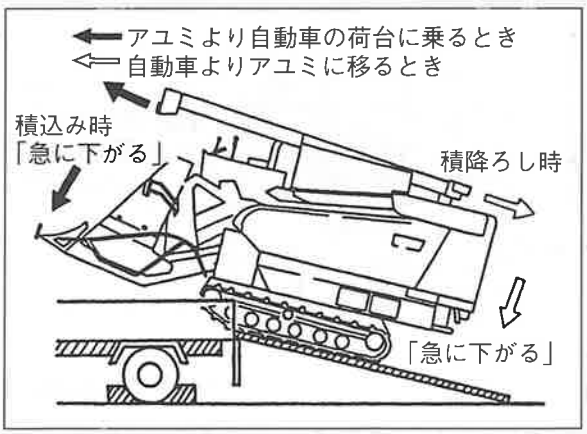
・主変速（無段変速）レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・駐車ブレーキレバー
・ジャストディレクタ

} はアユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，低速で行なってください。

◆［キャビン仕様］以外は機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

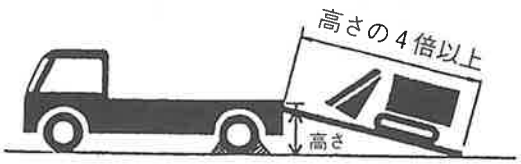
◆機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。



◆各カバーの固定が確実か確認してください。

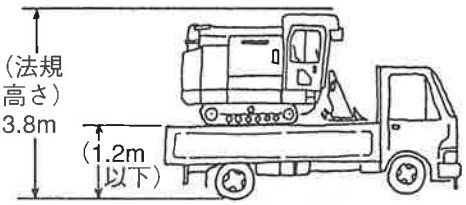
◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープ又はワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて



❶ 積載重量3000kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

・［**キャビン仕様**］の場合は，荷台高さが1.2m以下の自動車を使用します。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**歯止め**」をします。

❸ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。

❹ アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**はずれ**」たりしないようにセットします。

2．コンバインの取扱い

❶ ナローガイド，サブタンク，サイドステップを収納します。（28～29ページ参照）
グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。

❷ エンジンを始動して，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にします。

❸ 刈取部をいっぱい上げます。

❹ 積込みは，主変速（無段変速）レバー《F 1》，副変速《 倒伏 》で行います。

❺ 積降ろすときは，主変速（無段変速）レバー《R 1》，副変速《 倒伏 》で行います。

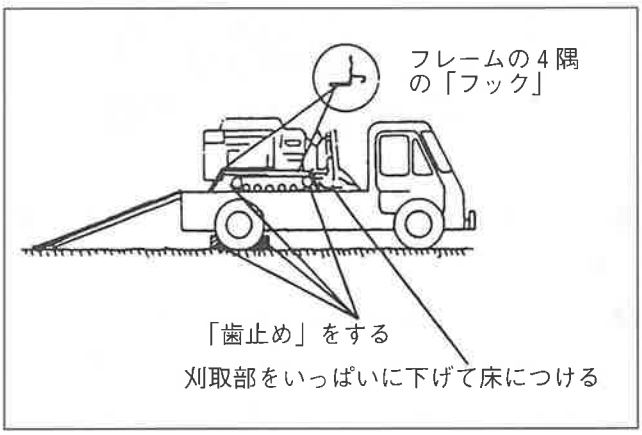
❻ ［キャビン仕様］以外の積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。

❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**歯止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ又はワイヤをかけて固定します。

❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。



⓫ ［キャビン仕様］を輸送する時はドアと窓を閉めて，ロックしておきます。

5．ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆あぜ，溝，急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行なってください。

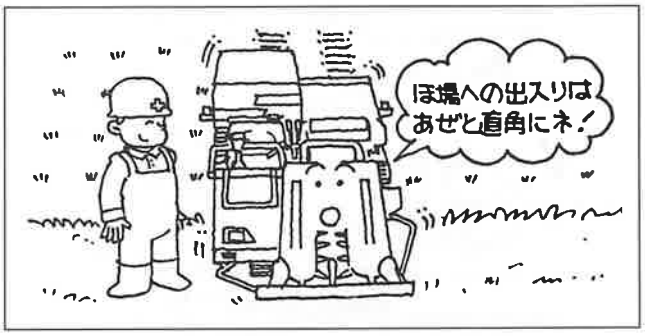
◆ほ場への出入りをする前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

◆［L仕様］は水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてください。

◆［A，D仕様］は方向自動スイッチを「切」にしてください。

◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶ 刈取部を上げ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速を《倒伏》，主変速（無段変速）を《F[1]》**または**《R[1]》にしてあぜに直角に走行します。

❷ アユミを使用する時は，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。つぎの条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

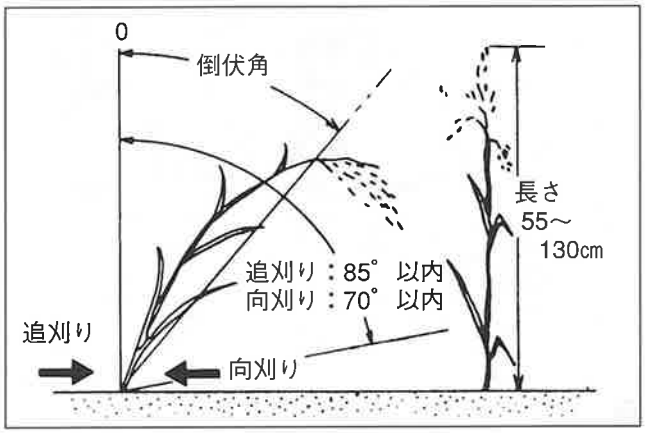
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130cmまで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りはつぎのようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫におかされた作物

病害虫におかされた作物の刈取りはつぎのようなことがありますので，刈取り作業の速度をおそくするか，またはできるだけその部分は「手刈り」をしておきます。

・こく稈が折れやすい

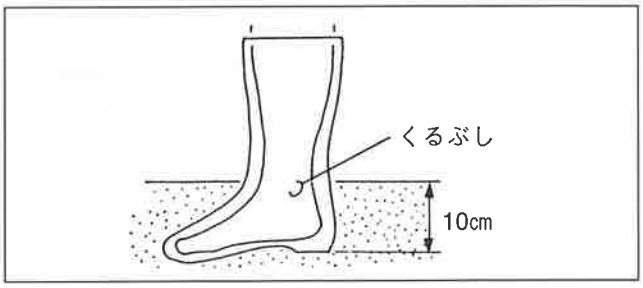
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

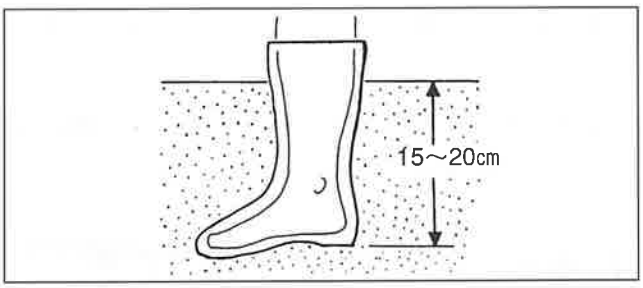
❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「くるぶし」（10cm）までは作業ができます。



［超湿田仕様（W仕様：オプション）］

・沈下量が「15～20cm」までは作業ができます。

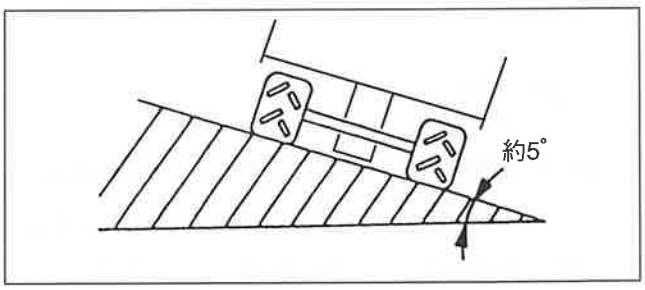


取扱いのポイント

- **一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。**

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度5°以上では作業できません。



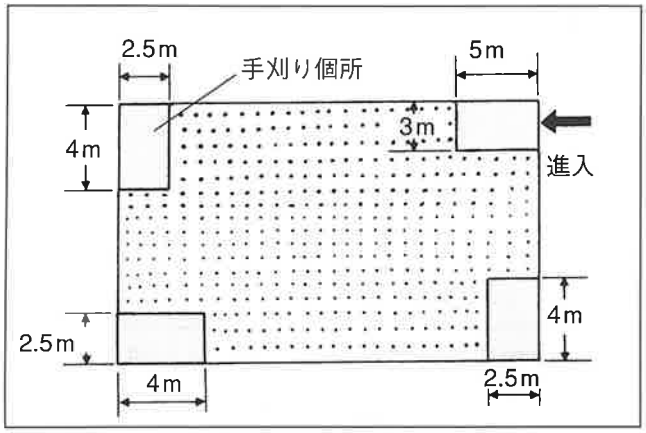
取扱いのポイント

- **適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。**
- **ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。**

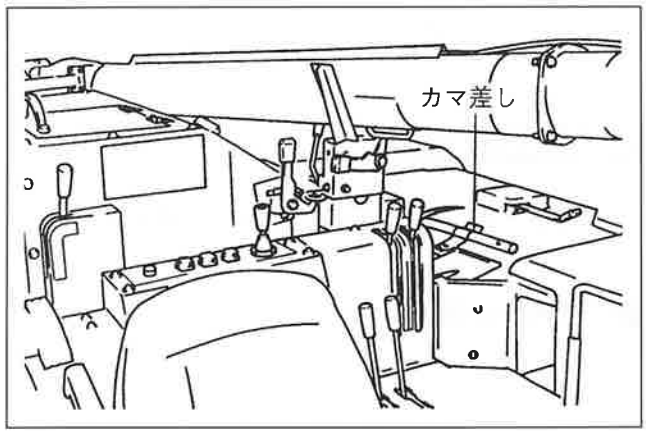
3．ほ場の準備

❶ 手刈り

・機械をほ場に入れるまえに，あらかじめ四隅を「**旋回できる程度**」手刈りします。



・カマ差しは，脱こくこぎ室カバーの上部にあります。
カマは図のようにセットし，刃部に手が触れないようにします。



取扱いのポイント

●ほ場の周囲がコンクリートあぜ，又は高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。

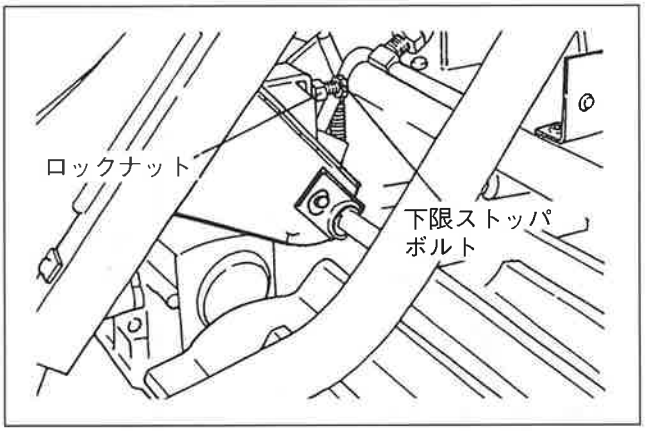
4．機械の準備

❶ 刈取部下限ストッパの調整

刈取部の下部に「**下限ストッパボルト**」が装備してあります。工場出荷時には刈高さが少し高くなるようにセットしてあります。

(1) 刈取部をいっぱい上げ，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にしてフックをかけ，刈取部の下に「**固定脚**」を入れます。

(2) ロックナットをゆるめ「**下限ストッパボルト**」をいっぱいねじ込み，ロックナットで固定します。

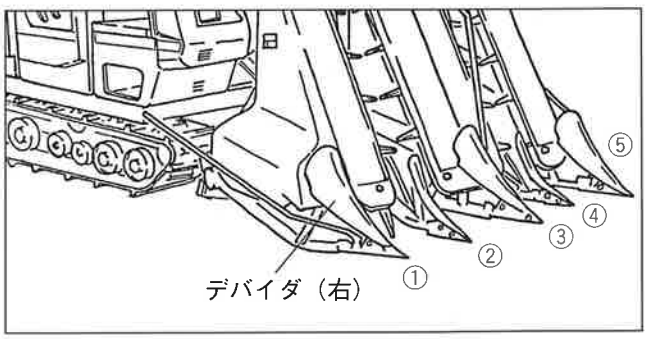


❷ デバイダの上下調整

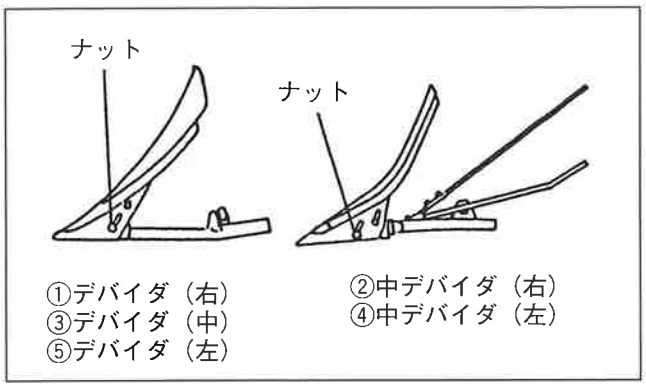
次のような場合は，デバイダを「**下側**」にセットします。

・刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付のナットを緩めてデバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。



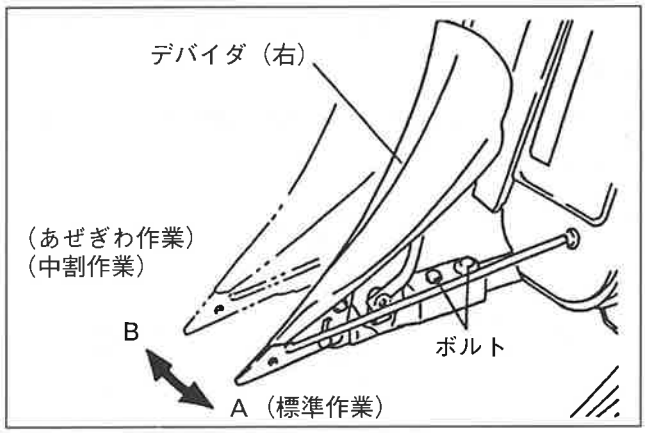
取扱いのポイント

- **デバイダは全て同じ高さになるようにセットしてください。**

❸ デバイダ（右）の調整

・デバイダ（右）は「**A位置が標準**」です。

・中割作業やあぜぎわ作業をするときは，2本のボルトを緩めてBの位置にいっぱい広げ締付けて固定します。



❹ 排出オーガ受のセット

⚠注意

◆刈取り作業時には，排出オーガを固定レバーで固定してください。

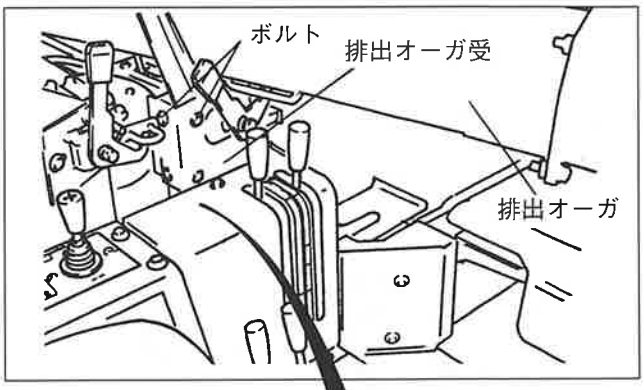
◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にしてください。（「キャビン仕様」以外）

［キャビン無仕様］

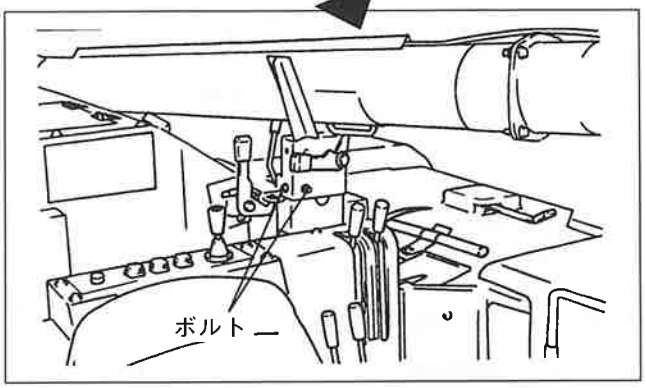
工場出荷時に排出オーガ受は「**下セット**」で出荷されています。

排出オーガ受のボルト（3本）を外し，「**上**」位置にセットします。

「出荷状態（下セット）」

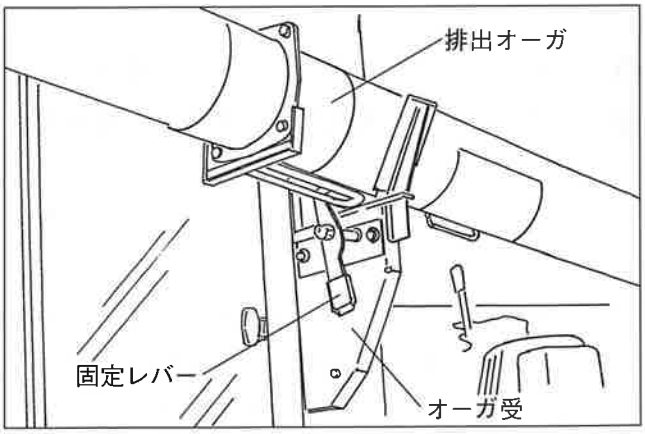


「上位置セット」



［キャビン仕様］

・排出オーガ受は固定式です。



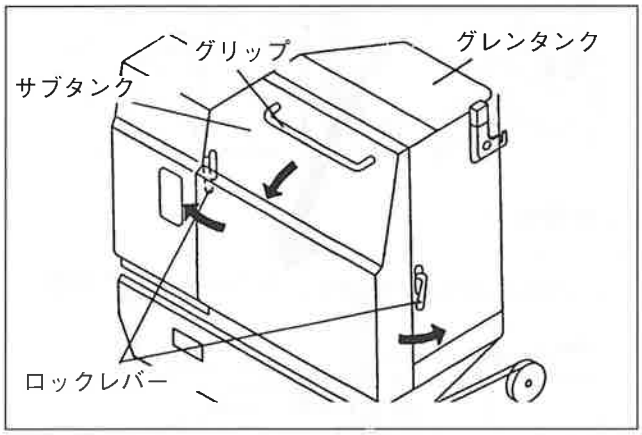
❺ サブタンクを張り出します。

(1) グレンタンクの左右にあるロックレバーを矢印の方向に回します。

(2) グリップを持ってサブタンクを外側に引出します。

(3) グリップを押し引きしながら，片方のロックレバーを元に戻し，サブタンクを引出した位置で固定します。もう一方のロックレバーも同じようにして固定します。

(4) 収納は逆の手順で行います。



取扱いのポイント

- **サブタンクの収納や張り出しは，グレンタンク内のこく粒を排出してから行なってください。排出しないで行うと変形やモミもれの原因となります。**

❻ ナローガイド（左）を作業位置に開きます。

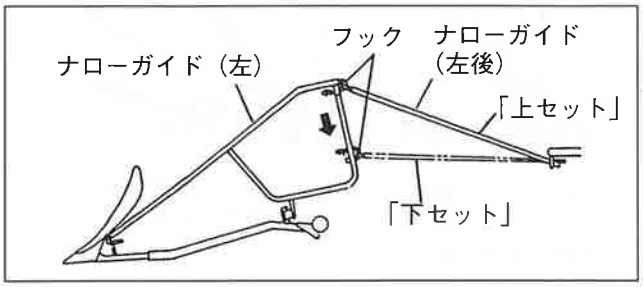
❼ **ナローガイド（左後）の上下セット組替えのしかた**

・工場出荷時，ナローガイド（左後）は「**上セット**」になっています。

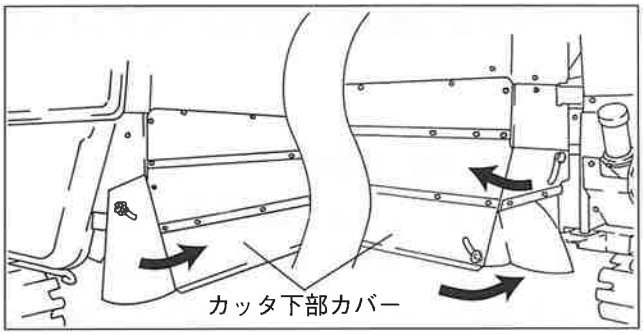
・短稈材で未刈稈がナローガイド（左後）の裏側に入り込み，穂先がクローラに接触する場合は，ナローガイド（左後）を「**下セット**」にして作業します。

(1) フックの先端がナローガイド（左）の取付パイプから外れるまでフックを引出し，ナローガイド（左後）と共に下方の取付パイプまで移動させます。

(2) フックにナローガイド（左後）をセットして取付パイプに確実にはめ込みます。

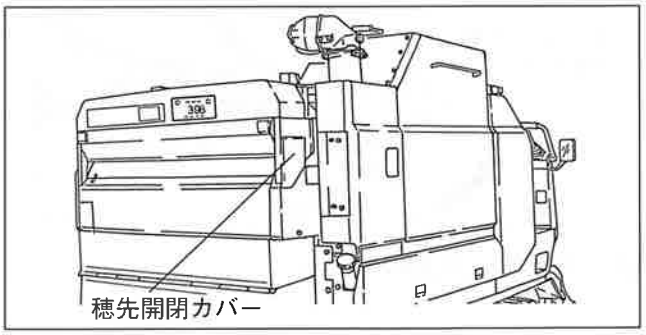


❽ カッタ下部カバーを作業状態にします。(52～53ページ参照)

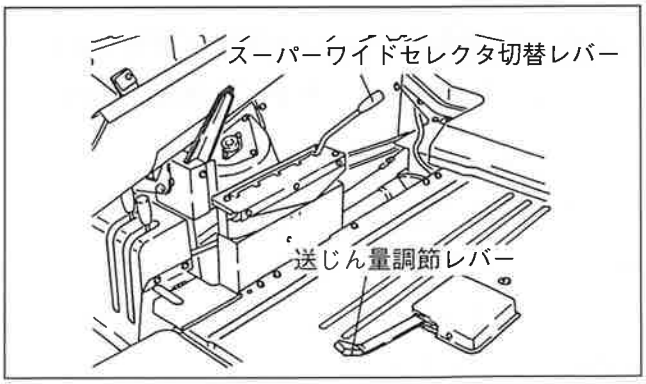


❾ カッタ排ワラ切替レバーを作業に合わせて切替えます。(カッタの切ワラ長さの切替えは53ページ参照)

(1) 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❿ 送じん量調節レバーを《**標準1**》位置にします。



⓫ 旋回方式の選択［D仕様］

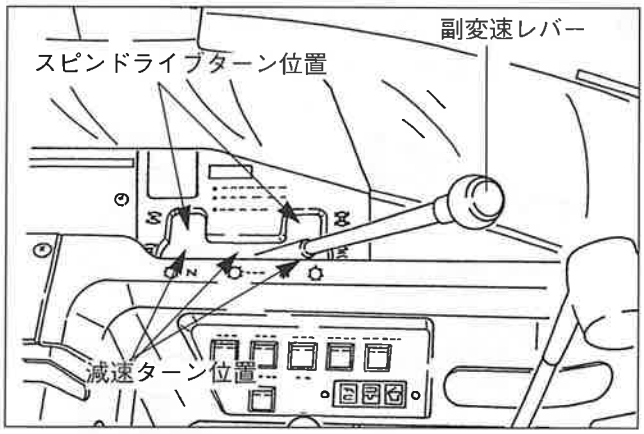
> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆減速ターンは通常の旋回より旋回半径が大きくなります。狭い所では減速ターンは使用しないでください。

作業条件に応じて旋回方式を選択します。

《スピンドライブターン》……左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。

《減速ターン》……片側のクローラが減速し，左右のクローラが同じ方向に回転して旋回します。ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。

（操作方法は17ページ参照）

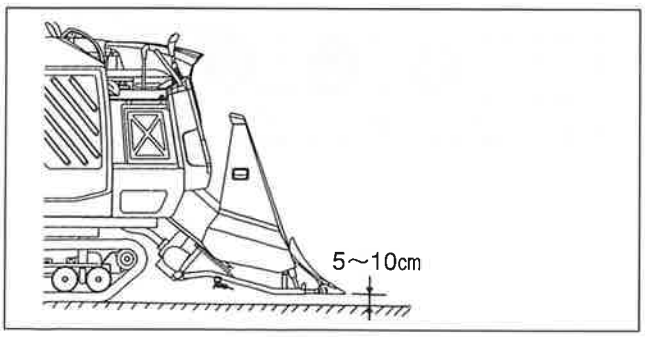


⓬ 刈取り高さの調節

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「5～10cm」になるように刈高さコントロールダイヤルで調節します。

・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

（34～35ページ参照）



2．刈取り作業のしかた

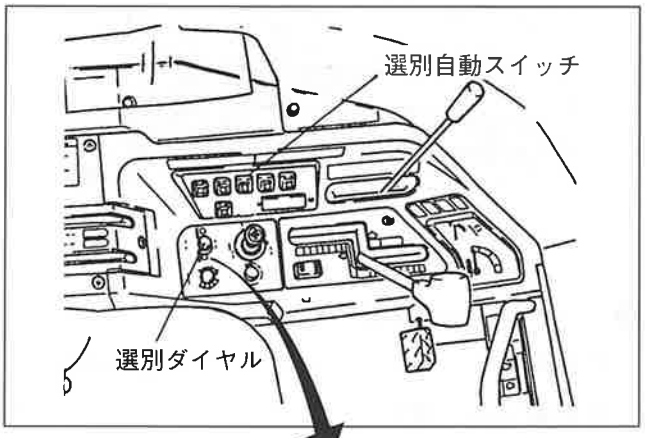
麦刈り作業時の調整のしかたは54ページを参照してください。

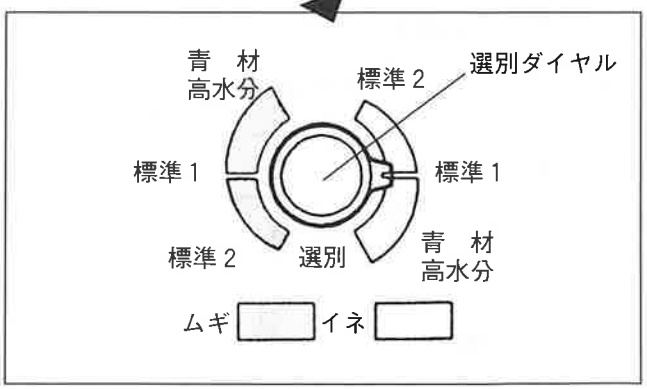
1．刈取り操作の手順

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。
>
> ◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止した時は，主変速（無段変速）レバーを《N》に戻してください。発進するときは低速から徐々に速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，自動スイッチが点灯していることを確認します。

❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。

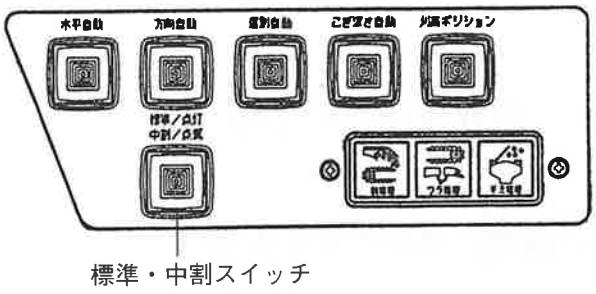




・選別ダイヤルのセット方法は，「**選別自動制御の取扱い**」の項63ページを参照。

各自動装置の取扱いは56～66ページを参照します。

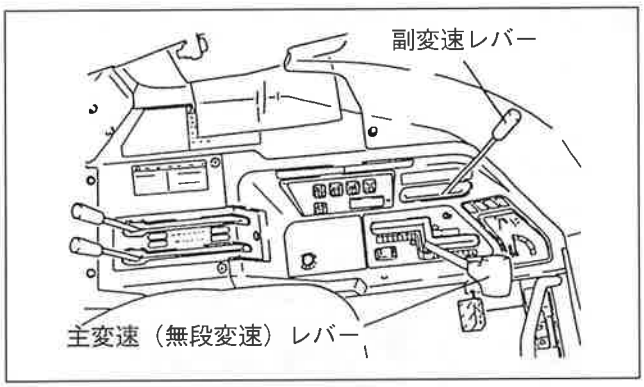
❸ 標準・中割スイッチをセットします。
（方向自動使用時）



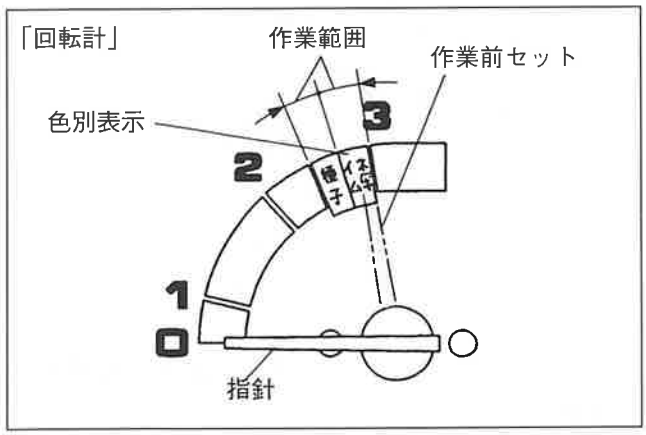
・「**条刈り，横刈り**」のときはランプ「**点灯**」で使用します。
・「**中割作業**」のときは，スイッチを押してランプ「**点灯**」から「**点滅**」に切替えて使用します。

❹ リフトシャット切替レバーを《**入**》位置にします。（取扱い方法は46ページ参照）

❺ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。（40ページ参照）



❻ エンジン回転を調整します。
作業機クラッチレバーを入れ，回転計の指針が「**色別表示の上限**」になるようにエンジンコントロールレバーで調整します。



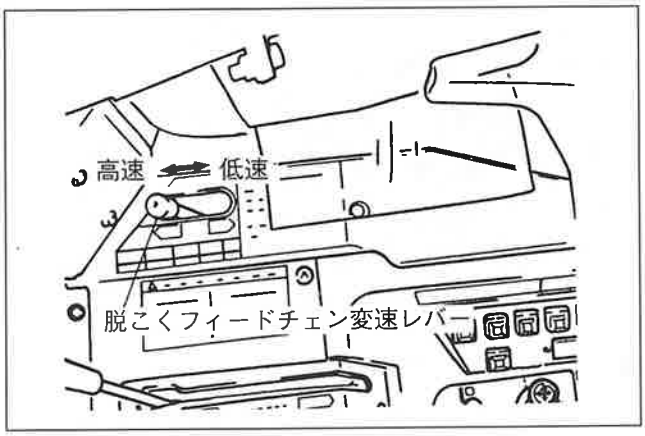
取扱いのポイント

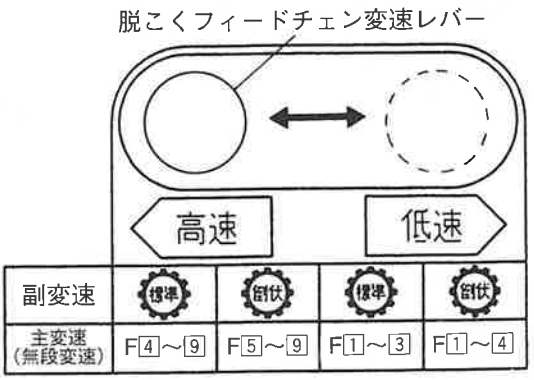
- **刈取り作業中は「色別表示」の範囲内に常時指針があるように主変速（無段変速）レバーで作業速度を調整してください。**
- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。

❼ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》位置にします。

❽ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速（無段変速）レバーで適正な速度を選びます。（作業速度の選びかた40ページ参照）

❾ 作物の倒れ具合に合わせて脱こくフィードチェン変速レバーをセットします。





⑩ 方向修正は，マルチステアリングレバーをこきざみに操作して行います。

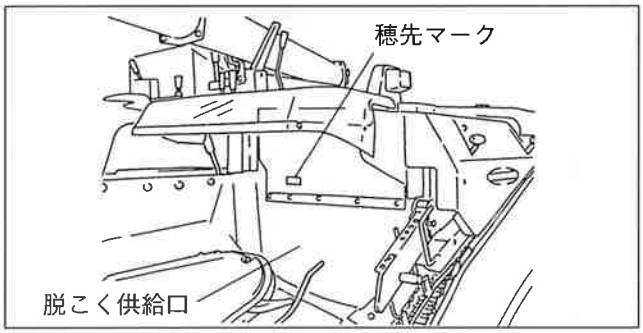
［A・D仕様］

・方向自動制御を使用する場合は，**「方向自動制御の取扱い」の項57～59ページを参照。**

・**ジャストディレクタ**で方向修正を行うとスムースに修正できます。

⑪ 適正こぎ深さの調整

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら作物の穂先が**「穂先マーク」**の位置になるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。



取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項56～57ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

⑫ 作業中は，回転計の指針が，**「色別表示の範囲内」**に位置するように，主変速（無段変速）レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速（無段変速）レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。(13ページ参照)

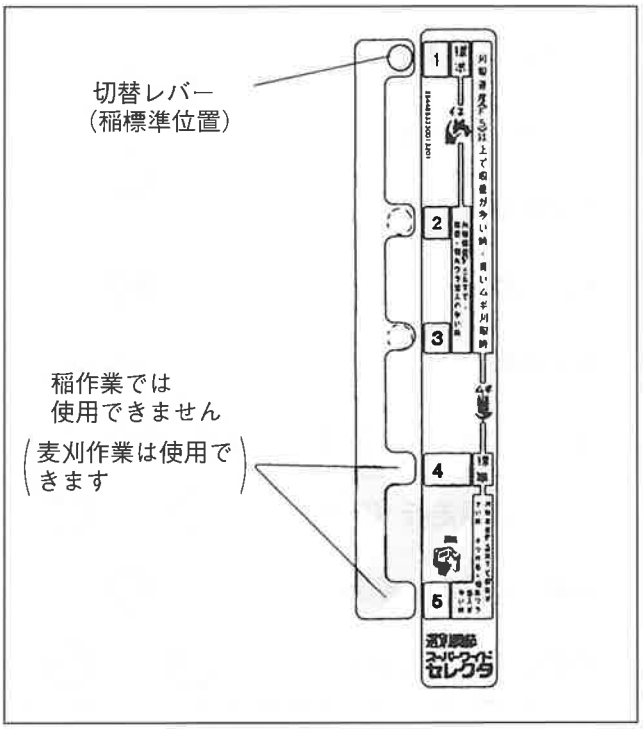
取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは警報入切ボタンを押しても鳴りやみません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くするとブザーは鳴りやみます。

⑬ スーパーワイドセレクタの調節

・切替レバーを材料条件と刈取り速度に合わせて，いずれかの位置にセットします。

「稲作業セットの場合」



・1位置……稲刈り作業の標準位置。

・2位置……刈取り速度がF4以下で枝梗(しこう)付着および切ワラ混入が多いとき。

・3位置……2の位置でもまだ枝梗(しこう)付着および切ワラ混入が多いとき。

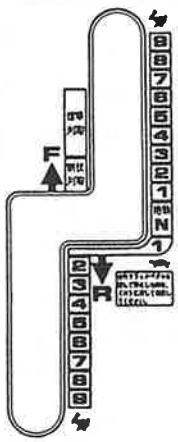
・4 5位置……稲作業では使用できません。

取扱いのポイント

- **スーパーワイドセレクタ切替レバーの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，揺動流板上のワラクズなどが排出された後に行なってください。**
- **シーズン途中や格納前に切替レバーがスムーズに動くように時々レバーを操作してください。**

2. 作業速度の選びかた

・作物の状態など，作業内容に合わせて，主変速（無段変速）レバー，副変速レバーで速度を選び，最適な状態で作業をします。

作業内容	変速レバー位置		
	副変速	主変速（無段変速）	
積込み，あぜ越え	倒伏	F 1	
倒伏刈取り		F 1～3	
標準刈取り	標準	F 3～7	
集中注油	N	F 9	
路上，ほ場走行（前進）	倒伏，標準，走行	F 1～9	
路上，ほ場走行（後進）	倒伏，標準	R 1～9	
積降ろし，あぜ越え	倒伏	R 1	
刈取りのときの後進	倒伏，標準	R 1～9	

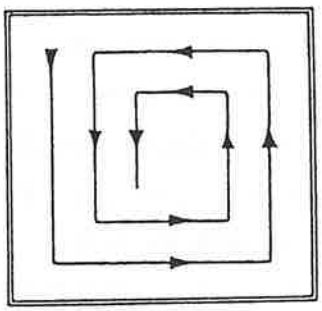
3 ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは，「**左回り刈り**」が基本です。

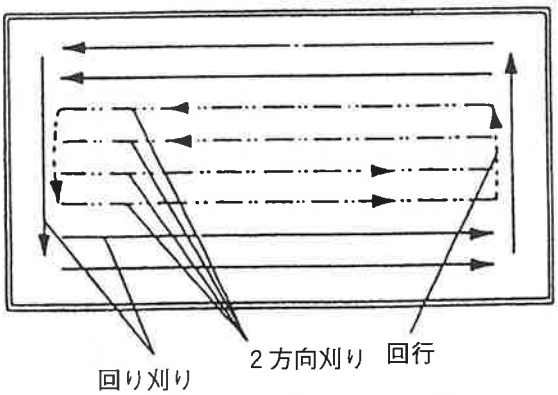
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

(1) **正方形に近いほ場**



(2) **長方形に近いほ場**

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

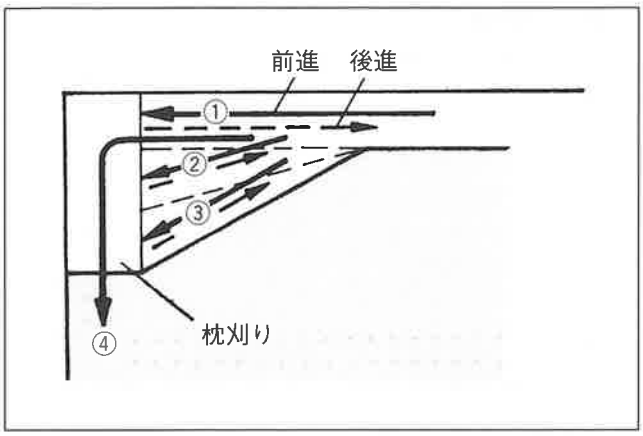


(3) **あぜぎわ刈り**

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

(4) コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは下図のようにします。

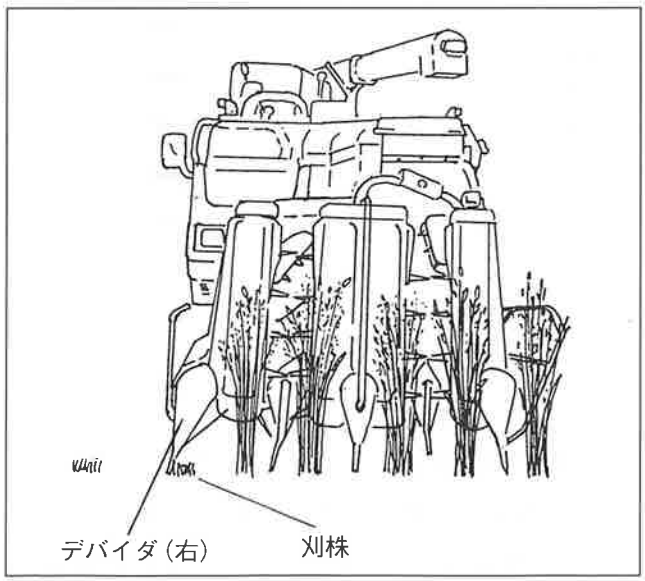


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**

(5) 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に刈株の**外側**に合わせ，「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。



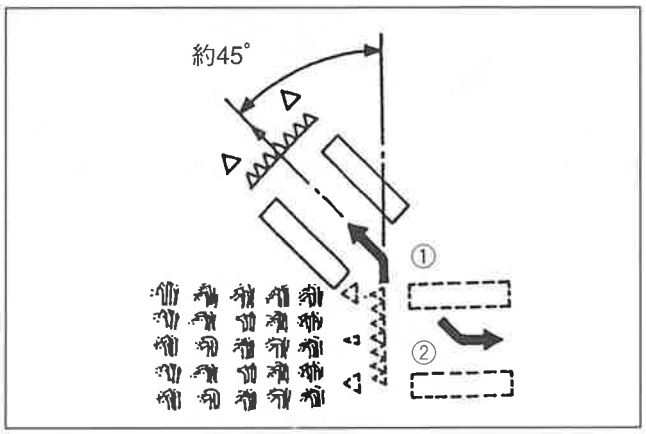
(6) 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら刈取部を40㎝程度上げます。（リフトシャットが作用する高さ）

作業機クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回します。(湿田では大きく回ります。)

・左に「**約45°**」向きを変えて停止します。

・後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「**条合わせ**」をします。



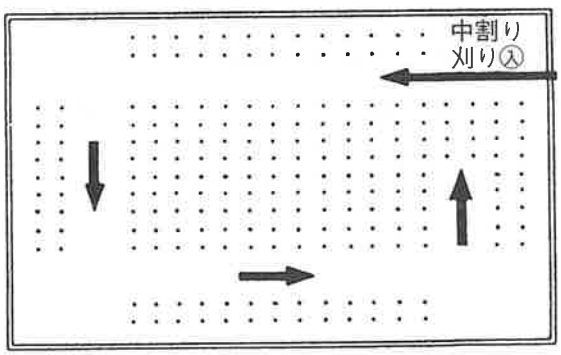
取扱いのポイント

- **旋回のときには，エンジン回転を下げたり作業機クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

❷ 中割り刈り

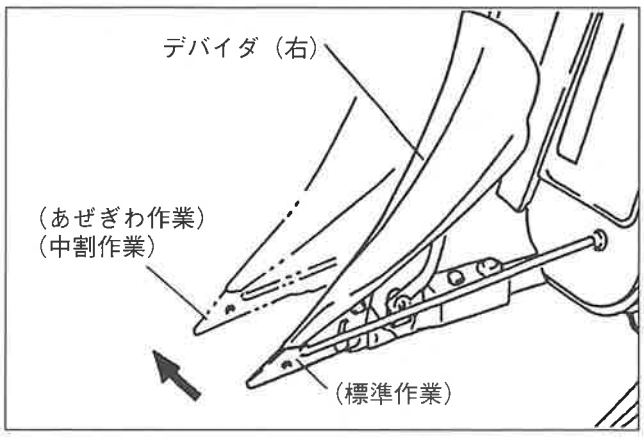
・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。

・中割り刈りは，「**低速**」で行います。

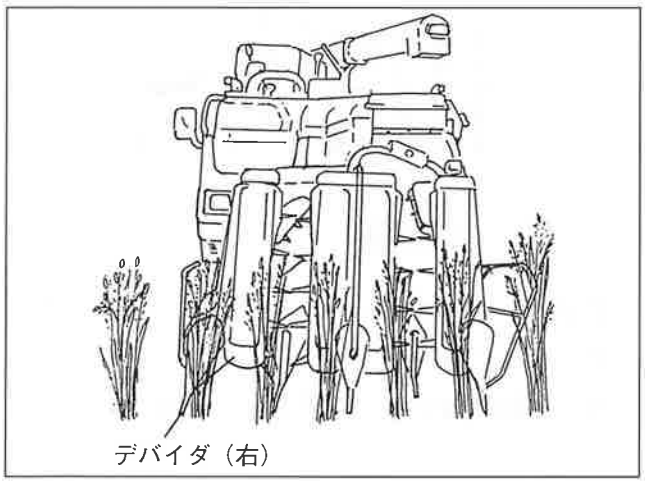


(1) 標準・中割スイッチを押してランプが点滅した状態にします。(方向自動使用時 **[A,D仕様]**)

(2) デバイダ（右）を，中割作業位置にセットします。



(3) デバイダ（右）を刈取りする株元の右側に合わせて刈取ります。



❸ 右回り刈り

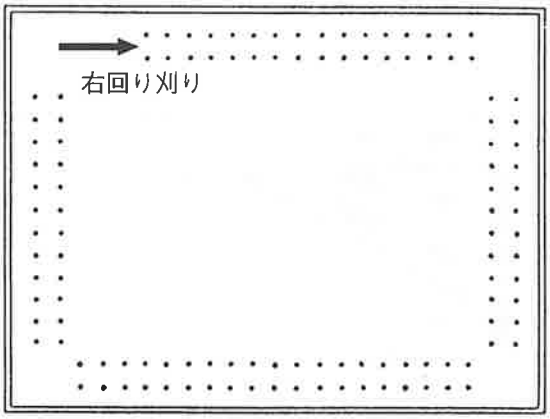
(1) まわりのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ3条を残し**「中割り・左回り」**で刈取りをします。

(2) 残した3条を最後に**「右回り」**で刈取ります。

(3) あぜぎわを**「右回り刈り」**するときは，**「ナローガイド（左）」**を収納し，**「ナローガイド（左後）」**を**「下セット」**にします。

(36ページ参照)

「デバイダ（左）」をあぜに突っ込まないようにします。

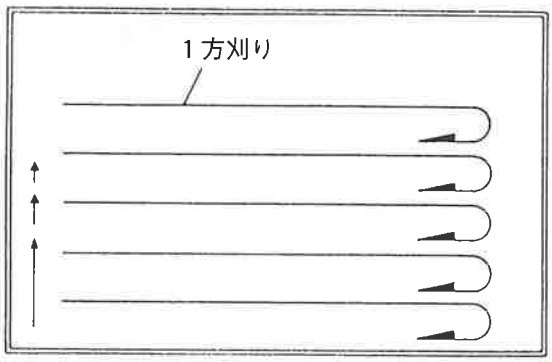


取扱いのポイント

- **ほ場の状態によっては，最初にあぜぎわを「右回り」で刈取り，つぎから正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて**「一方刈り」**を行います。



(1) **刈取り方向**

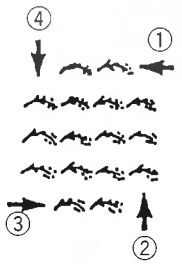
・倒伏した作物の刈取りは次ページの図表を参考にして行います。

1．**「刈取り速度」**は，副変速《 倒伏 》，主変速（無段変速）《F 1～3》で刈取ります。

2．②右倒伏刈りが困難なときは，**「④左倒伏刈り・③追刈り」**となるように**「1方刈り」**をします。

「方向自動を使用しないとき」

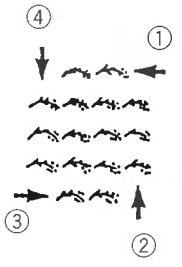
刈取り方向＼倒伏程度	倒伏	中倒伏	立毛状態
①向い刈り	×	△	○
②右倒伏刈り	×	○	○
③追い刈り	△	○	○
④左倒伏刈り	△	○	○



○刈取り可能　△走行速度を落として刈取り可能
×刈取り不可能

「方向自動で刈取りするとき」

刈取り方向＼倒伏程度	倒伏	中倒伏	立毛状態
①向い刈り	×	×	○
②右倒伏刈り	×	○	○
③追い刈り	×	○	○
④左倒伏刈り	×	○	○



○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

(2)　スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき,（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき）倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- 倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最もさがった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。
- デバイダ先端が土に突っ込まないようにしてください。
  土に突っ込むと株の引きぬきが発生し，詰まりの原因となります。
- 倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。
- クローラで穂先を踏まないようにしてください。
  脱こく部の詰まり等の原因になることがあります。

3．こく粒の排出操作方法

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲を確認して行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，をする時はグレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》にしエンジンを停止してください。
◆排出オーガ自動収納（又は自動旋回）中に緊急停止する場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は自動収納（又は自動旋回）を使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆［キャビン仕様］は，キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定レバーで固定してから行なってください。
◆［L仕様］は，水平自動スイッチを「切」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてから排出作業をしてください。

❶ グレンタンクのモミ警報

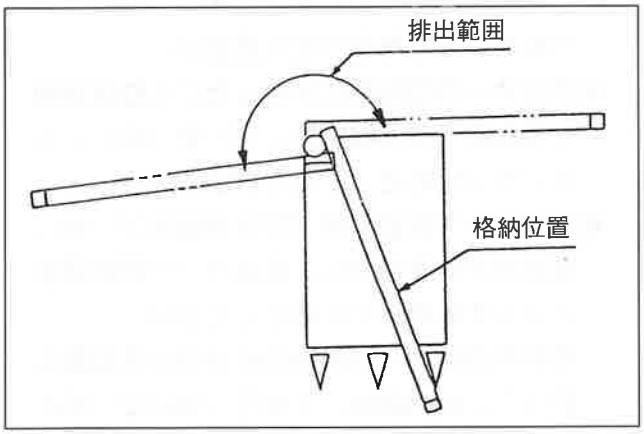
・グレンタンクにこく粒が充満すると，モミ処理インジケータランプの「赤点灯」と警報ブザーの「断続音」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。

・警報ブザーは警報入切ボタンを押すと止まります。

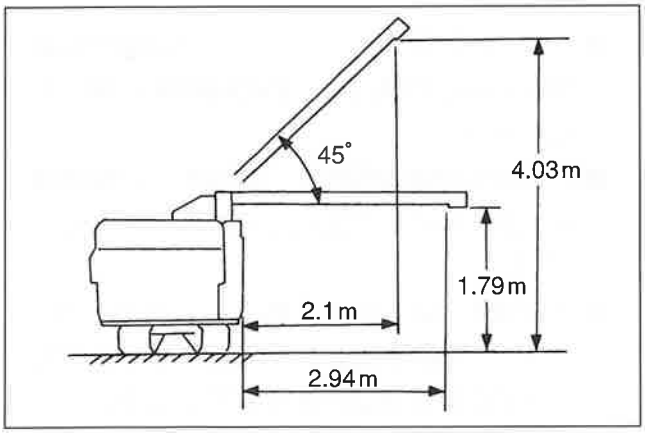
取扱いのポイント

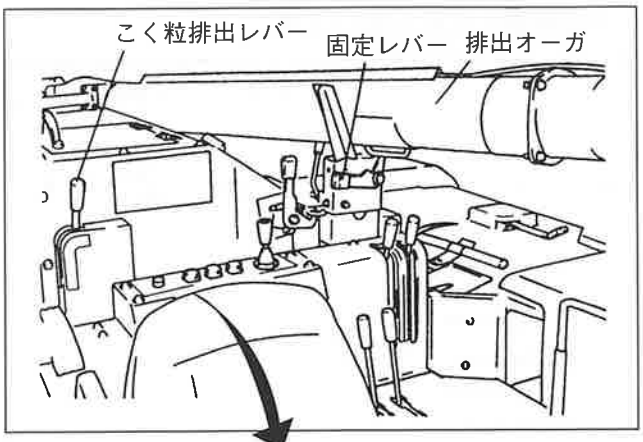
●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けるとグレンタンク上部よりオーバーフローし，警報ブザーの連続音が鳴り自動的にエンジンが停止します。作業機クラッチレバーを《切》にしないとエンジンの再始動はできません。

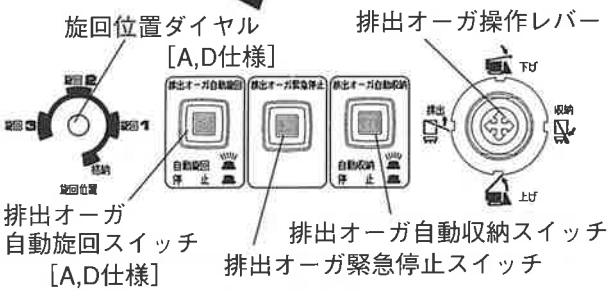
❷ こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速（無段変速）レバーを《N》（中立）にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。



「排出オーガ高さと距離」







❸ こく粒排出操作手順

① 排出オーガの固定を「解除」

⇩

② 排出オーガ操作…上げ➡左旋回
（排出位置，高さにセット）

⇩

③ エンジンコントロールレバーを
「高速」セット

⇩

④ こく粒排出レバー「入」
…… こく粒排出

⇩

⑤ こく粒排出終了
……こく粒排出レバー「切」

⇩

⑥ 排出オーガ格納……右旋回➡格納

⇩

⑦ 排出オーガを「固定」する

● ［キャビン仕様］も同様の手順で行います。

取扱いのポイント

●こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒でふさがないようにして，排出位置を変えながら行なってください。

- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態ではオーガの旋回がおそくなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回は排出オーガを一杯上げてから行ってください。

4．グレンタンク補助樋口の取扱い

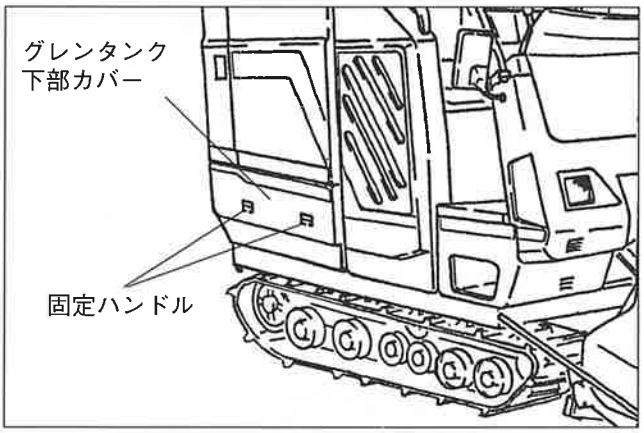
故障等によりグレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すとその内側にあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取り出すときはエンジンを停止してください。

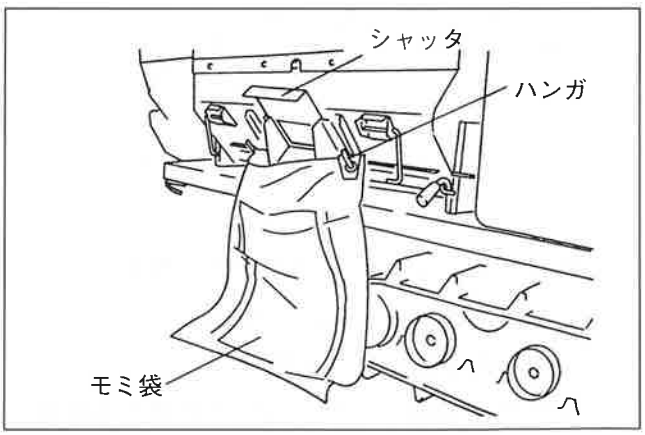
◆カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いてカバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げタンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを締め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

5．リフトシャットの取扱い

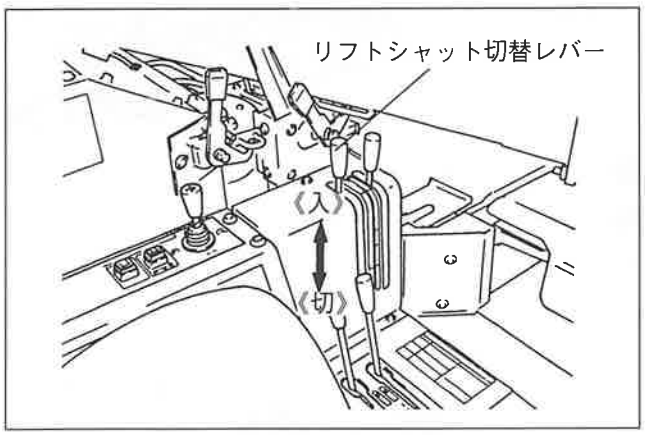
⚠警告　傷害事故防止のために

◆リフトシャット《入》位置で，作業機クラッチ，刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げた時は，刈取部，脱こく部が回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

リフトシャットとは，リフトシャット切替レバーを《**入**》にして刈取部を上げると，作業機クラッチ・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャット切替レバーを《**切**》にするとリフトシャットは作用しませんので，前処理の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく部は回転します。

・リフトシャット切替レバーの操作は，刈取部をいっぱい下げて行います。



次の場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

・手刈りのしてないほ場の回り刈り作業

・あぜ越え直後からの刈取り作業

・あぜぎわ等を高刈りする場合

・湿田等で刈取部を上げた状態で作業する場合

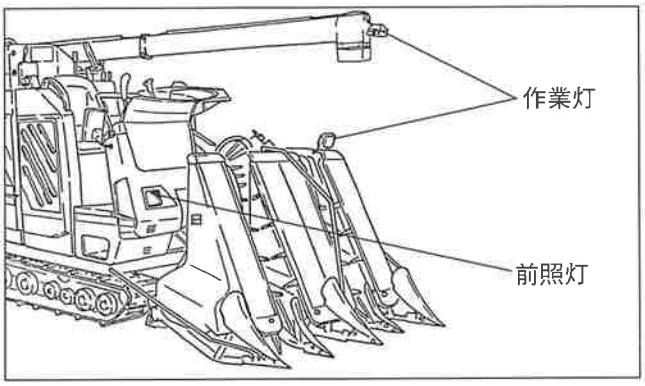
6．夜間作業

⚠注意

◆路上走行するときは作業灯を消灯してください。

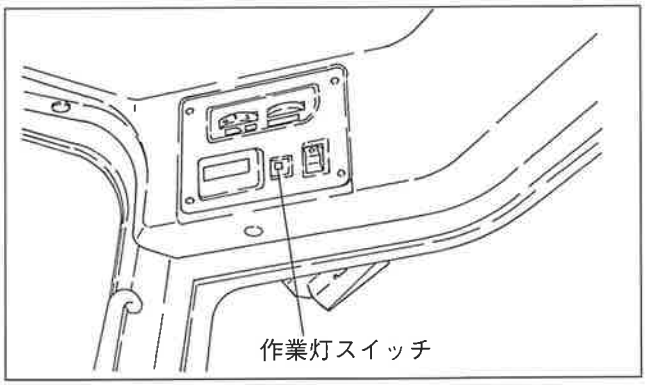
❶ 前照灯を点灯します。

❷ 刈取部上部および排出オーガの先端に取付けられている作業灯のスイッチを《ＯＮ》にし点灯します。



[キャビン仕様]

・キャビン内上方の作業灯スイッチを「**入**」（押す）にすると，全ての作業灯（キャビン上部，排出オーガ先端，刈取部上部）が点灯します。



7．トルクリミッタの取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆詰まり等の異常が発生したときに詰まったワラクズ等を取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

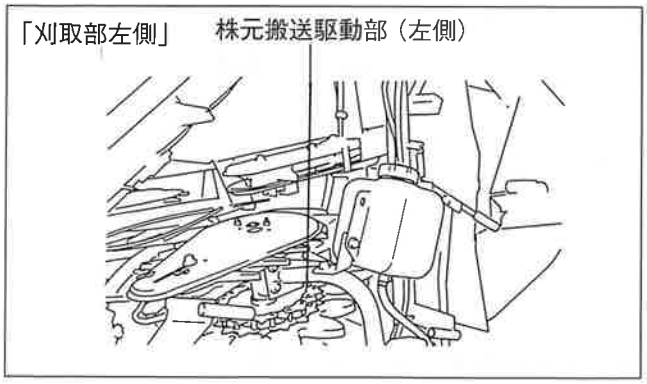
◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「固定脚」等をかませて作業してください。

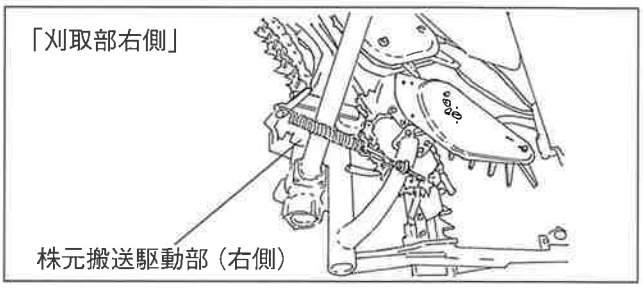
⚠注意

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐためつぎの個所に「トルクリミッタ」が設けてあります。

使用個所	トルクリミッタが作動するとき
刈取搬送部 ・株元搬送駆動部 （２個所）	株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき





❶　刈取搬送部・トルクリミッタ

(1)　作業中，刈取部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まり等）が発生し「**カタカタ音**」を発しているときは，株元搬送の「**トルクリミッタ**」が作動して搬送が停止します。

(2)　ただちに作業を中止し，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にし，エンジンを停止します。

(3)　油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「**固定脚**」をかませ，詰まり個所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

(4)　副変速レバーを《**N**》にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にし，作業機，刈取クラッチレバーを《**入**》にし，主変速（無段変速）レバーを《**F**2》程度で搬送が正常に回転することを確認してから作業を開始します。

❷　こぎ深さ搬送ガイドの着脱

刈取り作業中にこぎ深さ搬送の個所で搬送詰まりが発生したときは，ホルダを回動させることにより詰まりを容易に取除くことができます。

「取外し手順」

(1)　刈取クラッチレバー・作業機クラッチレバーを切り，エンジンを停止します。

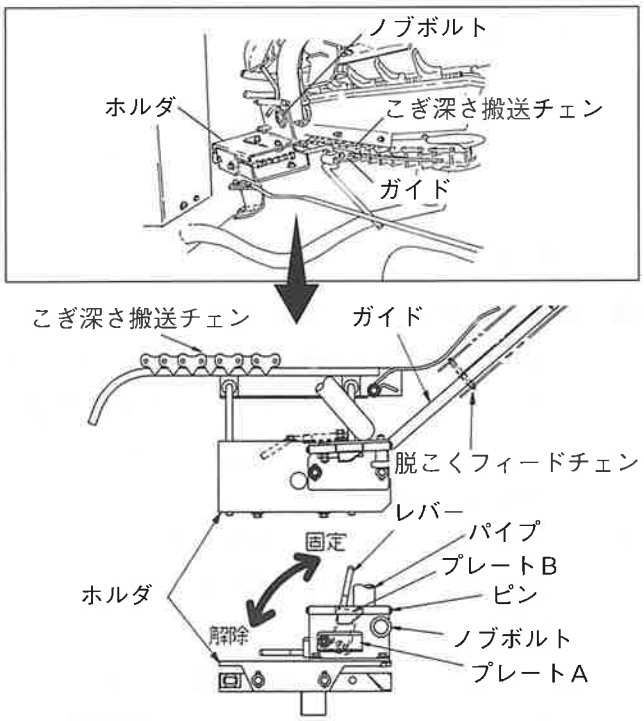
(2)　ホルダのノブボルトを緩め取外します。

(3)　レバーを解除方向にいっぱい動かすと，ホルダがピンを支点に回動します。

(4)　ガイドが脱こくフィードチェンに当たらないように上に持ち上げながらホルダをいっぱいに手前に引きます。

(5)　プレートＡを回動し，プレートＢに掛けてホルダを固定します。

(6)　搬送詰まりを取り除きます。



「装着手順」

(1) プレートAを回動しプレートBから外します。

(2) ガイドが脱こくフィードチェンの上にくるようにしてホルダを奥に押し当て，ノブボルトを締付けます。

(3) レバーを固定方向にパイプに当たるまで動かし，ホルダを固定します。

8. エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まり等の異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《STOP 切》位置にして作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》にしてから，平坦な場所で詰まりを取除いてください。

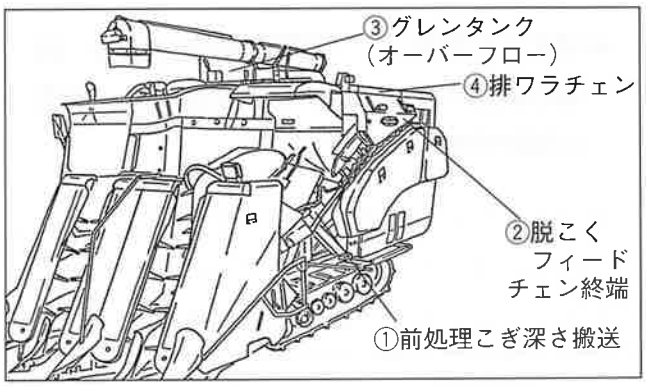
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業はこぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます）ゆっくり手を離してから行なってください。(92~93ページ参照)

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業はカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。（101ページ参照）

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前にこぎ胴部を閉めて機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐためつぎの個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理インジケータランプまたはモミ処理インジケータランプが点灯してエンジンが自動停止します。

① 前処理こぎ深さ搬送
② 脱こくフィードチェン終端
③ グレンタンク（オーバーフロー）
④ 排ワラチェン



❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《STOP 切》位置にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》にしてから詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《N》（中立）にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）にし，作業機クラッチレバーおよび刈取りクラッチレバーを《入》位置にして，主変速レバーをF2に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから閉じてください。

9. 手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
◆手こぎ作業をするときは手袋を使用しないでください。
◆機械を走行しながらの手こぎ作業はしないでください。機械の走行を停止して行なってください。
◆手こぎ作業は刈取クラッチレバーを《切》にし刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
◆手こぎ作業をするときは，機械をワラクズの近くに止めないでください。(火災予防)
◆作業機クラッチレバーは周囲の人に合図してから《入》にしてください。

⚠注意

◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し機械を移動するか，作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止して切ワラを取除いてください。
◆カッタの切ワラがカッタ下部カバー内にたまると，ワラ処理インジケータランプが点滅し連続音が鳴ります。
ただちに手こぎ作業をやめ，作業機クラッチレバーを《切》にし，機械を前進させ，エンジンを停止して点検してください。

❶ [L仕様] 機は，水平自動スイッチを「切」にし傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

❷ 主変速（無段変速）レバーを《N》（中立）にし，走行を停止します。

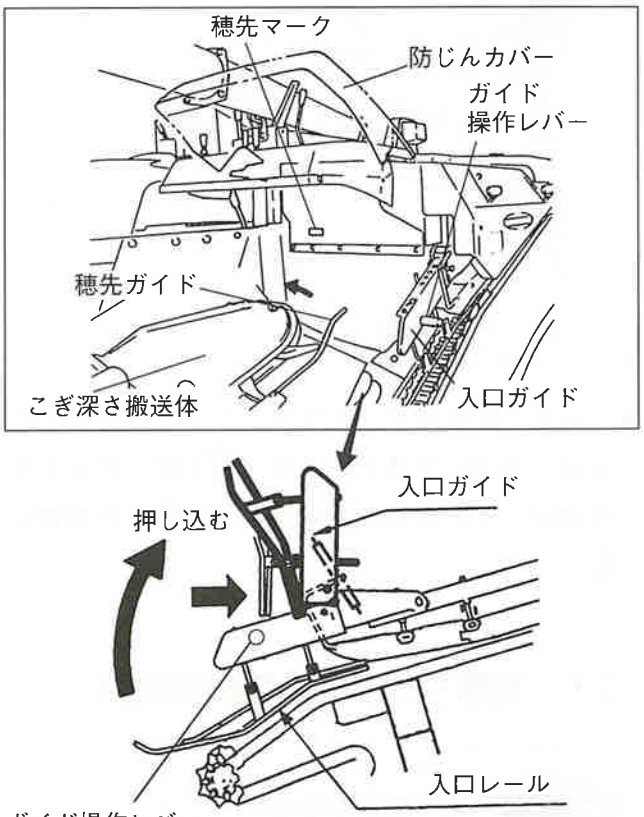
❸ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》にします。

❹ 刈取部をいっぱいに「下げ」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「深こぎ」側に下げます。

❺ 防じんカバーを上方に開きます。

❻ 穂先搬送の穂先ガイドを矢印方向に寄せます。

❼ ガイド操作レバーを握り入口ガイドを持ち上げ，入口レールの下側を押し込みます。



❽ 作業機クラッチレバーを《入》れ，エンジン回転を「色別表示の上限」にセットします。

❾ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

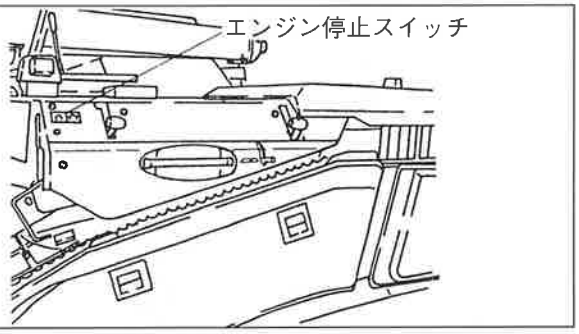
❿ 手こぎ作業が終わったら，作業機クラッチレバーを《切》にして入口ガイド，穂先ガイド，防じんカバーを元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
- 防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると防じんカバーが破損する恐れがありますので，元の位置に戻してください。

10. エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中等に万一トラブルが発生したときはこのエンジン停止スイッチを押してエンジンを停止します。



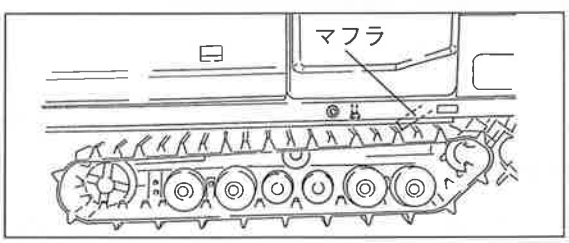
取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**

11. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

- **◆機械をワラクズのたまった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。**
- **◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。**
- **◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。**



❶ 平坦な場所で主変速（無段変速）レバーを《N》（中立）の位置にします。

❷ 刈取クラッチレバーおよび作業機クラッチレバーを《切》の位置にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジンコントロールレバーを《 》（低速）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《 倒伏 》に入れて停止します。

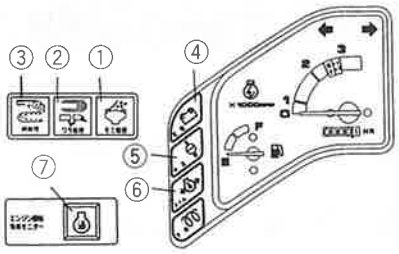
❺ **作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

- **作業機クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。**
- **水洗いするときは，エンジンまわり，電気配線部，運転席前側のマイコンユニット装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。**

12. 警報装置について



つぎの個所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。

No.	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			インジケータランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ処理	満杯	点灯	断続	−	警報切入ボタン「押す」または作業機クラッチレバー《切》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	11
		モミオーバーフロー		断続	停止			
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	作業機クラッチレバー《切》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	11
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		カッタ下部カバー内の詰まり	点滅		−		カッタ下部カバー内に切ワラが詰まっていますので取除きます。	
		ノッタひも切れ					ひもが切れているか，ひもがなくなっていますので点検します。	
③	前処理	こぎ深さ搬送詰まり	点灯	連続	停止	作業機クラッチレバー《切》	こぎ深さ搬送部にワラが詰まっていますので取除きます。	10
④	充電	充電不足	点灯	−	−	スタータスイッチ《STOP 切》	・スタータスイッチ《ON 入》で点灯し，エンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルト等を点検します。	9 119
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続	−	スタータスイッチ《STOP 切》	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・エンジンを停止し，防じんフィルタ，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	9 86 119
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	−	−	スタータスイッチ《STOP 切》	・スタータスイッチ《ON 入》で点灯し，エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	9 76
⑦	エンジン回転負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	−	走行速度を下げる	・走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	13

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラ等の巻付きが発生し，または異物が混入した時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンして，ワラ等を取除いてください。

◆巻付き等を取除くときは，カマ等を使用し，手ではカッタ刃にふれないでください。

取扱いのポイント

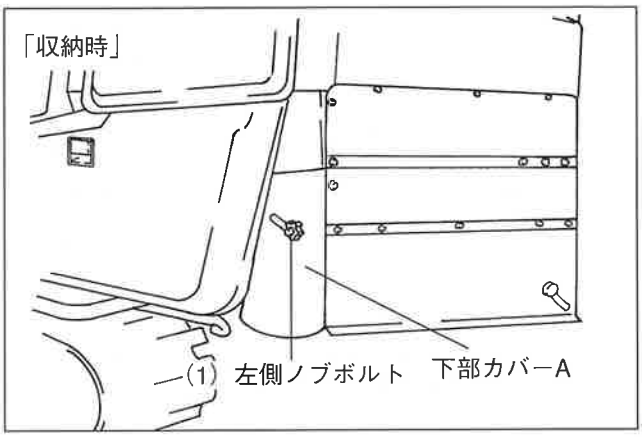
- カッタ排ワラ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。
- こぎ胴部を開いた状態でカッタ排ワラ切替レバーの切替えは行わないでください。

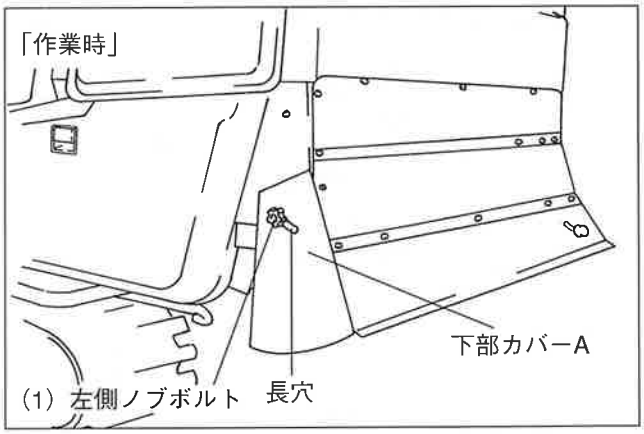
1．カッタ作業

・工場出荷時は下部カバーが収納状態にセットしてあります。

❶ 下部カバーA，B，Cを作業状態にします。

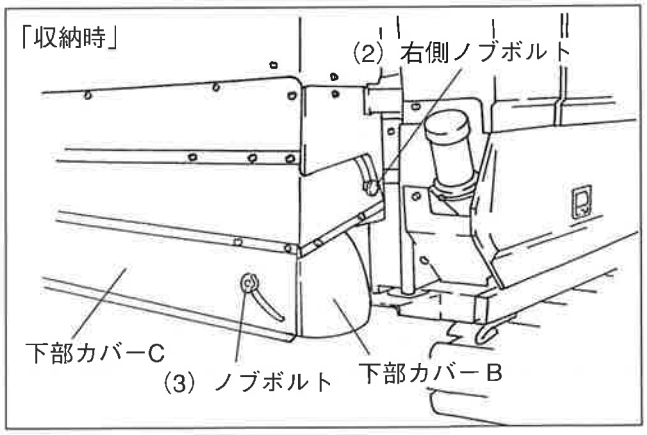
(1) 左側のノブボルトを緩め下部カバーAを長穴一杯後方に開きノブボルトを締付けます。

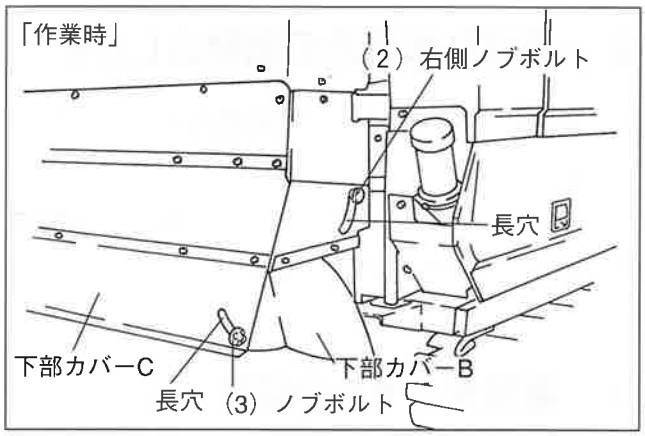




(2) 右側のノブボルトを緩め下部カバーCを長穴一杯後方に開きノブボルトを締付けます。

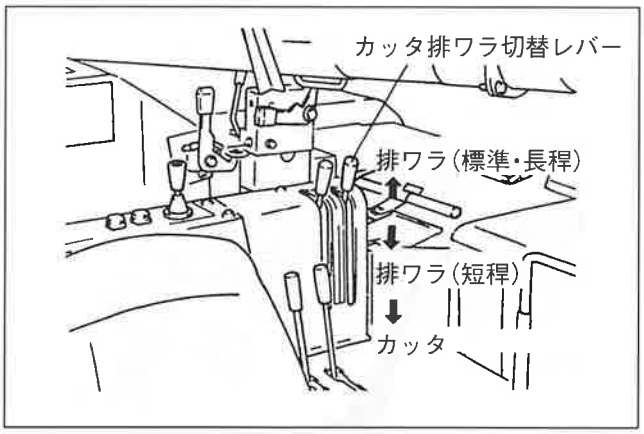
(3) 下部カバーBのノブボルトを緩め，下部カバーBを長穴一杯右側に開きノブボルトを締付けます。





(4) 収納は，逆の手順で下部カバーを閉じます。

❷ カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にします。



❸カッタの切ワラ切断長をセットします。

・出荷時は切ワラ切断長のセット位置は《**短切り**》位置にしてあります。

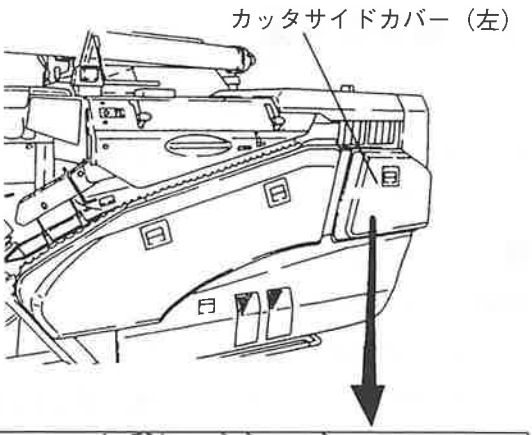
・《**長切り**》に切替える場合はカッタサイドカバー（左）を外し，切ワラ切断長切替レバーを《**長切り**》にセットします。

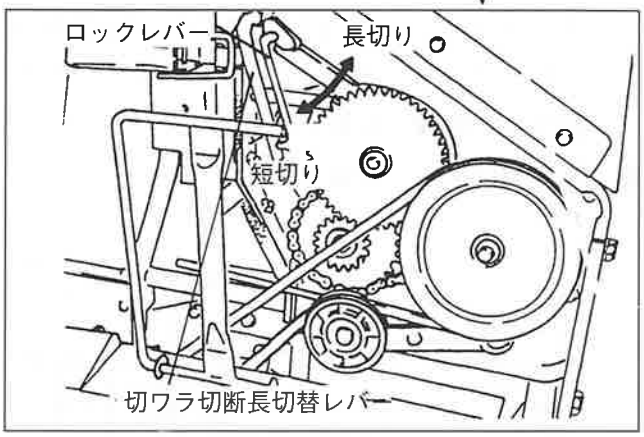
・切断長切替レバーはロックレバーを手前に引いた後，回動します。

《**短切り**》……切断長約60（40）㎜

《**長切り**》……切断長約180（160）㎜

（（ ）寸法は［**スーパーマルチカッタ仕様**］の切断長を示します）





取扱いのポイント

- **下部カバーを収納状態ではカッタ作業をしないでください。切ワラが下部カバー部で詰まります。**
- **刃の切れ味が低下すると巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行なってください。**
- **倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50 a（アール）作業ごとにカッタ内を点検し，巻付いている場合はエンジンを停止してからカッタ内を掃除してください。**
- **カッタの点検，掃除はカッタをオープンして行います。（オープンのしかたは101ページ参照）**

2．排ワラ作業

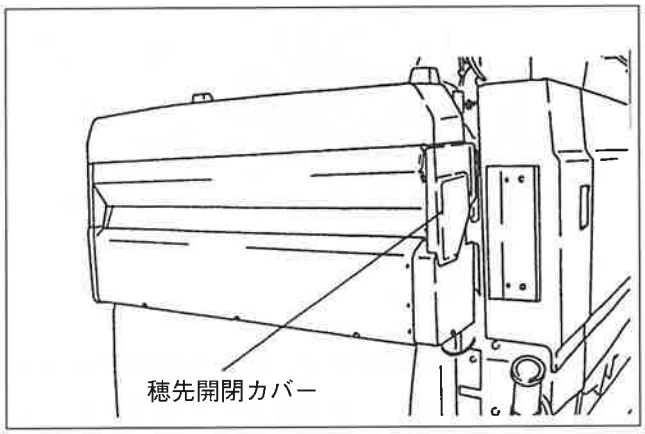
排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶ カッタ・排ワラ切替レバーを《**排ワラ・標準長稈**》位置で使用します。

・通常はこの位置で使用します。

・ワラが短いとき，ノッタで穂先側を結束したいとき，ドロッパ作業で排ワラがドロッパ装置の穂先側に片よりバランスがとれないときには，《**排ワラ・短稈**》位置で使用します。

❷ 穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

- **ノッタおよびドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。**

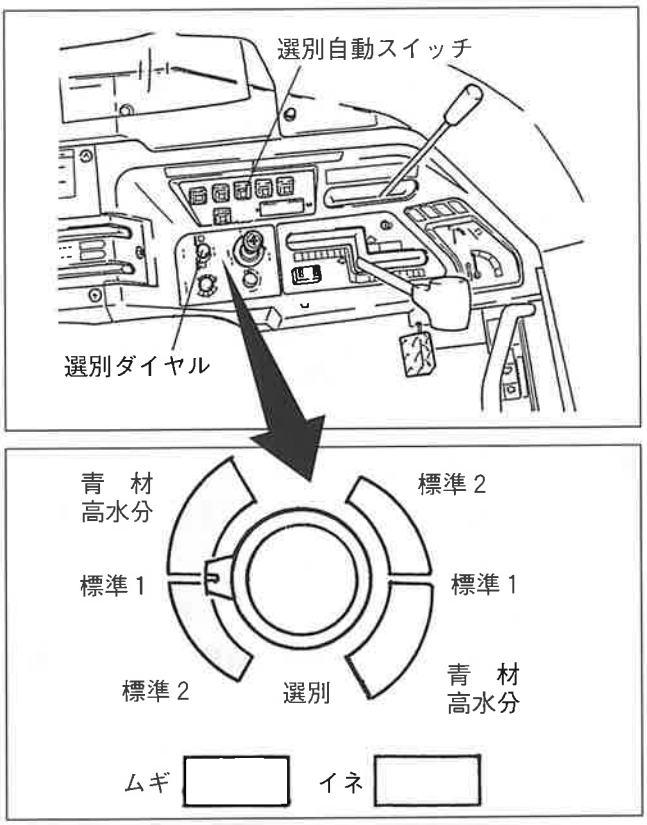
4．麦刈り作業時の調整のしかた

工場から出荷のときは，「**稲作業セット**」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，つぎの個所を「**麦作業セット**」に切替え調整します。

1．選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは，ダイヤルを麦の《**標準1**》位置にセットします。なお作業条件により，つぎのように使いわけてください。



- 《標準 1》…通常の麦刈り作業
- 《標準 2》…標準 1 で選別が悪いとき
- 《青　材 / 高水分》…青い材料又は高水分の材料を刈取る場合

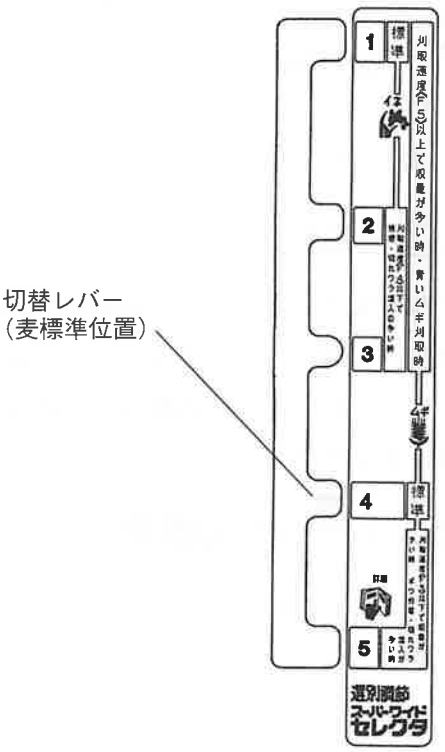
取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，ワラクズ等が排出された後に行なってください。**

- 脱こく内部にワラクズ等がたまっていると，選別自動が作動しない場合があります。
- 選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯) 状態で作業すると刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯) 状態でも作業に支障はありませんが良好な選別状態を得られない場合があります。

2. スーパーワイドセレクタの調節

切替レバーを《ムギ・標準》にします。作物条件と刈取り速度によりつぎのように使いわけて使用します。



4位置……麦刈り作業の標準位置。

5位置……刈取り速度F5以下で収量が少ない材料，または芒(ぼう)付着・切ワラ混入が多いとき。

3位置……刈取り速度F5以上で収量が多い材料か，青いムギの刈取り時。

2 1位置…収量が多く選別が良い材料。2～1へと位置を変えます。

取扱いのポイント

- スーパーワイドセレクタ切替レバーの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，揺動流板上のワラクズなどが排出された後に行なってください。
- シーズン途中や格納前に切替レバーがスムーズに動くように時々レバーを操作してください。

3. こぎ胴回転数のセット

こぎ胴回転数のセットは10～11，38ページを参照します。

5. 刈刃の高さ調節のしかた

・出荷のときは「下セット」になっています。

うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，刈刃のカラーを入れ替えて「上セット」にします。

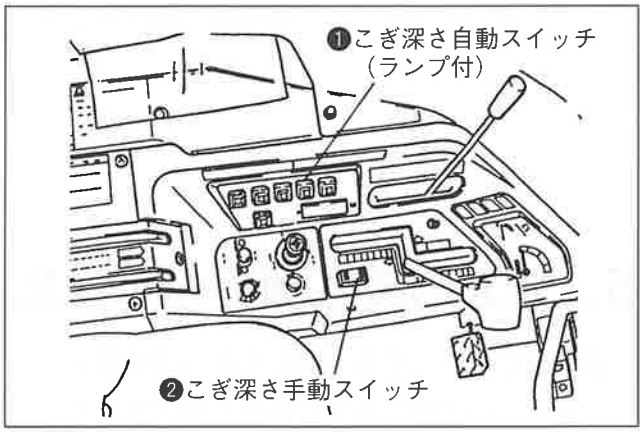
・セット方法は131～132ページを参照します。

自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に手動スイッチで手動操作すると手動が優先となります。

1．運転装置



こぎ深さ調整は，「**自動制御**」と「**手動**」の二通りの操作が可能です。

・**自動制御中は手動スイッチによる調整の必要はありません。**

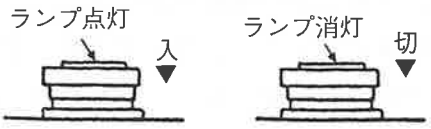
ただし，倒伏角45°以上の倒伏材および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶ **こぎ深さ自動スイッチ**

スタータスイッチを《 入》位置にするとこぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・こぎ深さ自動スイッチ内ランプ点灯時にこぎ深さ自動スイッチを押すとランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。

・再度，こぎ深さ自動スイッチを押すとスイッチ内のランプが点灯しこぎ深さ自動が作動状態となります。



❷ **こぎ深さ手動スイッチ**

脱こく供給口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。

《深こぎ》……《深こぎ》側を押すと作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》……《浅こぎ》側を押すと作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

- **自動制御が故障のときはこぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。**

❸ **ヒューズ**

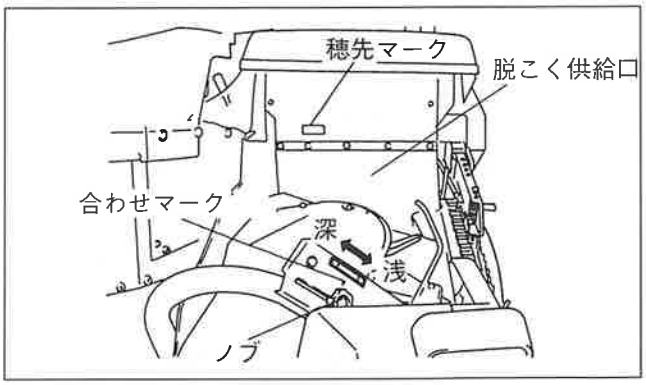
取扱い方は22～24ページを参照します。

取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**

2．こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは工場からの出荷のときは「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



・つぎのようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを矢印の《**深**》方向へ移動します。こぎ深さを「**浅く**」したいときは《**浅**》方向へ移動します。

・調整後はノブを確実に締めます。

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・つぎの状態ではこぎ深さ自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

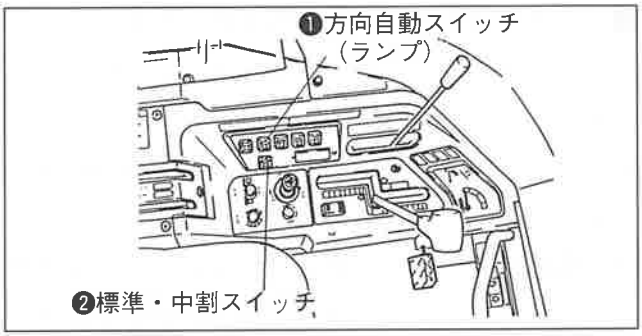
○倒伏角45°以上の倒伏作物
○くされ状態の作物
○雑草が多いとき
○作物の長さが極端に変動するとき

2．方向自動制御［A，D仕様］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行します。またマルチステアリングレバーを操作すると自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

⚠注意 **◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。**

1．運転装置

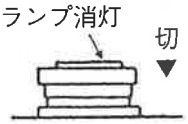


❶ 方向自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。

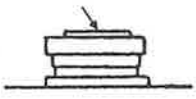


❷ 標準・中割スイッチ

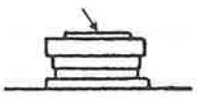
条刈り作業（横刈り含む）と中割作業を切替えるスイッチです。

・切替えは，方向自動スイッチが「**入**」の状態で行います。

「**標準**」……条刈り，横刈り作業のときはランプ灯で使用します。



「中割」……ランプ「点灯」の状態から再び押すとランプが「点滅」します。中割り作業に使用します。



取扱いのポイント

- **方向自動スイッチ内ランプが点灯しても方向自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

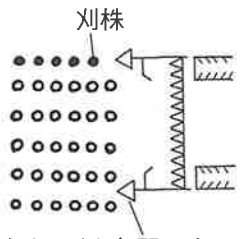
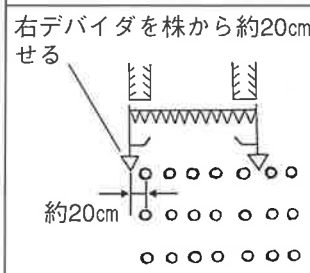
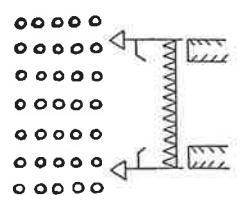
2．作業のしかた

❶ スイッチの操作・条合わせのしかた

(1) 方向自動スイッチを「入」(ランプ点灯) にします。

(2) 標準・中割スイッチを作業状態に合わせます。

(3) 機械が条列に真っ直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	標準・中割スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「点灯」にする	
横刈り		
中割り	スイッチのランプを「点滅」にする	

❷ 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタ（オプション）を手動操作すると，「手動優先」で進路をかえることができます。

❸ 旋回時の操作

旋回する時は，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に方向自動スイッチを「切」にする必要はありません。

取扱いのポイント

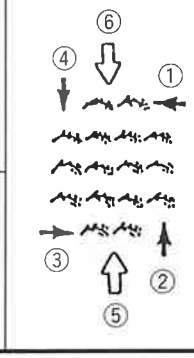
- **条合わせは機械が条列に真っ直ぐになるようにしてください。斜めになった時は条外れすることがあります。**
- **横刈りは，2～3行程繰返すと，右デバイダが未刈株に接近しすぎたり，離れすぎたり，機械が大きく蛇行することがあります。この時はマルチステアリングレバーで修正してください。**
- **中割り作業時左1条目の刈跡が大きく乱れるような時は，方向自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にし，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**

3．方向自動制御の使えない条件

つぎの条件では方向自動スイッチを「切」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

- 斜め刈り
- あぜぎわ刈り
- 雑草が多いとき
- バラまきほ場
- 湿田
- 条間および株間が極度に乱れているとき
- 稈量が少ないとき
- 欠株が多いとき
- 植付条間が28cm未満の場合
- 植付条間が33cmを超える場合

・つぎのような倒伏材

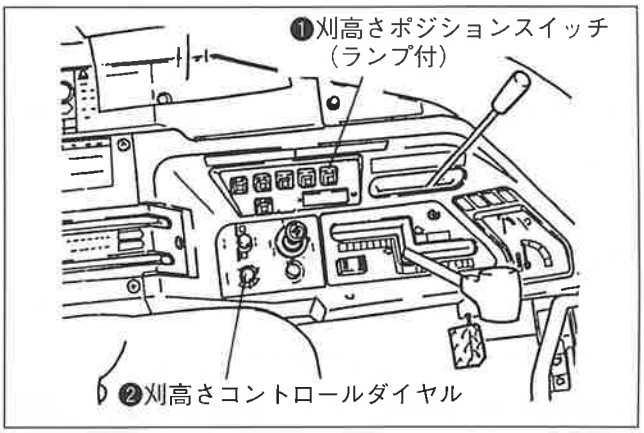
倒伏程度 ＼ 刈取り方向			倒伏程度 倒伏	中倒伏	立毛状態
標準刈取り		①向い刈り	×	×	○
		②右倒伏刈り	×	○	○
		③追い刈り	×	○	○
		④左倒伏刈り	×	○	○
中割刈取り		⑤右倒伏刈り	×	×	○
		⑥左倒伏刈り	×	×	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取できません。）

3. 刈高さポジションコントロール

刈高さコントロールダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で刈取部の高さを調節することができます。

1. 運転装置



❶ 刈高さポジションスイッチ

スタータスイッチを《 ON 入》位置にすると刈高さポジションスイッチ内ランプが点灯し，刈高さポジションコントロールが作動状態になります。

・刈高さポジションスイッチ内ランプ点灯時に，刈高さポジションスイッチを押すと，ランプが消灯し，刈高さポジションコントロールは作動しません。

・再度，刈高さポジションスイッチを押すと，ランプが点灯し，刈高さポジションコントロールが作動状態となります。



❷ 刈高さコントロールダイヤル

・刈高さの調節は刈高さコントロールダイヤルの操作によって，希望する「刈高さポジション」を設定することができます。



・刈高さコントロールダイヤルは《標準》位置が適正な刈高さの使用位置です。
・「乾田」……《標準》の位置
・「湿田」……《標準》と《高》の間の位置

❸ ヒューズ

取扱いは22～24ページを参照します。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは刈高さポジションスイッチを押してランプを消灯してください。
- ほ場の軟弱さによって刈高さ位置が変化します。デバイダが土中に突っ込まないように刈高さコントロールダイヤルで合わせてください。
- ほ場の凹凸が極端に多く，刈高さを頻繁に調節する必要があるときは，マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さコントロールダイヤルをどの位置にセットしても刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

2. 自動での作業のしかた

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件にあわせて，低く刈取るときは《低》の方向に，高く刈取るときは《高》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さポジションスイッチ「入」（ランプ点灯）を確認します。
(2) 刈高さコントロールダイヤルを《標準》位置にセットします。
(3) マルチステアリングレバーを《下げ》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さコントロールダイヤルを少し《低》側へ回します。
(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

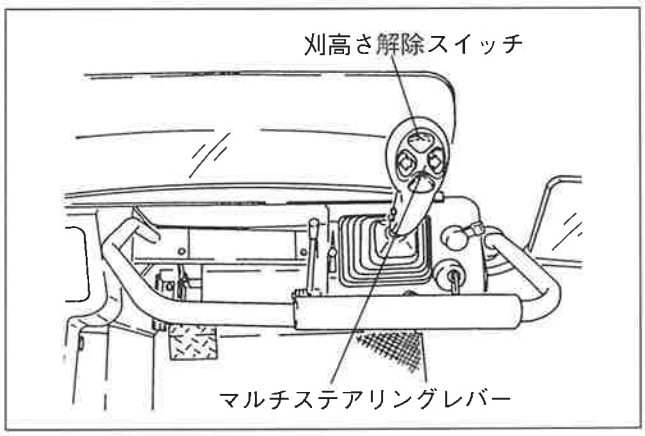
❸ 刈高さが低すぎる場合

(1) 刈高さコントロールダイヤルを少し《高》側へ回します。
(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションスイッチ内ランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても刈高さセット位置以下には下がりません。
- 刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。
- 再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

❹ 刈高さ解除スイッチの使用



(1) 刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときは，刈高さ解除スイッチを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。但し刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

(2) 刈高さ解除スイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションスイッチのランプが消灯している時は，上記(1)〜(2)の機能は働きません。**

3．手動での作業のしかた

刈高さポジションスイッチを押してランプを「消灯」状態にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

4．水平自動制御［L仕様］
（ジャストマチック）

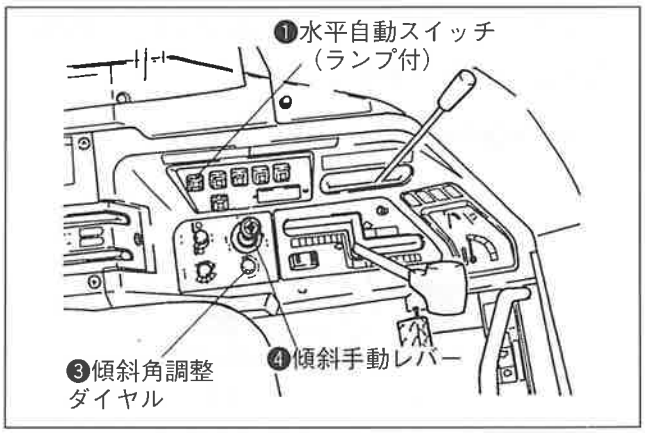
・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**傾斜手動レバー**」で機体全体を持上げることもできます。

・あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ傾斜角調整ダイヤルで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。

1．運転装置

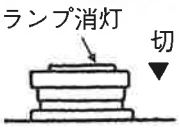


❶ 水平自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「切」……「入」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

- **水平自動スイッチ内ランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

❷ ヒューズ

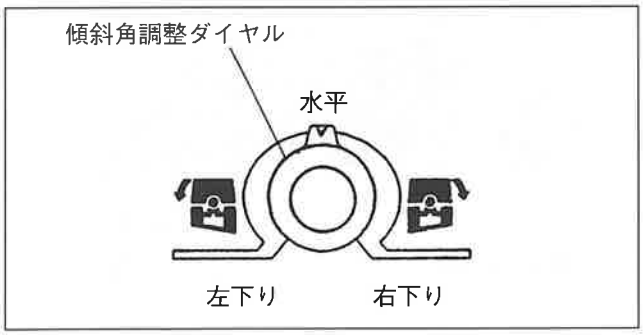
取扱い方は22～24ページを参照します。

❸ 傾斜角調整ダイヤル

傾斜角調整ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右下り**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《**左下り**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。



❹ 傾斜手動レバー

取扱い方は21ページを参照します。

2. 作業のしかた

❶ 作業前

傾斜角調整ダイヤルで，機体を希望の角度に調整します。

❷ 刈取り作業

作業機クラッチレバー《**入**》で水平自動制御が作動します。

作業機クラッチレバー《**切**》のときには水平自動制御は作動しません。

❸ 作業終了時

作業が終了したら，水平自動スイッチを「**切**」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

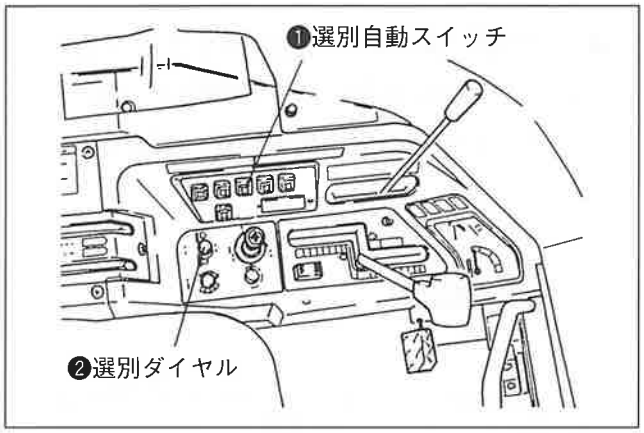
取扱いのポイント

- **水平自動スイッチが「入」でも傾斜手動レバーを操作すると「手動優先」で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。**
  但し，傾斜手動レバーをはなすと傾斜角は傾斜角調整ダイヤル設定位置に戻ります。
- **自動制御中，機体の高さを変えたいときは傾斜手動レバーを操作してください。**

5．選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板のスイングシーブの角度を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

1．運転装置

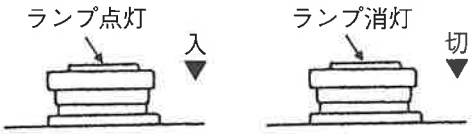


❶ 選別自動スイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

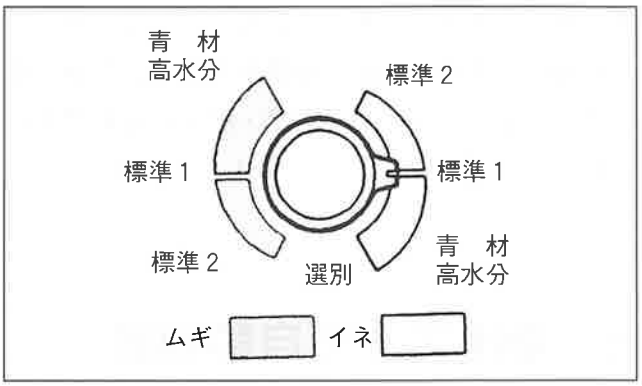
・選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すとランプが消灯し選別自動は作動しません。

・再度，選別自動スイッチを押すとスイッチ内ランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



❷ 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



《イネ》

- 《標準 1 》…通常の稲刈り作業
- 《標準 2 》…標準 1 で選別が悪いとき
- 《青　材 / 高水分》…青い材料又は高水分の材料を刈取る場合

《ムギ》

- 《標準 1 》…通常の麦刈り作業
- 《標準 2 》…標準 1 で選別が悪いとき
- 《青　材 / 高水分》…青い材料又は高水分の材料を刈取る場合

❸ ヒューズ

取扱い方は22～24ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，ワラクズ等が排出された後に行なってください。**
- **脱こく内部にワラクズ等がたまっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**

- 選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《 入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

6．排出オーガ自動制御

・排出オーガ自動は，自動収納スイッチの操作により，排出オーガが自動的に排出位置から格納位置まで動きます。

・［A，D仕様］は自動旋回スイッチの操作により，排出オーガが自動的に格納位置から排出位置まで動きます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの運転操作は運転席から，後方を向いて周囲を確認して行なってください。

◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，をする時はグレンタンク内のこく粒を排出してください。

◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。

◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。

◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》にしエンジンを停止してください。

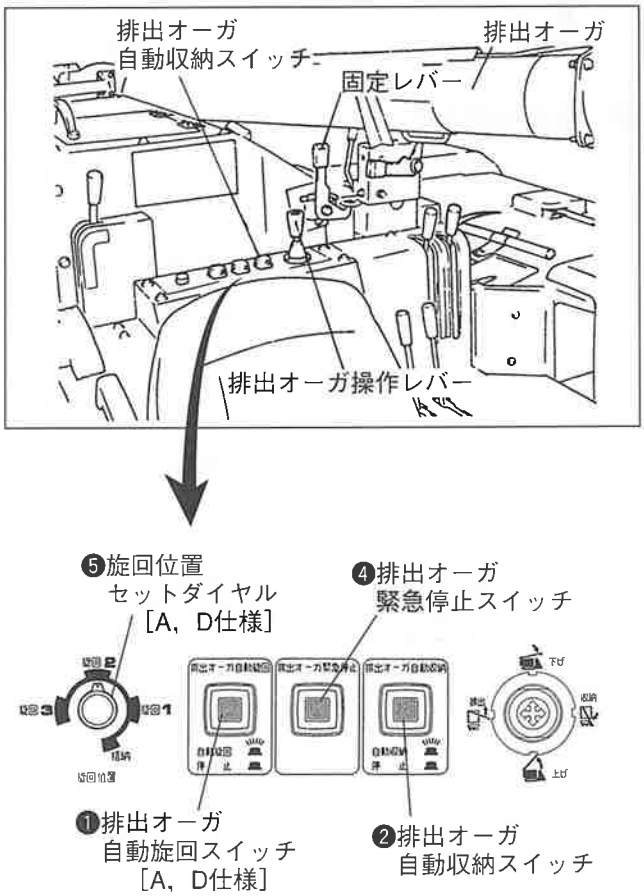
◆排出オーガ自動収納（又は自動旋回）中に緊急停止する場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は自動収納（又は自動旋回）を使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。

◆［キャビン仕様］は，キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。

◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定レバーで固定してから行なってください。

◆［L仕様］は，水平自動スイッチを「切」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてから排出作業をしてください。

1．運転装置



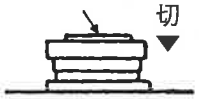
❶ **排出オーガ自動旋回スイッチ**

［A，D仕様］

・「入」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に上昇後旋回位置セットダイヤルのセット位置まで旋回します。

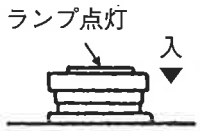


・「切」……「入」の状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。

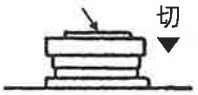


❷ **排出オーガ自動収納スイッチ**

・「入」……押すとランプが点灯し，排出オーガは排出位置から自動的に旋回収納します。



・「切」…「入」の状態から再び押すとランプが消え，排出オーガは停止します。



取扱いのポイント

- **自動旋回は排出オーガが格納位置にあるときにだけ作動します。自動旋回スイッチの操作は排出オーガの固定レバーを解除してから行なってください。**
- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動旋回及び収納が故障のときは排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

❸ **ヒューズ**

取扱い方は22～24ページを参照します。

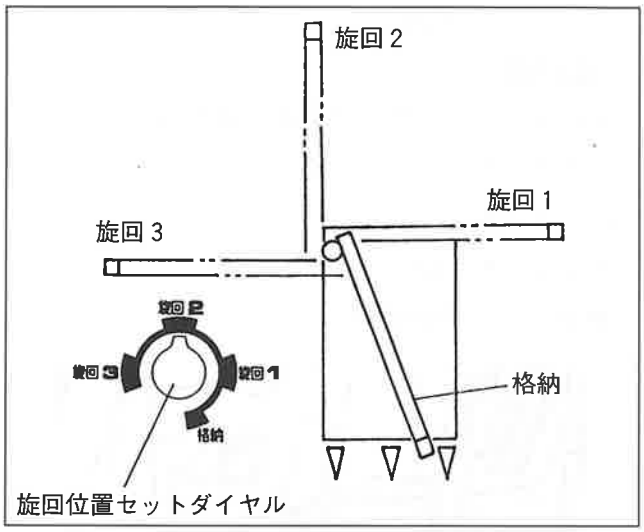
❹ **排出オーガ緊急停止スイッチ**

・排出オーガが自動旋回及び自動収納途中での排出オーガ停止に使用します。

❺ **旋回位置セットダイヤル**

［A，D仕様］

旋回位置セットダイヤルの操作によって，3個所の《**排出位置**》を設定することができます。



・ダイヤルを《**旋回 1**》の位置に合わすと，排出オーガは機械に対して左横まで旋回します。

・ダイヤルを《**旋回 2**》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して後方まで旋回します。

・ダイヤルを《**旋回 3**》の位置に合わすと，排出オーガは，機械に対して右横まで旋回します。

取扱いのポイント

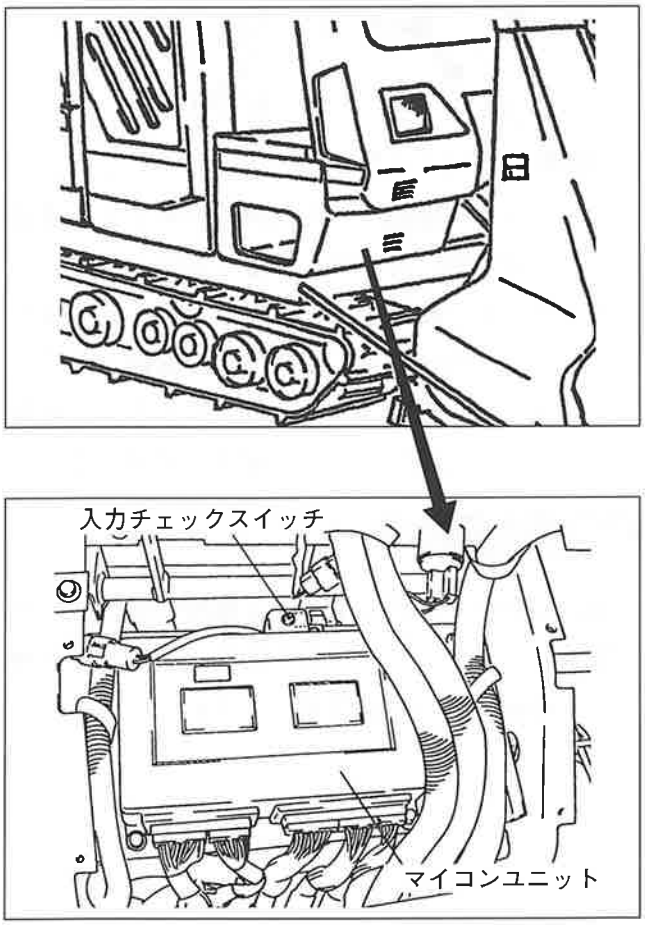
- **旋回位置セットダイヤルを 3 個所の表示セット位置以外にセットすると自動旋回スイッチを押しても排出オーガは作動しません。**

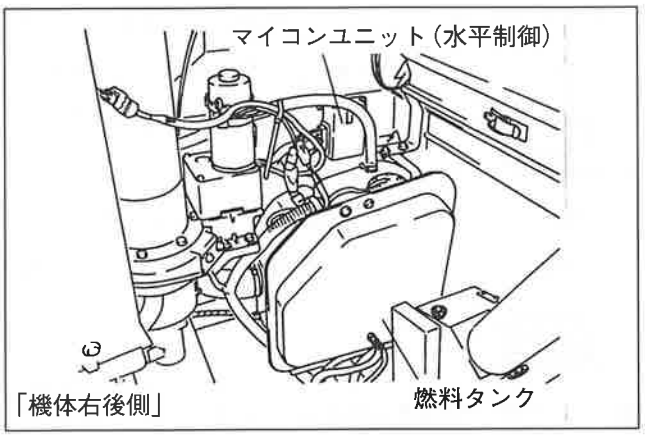
7．マイコン（マイクロコンピュータ）

高性能マイクロコンピュータが搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶ マイコンによる制御機能

・こぎ深さ自動
・方向自動［A，D仕様］
・刈高さポジションコントロール
・水平自動［L仕様］
・選別自動
・ホーン・モミ警報・その他各種警報
・マルチステアリングレバー
・排出オーガ
・エンジン停止制御
・減速ターン［D仕様］



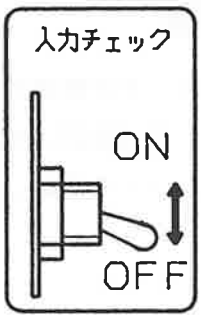


❷ ヒューズ

「**マイコン**」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。（22～24ページ参照）

❸ 入力チェックスイッチ

入力チェックスイッチは，「**お買いあげ先**」にてスイッチ，センサの故障診断をするためのスイッチです。



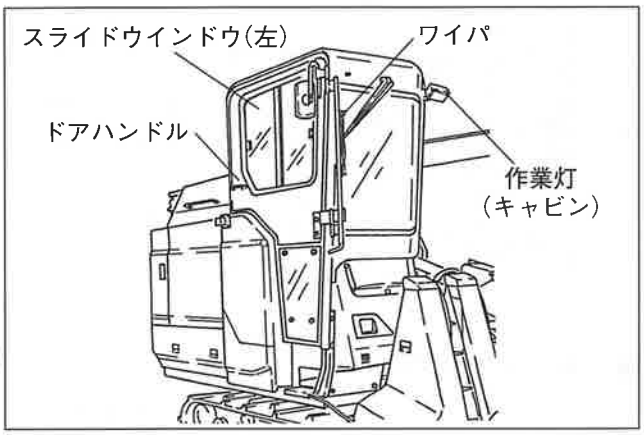
取扱いのポイント

- **入力チェックスイッチは《ＯＦＦ》位置で使用します。**
- **マイコンユニットは，洗車時，水やスチームがかからないようにしてください。**
- **ヒューズを交換しても再発するときや制御不能のときは，お買いあげ先に相談してください。**

キャビンについて［キャビン仕様］

1．各部の取扱い

1．ドア・ウインドウの開閉のしかた



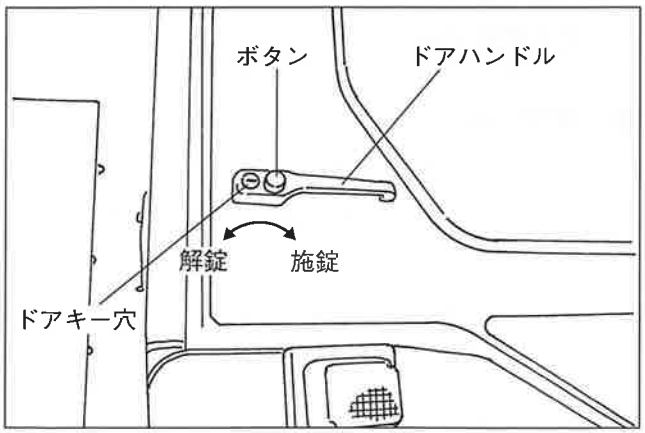
❶ ドア

⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

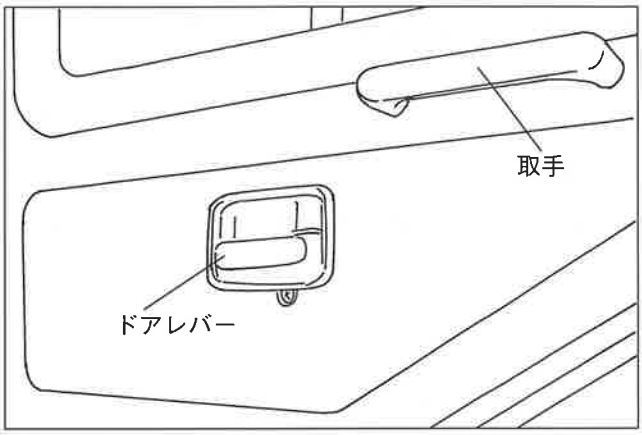
・車外からの開けかた

ドアハンドルのボタンを押すと，ドアが開きます。



・車内からの開けかた

ドアレバーを引くと，ドアが開きます。
閉じるときは取手を持ってドアを閉じます。



・ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み，右方向に回すと施錠・左方向に回すと解錠になります。

❷ スライドウインドウ（右）・（左）

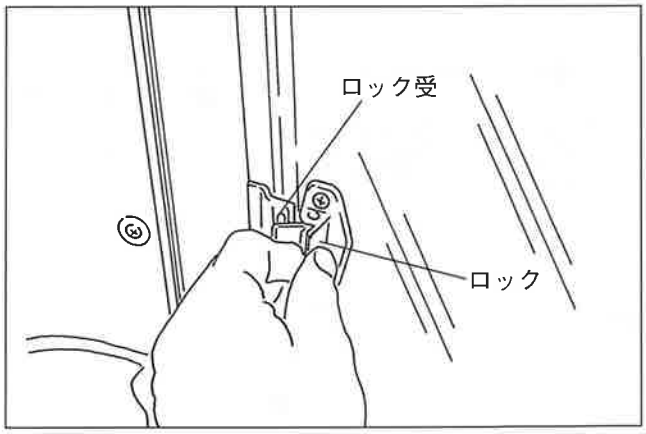
スライドウインドウ（右）・（左）はキャビンの中側から開閉ができます。

・開けかた

ロックをつまんでウインドウを開けます。

・閉じかた

ロックを押してウインドウをスライドさせ，ロックがロック受に入るまでスライドさせてウインドウを閉じます。



❸ リヤウインドウ

リヤウインドウは，跳ね上げ式です。

・開けかた

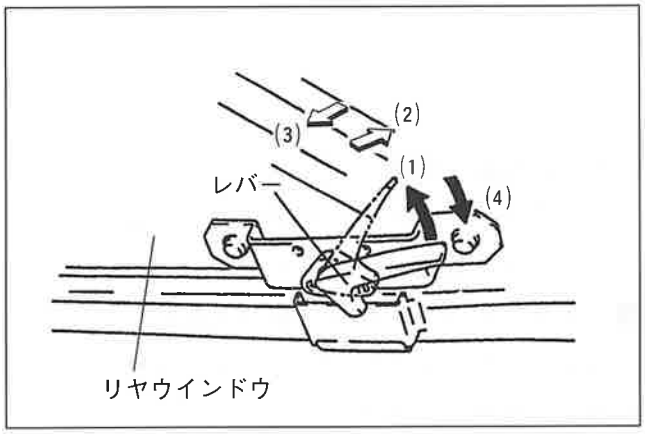
(1) レバーを左に回します。

(2) レバーを外側に押出して開けます。

・閉じかた

(3) レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。

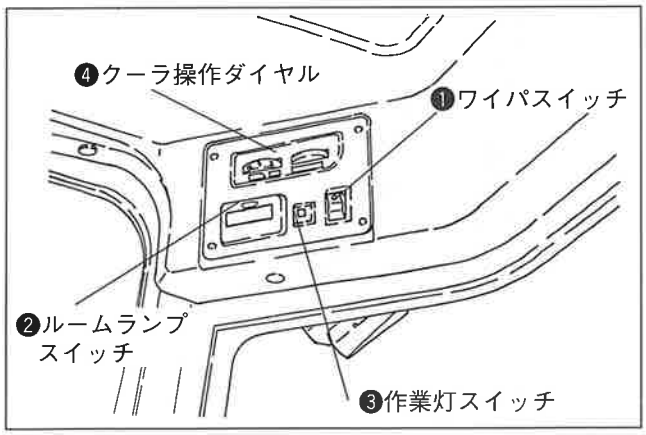
(4) レバーを手前に引きながら右に回し，確実に固定します。



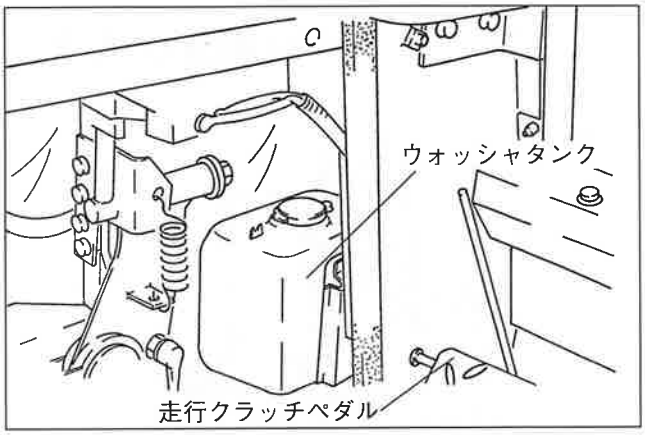
2．スイッチ類の取扱い

❶ ワイパスイッチ

スタータスイッチを《 ⟳ 入》にして，ワイパスイッチを「入」にするとワイパが作動し，「入」側を押すとウォッシャ液が噴出します。



ウォッシャタンクはキャビンの左下側の樹脂カバー内にあります。ウォッシャ液がなくなったら市販のウォッシャ液を補充してください。



❷ ルームランプスイッチ

ルームランプスイッチを《ON》にするとルームランプが点灯します。

❸ 作業灯スイッチ

作業灯スイッチを《ON》(押) にすると，キャビン上部の作業灯が点灯し，排出オーガ先端及び，刈取部上部の作業灯が点灯可能となりますので，各々のスイッチを《ON》(入) にして点灯します。

3．クーラの取扱い

⚠注意

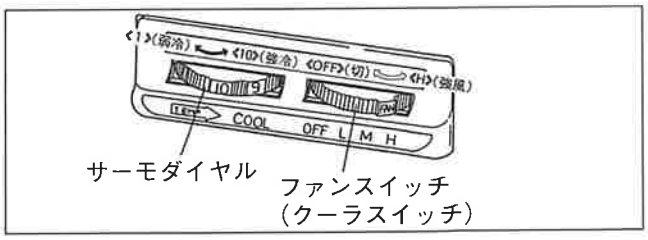
◆冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。

❶ 操作方法

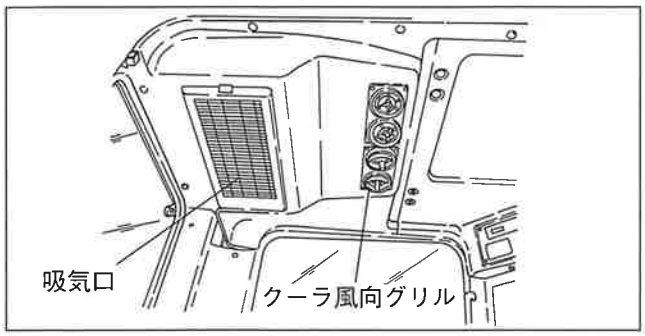
(1) エンジンを始動します。

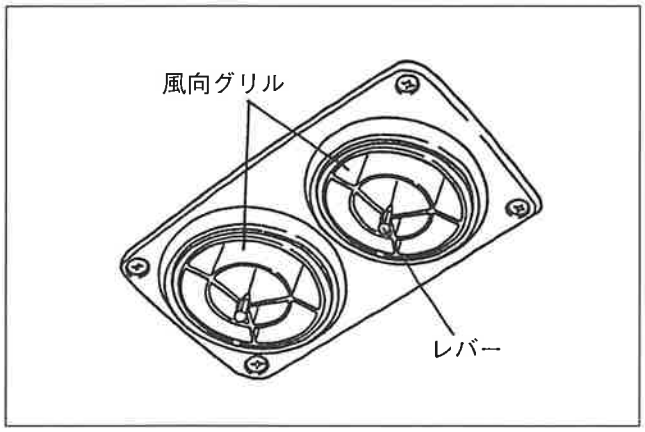
(2) ファンスイッチを右へ回し，クーラのスイッチを入れます。

(3) ファンスイッチを右へいっぱいまで回し，《H》にセットします。



(4) サーモダイヤルを右へいっぱいまで回し《10》（強冷）にセットします。
(5) 涼しくなってきたら，ファンスイッチとサーモダイヤルで快適な温度に調節します。
(6) 風向グリルで風向きを調整します。





取扱いのポイント

- 炎天下で駐車中の室内は，60℃～70℃にも達しますので，クーラを作動する前には左右の窓ガラスを開けて外気並に冷やしてから使用してください。
- 直ちに走行する場合は，左右の窓ガラスを開けたまま走り始め，室内の暑い空気と外気を入換えてから，窓を閉めて使用してください。
- 暑いときや乗車してすぐに涼しくなりたいときは，風向グリルで直接身体に当たるようにし，涼しくなったら身体に当てず室内に冷風が循環するように方向を変えてください。
- サーモダイヤルを《10》（強冷）で長く使用すると，風向グリルに水滴が発生しますので，サーモダイヤル《10》（強冷）で長時間使用しないでください。

❷ 吸気口の掃除

キャビン内部のクーラ吸気口にはほこりやごみがたまりますので定期的に掃除します。

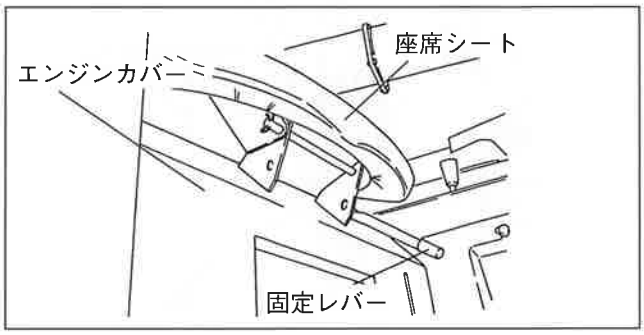
中のフィルタを引出し掃除機でほこりやごみを取除きます。

❸ コンデンサフィンの掃除

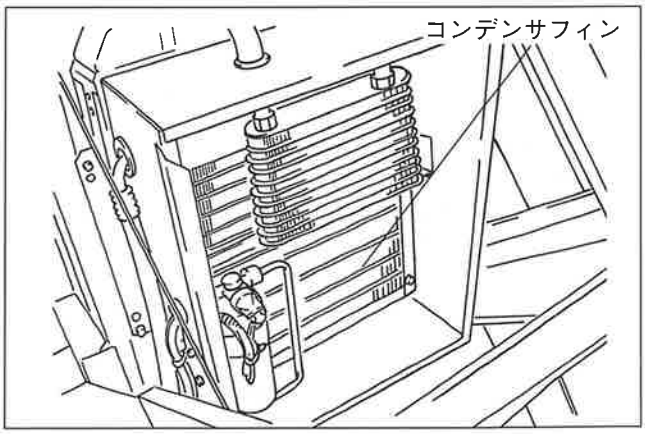
⚠警告 傷害事故防止のために

◆スチーム洗浄は，冷媒の圧力が上昇して破裂の恐れがありますのでしないでください。

(1) エンジンカバーを開きます。（座席シートの左前に固定レバーがあります。）

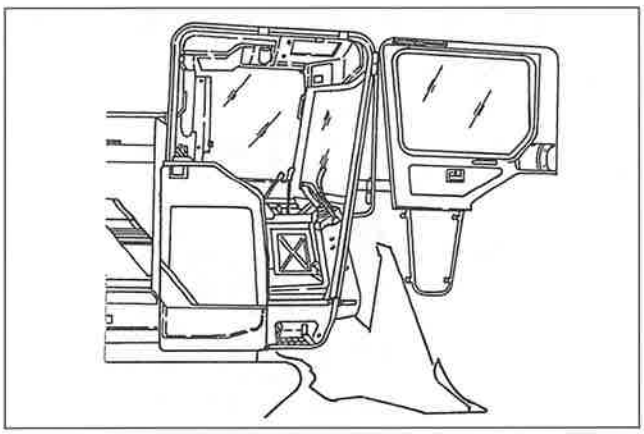


(2) コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。定期的に軟らかい毛のブラシ等で水洗い掃除します。



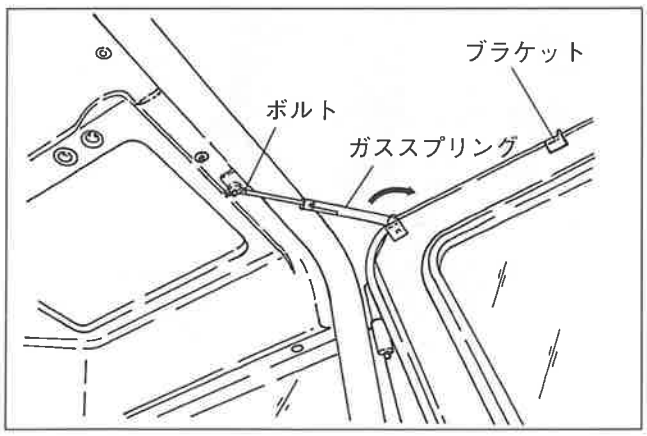
4．格納のしかた

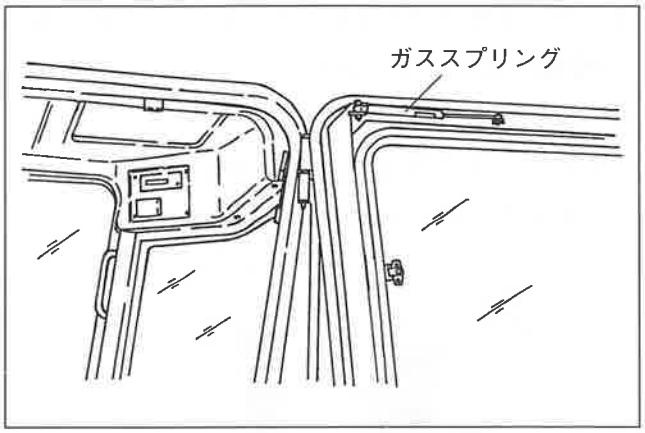
・クーラ・ワイパ・室内灯・作業灯などの電装品のスイッチは，「ＯＦＦ」または「切」位置にしてから格納します。
・コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，１カ月に１度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。ファンスイッチ（クーラスイッチ）を《L》にし，サーモダイヤルを《1～3》程度にして，コンプレッサを運転します。
・コンバインの格納庫が狭く，ドアの開閉が困難な場合には，ドアをフルオープン状態にして格納することができます。



「ドアフルオープンのしかた」

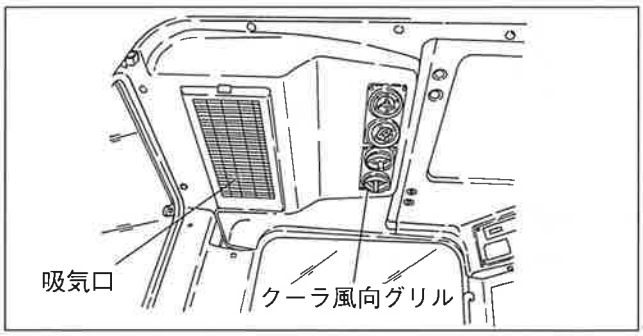
・ドアのガススプリングを取付けているルーム側のボルトを外し，ドア側のブラケットへガススプリングを差替え，ドアをフルオープンにします。

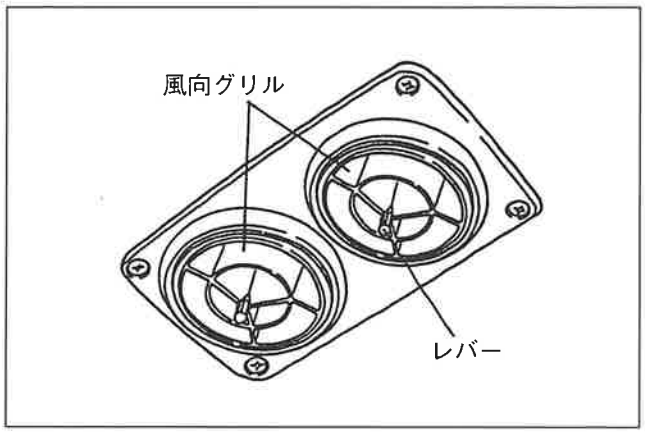




(4) 移動中及び作業中にはドアフルオープン状態で使用しないでください。

(4) サーモダイヤルを右へいっぱいまで回し《10》（強冷）にセットします。
(5) 涼しくなってきたら，ファンスイッチとサーモダイヤルで快適な温度に調節します。
(6) 風向グリルで風向きを調整します。





取扱いのポイント

- 炎天下で駐車中の室内は，60℃～70℃にも達しますので，クーラを作動する前には左右の窓ガラスを開けて外気並に冷やしてから使用してください。
- 直ちに走行する場合は，左右の窓ガラスを開けたまま走り始め，室内の暑い空気と外気を入換えてから，窓を閉めて使用してください。
- 暑いときや乗車してすぐに涼しくなりたいときは，風向グリルで直接身体に当たるようにし，涼しくなったら身体に当てず室内に冷風が循環するように方向を変えてください。
- サーモダイヤルを《10》（強冷）で長く使用すると，風向グリルに水滴が発生しますので，サーモダイヤル《10》（強冷）で長時間使用しないでください。

❷ 吸気口の掃除

キャビン内部のクーラ吸気口にはほこりやごみがたまりますので定期的に掃除します。

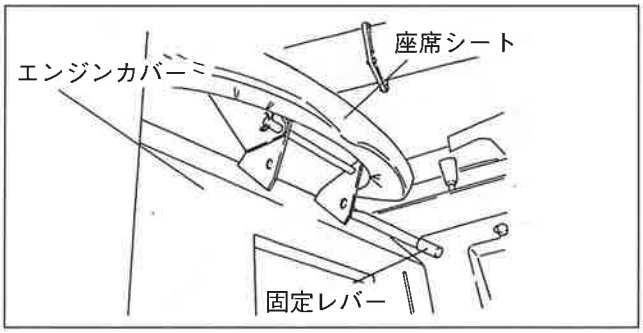
中のフィルタを引出し掃除機でほこりやごみを取除きます。

❸ コンデンサフィンの掃除

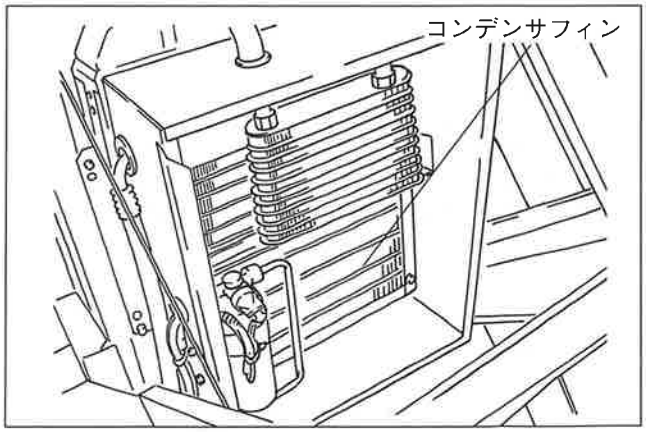
⚠警告 傷害事故防止のために

◆スチーム洗浄は，冷媒の圧力が上昇して破裂の恐れがありますのでしないでください。

(1) エンジンカバーを開きます。（座席シートの左前に固定レバーがあります。）

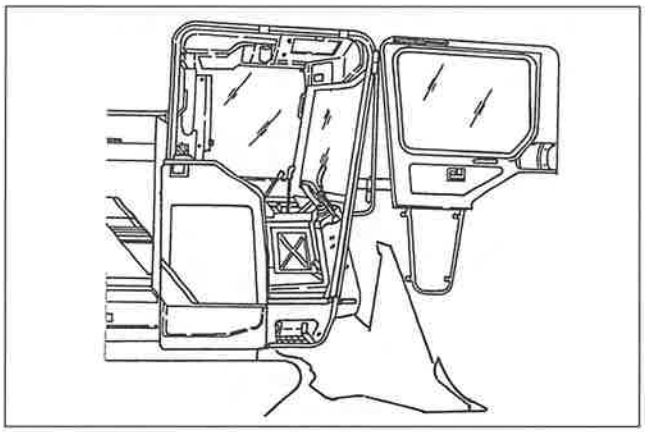


(2) コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。定期的に軟らかい毛のブラシ等で水洗い掃除します。



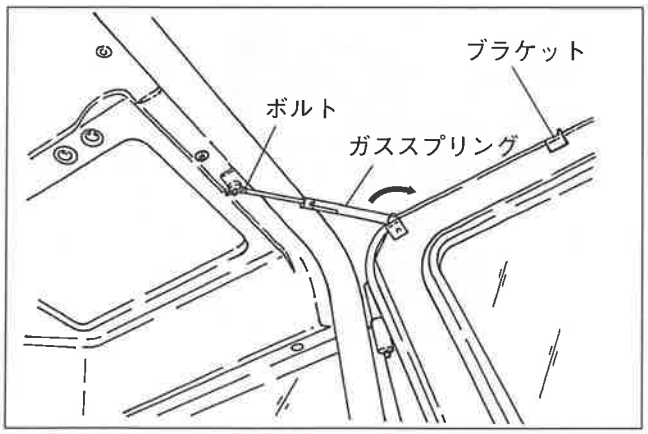
4．格納のしかた

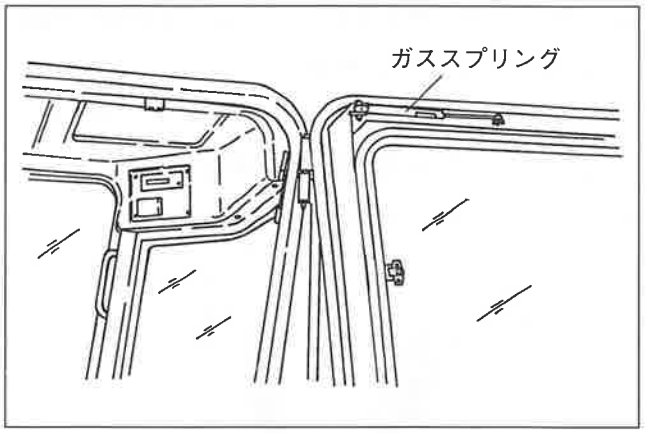
・クーラ・ワイパ・室内灯・作業灯などの電装品のスイッチは，「ＯＦＦ」または「切」位置にしてから格納します。
・コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，１カ月に１度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。ファンスイッチ（クーラスイッチ）を《L》にし，サーモダイヤルを《1～3》程度にして，コンプレッサを運転します。
・コンバインの格納庫が狭く，ドアの開閉が困難な場合には，ドアをフルオープン状態にして格納することができます。



「ドアフルオープンのしかた」

・ドアのガススプリングを取付けているルーム側のボルトを外し，ドア側のブラケットへガススプリングを差替え，ドアをフルオープンにします。





(4) 移動中及び作業中にはドアフルオープン状態で使用しないでください。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。
◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆部品（バッテリ等）または機械を廃却する時は，「お買いあげ先」にご相談ください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

「**定期点検整備表**」（点検○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）														備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250 (200)	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	格納時		
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	●(550)	●(650)	●(750)	●(850)			74～77
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●		●(550)		●(750)				76～77
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○												●		74,77～78
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○						●			●		●(750)				86
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換	○						●(200)		●(400)		●		●			87
	ラジエータ防じんフィルタ，金網	点検・掃除	○	○												○		86
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○			○			●				●					119
	燃料ホース	点検・交換	○	●（2年ごと）													燃料もれ点検	110
	コンプレッサベルト（キャビン仕様）	点検・調整	○															124
	ウインドウォッシャ液（キャビン仕様）	点検・調整・抜取り	○													抜取り		83
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○															88～91
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○													損傷の場合交換	88
	計器，スイッチ類	点検	○	○														8～14
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●				●							74～75,79～80
	油圧ホース	点検・交換	○														油もれ点検	110
	油圧オイルフィルタ	交換					●				●							79～80
	ＨＳＴオイルフィルタ	交換					●				●							79～80
	駐車ブレーキ	点検・調整	○															114
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●				●							74～75,79
	走行ベルト	点検・調整	○			○						●						119
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○	○	○	○	○(550)	○(650)	○(750)	○(850)			114
	マルチステアリングレバー	点検・調整	○	○	○													113
	作業機クラッチレバー	点検・調整	○		○													115
	刈取クラッチレバー	点検・調整	○		○													115
	クローラ	点検・調整	○	○														130
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○														（L仕様）	74～75,83

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）													備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450	500	600	700	800	格納時	
刈取部	こぎ深さギヤケースオイル	点検・補給	○														74〜75, 81
	刈刃駆動ギヤケースオイル	点検・補給	○	○													74〜75, 81
	トルクリミッタケース（右）オイル	点検・補給	○														74〜75, 81
	トルクリミッタケース（左）オイル	点検・補給	○														74〜75, 81
	かき込みベルト	点検・調整	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○		124
	株元搬送チェン（右）	点検・調整	○	○	○					●				●			125
	株元搬送チェン（左）	点検・調整	○	○	○					●				●			125
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整	○	○	○					●				●			126
	かき込み搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		110, 127
	穂先搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		110, 126
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○				●			●			●	○	131〜132
	集中注油タンク	点検・補給	○	○													74〜75, 82
	刈取ベルト	点検・調整	○	○	○						●				●		115
	リフトシャットレバー	点検・調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		118
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○														74〜75, 81
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○														74〜75, 82
	脱こくフィードチェンギヤケースオイル	点検・補給	○														74〜75, 82
	脱こく入力ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			115
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			120
	こぎ胴ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			120
	脱こくフィードチェン駆動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			121
	1番ラセン駆動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			121
	選別ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			122
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整	○	○	○					●				●			123
	排ワラチェン	点検・調整	○	○	○						●				●		129
	穂先排ワラチェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		110, 129
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○													○	95
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○												112
	ワラ切カマ	点検・研磨・交換	○						●			●			●		111
	脱こく受網	点検・掃除	○									●				○	94〜95
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○													○	95〜99
	2番ラセンタッチ部	点検・掃除	○													○	95
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○														116
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○														74〜75, 82
	グレンタンク	点検・掃除	○													○	100
	グレンタンク駆動ベルト	点検・調整	○	○	○							●					116
	グレン入力ベルト	点検・調整	○	○	○							●					123
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○													○	100
カッタ部	カッタ排ワラ切替レバー	点検・調整	○		○												117
	カッタ刃	点検・研磨・交換	○	● （100時間ごと）													102〜109
	カッタ拡散ベルト	点検・調整	○		○							●					122
	カッタベルト	点検・調整	○		○							●					121

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，「運転まえの点検表」（25～26ページ）及び「定期点検整備表」（70～73ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却する時は，油脂類廃却設備のある所で処理します。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から摺動音が発生する時はエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆交換したオイルを，廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆エンジンカバーを開いて点検等を行なった後は，エンジンカバーを閉じて固定レバーで固定してください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

「給油・注油・給水表」

No.	個所	種類	種類 API サービス分類	種類 SAE 粘度番号	容量（ℓ）	備考
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	42	JIS 2 号（－7.5℃まで） JIS 3 号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CD級以上	10W－30	3.7	
③	ラジエータ（補助タンク0.5ℓ含む）	冷却水（不凍液40～45%含む）	－	－	7.4	北海道は不凍液割合45～50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－5	90	6.9	［D仕様］以外
					14.5	［D仕様］
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL－4	10W－30	18.8	
⑥	こぎ深さギヤケース	ギヤオイル	GL－4	140	1.1	
⑦	トルクリミッタケース右，左（刈取部）	ギヤオイル	GL－4	140	4.2	右1.8ℓ，左2.4ℓ
⑧	刈刃駆動ギヤケース	ギヤオイル	GL－4	140	1.1	
⑨	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL－5	90	0.55	

No.	個所	種類	種類		容量（ℓ）	備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
⑩	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL－5	90	0.65	
⑪	脱こくフィードチェンギヤケース	ギヤオイル	GL－5	90	0.8	
⑫	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL－4	140	0.5	
⑬	集中注油タンク	エンジンオイル	－	－	1.5	
⑭	水平制御リフトアーム軸受部	リチウムグリス	－	－	適量	
⑮	ウォッシャタンク	ウォッシャ液	－	－	1.0	ウォッシャ液0.35ℓ，水0.65ℓ［キャビン仕様］

指定オイル

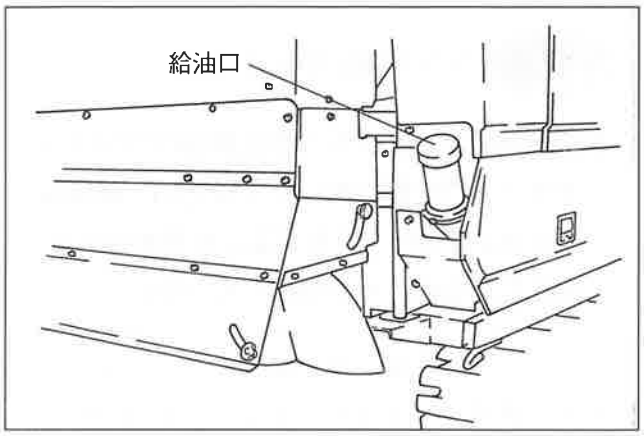
・ディーゼルエンジンオイル…… 純正油 または，ディーゼルエンジン用オイルAPI・CD級以上，SAE・10W－30

・油圧作動油…… 純正油 または，使用オイル表（157～158ページ）の指定オイル

取扱いのポイント

- 容量は燃料タンク・集中注油タンクを除き，そのほかの個所は工場出荷時の容量です。
  交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
  但し，レベルゲージまたは検油栓のない個所は全量交換してください。排油栓のない個所は補充してください。
- 使用オイルの詳細は潤滑油の項（157～158ページ）を参照してください。

1．燃料の補給



・給油口のキャップを外して，補給します。

・燃料……ディーゼル軽油

JIS 2 号（－7.5℃まで）

JIS 3 号（－20℃まで）

・タンク容量……42 ℓ

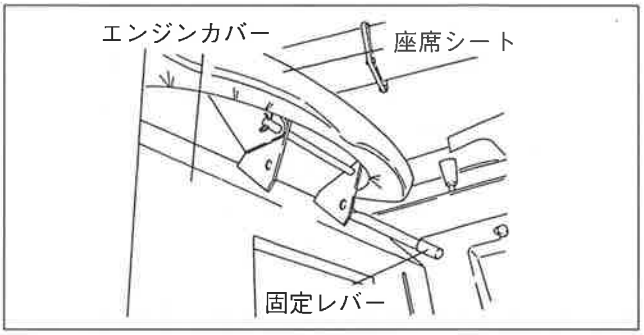
取扱いのポイント

- **燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油してください。**
- **運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は燃料のエア抜きを行なってください。(87ページ参照)**

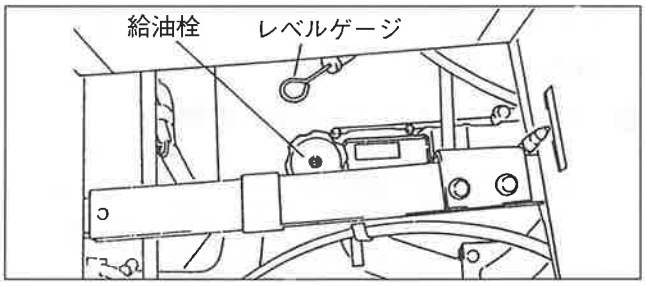
2．エンジンオイル･オイルフィルタの点検･交換

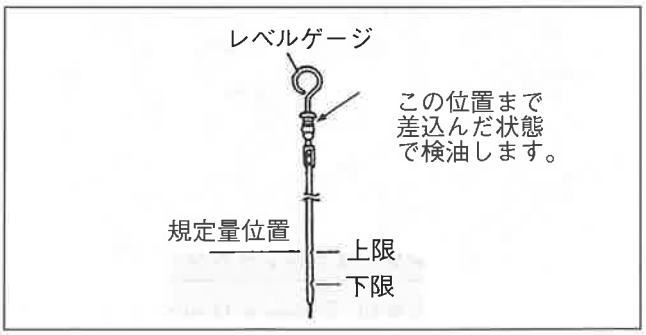
❶ エンジンオイルの点検

(1) エンジンカバーを開きます。(座席シートの左前に固定レバーがあります)



(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度一杯差込んでから抜き出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，油もれのないことも調べます。



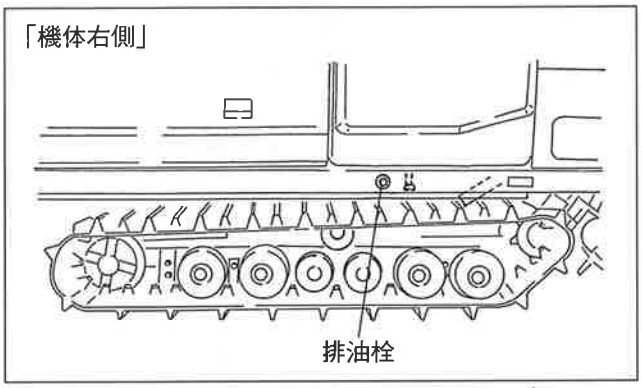


取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズ等が入らないよう事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。**

❷ エンジンオイルの交換

(1) エンジンの給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。

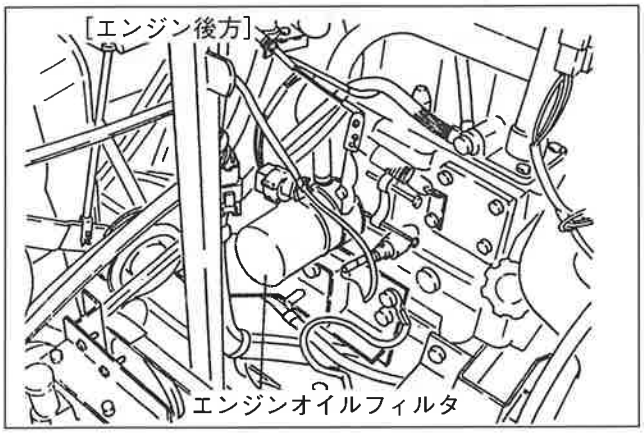


(2) オイルを抜き終わったら排油栓を締め，新しい**「純正エンジンオイル」**をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

- **ディーゼルエンジン用オイル**
  API・CD級以上，SAE・10W−30
- **オイル量……3.7ℓ**

(3) 交換後，エンジンを始動してオイルインジケータランプが消えるまで低回転で運転します。
（9ページ参照）

❸ エンジンオイルフィルタの交換



(1) オイルフィルタは**「カートリッジタイプ」**を使用していますので，購入のうえ交換します。

(2) オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。**「お買いあげ先」**へお申しつけください。

(3) オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは規定レベル上限まで補給します。

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

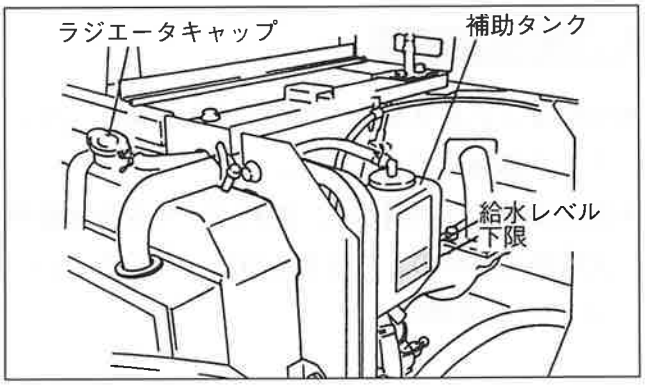
⚠警告 ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検はエンジンカバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の間」**にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

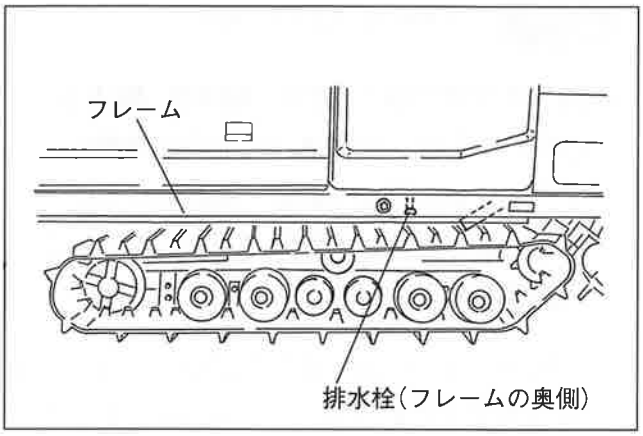
・ラジエータキャップを外して冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。
・補助タンクの**「給水レベル」**位置まで給水します。
・**冷却水……清水（水道水）**

取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「給水レベル」以上入れないでください。運転中冷却水があふれ出ます。**

❸ ラジエータ冷却水の交換

(1) ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓から排水します。



(2) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(3) 排水が終わったら排水栓を閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのちラジエータキャップを閉めます。

(4) **不凍液の注入**

工場出荷のときは不凍液が注入され**「外気温度－25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，１年ごとに冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液は「ロングライフクーラント」(PT) を使用します。

(5) 補助タンクの《**給水レベル**》位置まで給水します。

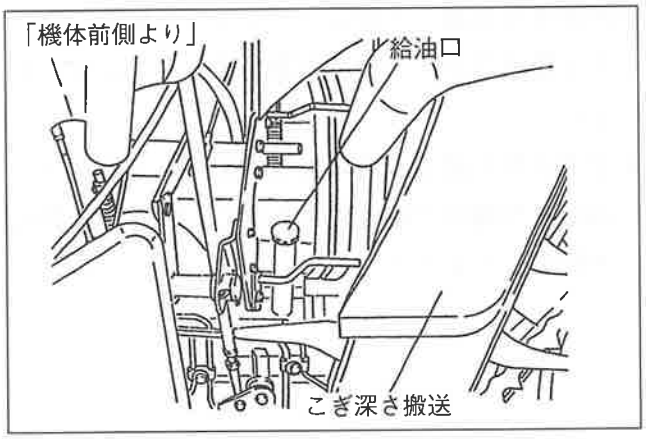
・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

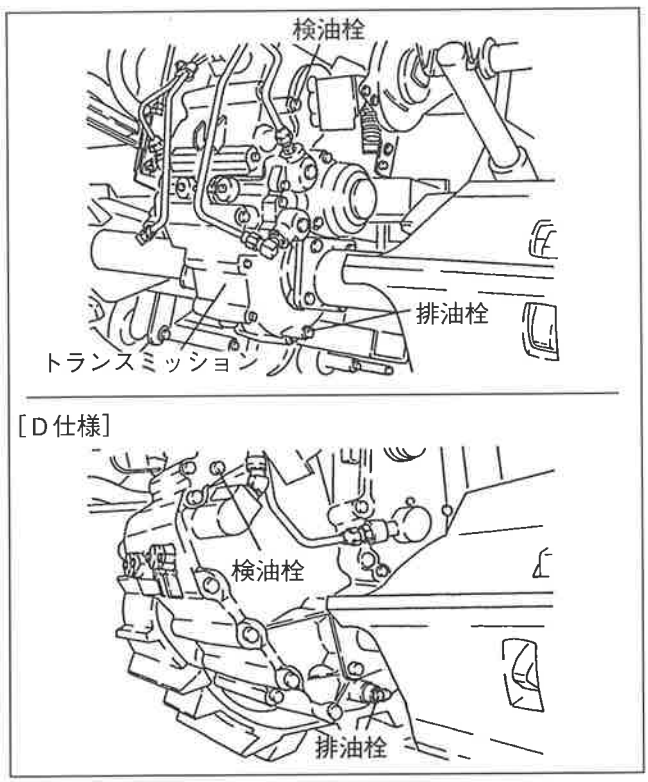
冷却水量……7.4ℓ（補助タンク0.5ℓ含む）

取扱いのポイント

- **冷却水を交換した時は，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまで「低速で空運転」を行なってください。**

4. ミッションケースのオイル点検･交換





❶ 点検

・ミッションケース横の検油栓を外して油量を調べます。

・不足している時は給油口より補給します。

❷ 交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。

・給油するときは，検油栓まで給油します。

・ギヤオイル…API・GL−5，SAE・90

・オイル量… 6.9ℓ［D仕様］以外

14.5ℓ［D仕様］

5. 油圧作動油の点検・交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，刈取部・機体［L仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり，刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

❶ 点検

・脱こく入口の下側の油圧オイルタンク前側の検油栓を外して油量を調べます。

・不足しているときは給油口より補給します。

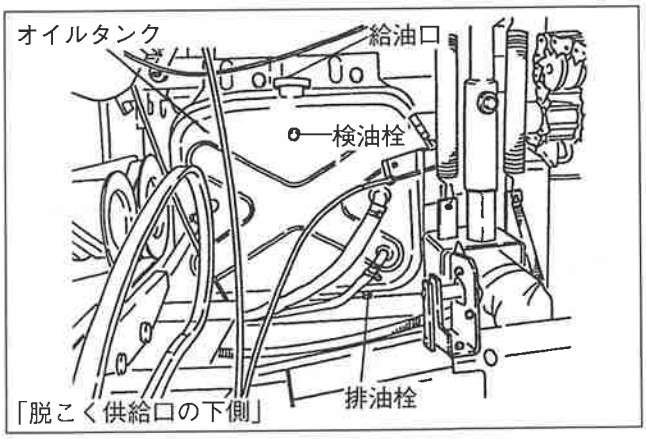
❷ 交換

・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの交換を行います。

・油圧作動油… 純正油 または，使用オイル表（157〜158ページ）の指定オイル

・オイル量……18.8ℓ

（10分運転後，補充分含む）

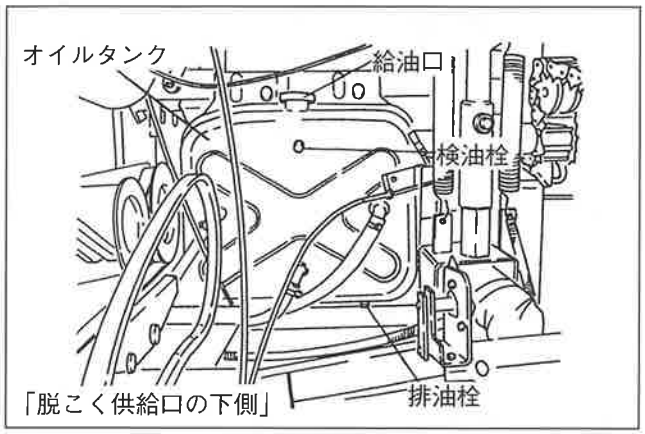


● **油圧作動油の抜取り**

(1) エンジンを始動し，刈取部・機体［**L仕様**］を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

(2) 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して油圧作動油を抜きます。

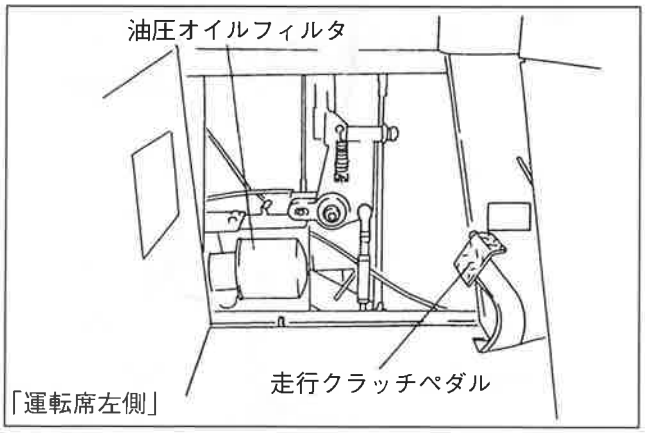
(3) オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



● **油圧オイルフィルタの取外し**

(1) 油圧作動油のオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

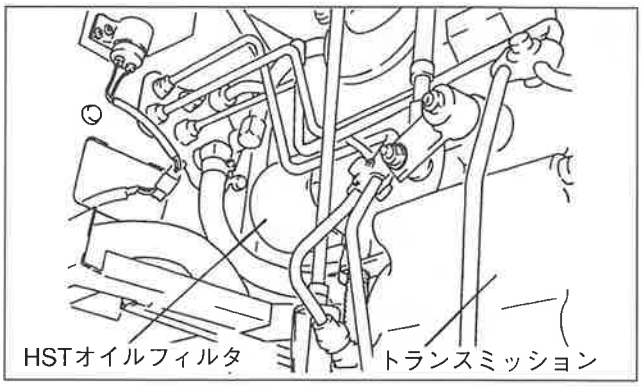
(2) 油圧オイルフィルタは運転席の左側にあります。



● **HSTオイルフィルタの取外し**

(1) HSTオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用しているので，購入のうえ交換します。

(2) HSTオイルフィルタはトランスミッションの右側に装着してあります。



● **油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け**

(1) フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

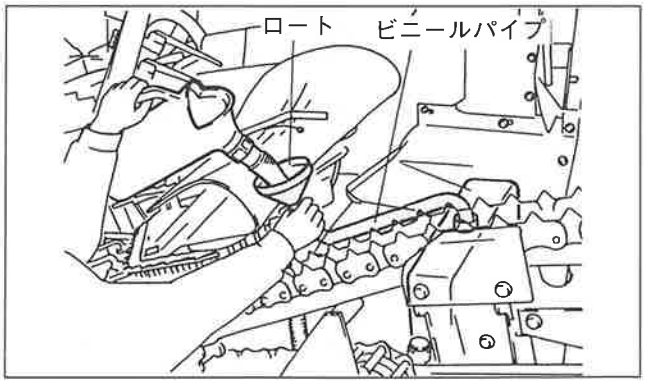
(2) 締付けは手で行い取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転します。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルのもれ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口の周辺をあらかじめ掃除をして，ゴミ等が入らないようにしてください。**

● **油圧作動油の給油**

(1) 付属品のロート，ビニールパイプを使用してオイルタンクの給油口より，タンク前側の検油栓からオイルが出るまで給油します。

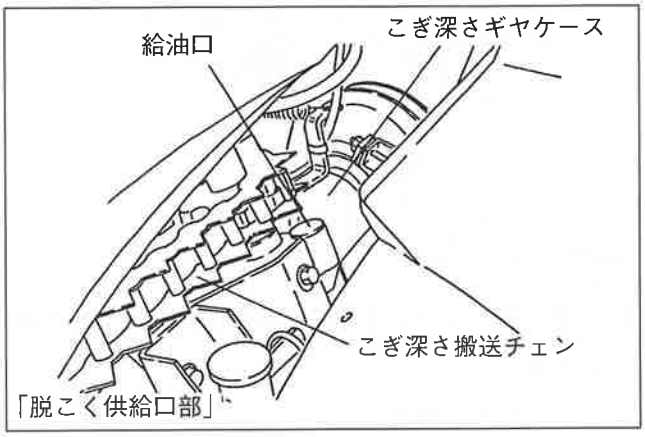


(2) エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

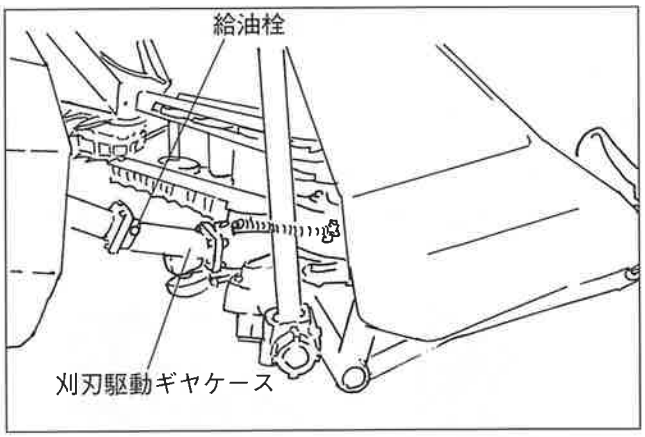
さらに，油もれのないことも調べます。

6．こぎ深さギヤケース



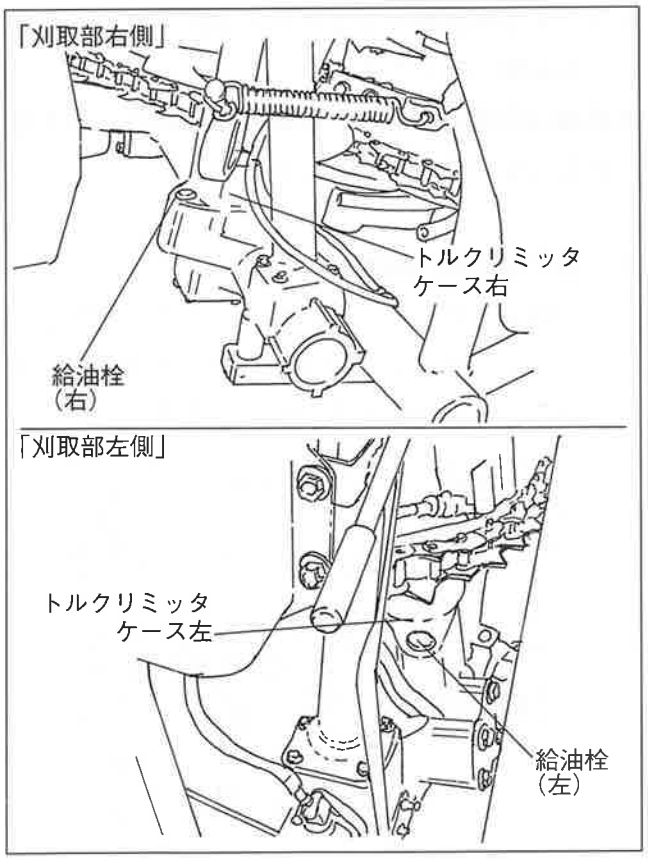
・ギヤオイル…API・GL－4級，
SAE・140
・オイル量……1.1ℓ

8．刈取駆動ギヤケース



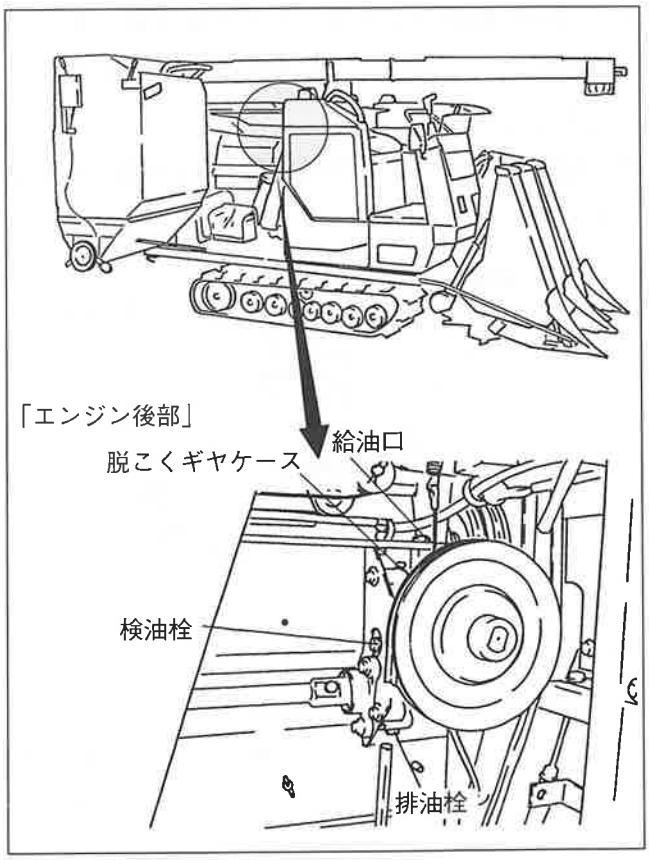
・ギヤオイル…API・GL－4級，
SAE・140
・オイル量……1.1ℓ

7．トルクリミッタケース右・左（刈取部）



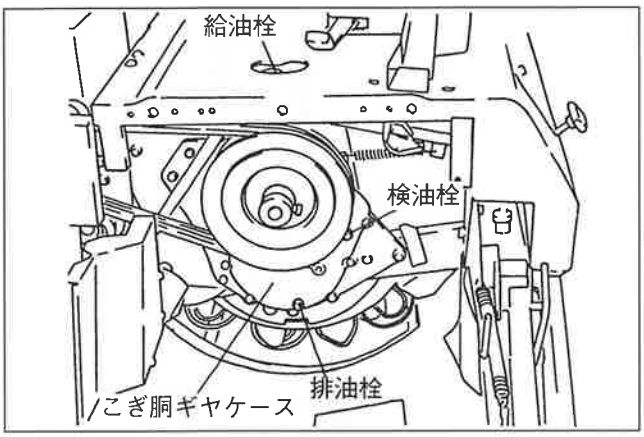
・ギヤオイル…API・GL－4級，
SAE・140
・オイル量……右1.8ℓ・左2.4ℓ

9．脱こくギヤケース



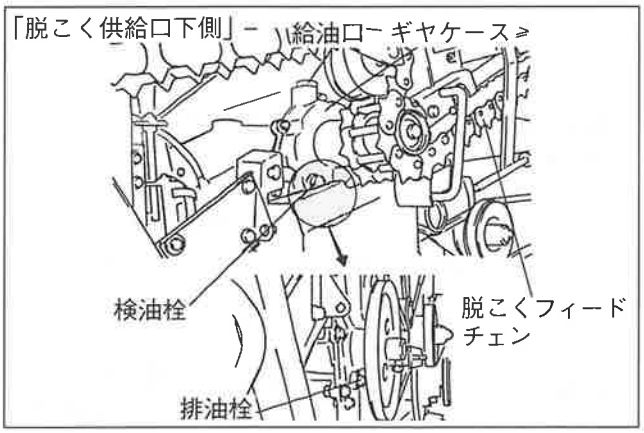
・検油栓まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL－5級，
SAE・90
・オイル量……0.55ℓ

10. こぎ胴ギヤケース



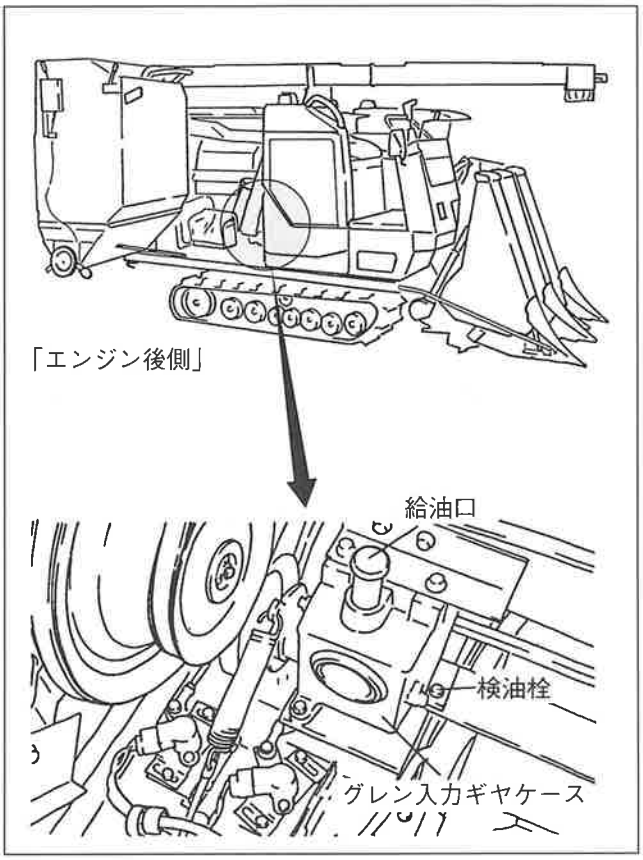
・検油栓まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL－5級,
SAE・90
・オイル量……0.65ℓ

11. 脱こくフィードチェンギヤケース



・検油栓まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL－5級,
SAE・90
・オイル量……0.8ℓ

12. グレン入力ギヤケース



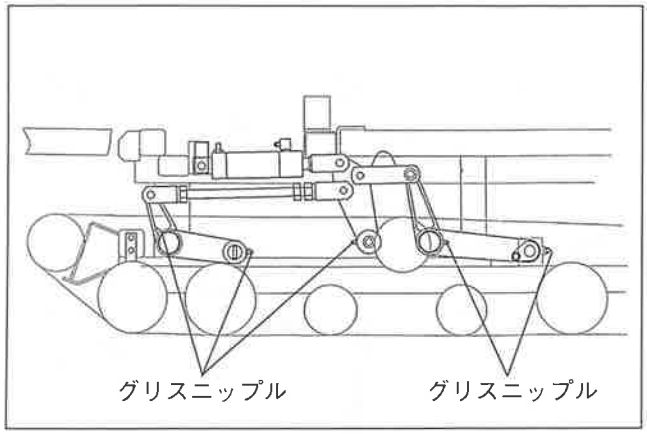
・検油栓まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL－4級,
SAE・140
・オイル量……0.5ℓ

13. 集中注油タンク



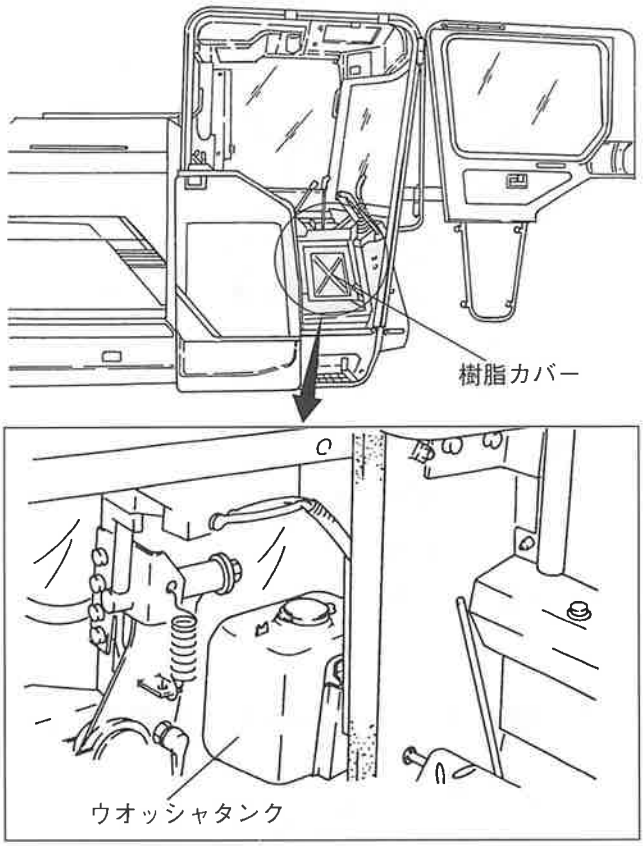
・刈取部サイドカバー（左）を外し給油します。
・エンジンオイル
・オイル量……1.5ℓ

14．水平制御リフトアーム軸受部



・種類……リチウムグリス
・給脂……グリスアップ…10個所

15．ウォッシャタンク［キャビン仕様］



・運転席下の左側の樹脂カバー（ノブ２ケ）を開けるとタンクがあります。
・ウォッシャ液がなくなったら補充します。
・ウォッシャ液は市販のウォッシャ液を使用してください。
・液量……1.0ℓ（ウォッシャ液 0.35ℓ／水 0.65ℓ）

取扱いのポイント

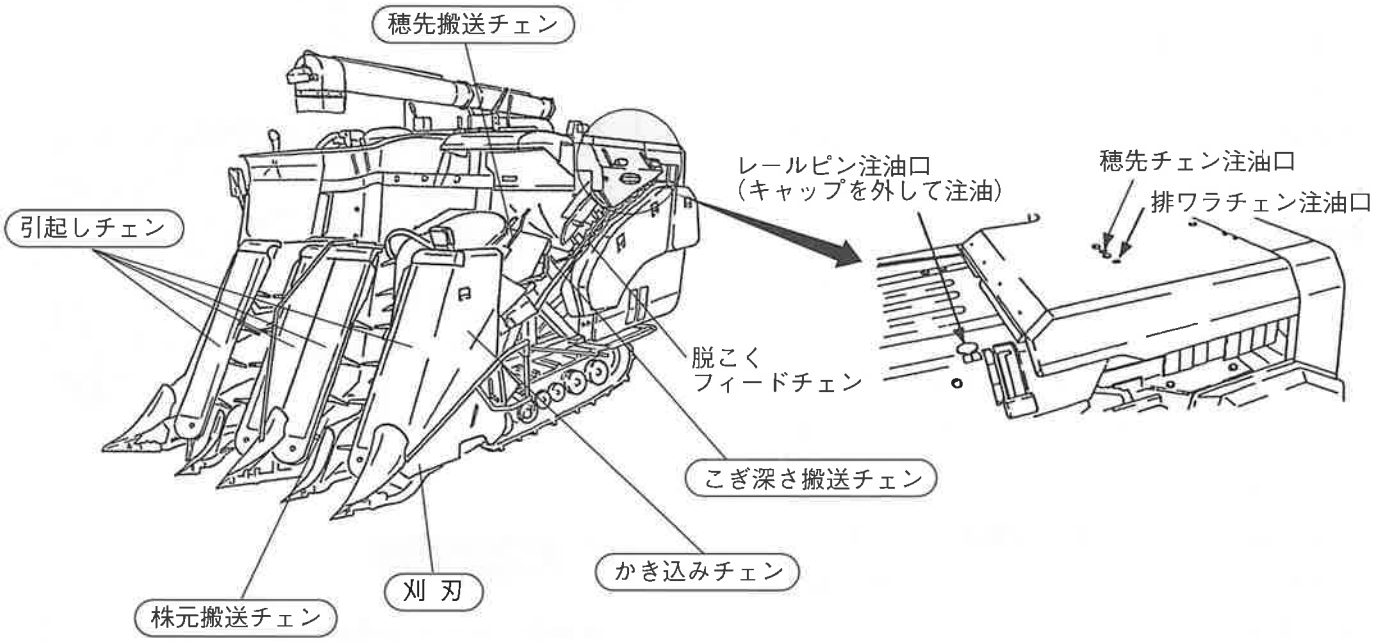
● シーズン終了時は，タンク内の液を空にし，パイプ内の液も抜いて格納してください。

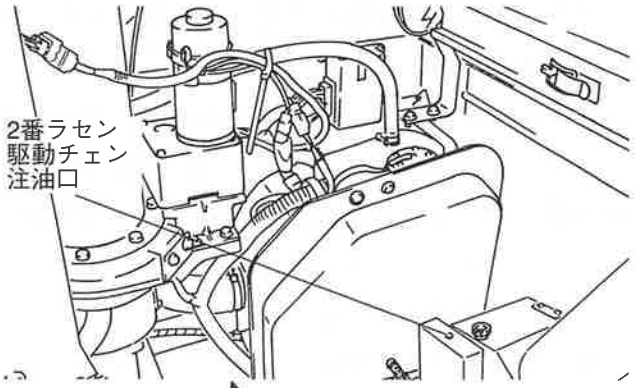
16．各部の注油

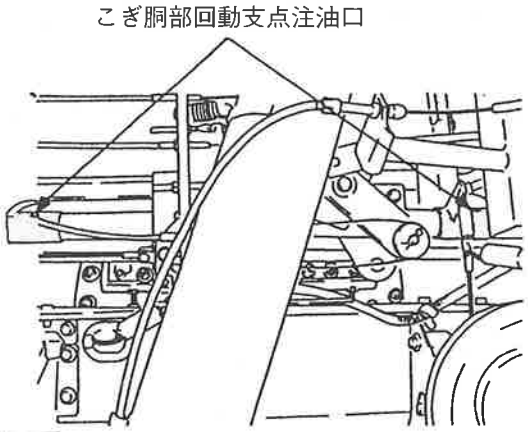
各部への注油は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取部関係の注油（◯◯個所）は集中注油装置で注油ができます。そのほかの注油は「**油差し**」で注油します。

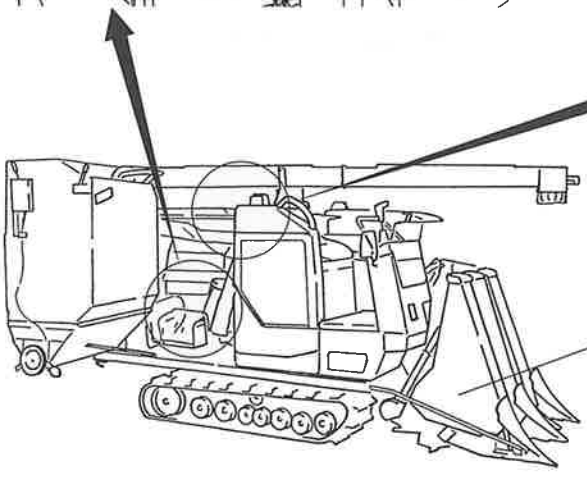
❶ レールピンへの注油

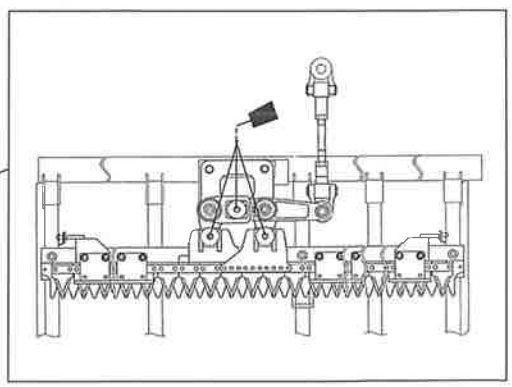
レールピンへの注油は，注油口より油差し1/5程度（約40cc）のオイルを「**一気に**」注油します。（ゆっくり注油すると一番前のレールピンまでオイルが行き渡らないことがあります。）











❷ 集中注油の使いかた

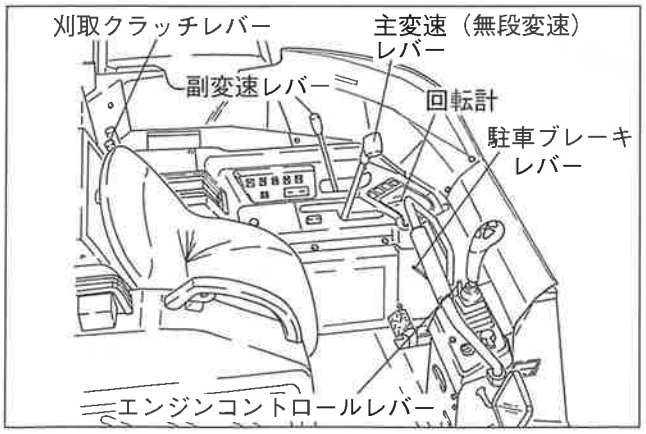
⚠警告　傷害事故防止のために

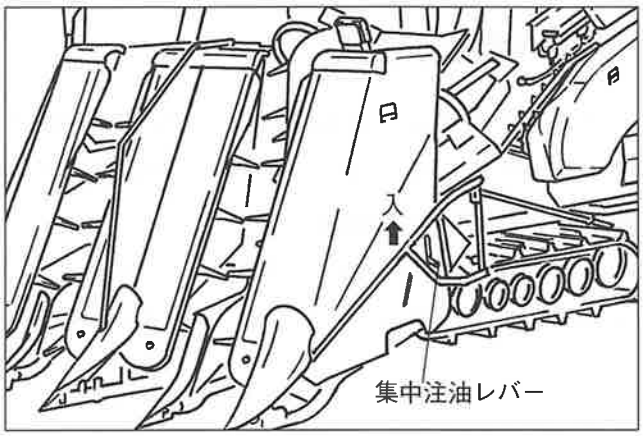
◆集中注油装置で注油する時は平坦な場所で，副変速レバーを《N》(中立) 位置にします。
◆集中注油装置で注油する時は周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

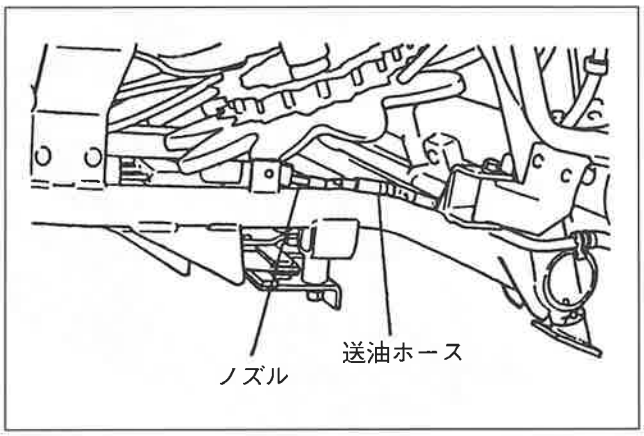
集中注油は注油レバーを操作するだけで，刈取部の刈刃，かき込みチェン，引起しチェン，こぎ深さ搬送チェン，穂先搬送チェン部の計15個所の注油ノズルからオイルが吐出し，注油ができます。

「注油操作手順」

(1) エンジンを始動し，刈取部をいっぱい下げます。
(2) 回転計を見ながら《**イネ・ムギ**》色別表示までエンジンコントロールレバーでエンジン回転を上げます。
(3) 副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。
(4) 刈取クラッチレバーを《**入**》れ，刈取部を運転します。
(5) 主変速（無段変速）レバーを《**F 9**》にセットします。
(6) 集中注油レバーを《**入**》方向に「**約15～20秒**」保持し，注油します。
(7) 注油レバーを放すとレバーは《**切**》位置に戻り，注油は自動的に止まります。
(8) 注油後，さらに刈取部を 3 分程度運転し，注油が行きとどいたことを確認します。







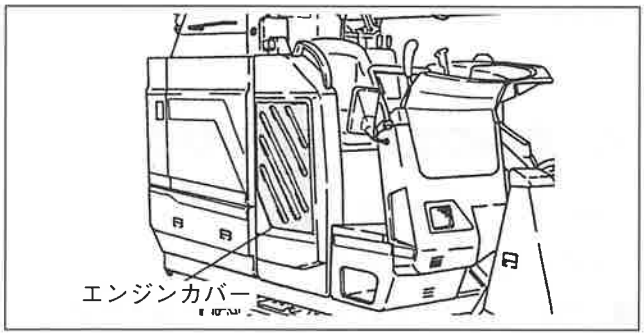
取扱いのポイント

- **注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルはふき取ってください。**
- **ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので点検・掃除をしてください。(刈刃用ノズル)**
- **湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・送油ホースをカマ等で損傷しないようにしてください。**
- **送油ホースの継ぎ部等からオイルもれがないか，点検確認してください。**

3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

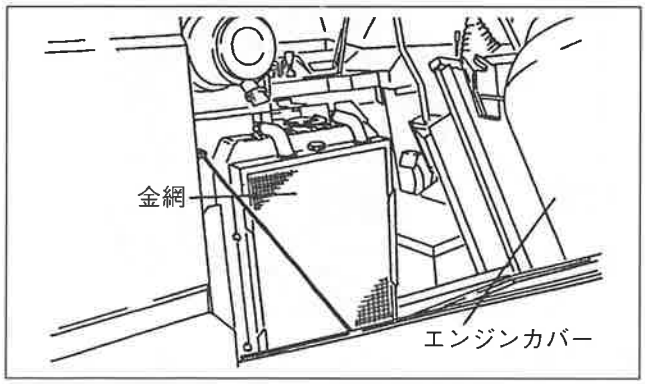
エンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィン［キャビン仕様］にゴミ等が目詰まりすると冷却風の通りが悪くなり，エンジンが**「オーバーヒート」**する原因となります。



❶ エンジンカバーの表面のゴミを取除きます。

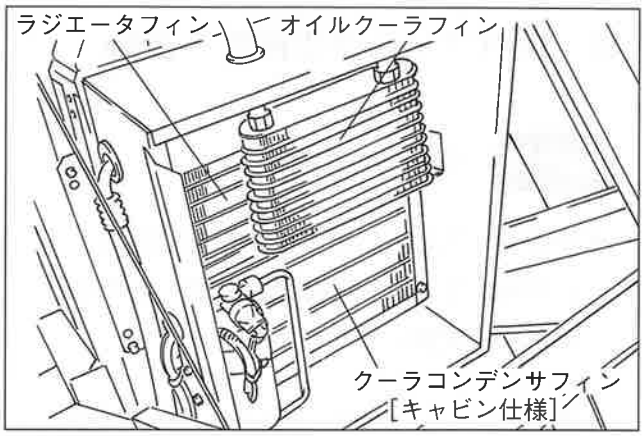
❷ エンジンカバーを開き，金網を外し，ゴミを取除きます。

❸ 金網は表面をやわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹きつけてゴミを取除きます。



❹ ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部，クーラコンデンサフィン［**キャビン仕様**］に**「ゴミ詰まり」**を生じたときは，つぎの方法で取除きます。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押し当てないでください。強く押し当てるとフィンが変形する恐れがあります。



取扱いのポイント

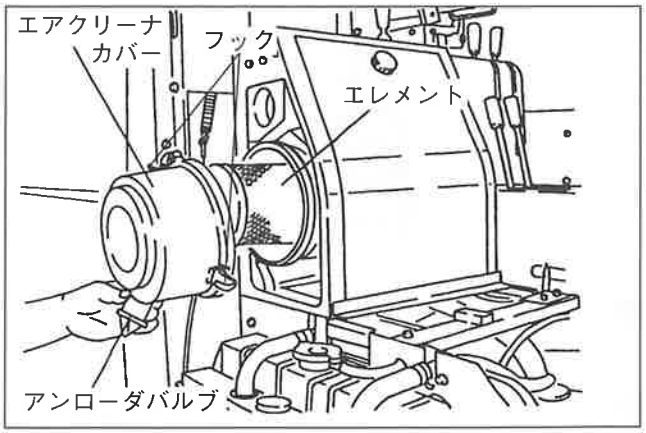
- **エンジンカバーを開けた時は，ラジエータの冷却水を確認してください。**

2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ エアクリーナカバーのフックを外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。



❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

取扱いのポイント

- **コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「7 kg f ／㎠以下」で行なってください。**

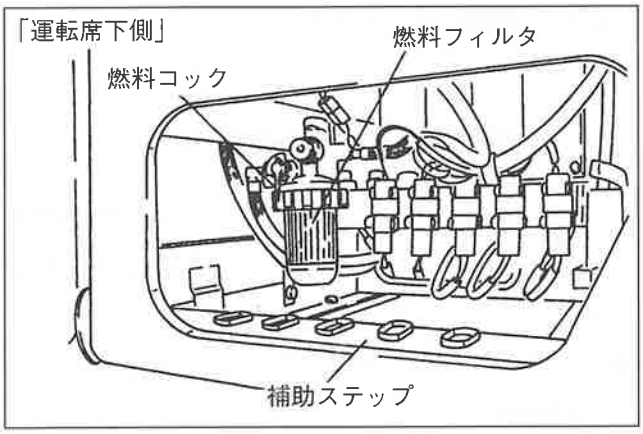
3. 燃料フィルタの掃除・交換

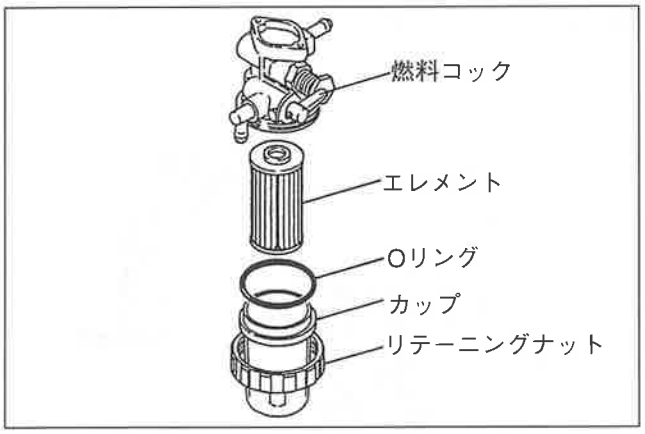
危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

掃除はシーズン前に行い，交換は200時間毎にエレメントとOリングを換えます。





❶ 燃料コックを「閉」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❷ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❸ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

❹ Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締付けます。

❺ 燃料コックを「開」の位置にして，エア抜き要領に従ってエア抜きを行います。

取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，燃料タンク給油口のフィルタをとおして給油してください。**
- **燃料は雨水等がかからない場所に保管してください。**

4. 燃料のエア抜きのしかた

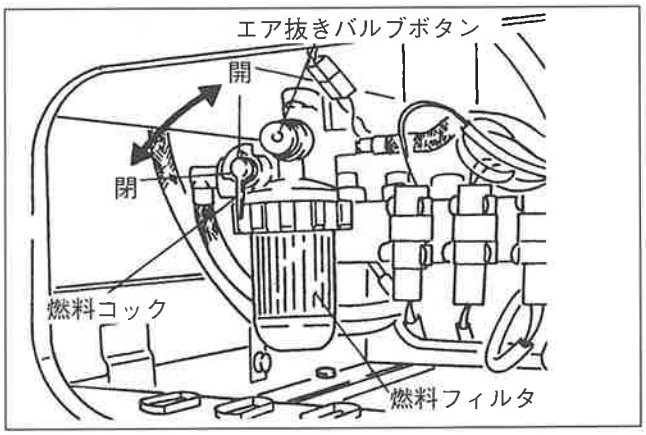
運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時はつぎの手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタを通して燃料を給油します。

・燃料はディーゼル軽油

JIS 2 号（−7.5℃まで）

JIS 3 号（−20℃まで）



❷ 燃料フィルタの燃料コックを「開」位置にします。

❸ スタータスイッチを《 入》位置にします。

❹ 燃料フィルタのエア抜きバルブボタンを「約30〜40秒間」押し続けます。

❺ エンジンコントロールレバーを《 》（高速）位置にして，スタータスイッチを回してエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

5．電気配線の点検と掃除

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《 切》位置にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

配線の端子部の「**緩み**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく「**ショート（短絡）**」等することがあります。

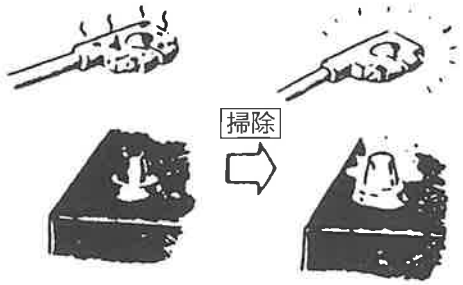
傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。

「端子のチェック」



6．バッテリの点検と充電

バッテリの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリ……55D23R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆ブースタケーブルを使用する時は接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用するとケーブルが焼損し火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆㊉端子が機械に接触しないようにしてください。
◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。
◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
◆㊀端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。
◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。ヤケドをすることがあります。
◆充電のとき「バッテリ液」が飛散すること

があるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。

❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，振動で電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

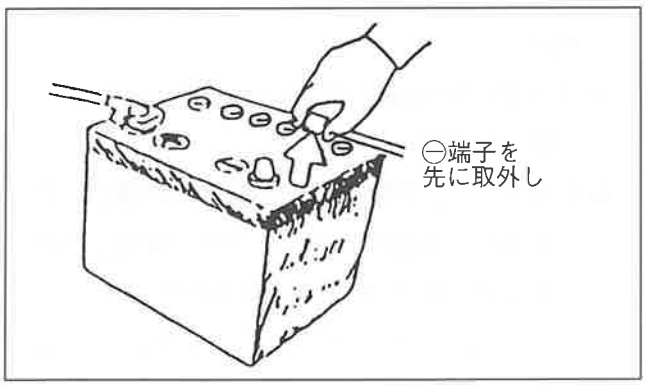
取付金具でしっかり固定します。

取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

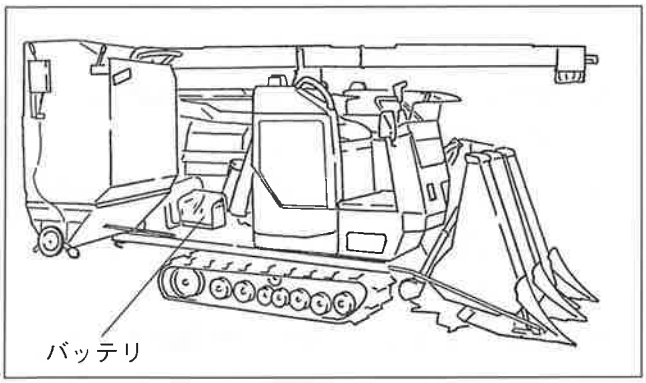
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，「**始動キー**」を抜取り，すべての制御スイッチを《**切**》にします。

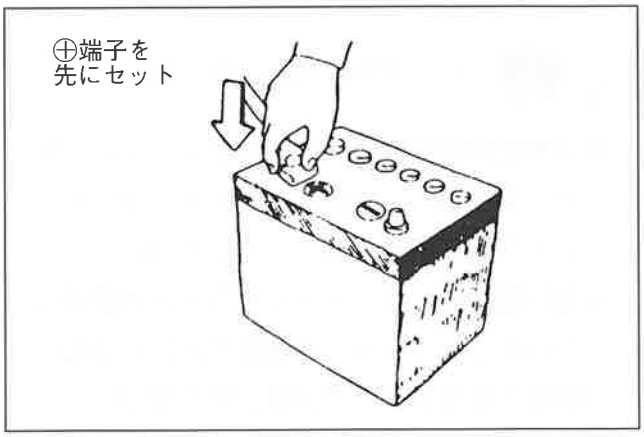
(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**アース側㊀端子**」を先に外します。



「バッテリの位置」



(3) バッテリコードを端子に**セットするときは「プラス側㊉端子」**を先に取付けます。



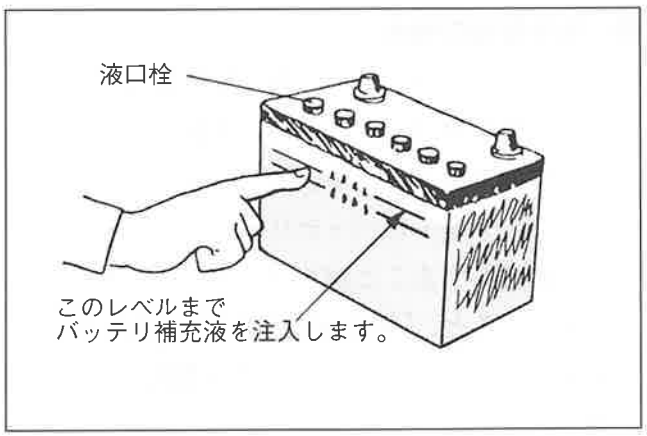
❸ 残存容量の確認

バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

❹ バッテリ液量の確認

バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

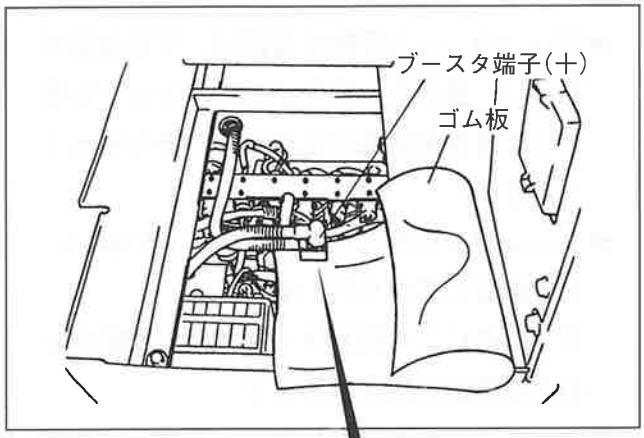
減っていれば，バッテリ補充液を「**UPPER LEVEL**」（上限）まで注水補給します。



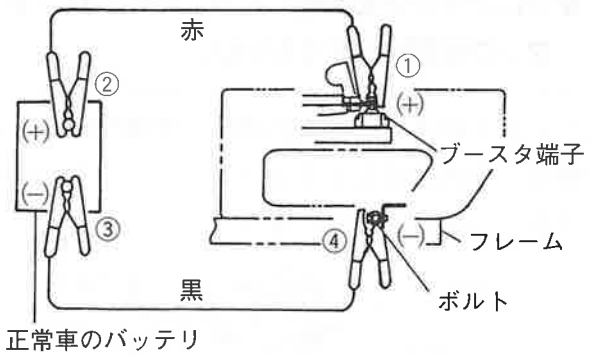
❺ ブースタケーブルでのエンジン始動

バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。

・運転席の下側にブースタケーブル用（＋）端子を装備しています。狭い車庫等でバッテリの取外しができない場合は，この端子を利用して，エンジンを始動することができます。



「接続の順序」



・ブースタケーブルをブースタ端子（十）に接続したら，ゴム板をかぶせておきます。

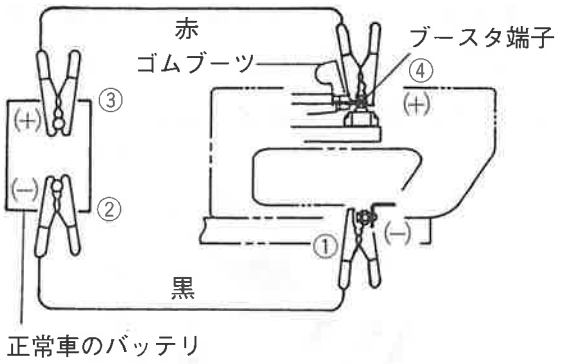
「ブースタケーブルの接続のしかた」

(1) 正常車のエンジンを停止して，図の①～④の順序でブースタケーブルを接続します。

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

(1) エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



(2) 作業終了後は，ゴムブーツをブースタ端子にかぶせ，ゴム板を４つ折りにしてかぶせておきます。

取扱いのポイント

●運転席下側のブースタ端子はエンジン始動用ですので，この端子を使用してバッテリへの充電はしないでください。

❻ バッテリの充電

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，「**始動キー**」を抜取ります。

(2) 機械からバッテリを取外します。

(3) 「**液口栓**」をすべて取外します。

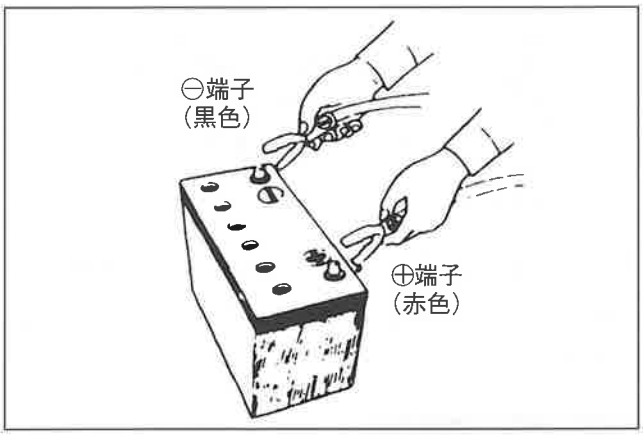


(4) 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「**45℃**」を超えないようにします。

(5) 「**水素ガス**」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。

(6) 「**火気**」を近づけたり「**スパーク**」による電気火花が発生しないようにします。

(7) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを「**切**」にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



(8) 充電のとき「**バッテリ液**」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

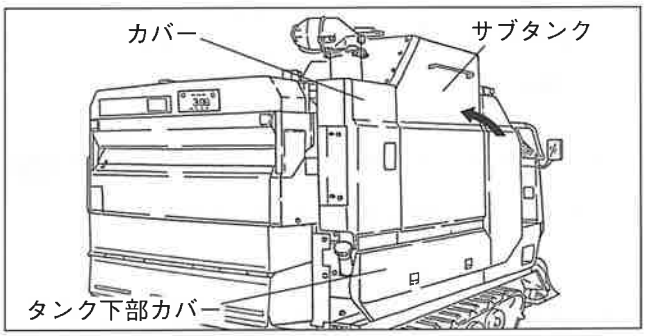
- **各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリ端子部には，腐食防止のためグリスを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツは，取付けてください。**
- **厳寒時は，機械を格納するときにバッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。**
- **化学繊維製布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。**

7．グレンタンクの回動のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

- **◆グレンタンクを回動する時は，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。**
- **◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。**
  タンク内にこく粒が入った状態で回動させると故障の原因となります。
- **◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。**
- **◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。**

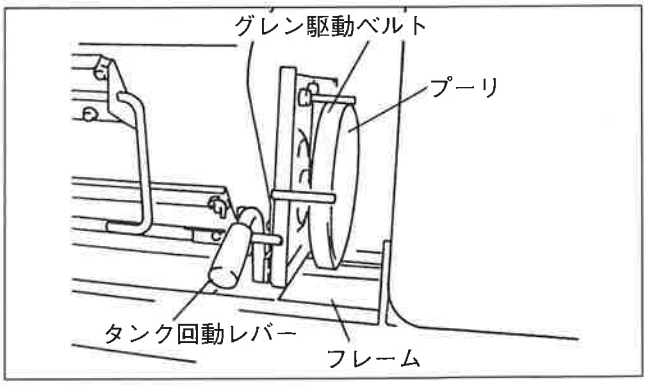
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときはグレンタンクを回動してストッパをかけて行います。



❶ サブタンクを収納します。

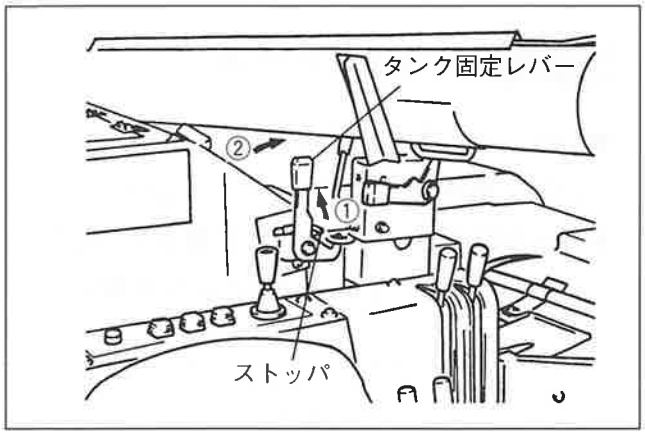
❷ タンク下部カバーを取外します。

❸ タンク後部のカバーを開きます。



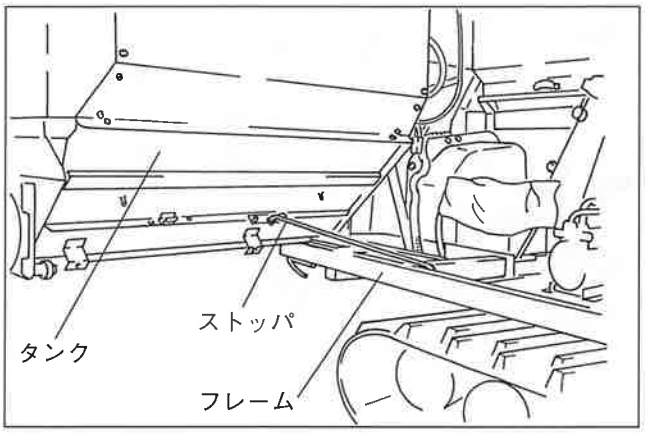
❹ グレン駆動ベルトをプーリより外します。

❺ タンク固定レバーのストッパを解除してタンクの固定を外します。



❻ タンク回動レバーを持ち上げながら，手前に引きタンクを回動します。

❼ タンクとフレームにストッパをかけます。



❽ 収納は逆の手順で行います。

❾ タンク収納は，タンクを戻すと途中でタンク回動レバーのピンがフレームに当たり回動しなくなりますので，タンク回動レバーを持ち上げながらタンク回転レバーのピンがフレームの穴に入るまでタンクを押し込みます。

取扱いのポイント

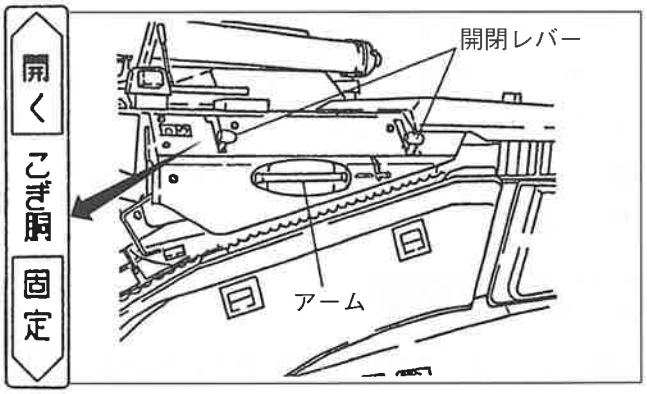
- **サブタンクを収納する時は，グレンタンク内のこく粒を排出してから行なってください。**
- **収納後はベルトの掛け片が間違っていないか，再度確認してください。**

8．こぎ胴部の開きかた

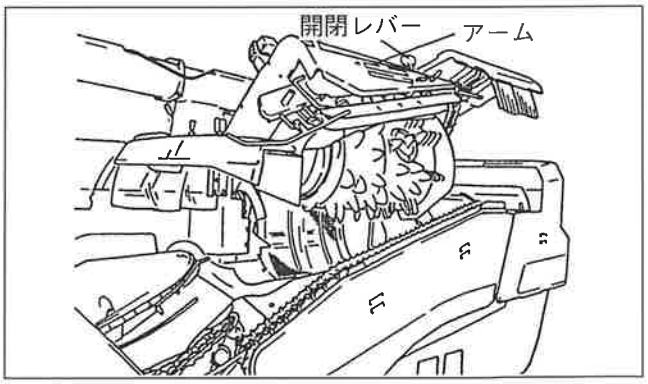
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
- ◆こぎ胴部が開いている時は，ノッチを《自動ロック解除レバー・固定》の方向に動かし，レバーを固定しておきます。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。

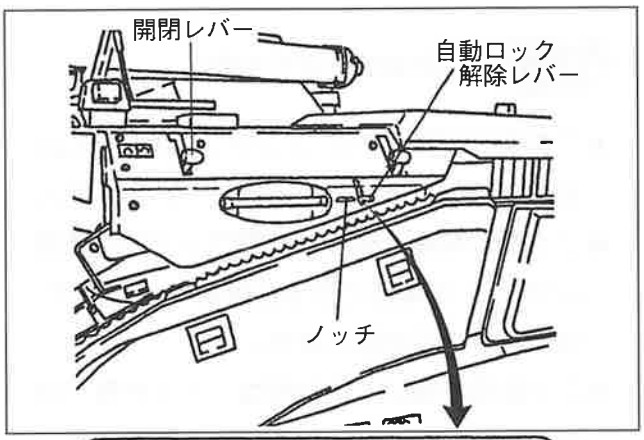
❶ ２本の開閉レバーを《開く》の方向に持ち上げ「固定」を解除します。

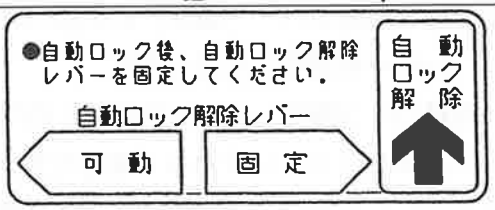


❷ アームまたはシリンダカバーの端部を持ってこぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認してゆっくり手を離します。（こぎ胴部は自動的にロックされます）



❸ ノッチを《**自動ロック解除レバー・固定**》の方向へ動かし，レバーを固定にします。





❹ こぎ胴部を閉める時は，ノッチを《**自動ロック解除レバー・可動**》の方向へ動かします。

❺ アームまたはシリンダカバー端部を持って，こぎ胴部を一杯に持ち上げ，自動ロック解除レバーを押し上げたまま，こぎ胴部をゆっくり下げます。（自動ロック解除はカバー内側のレバーを押し上げて行うこともできます。）

❻ こぎ胴部を降ろしたら，２本の開閉レバーを下げ《**固定**》位置にします。

取扱いのポイント

- **防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると防じんカバーが破損する恐れがありますので防じんカバーを閉じてください。**

9. 脱こくファンケースの開きかた

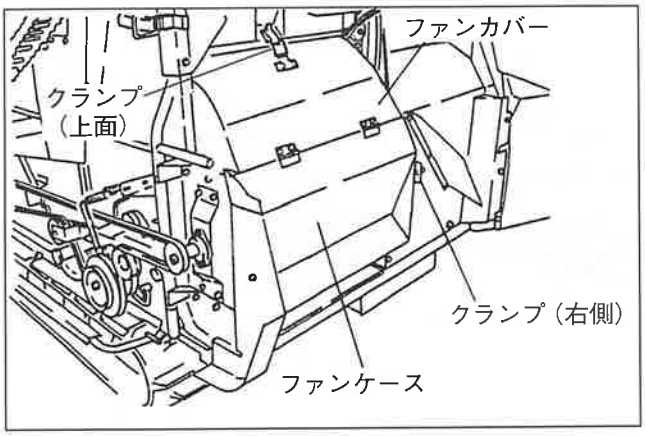
⚠警告 傷害事故防止のために

- **ファンケースを開く時は，平坦な場所でエンジンを停止して行なってください。**
- **カッタはストッパがかかる位置までいっぱい開いてください。（101ページ参照）**

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）およびカッタサイドカバーを外します。

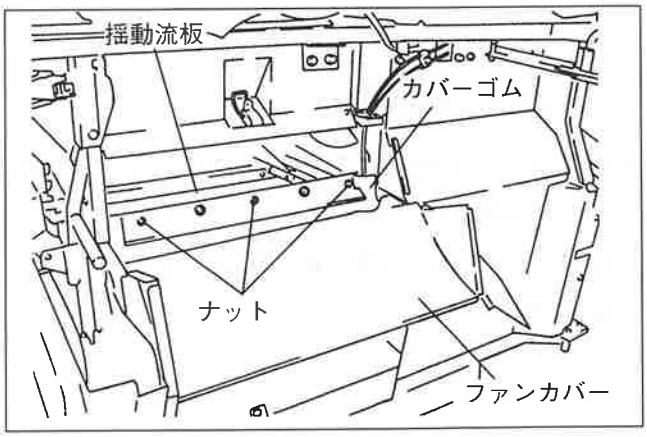
(2) カッタをいっぱい開きます。(101ページ参照)

(3) ファンカバーのクランプ（上面１個）を外し，ファンカバーを開きます。

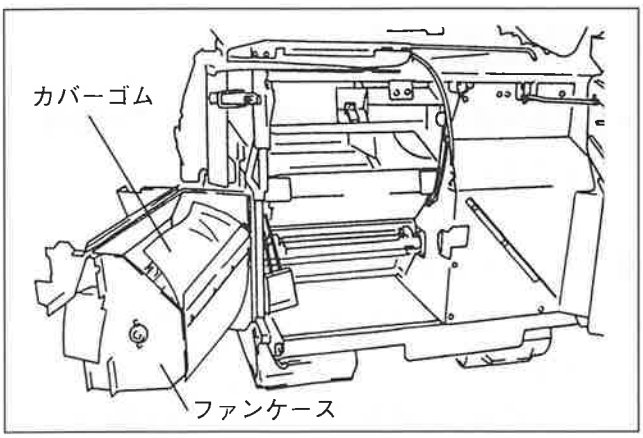


(4) 揺動流板先端のナット（３個）を外して，カバーゴムを外します。

(5) ファンケース右側のクランプを外し，ファンカバーを開いたまま，ファンケースを回動させます。



(6) ファンケースを閉じる時は，開く時の逆の手順で行います。



取扱いのポイント

- ファンケースを収納した時，揺動流板先端カバーゴムの取付ナットの締め忘れがないか確認してください。
- カバーゴムがセットされていないとファンが詰まり，刈取り作業ができません。
  またファン破損の原因となります。
- 脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

10．脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆脱こく部の各部を掃除するときはエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆２人以上で作業する場合，とくに回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。
- ◆こぎ胴部は自動ロック位置まで確実に持ち上げ，ノッチを自動ロック解除レバーの《固定》方向に動かし，レバーを「固定」してください。

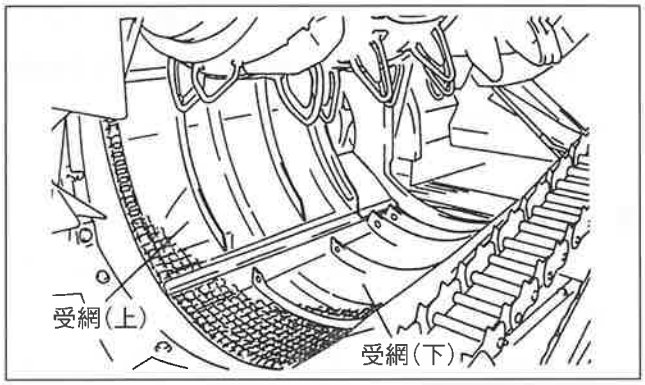
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

❶ 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

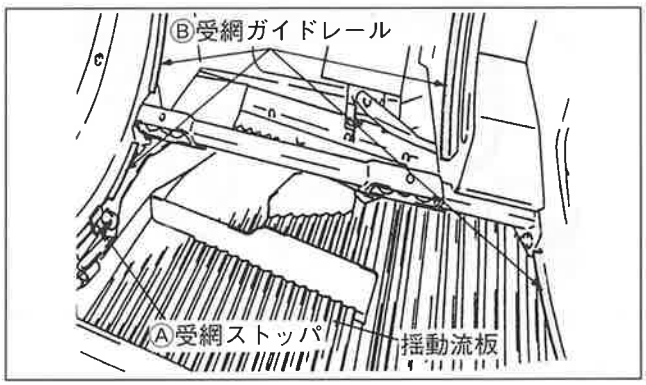
(1) こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。

(2) 受網（下）を外します。

(3) 受網（上）を外します。

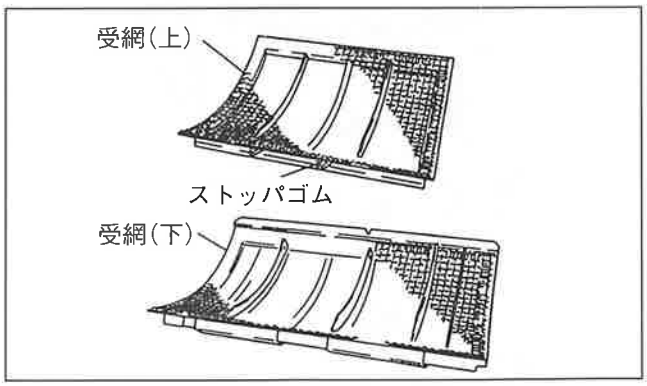


(4) 受網（上）・（下）を取付ける前にⒶ部受網ストッパおよびⒷ部受網ガイドレール（４個所）のクズを取除きます。



(5) 脱こく受網の取付けは逆の順序で取付けます。

(6) 受網（上）はストッパゴムがフレームに当たるまで押し込みます。



(7) こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

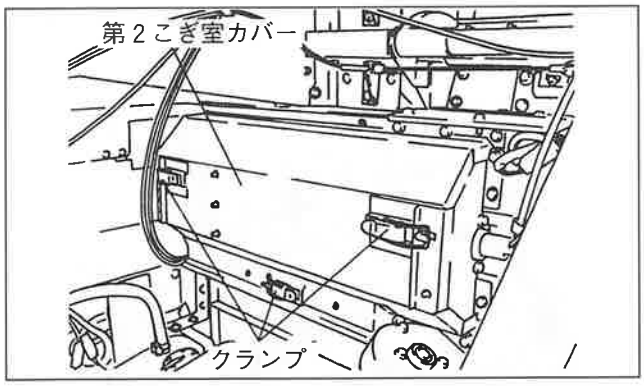
取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。**
- **受網ストッパおよび受網ガイドレール（4個所）にこく粒やクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に接当する場合がありますので掃除してください。**

❷ 第2こぎ室の掃除

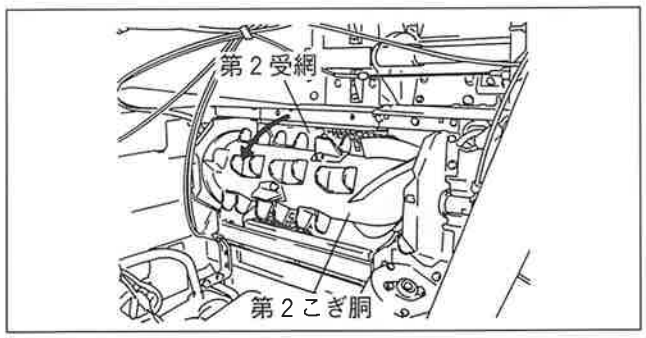
(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（91～92ページ参照）

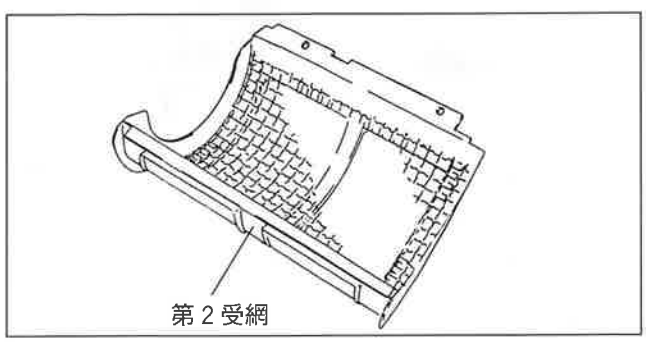
(2) 3個のクランプを外し，第2こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



(3) 第2受網は，受網の上側から第2こぎ胴を回すようにして，取外します。

(4) 第2受網の取付けは，逆の手順で取付けます。





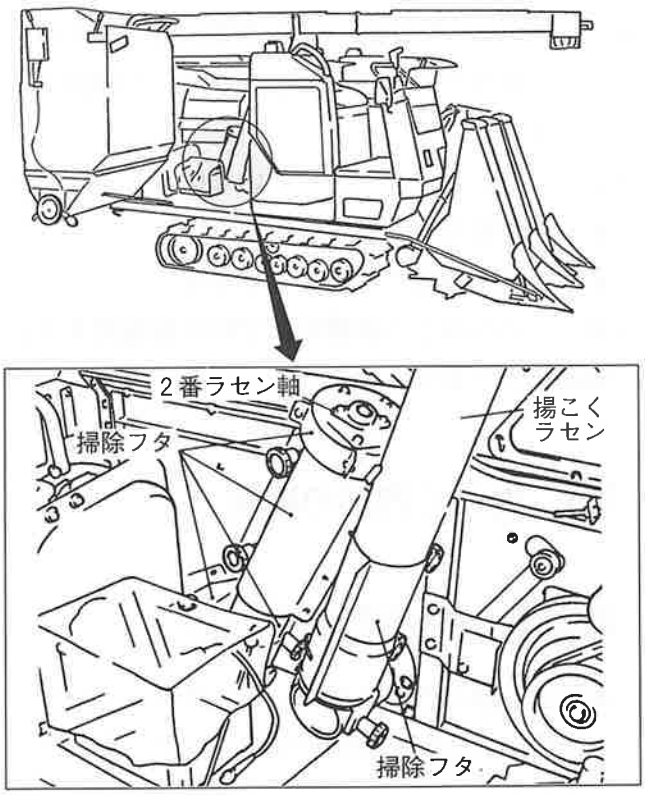
取扱いのポイント

- **長期格納前には，第2受網を取外して掃除をしてください。**

❸ 揚こくラセン部の掃除

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けて行います。

(2) ノブを外し，掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除します。



❹ 2番ラセン部の掃除

掃除は4個所からできます。

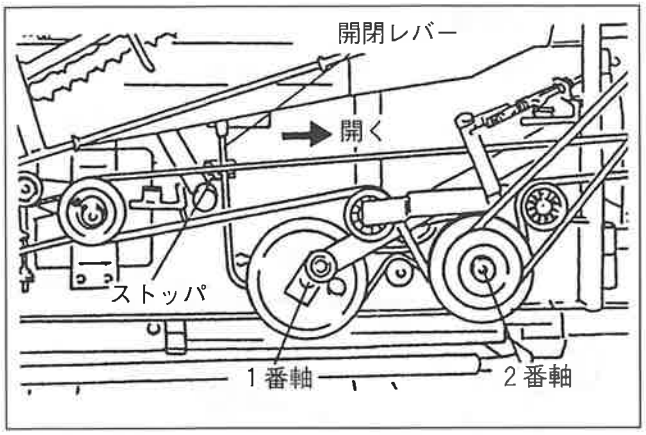
掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除します。

❺ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除

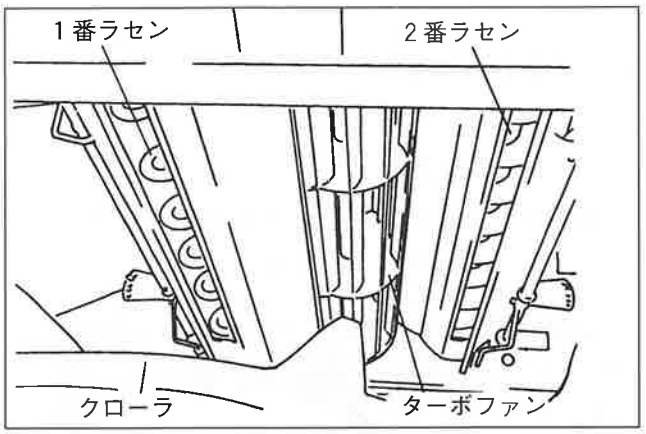
(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を取外します。

(2) 開閉レバーのストッパを外し，レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。

・ストッパは開閉レバーを右手で支えてから外します。



(3) 掃除後はレバーを《**閉じる**》位置に戻し，ストッパをかけます。



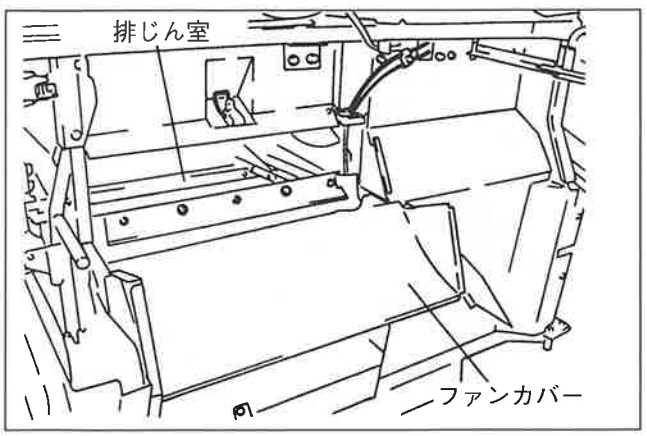
取扱いのポイント

- **掃除後は底板が確実に閉じていることを確認してください。開いているとこく粒がもれます。**

❻ 排じん室の掃除

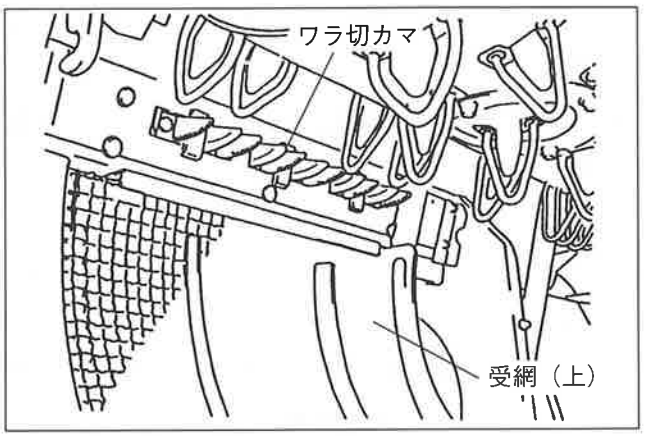
(1) カッタをストッパがかかるまでいっぱい開きます。

(2) ファンカバーを開き，排じん室のワラクズ等を掃除します。(93～94ページ参照)



❼ ワラ切カマの掃除

ワラ切カマサポート組品を取外し，ワラ切カマに付着しているこく粒を掃除します。(ワラ切カマの取外しは111～112ページを参照)

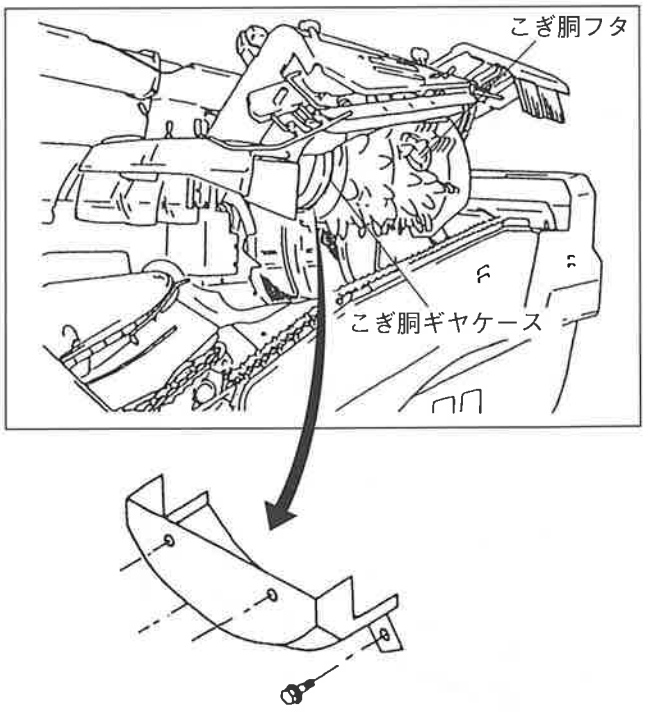


❽ こぎ胴ギヤケース下カバー及び，こぎ胴内の掃除

(1) こぎ胴部を開き，ロックをかけます。
(こぎ胴部の開きかたは92～93ページ参照)

(2) カバーのボルト（2本）を外し，カバーの内側にたまっているこく粒を掃除します。

(3) こぎ胴フタを外し，こぎ胴内のこく粒を掃除します。



11．揺動流板の掃除

❶ 揺動流板の取外しかた

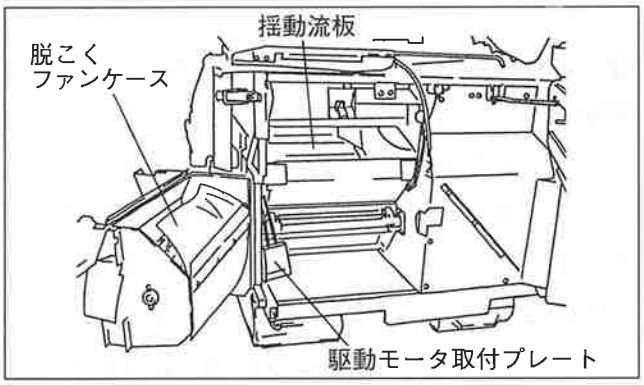
(1) 脱こく部と脱こくファンケースを開き，脱こく受網を取外した状態にします。(93～94ページ参照)

(2) 選別自動フィン駆動モータ取付プレートを取外します。

① リードワイヤのカプラを外します。

② モータ取付ブラケットのボルト２本を外します。

③ モータと取付プレートをセットで外します。

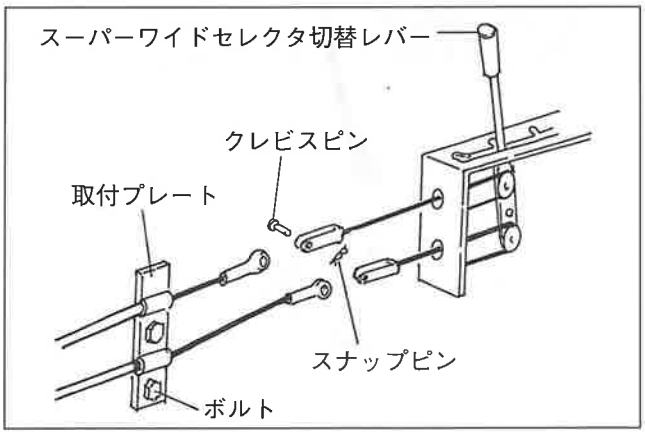


(3) スーパーワイドセレクタワイヤの取付プレートを外します。(グレンタンクを回動して行います。)

[キャビン無仕様]

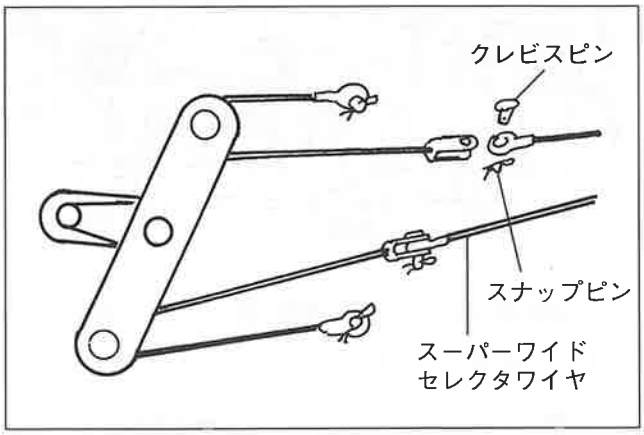
① ２本のワイヤ先端のスナップピンとクレビスピンを外します。

② ボルト２本を外し，取付プレートとワイヤをセットで外します。



[キャビン仕様]

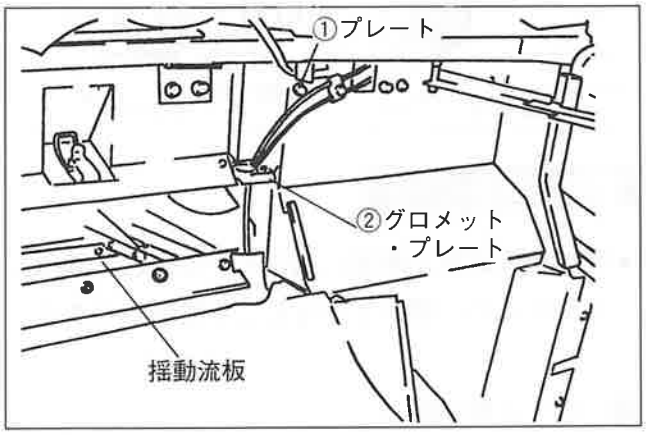
① 燃料タンク上側にある２本のワイヤ先端のスナップピンとクレビスピンを外します。



(4) 排塵室後部のワイヤを外します。

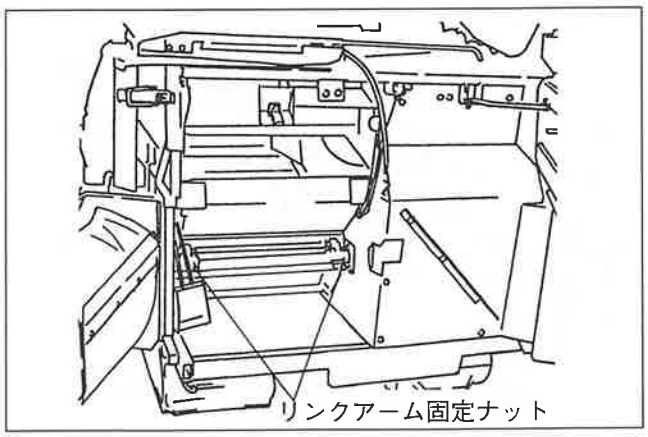
① ボルト２本を外し，ワイヤを取付けているプレートを外します。

② ナット２ヶを外し，ワイヤを通しているグロメットのプレートを外します。

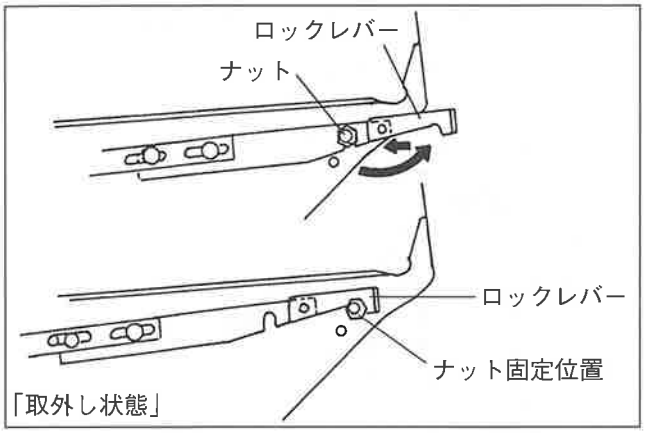


(5) 揺動流板を取外します。

① 揺動流板後部のリンクアームの固定ナット左右各２本を外します。



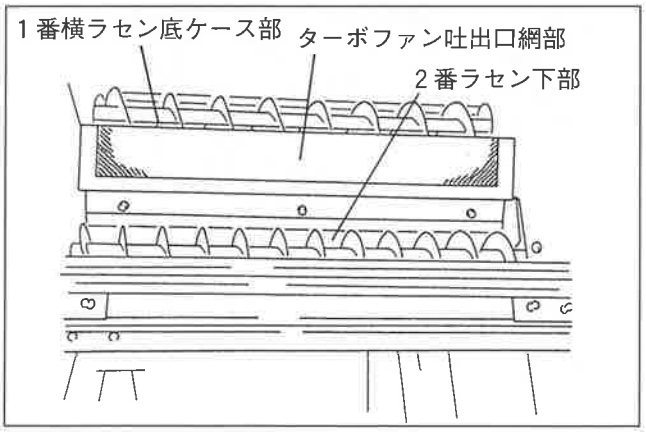
② 揺動流板後方左側のナットをゆるめ，ロックレバーを回動させて押込み，ナットで固定します。

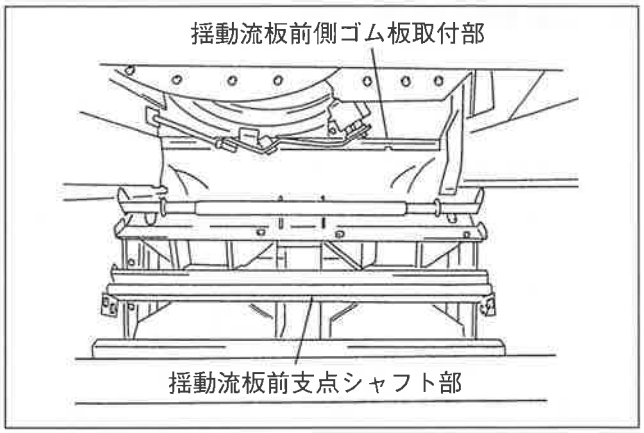


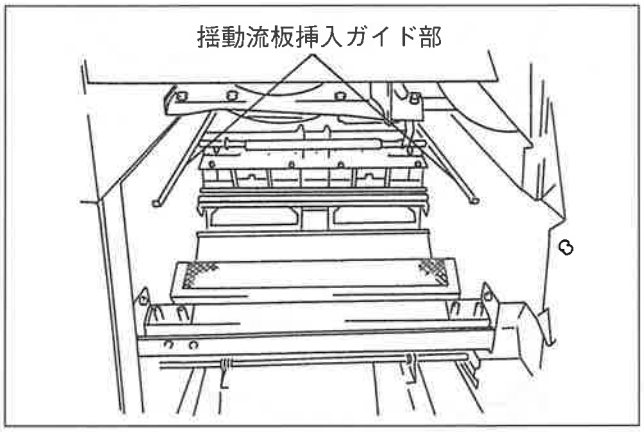
③ 揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。(２人作業)

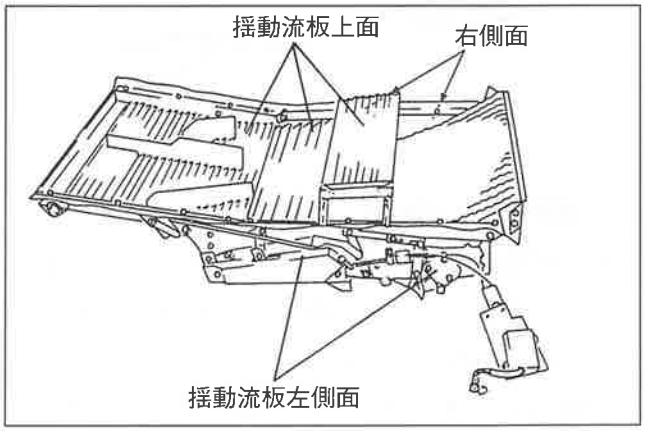
❷ 揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を外した後の脱こく内部（図示）と揺動流板上面及び左右側面及びチェンを掃除します。





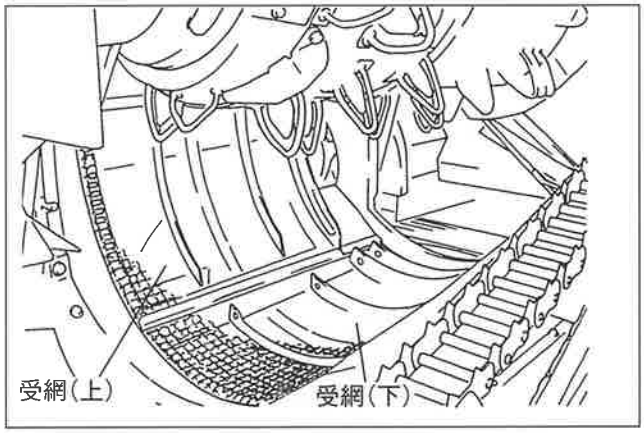


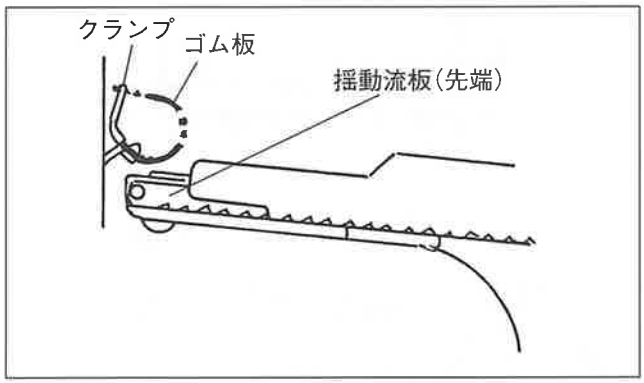


❸ 揺動流板の取付けかた

(1) 揺動流板先端のゴム板を持ち上げておきます。

・脱こく部を開いた状態にし，受網（下）を外し揺動流板先端のゴム板を持ち上げクランプに掛けておきます。（揺動流板の噛込みを防ぐため）



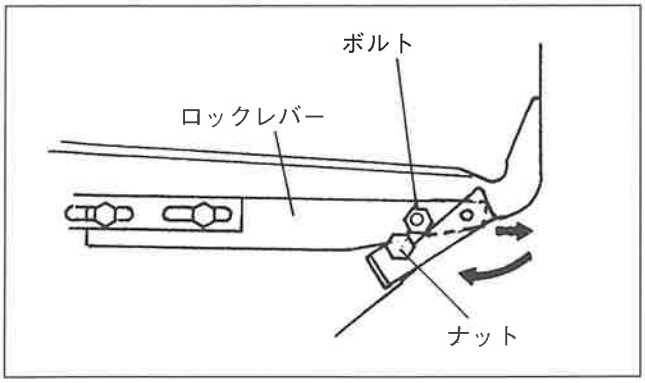


(2) **揺動流板の組付け**

① 揺動流板の後方左側のロックレバーが押込んだ状態になっていることを確認します。

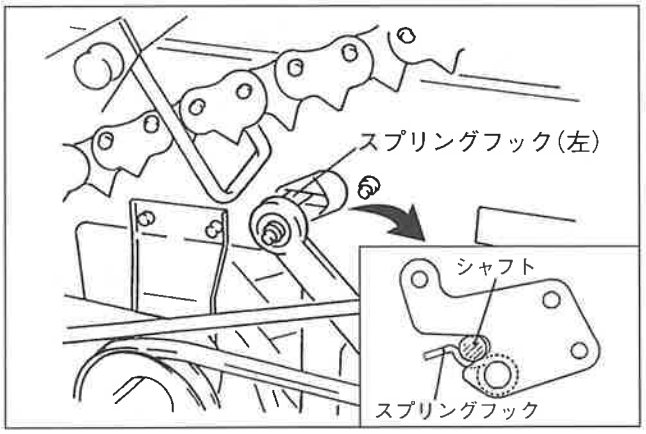
② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ，少しずつ押込んでいきます。（2人作業）

③ 揺動流板を確実に奥まで押込んだことを確認し，ロックレバーを引っ張り出しナット及びボルトで締付けます。

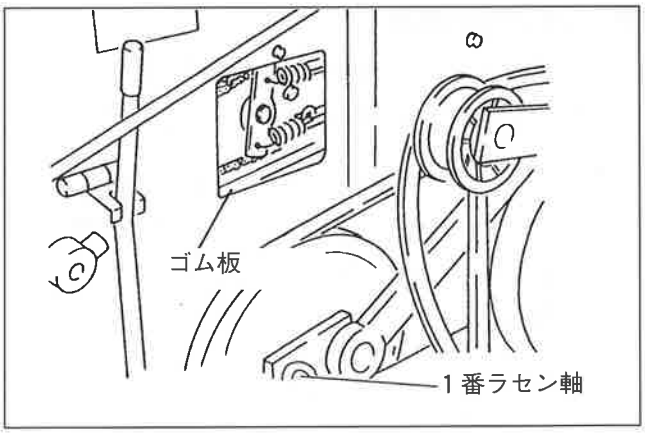


④ ロックレバーのナットをゆるめ，レバーを引っ張り出した時，つぎの3点を確認します。

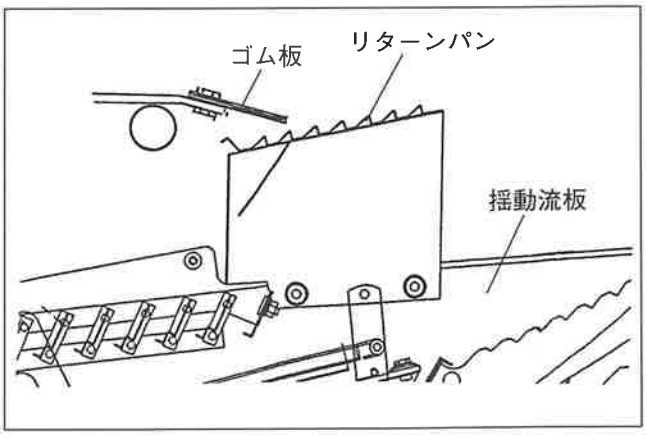
1）レバー先端のロック装置の左右のスプリングフックが揺動リンクシャフトを一杯に入れてからロックレバーで固定すること。



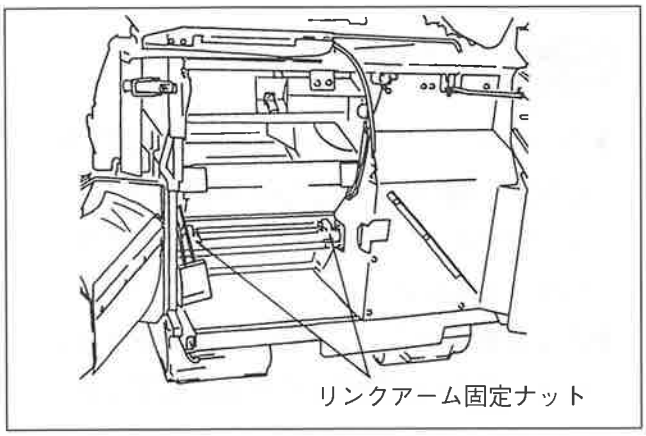
2）1番・2番ラセン部のゴム板がラセン通路に確実に入っていること。



3）こぎ室後側板のゴム板を揺動流板のリターンパンに挟込まないこと。



⑤　揺動後部リンク部の固定ナット左右各２ケを締付けます。



(3)　選別自動駆動モータの組付け

・モータを取付け，カプラを差込みます。

(4)　排塵室後部のワイヤの取付け

・操作側のワイヤ・ブラケットを通した後プレートを取付けます。(ボルト２本)

・組付け後グロメットをワイヤが強く接触しないことを確認します。

(5)　スーパーワイドセレクタワイヤの取付け

・２本のワイヤ先端をクレスピンとスナップピンで取付けます。

・取付プレートを取付け (ボルト２本)，クランプを取付けます。

・組付け後，レバーが作動することを確認します。

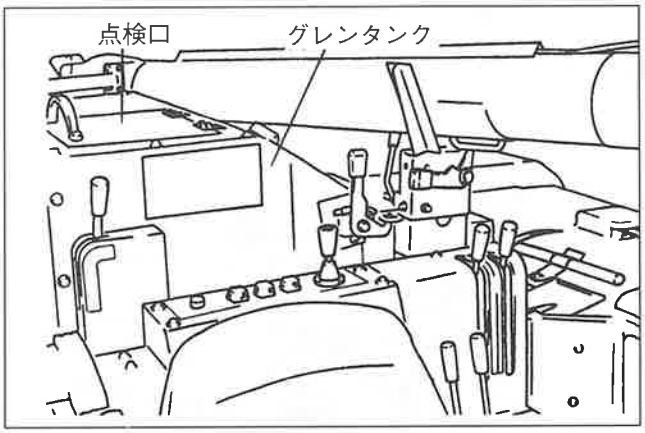
12．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクの掃除をする時は平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。

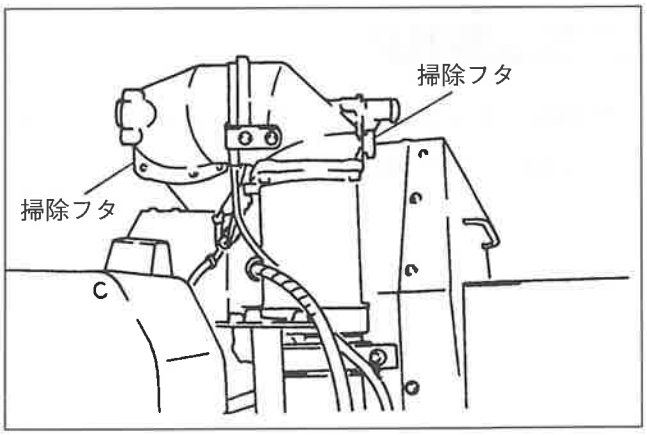
❶　グレンタンク内の掃除

グレンタンク上部の点検口より，確認し必要により，ホウキ等でホコリを払い，取出しは横ラセンカバーを開いて行います。



❷　縦ラセン筒上部の掃除

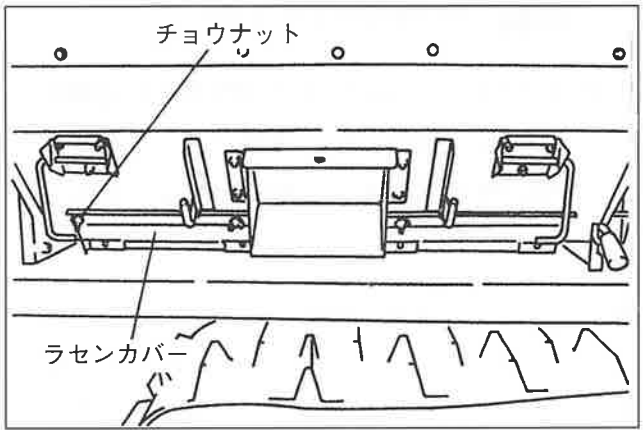
排出オーガを上げ，上部ラセン掃除フタを開いて掃除をします。



❸ **横ラセン部の掃除**

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。

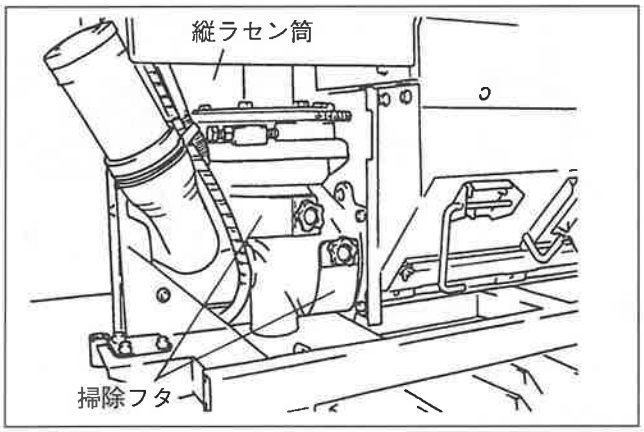
(2) ラセンカバーを開いて，掃除します。



❹ **縦ラセン筒下部の掃除**

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。

(2) 縦ラセン下部の掃除フタを開いて，掃除します。



取扱いのポイント

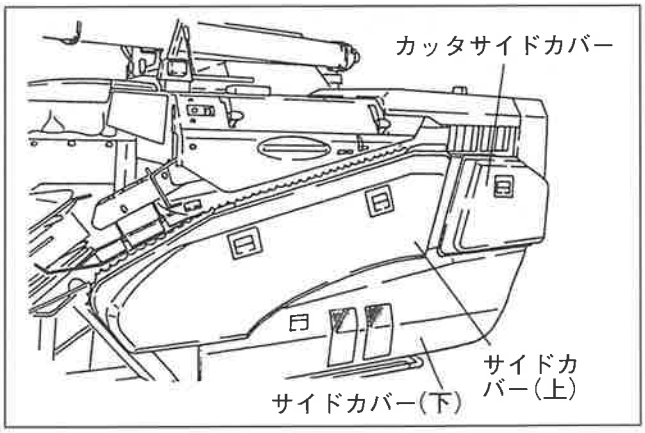
- **各掃除フタ（カバー）はモミかみ等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。**

13. カッタのオープンのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

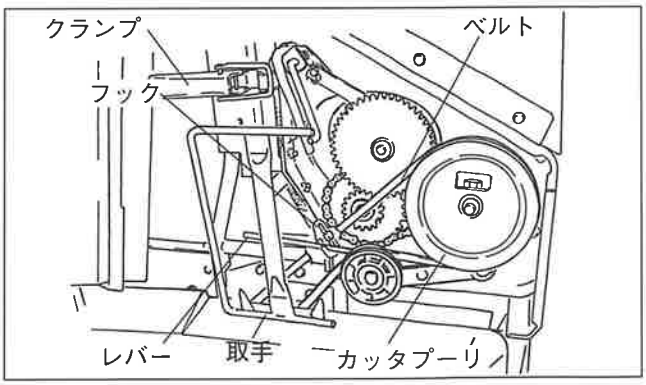
- **◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。**
- **◆カッタをオープンして点検作業等をするときは，ストッパをロック状態にしてください。カッタをいっぱい開いてから閉じる方向に戻すとストッパがロックします。ストッパをロック状態にしないとカッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。**
- **◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。**

❶ 脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



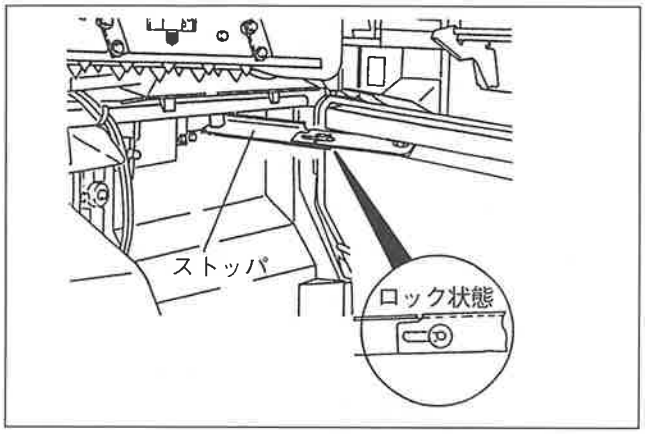
❷ レバーをフックより外し，ベルトの張りを解除します。

❸ ベルトをカッタプーリより外します。



❹ 外したレバーをフックに引っ掛けておきます。
❺ クランプを手前に引き，ロックを解除します。
❻ 取手を持ってカッタを少し上方へ持ち上げながら，後方へオープンします。

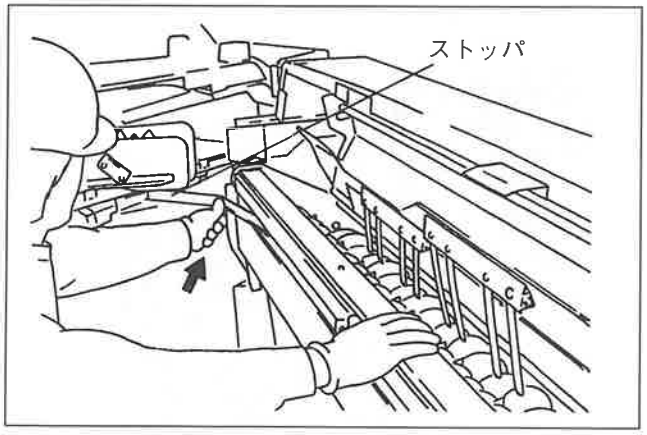
カッタはいっぱいオープンしてから閉じる方向に戻し，ロック状態にします。



❼ カッタを閉じるときはカッタのオープンの逆の手順で行います。

脱こくサイドカバー（上）・（下）を外さないでオープンできますが，カッタを閉じた時サイドカバー（下）内の駆動プーリよりベルトが外れていないか確認してください。

❽ カッタを収納するときは，カッタをいっぱい開いてストッパを矢印方向に押してから，カッタを回動します。



4. 各部の点検と部品交換のしかた

1. カッタ刃組品の取外しと分解

⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をする時はストッパをロック状態にしてチョウボルトで締付けて行なってください。
◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し２人作業で合図をし合って行なってください。

❶ カッタ刃組品の取外し

カッタ刃組品の取外しを行う場合には２とおりの方法があります。

「カッタをオープンにしてカッタ前面より行う方法」

（・ノッタ等カッタ後方に作業機が着いている場合
・スターホイル刃・ノコ刃を取外したい場合）

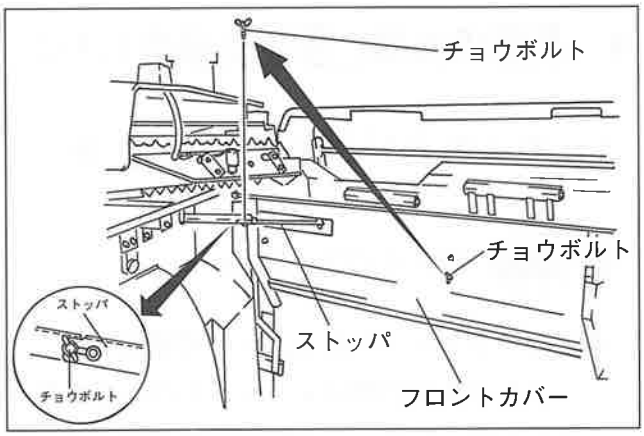
「カッタをオープンせずにカッタ後方より行う方法」

（・カッタ後部に作業機がなく，ノコ刃だけ取外す場合）

「カッタをオープンにしてカッタ前面よりカッタ刃組品の取外しを行う方法」

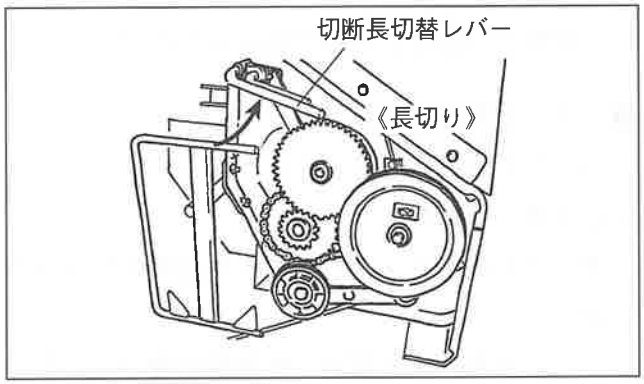
・スターホイル軸・ノコ刃軸の交換のしかた

(1) カッタをオープンし，ストッパをきかせます。
(2) カッタをいっぱいオープンしてから，閉じる方向に戻しロック状態にします。その状態でフロントカバーのチョウボルトを外し，ストッパ部に締付けます。

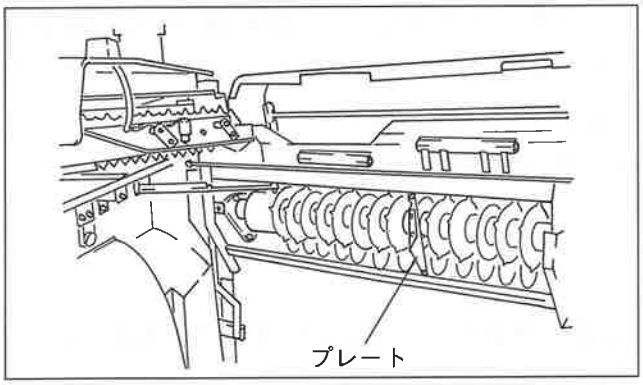


(3) フロントカバーを取外します。

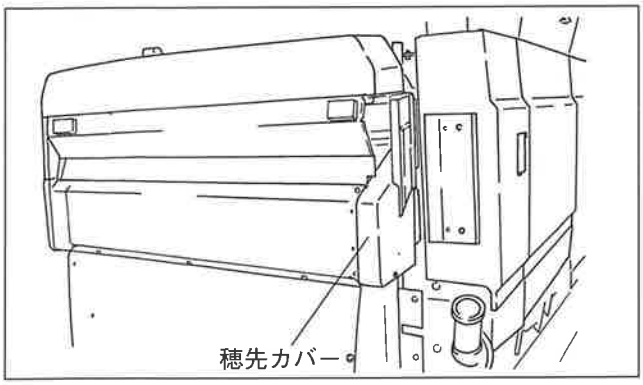
(4) 切断長切替レバーを《**長切り**》位置にします。



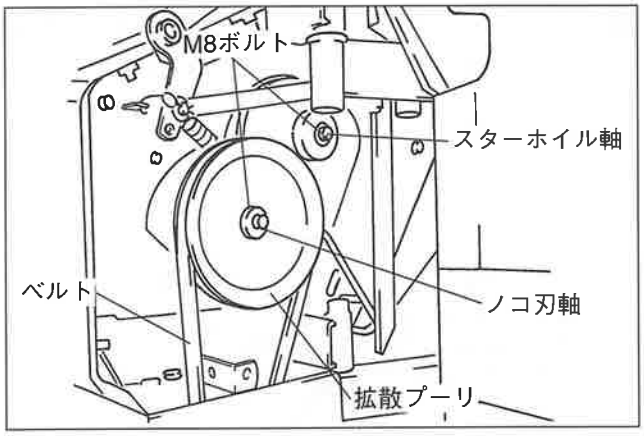
(5) プレートを取外します。



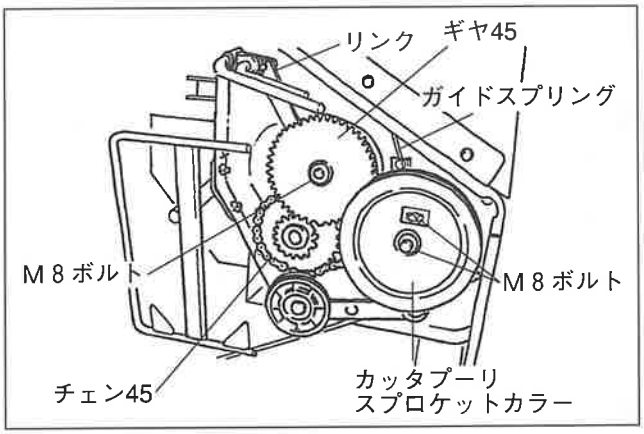
(6) 穂先カバーを取外し，スターホイル軸，ノコ刃軸のＭ８ボルトをゆるめます。(ボルトは外しません)



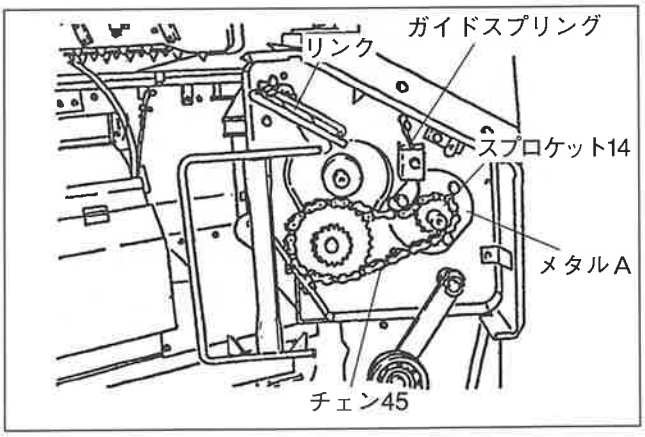
※「図６」



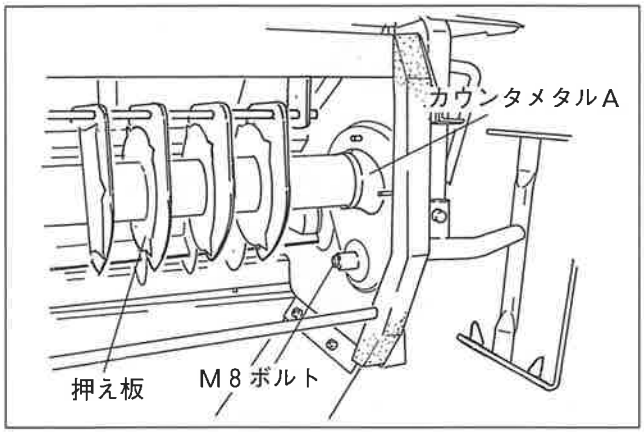
(7)・機体左側のカッタプーリ部のＭ８ボルト２本をゆるめカッタプーリ，カラーを取外します。
・ギヤ45を取外します。



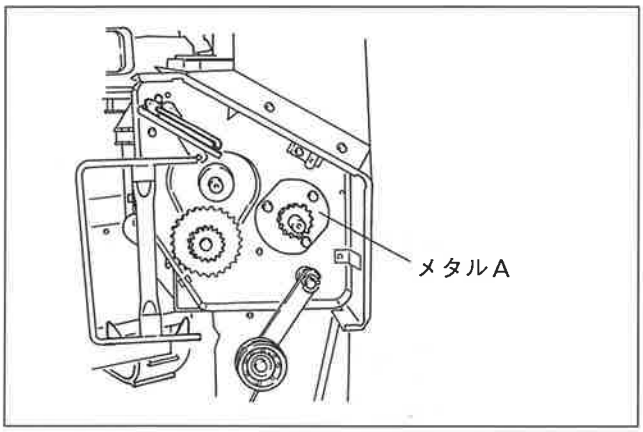
(8)・ガイドスプリングを外し，チェン45を継ぎ部で取外します。スプロケット14を取外します。
・リンクを取外します。



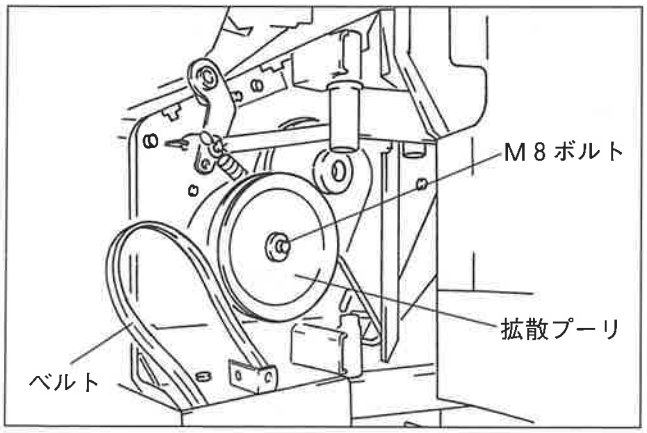
(9) カウンタメタルAを取付けているM8ボルトを外します。

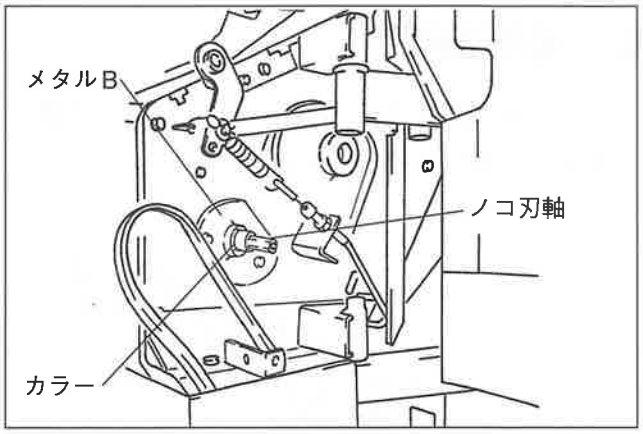


(10) スターホイル軸組品を外すときにスターホイル軸の押え板とノコ刃が接触するため，メタルAを取外します。



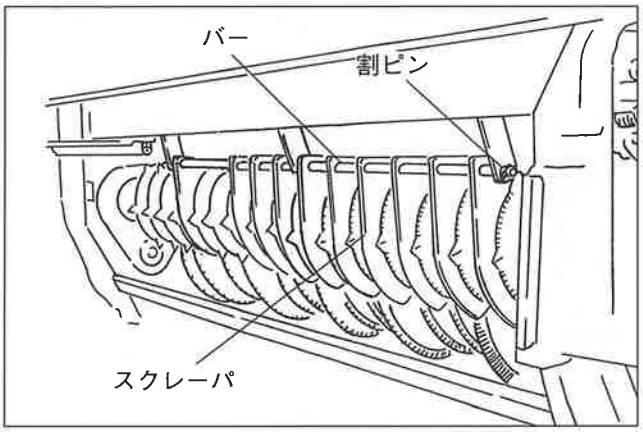
(11)・ノコ刃軸右側（穂先側）の拡散ラセン駆動プーリよりベルトを外します。
・先にゆるめたプーリを止めているM8ボルトを外し，拡散プーリとカラーを取外します。
・メタルBを取外します。



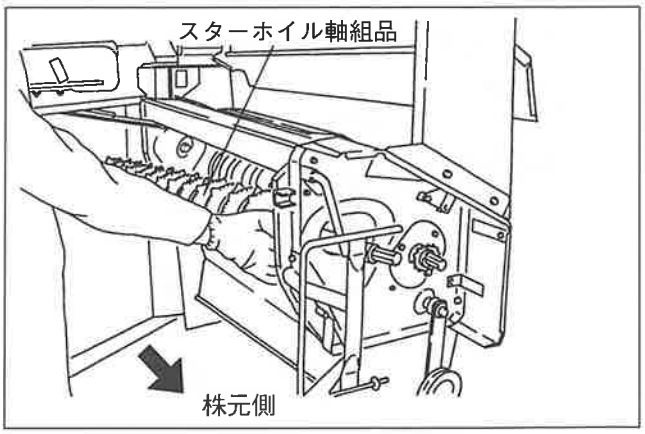


(12) スターホイル軸の右側（穂先側）の103ページの(6)「**図6**」でゆるめたM8ボルトを外します。

(13) スクレーパを通しているバー両側の割ピンを外しバーを抜取ります。

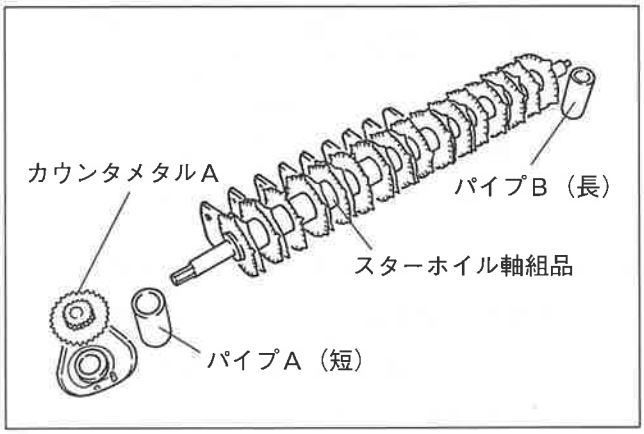


(14) 2人で両側を持って左側方向（株元側）にずらし，カウンタメタルAを外すと共に，スターホイル軸組品を取外します。

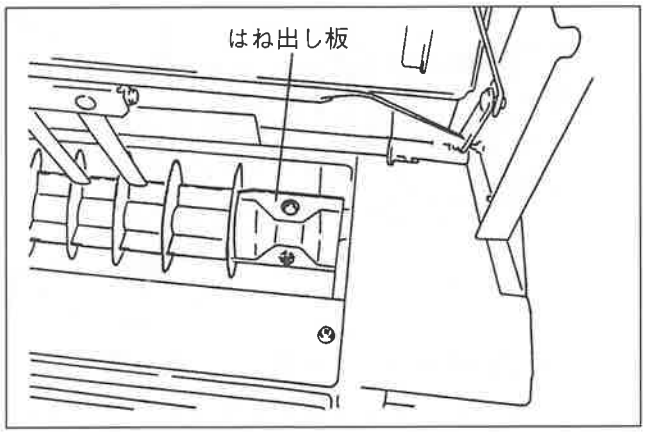


取扱いのポイント

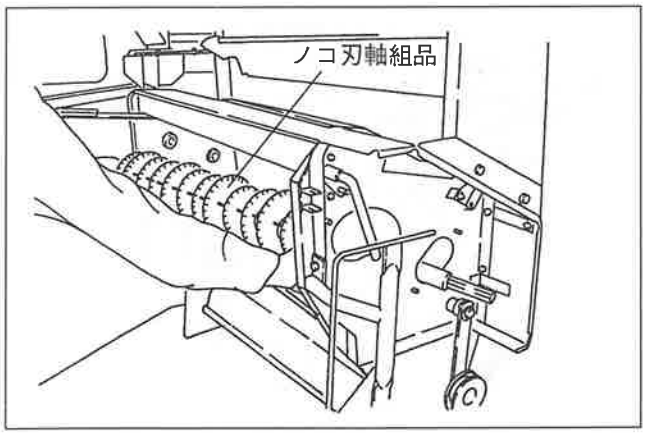
●パイプA（短）とパイプB（長）は長さが違います。（108～109ページ図）



(15) ノコ刃軸の左側（株元側）のはね出し板を外します。

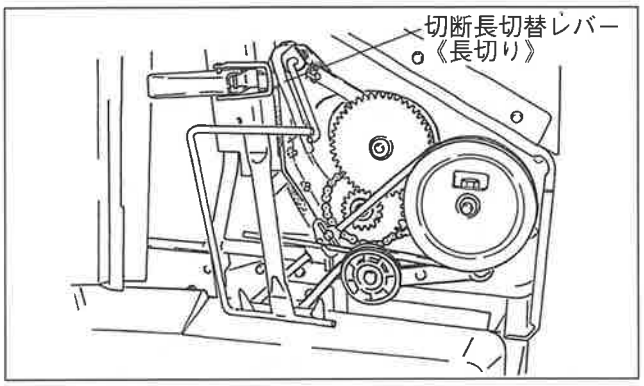


(16) 2人でノコ刃軸組品の両側を持って外します。

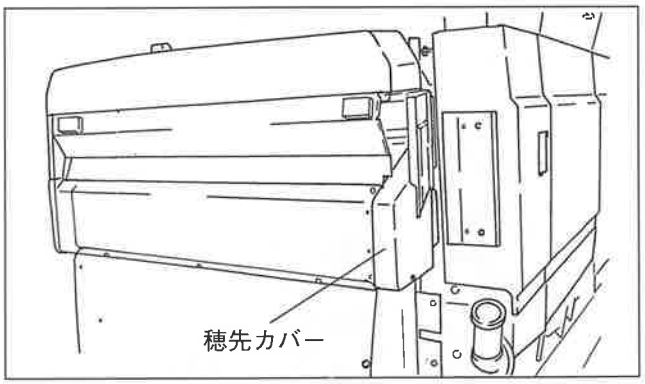


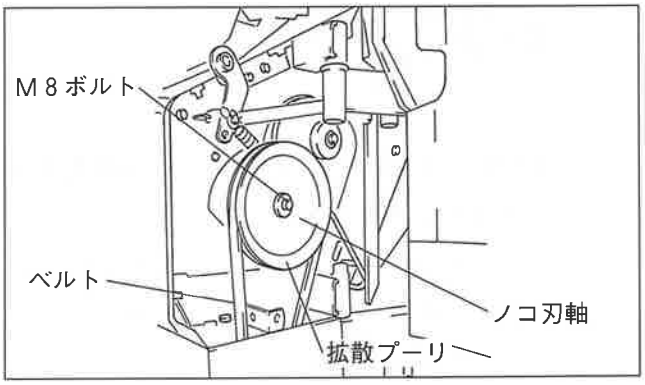
「カッタ後方よりノコ刃軸組品を外す場合」

(1) 切断長切替レバーを《**長切り**》位置にします。

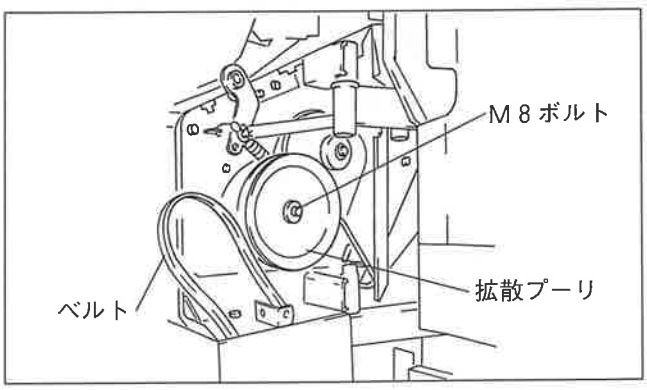


(2) 穂先カバーを外しノコ刃軸のM8ボルトをゆるめます。（ボルトは外しません）

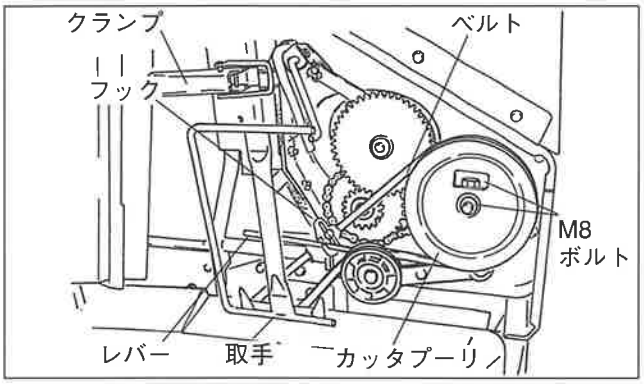




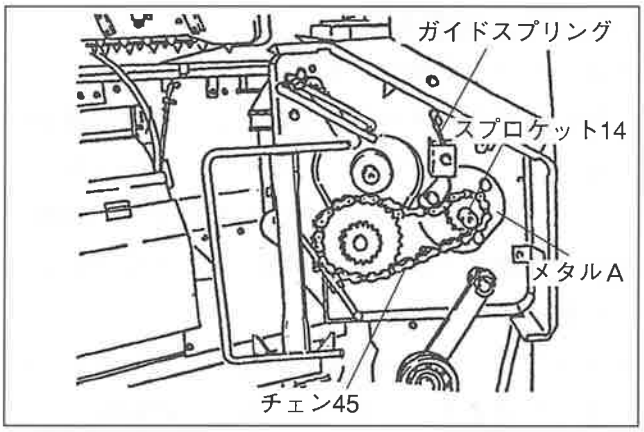
(3) 拡散プーリよりベルトを外します。
M8ボルトを外し，プーリ，カラーを取外します。



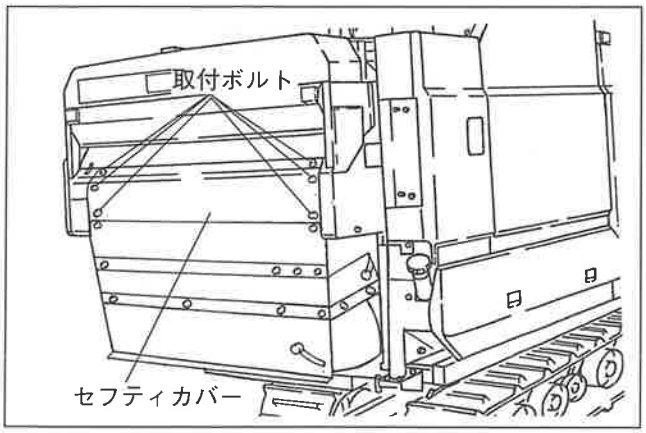
(4) レバーをフックより外し，ベルトテンションをゆるめます。
ベルトをカッタプーリより外します。



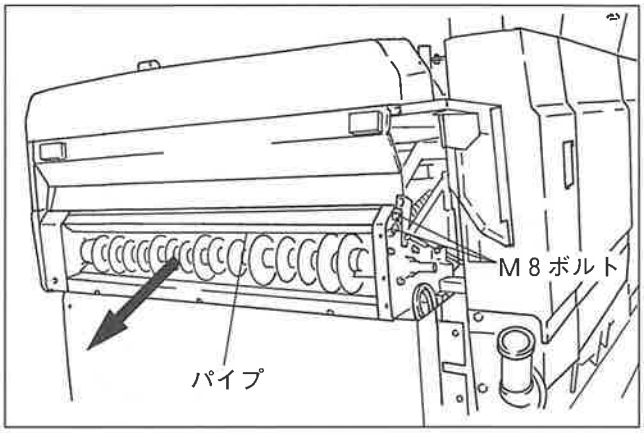
(5)・M８ボルト２本を取外し，カッタプーリ，カラーを外します。
・ガイドスプリングを外し，チェン45を継ぎ部より外し，スプロケット14を外します。



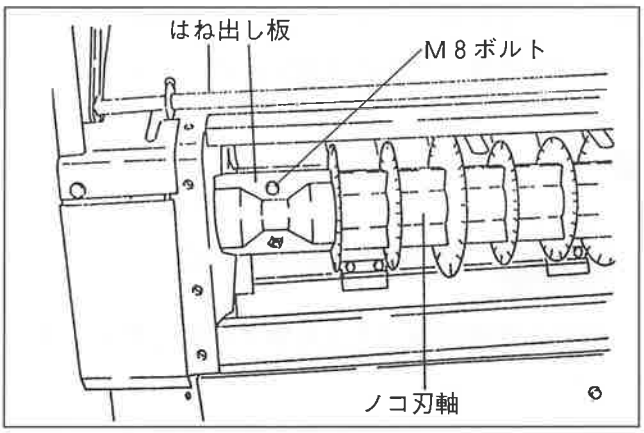
(6) セフティカバーの取付ボルトを外し，セフティカバーを取外します。



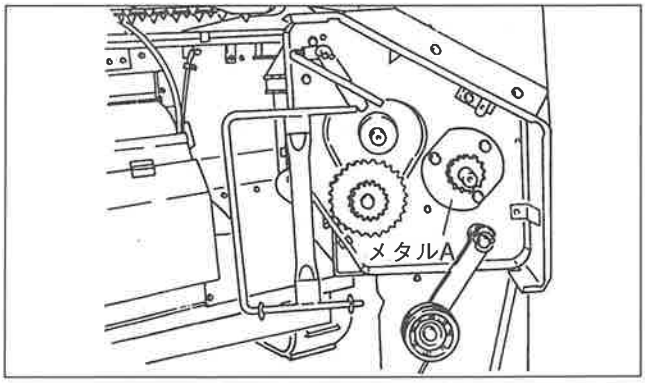
(7) 左右のM８ボルトを外し，パイプを後方へ取外します。

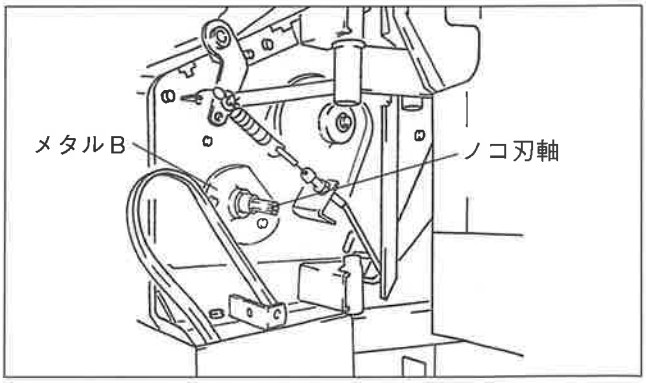


(8) ノコ刃軸，左右ハネ出し板をM８ボルトを外し取外します。

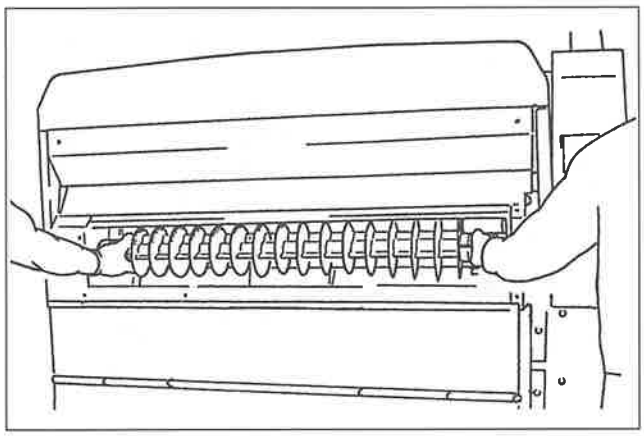


(9) 機体左側のメタルＡを外した後，穂先側のメタルＢを外します。





(10) 2人作業でノコ刃軸組品の両側を持って取外します。



取扱いのポイント

- **ノコ刃軸組品及びスターホイル軸組品を組付ける時は取外しの逆の手順で行なってください。**

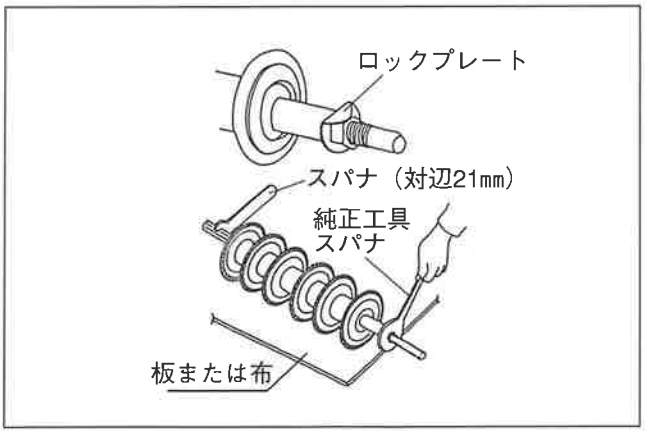
❷ 刃の交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

- **◆刃の交換作業は2人作業で行なってください。**
- **◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。**

(1) 刃先を傷付けないよう板又は布を下に敷いてください。

(2) シャフトの分解はロックプレートを伸ばし，専用工具のスパナをナットにかけ，21㎜スパナをシャフトの六角部の対辺に固定し，専用スパナでナットをゆるめます。

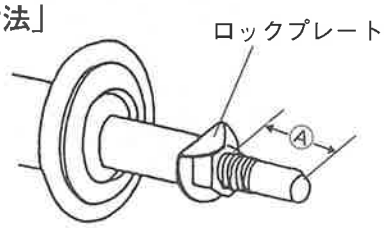


(3) 軸にそって部品を抜取ります。

(4) ノコ刃，スターホイル刃を新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。(ノコ刃，スターホイル刃の組立て図参照)

(5) M22のナットで「**標準締付寸法**」に締付け，ロックプレートを折り曲げます。

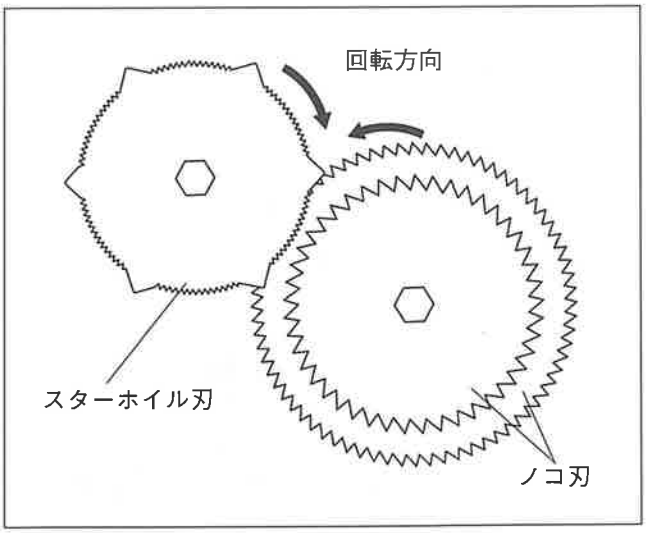
「**標準締付寸法**」



軸	寸法
スターホイル軸	22.5㎜
ノコ刃軸	85.5㎜

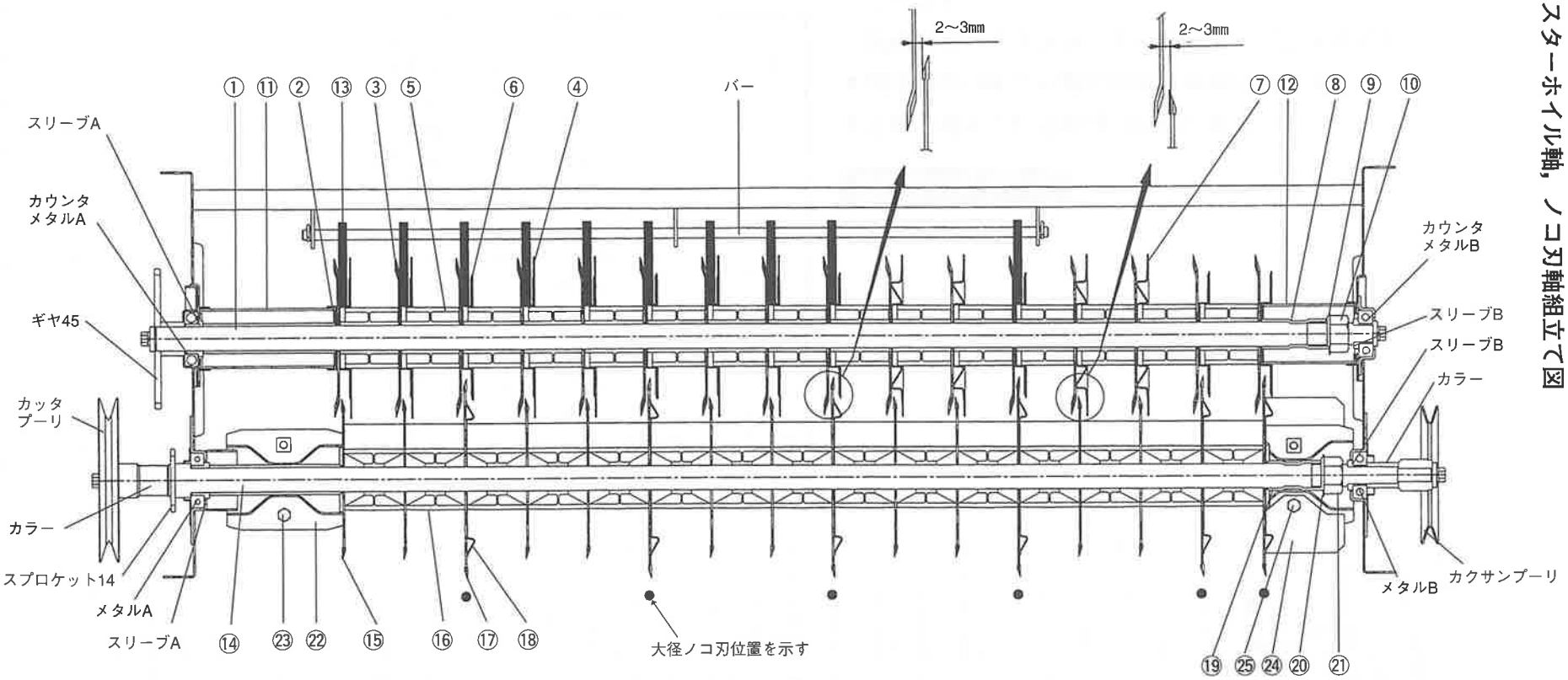
取扱いのポイント

- **カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，スターホイル刃とノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃のスキマは2～3㎜が最適です。(108～109ページ参照)**
- **刃の交換はスターホイル軸，ノコ刃軸片側ずつ行なってください。**
- **ノコ刃，スターホイル刃の取付けのときは刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。**



● [DM33型（マルチカッタ）]

スターホイル軸，ノコ刃軸組立て図



No	スターホイル刃軸構成部品	個数
①	シャフトB	1
②	オサエバン（φ64）	1
③	スターホイル刃	16
④	オサエバン（φ162，段付）	6
⑤	パイプB（L＝57.4）	15
⑥	オサエバン（φ126）	6
⑦	オサエバン（φ162，段なし）	4
⑧	パイプ（L＝66）	1
⑨	ロックプレート	1
⑩	ナット（M22×1.5）	1
⑪	エンビパイプA（L＝131）	1
⑫	エンビパイプB（L＝89）	1
⑬	スクレーパ	10

No	ノコ刃軸構成部品	個数
⑭	シャフトA	1
⑮	ノコ刃（φ160）	10
⑯	パイプA（L＝58.4）	15
⑰	ノコ刃（φ200）	6
⑱	オサエバン（φ155）	6
⑲	ロックパイプ（L＝56）	1
⑳	ロックプレート	1
㉑	ナット（M22×1.5）	1
㉒	ハネダシバン	2
㉓	ボルト	2
㉔	ハネダシバン 2	2
㉕	ボルト	2

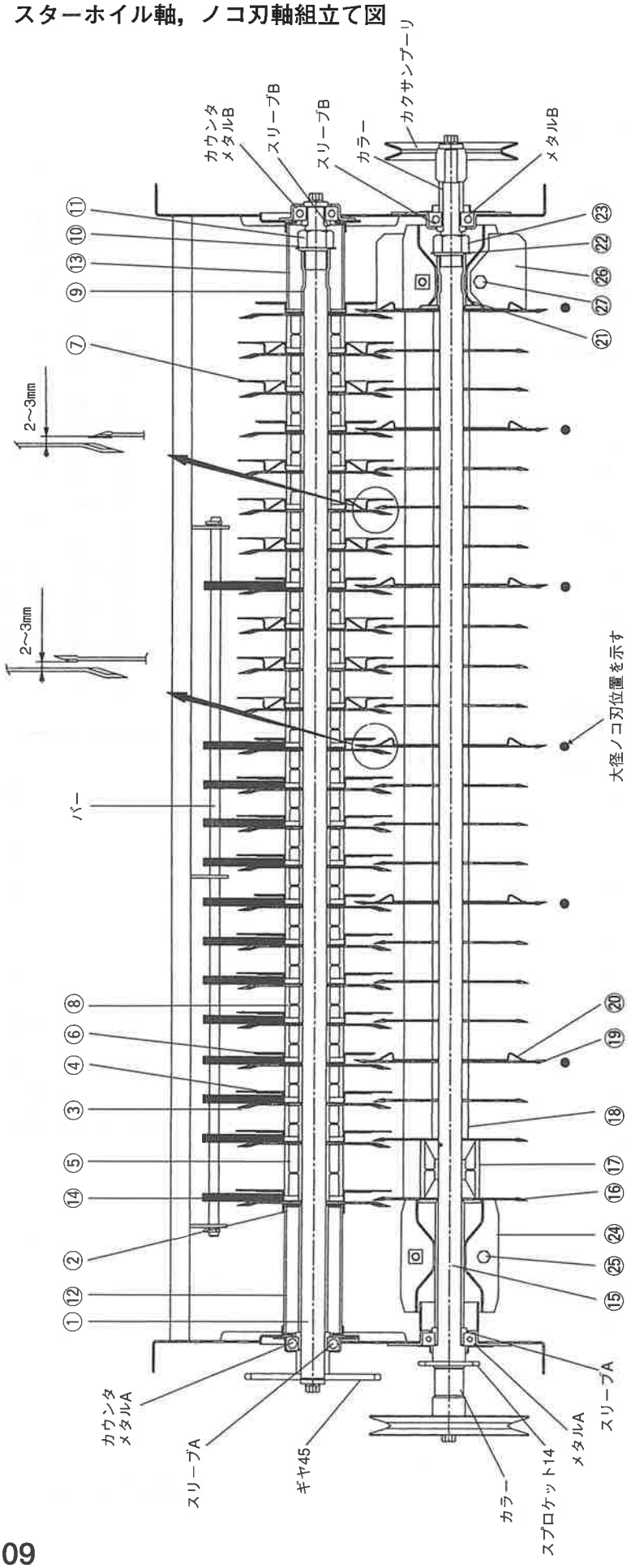
単位：mm

取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

● ［DM33S型（スーパーマルチカッタ）］

スターホイル軸，ノコ刃軸組立て図



No	スターホイル刃軸構成部品	個数
①	シャフトB	1
②	オサエバン（φ64）	1
③	スターホイル刃	23
④	オサエバン（φ162，段付）	9
⑤	パイプB（L＝57.4）	1
⑥	オサエバン（φ126）	6
⑦	オサエバン（φ162，段なし）	8
⑧	パイプD（L＝37.4）	21
⑨	パイプ（L＝66）	1
⑩	ロックプレート	1
⑪	ナット（M＝22×1.5）	1
⑫	エンビパイプA（L＝131）	1
⑬	エンビパイプB（L＝89）	1
⑭	スクレーパ	13

No	ノコ刃軸構成部品	個数
⑮	シャフトA	1
⑯	ノコ刃（φ160）	17
⑰	パイプA（L＝58.4）	1
⑱	パイプC（L＝38.4）	21
⑲	ノコ刃（φ200）	6
⑳	オサエバン（φ155）	6
㉑	ロックパイプ（L＝56）	1
㉒	ロックプレート	1
㉓	ナット（M22×1.5）	1
㉔	ハネダシバン	2
㉕	ボルト	2
㉖	ハネダシバン2	2
㉗	ボルト	2

単位：mm

取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

2．爪の交換のしかた

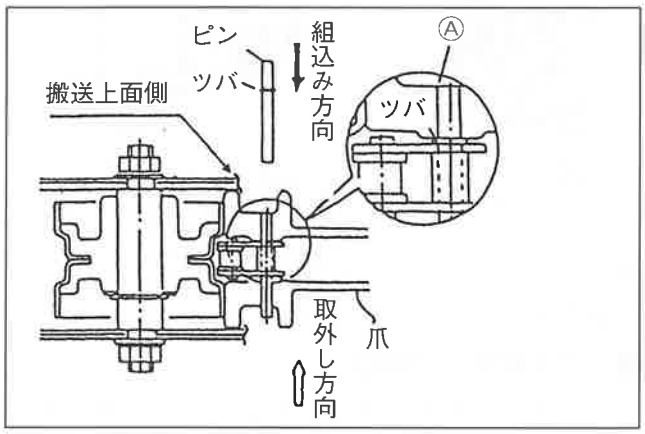
（引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪，穂先排ワラ爪）

❶ 爪の取外し

爪を取付けているピンを突き出ている側から，たたいて抜取り，爪を取外します。（ピンは強くたたかなくても抜けます。）

❷ 爪の組込み

ピンはツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。（図示Ⓐ部参照）



3．ホース類の点検と交換

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，損傷したりもれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出しヤケドをする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホース等の燃料もれ，水もれがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（87ページ参照）**

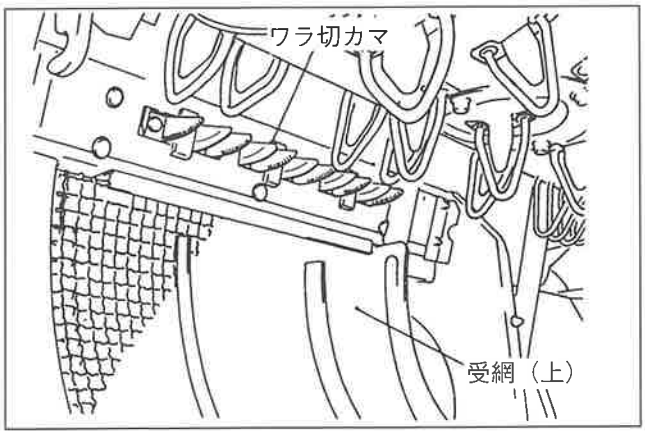
4．ワラ切カマの手入れ

⚠警告　傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
◆こぎ胴部が開いている時は，ノッチを《自動ロック解除レバー・固定》の方向に動かし，レバーを固定しておきます。
◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。
◆ワラ切カマをグラインダで研磨する時は保護メガネを着用し，カマを万力に確実に固定して行なってください。

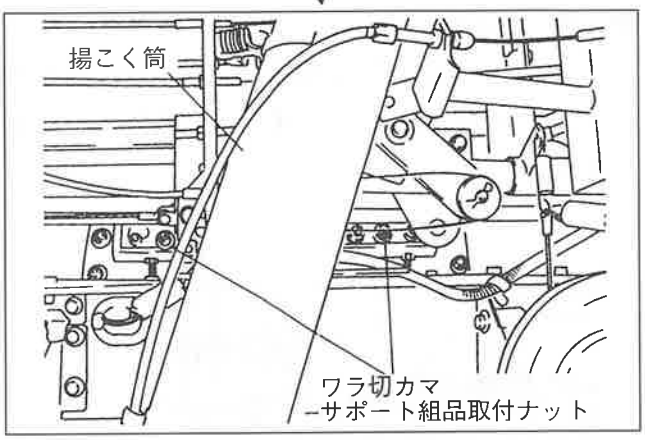
❶ ワラ切カマの取外し

(1) こぎ胴部を開きます。



(2) グレンタンクを開きストッパを掛けます。

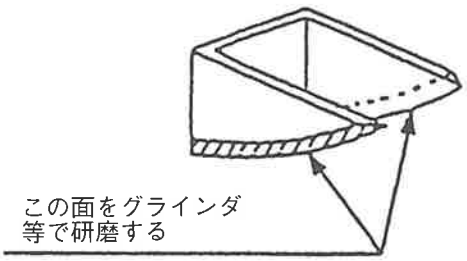




(3) ワラ切カマサポート組品で取外します。ワラ切カマをサポートから取外します。

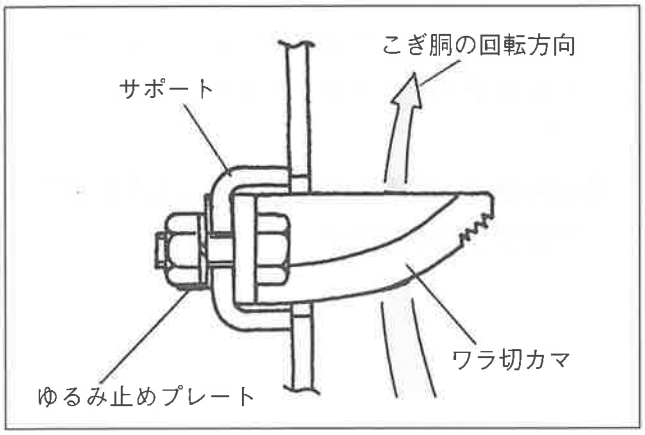
❷ ワラ切カマの研磨

外したワラ切カマをグラインダ等で研磨します。



❸ ワラ切カマの取付け

ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐに締付けます。



取扱いのポイント

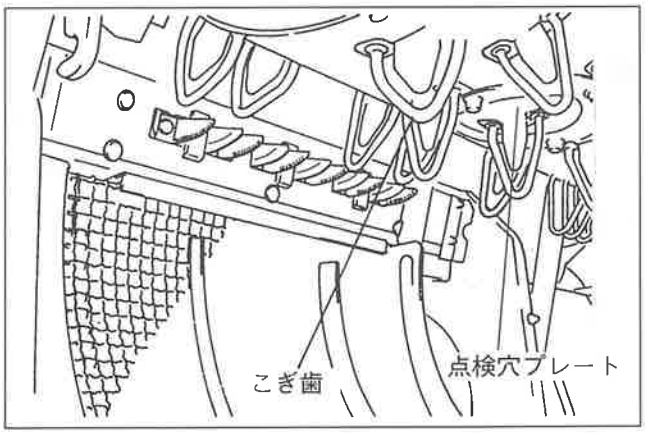
- ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下します。ワラ切カマを取外し研磨してください。
- こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。

5. こぎ歯の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
- ◆こぎ胴部が開いている時は，ノッチを《自動ロック解除レバー・固定》の方向に動かし，レバーを固定しておきます。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。

❶ こぎ胴部を開きます。



❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

取扱いのポイント

- こぎ胴の点検穴プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますのでボルトが摩耗し始めた時も交換が必要です。

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

「レバー・ペダルの点検・調整」

1. マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

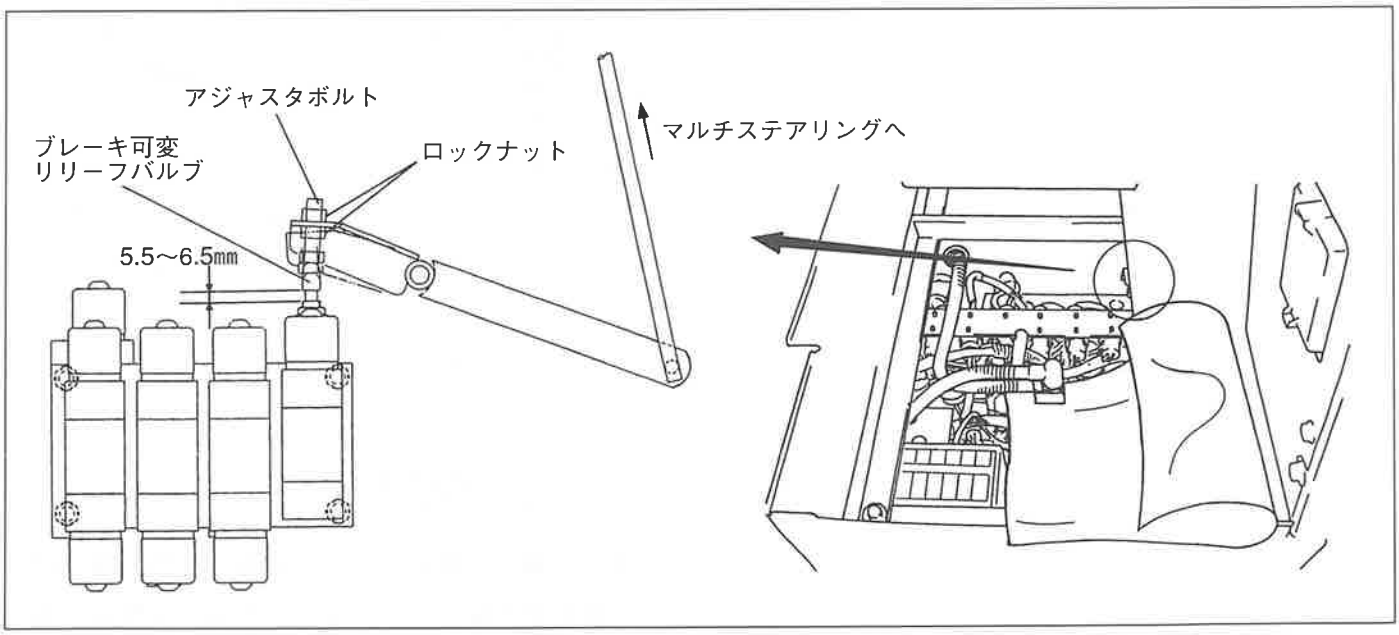
◆マルチステアリングレバーのアジャスタボルトの調整が適正でないと旋回が悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

エンジン停止直後レバーを動かさずに中立状態でブレーキ可変リリーフバルブのスキマが 5.5～6.5mm になっていますか。

❷ 調整

運転席のステップカバーを開き，ロックナットをゆるめ，アジャスタボルトで調整します。



2. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいとクラッチの切れやブレーキのききが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

(1) 走行クラッチペダル先端の遊びが **40～55mm** になっていますか。

(2) 坂道（12°以内）で，駐車ブレーキをかけたときに機械が停止していますか。

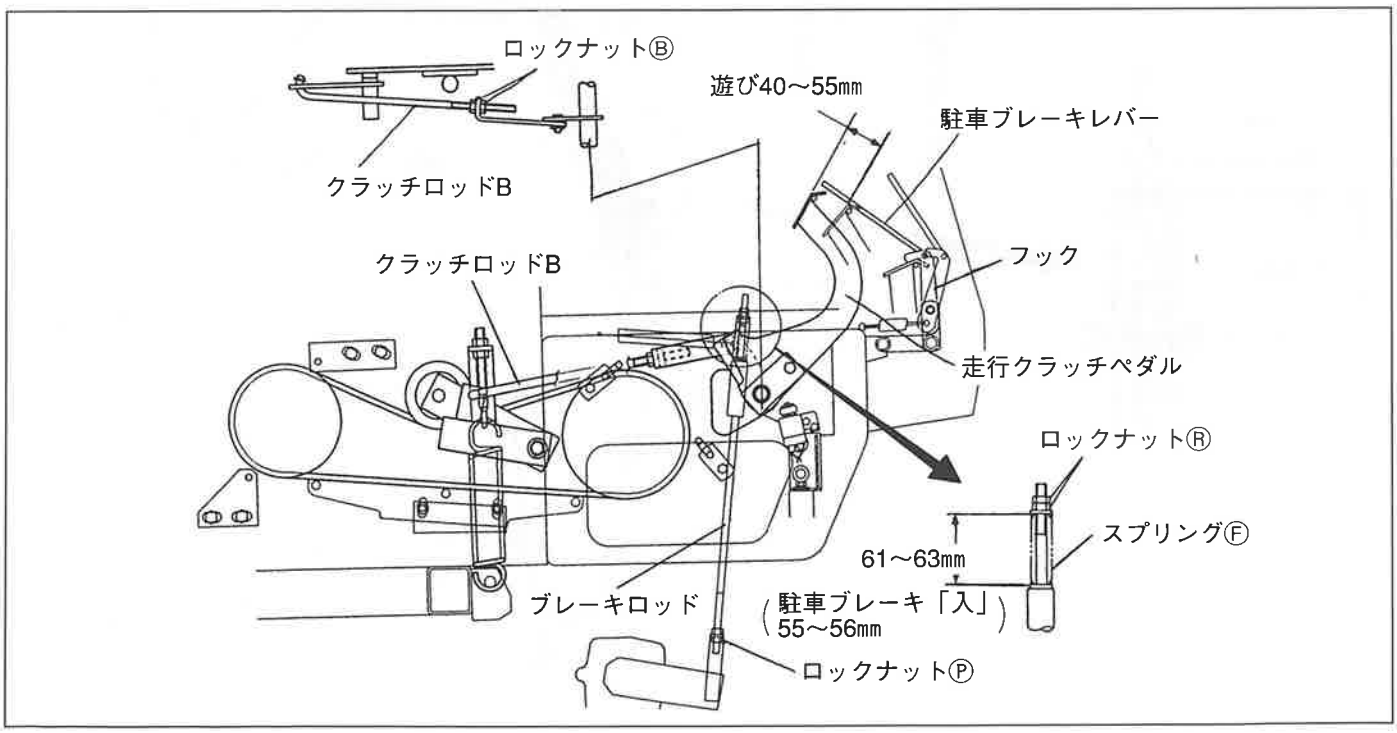
❷ 調整

(1) クラッチロッドBのロックナットⒷをゆるめて，ペダル先端の遊びを **40～55mm** に調整します。調整後，ロックナットⒷを締付けます。

(2) 1）駐車ブレーキの調整は，走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さを **61～63mm** にロックナットⓇで調整します。

2）つぎに，走行クラッチペダルを踏んで駐車ブレーキレバーでフックをかけた状態でスプリング長さを **55～56mm** にブレーキロッドのロックナットⓅをゆるめて調整します。

3）調整後，ロックナットⓇ，Ⓟを締付けます。



3. 刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバー

「刈取クラッチレバー」

❶ 点検

刈取部をいっぱい下げた状態で，刈取クラッチレバーが《入》のとき，スプリングのⓁ寸法が **170～173mm** になっていますか。

❷ 調整

タイトアーム側のロックナットⒶをゆるめて刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

「作業機クラッチレバー」

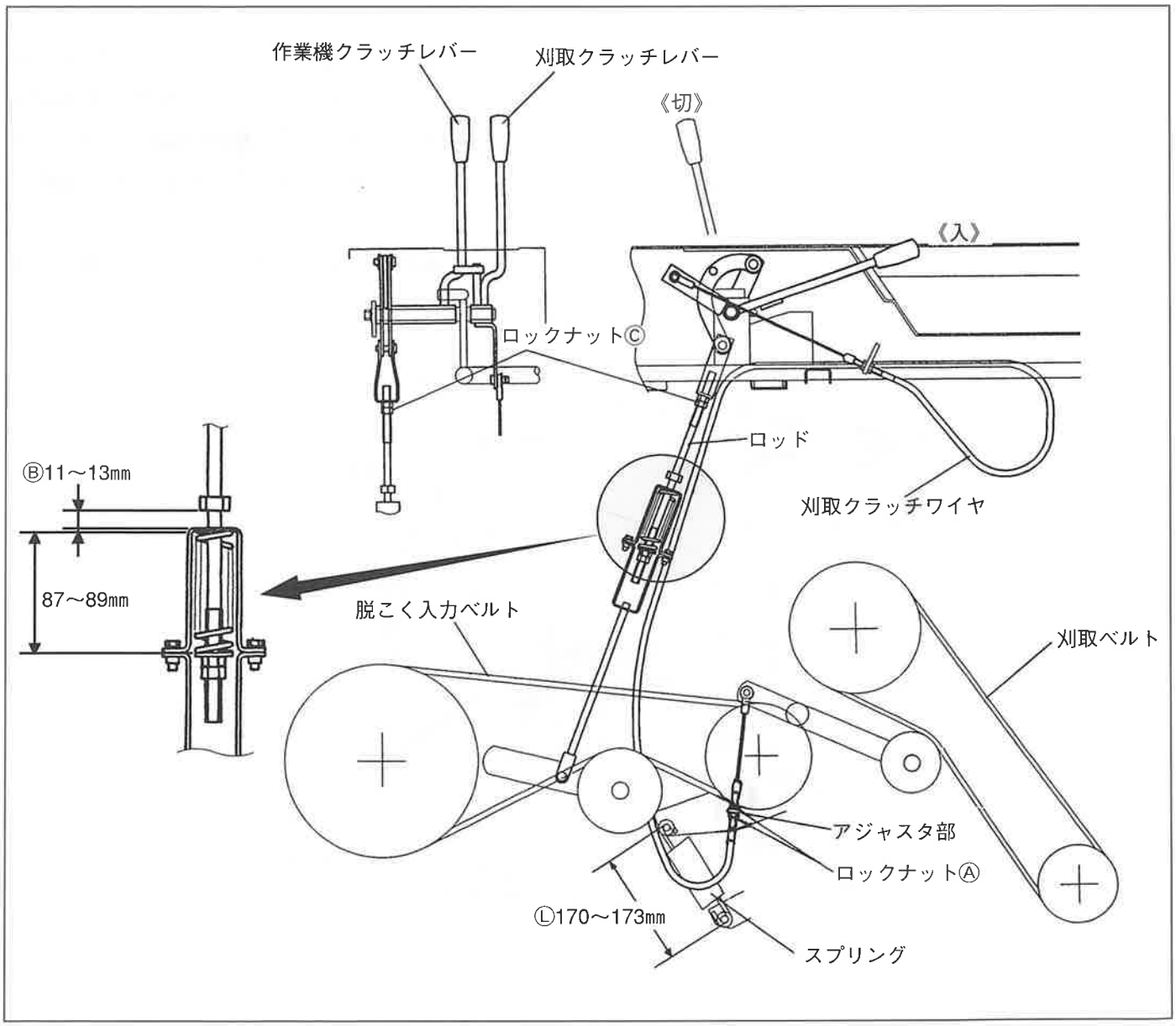
❶ 点検

作業機クラッチレバー《入》のとき，Ⓑ部スキマが **11～13mm** になっていますか。

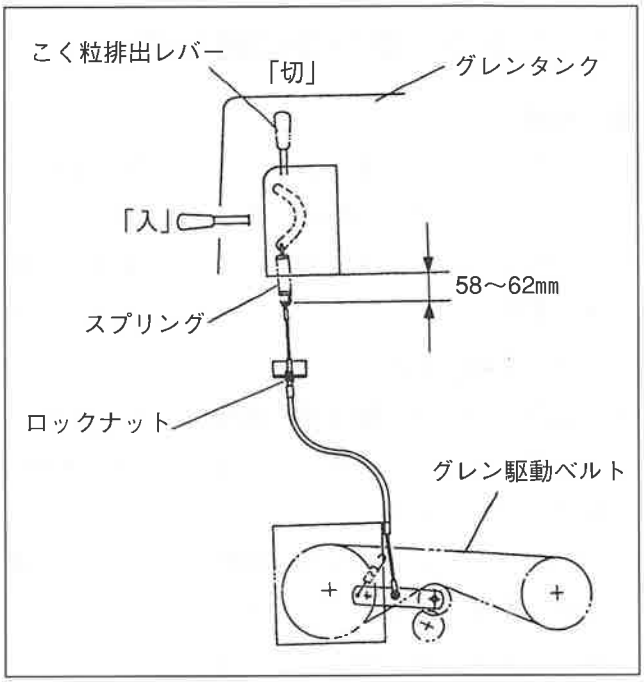
又はスプリング長さ **87～89mm** になっていますか。

❷ 調整

ロックナットⒸをゆるめて，ロッド長さを調整します。



4. こく粒排出レバー



❶ 点検

こく粒排出レバー「入」のとき，カバー下端面よりスプリングフックまでの長さが 58～62mm になっていますか。

❷ 調整

ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。

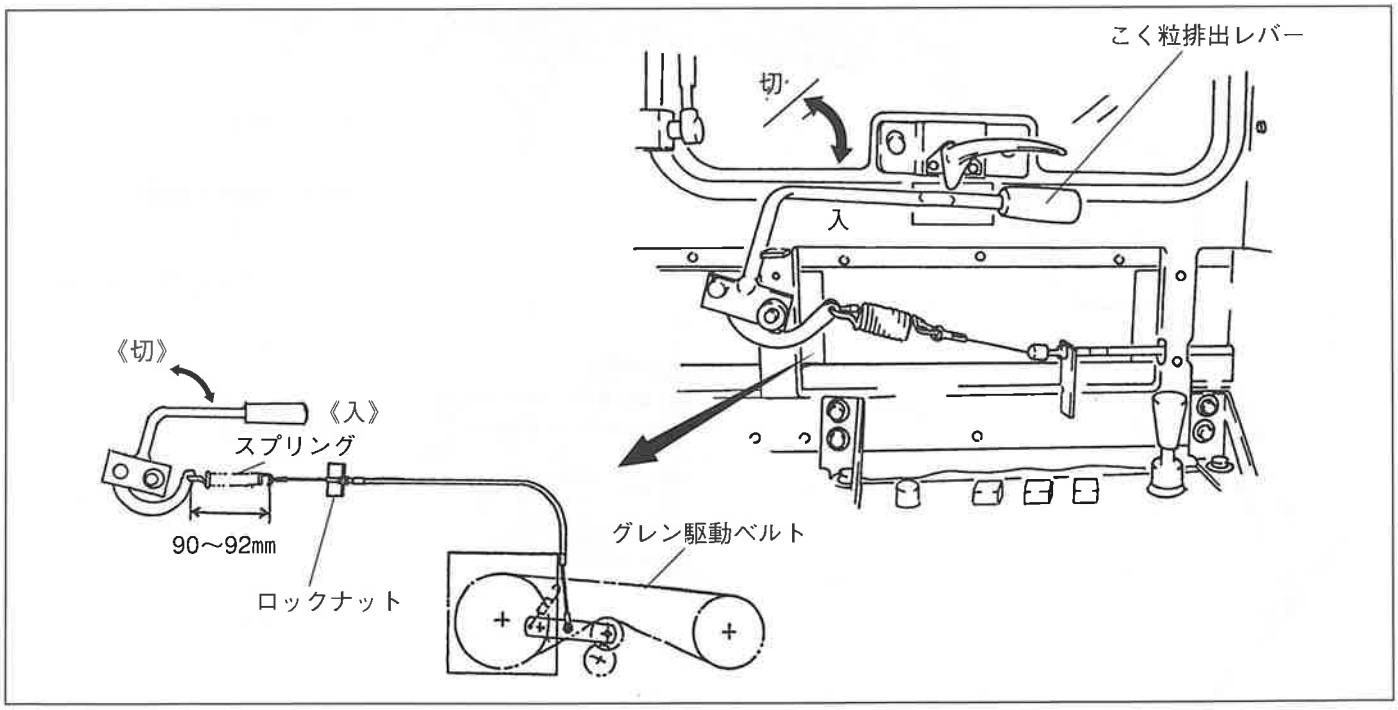
[キャビン仕様]

❶ 点検

こく粒排出レバー「入」のとき，スプリングの長さが 90～92mm になっていますか。

❷ 調整

ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめてワイヤのアジャスタ部で調整します。



5. カッタ・排ワラ切替レバー

❶ 点検

(1) 切替レバーを《**カッタ**》にしたとき，レールの寸法L_1が **20～30mm** になっていますか。

(2) 切替レバーを《**カッタ**》または《**排ワラ（標準・長稈）**》にしたとき，スプリング②の寸法L_2が **142～144mm** になっていますか。

(3) 切替レバーを《**排ワラ（短稈）**》にしたとき，ワイヤ①③のフック④の寸法L_3が **3～4mm** 遊びがありますか。

(4) 切替レバーを《**排ワラ（短稈）**》または《**排ワラ（標準・長稈）**》にしたとき，スプリング⑤が **1～2mm** 遊んでいますか。

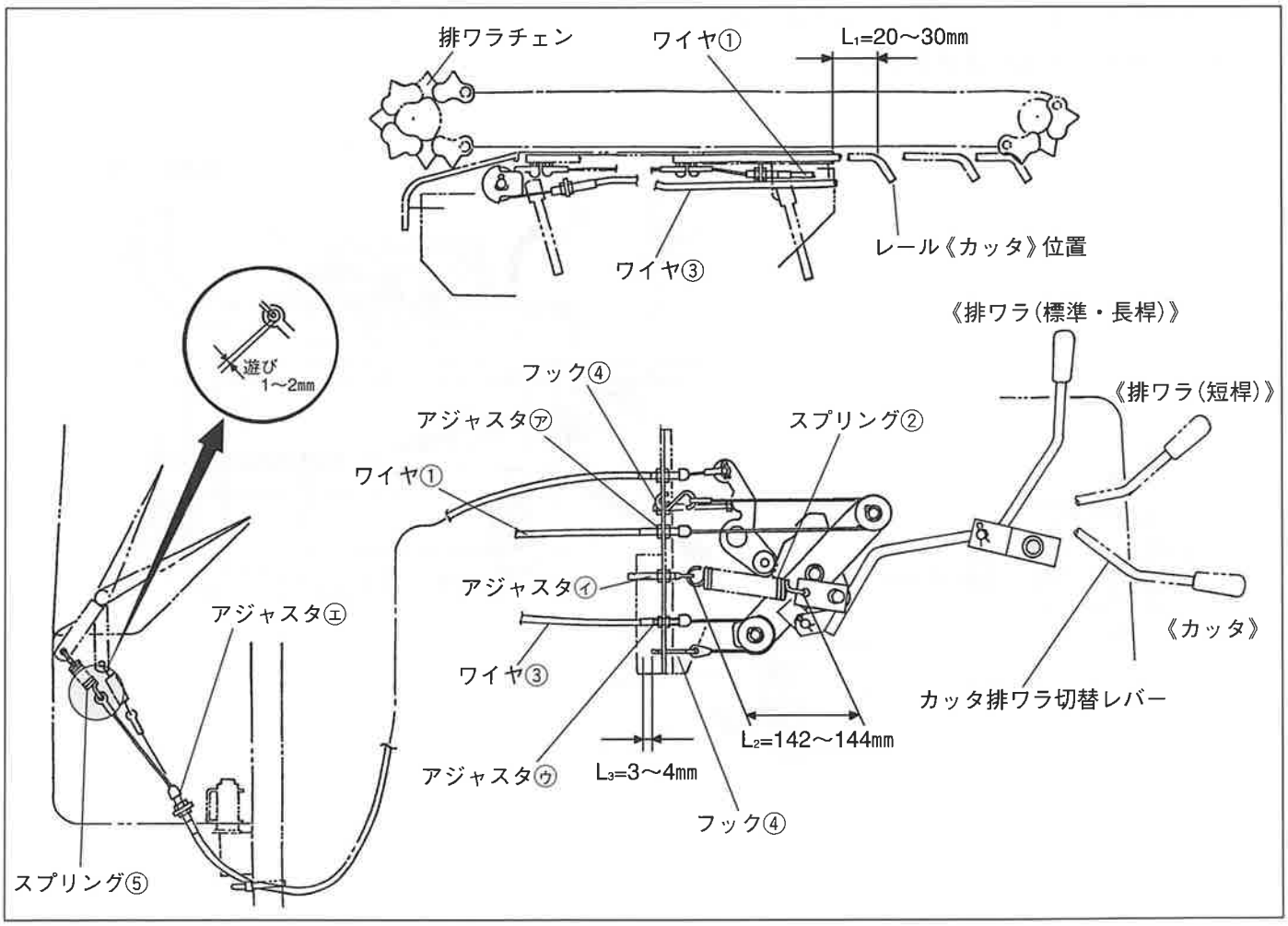
❷ 調整

(1) 切替レバーを《**カッタ**》にしワイヤ①のアジャスタ㋐で調整します。

(2) 切替レバーを《**カッタ**》または《**排ワラ（標準・長稈）**》にしアジャスタ㋑で調整します。

(3) 切替レバーを《**排ワラ（短稈）**》にしワイヤ①又は③のアジャスタ㋐又は㋒で調整します。

(4) 切替レバーを《**排ワラ（短稈）**》または《**排ワラ（標準・長稈）**》にしアジャスタ㋓で調整します。



6. リフトシャットレバー

⚠警告 傷害事故を防止するために

◆リフトシャットの点検・調整時はリフトシャットレバーを《切》にして油圧を固定して行なってください。

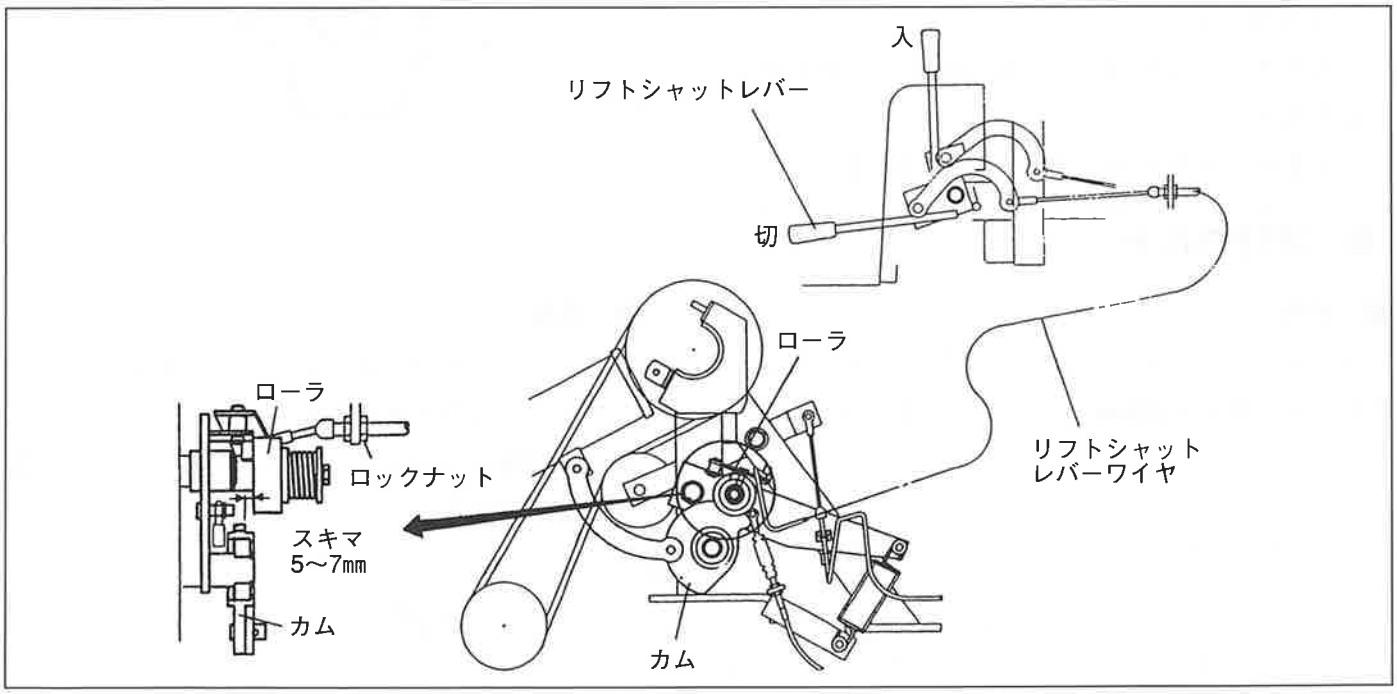
❶ 点検

リフトシャットレバーが《**切**》のときカムとローラのスキマが **5～7㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部をいっぱい上げ，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にし，フックをかけ，刈取部の下に固定脚を入れます。(19ページ参照)

(2) リフトシャットレバーワイヤのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



「ベルトの点検・調整」

7. エンジンファンベルト

⚠警告 ヤケド防止のために

◆ファンベルトの点検・調節はエンジンが冷えてから行なってください。

❶ 点検

ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が 10〜13mm となっていますか。

❷ 調整

(1) エンジンカバーを開きます。

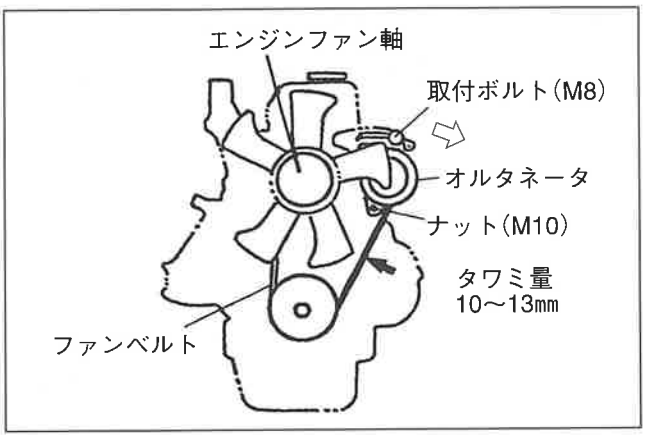
(2) オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめます。

・オルタネータを矢印（⇨）側に倒すとベルトが張れます。

(3) 調整後，取付ボルトナットを締付けます。

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換した時は，各スプリングの寸法やベルトガイド等を正規の寸法に調整してください。



8. 走行ベルト

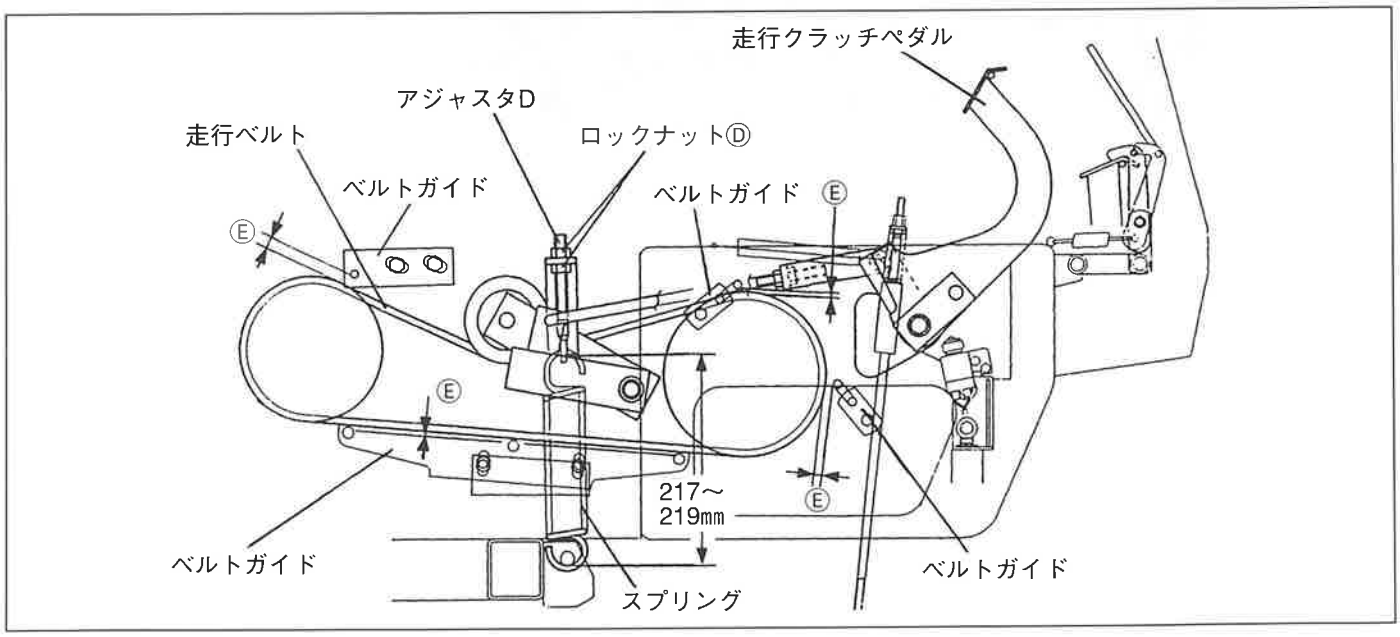
❶ 点検

走行クラッチペダルを踏まない状態でスプリング長さが 217〜219mm になっていますか。

❷ 調整

(1) アジャスタDのロックナットⒹをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) ４個所のベルトガイドのスキマⒺを 3〜5 mm に調整します。



9. こぎ胴伝動ベルト

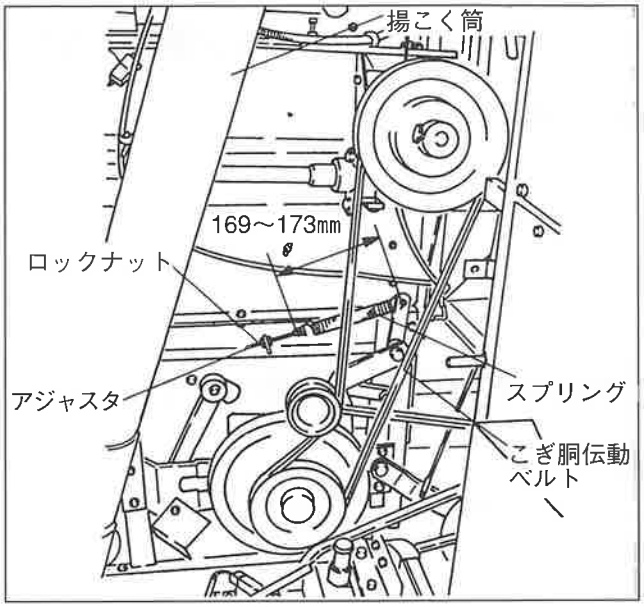
❶ 点検

スプリング長さが 169～173mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。

(2) アジャスタのロックナット をゆるめてスプリング長さを調整します。



10. こぎ胴ベルト

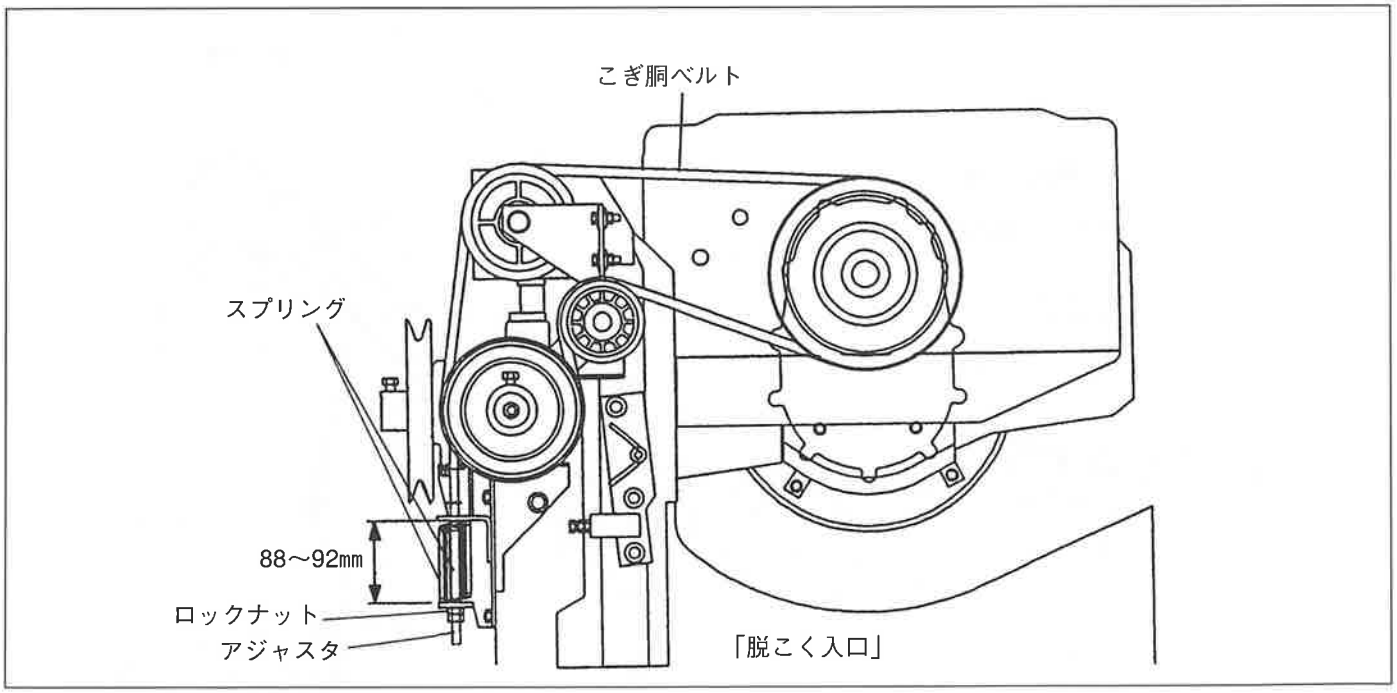
❶ 点検

スプリングのセット寸法が 88～92mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。



11. 脱こくフィードチェン駆動ベルト

❶ 点検

スプリング長さが 88～92mm になっていますか。

❷ 調整

脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

12. 1番ラセン駆動ベルト

❶ 点検

スプリング長さが 122～126mm になっていますか。

❷ 調整

脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

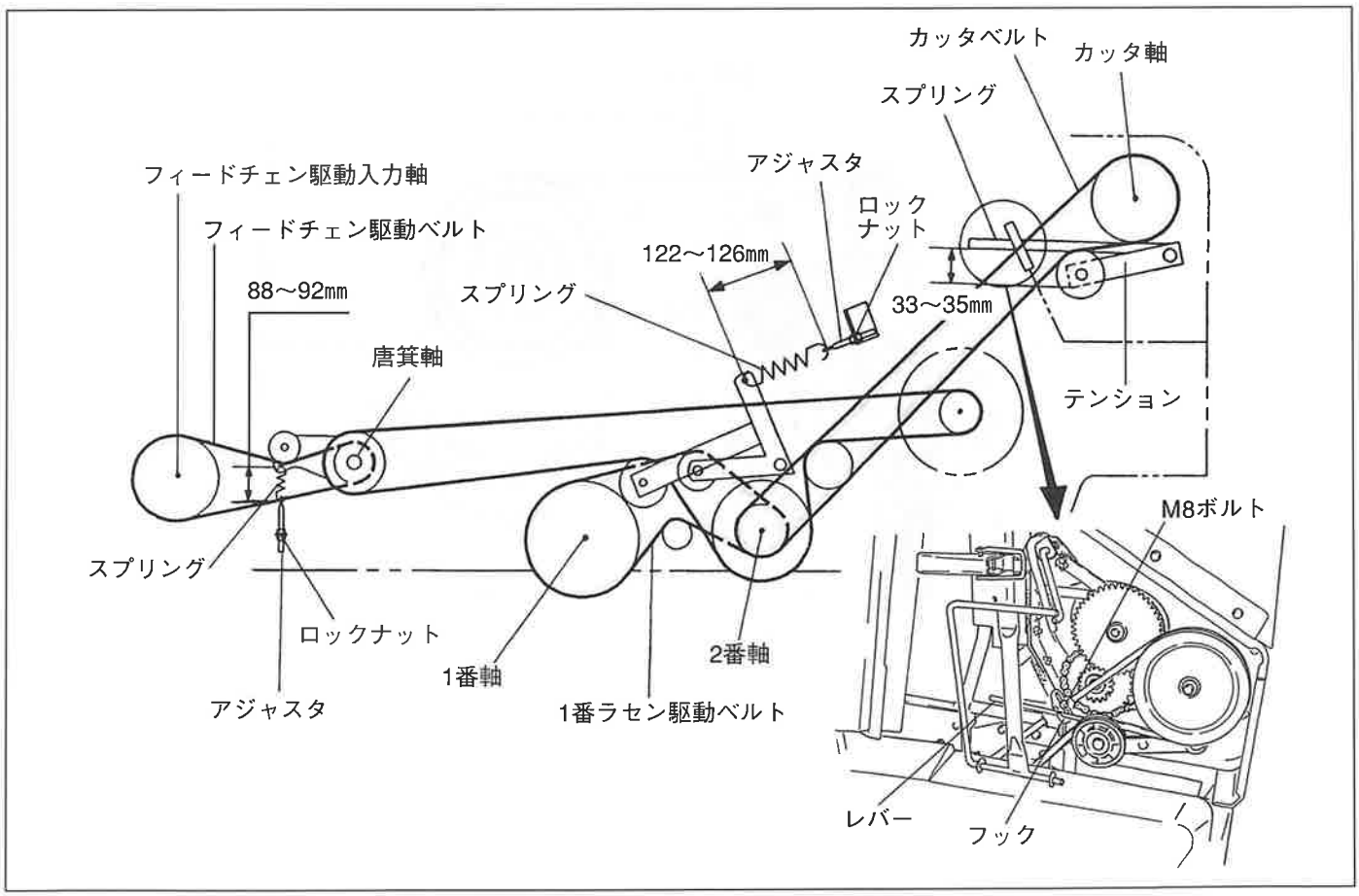
13. カッタベルト

❶ 点検

図示位置のスプリングとテンションプレートの寸法が 33～35mm になっていますか。

❷ 調整

カッタサイドカバーを外し，フック部の金具のＭ８ボルトをゆるめて調整します。



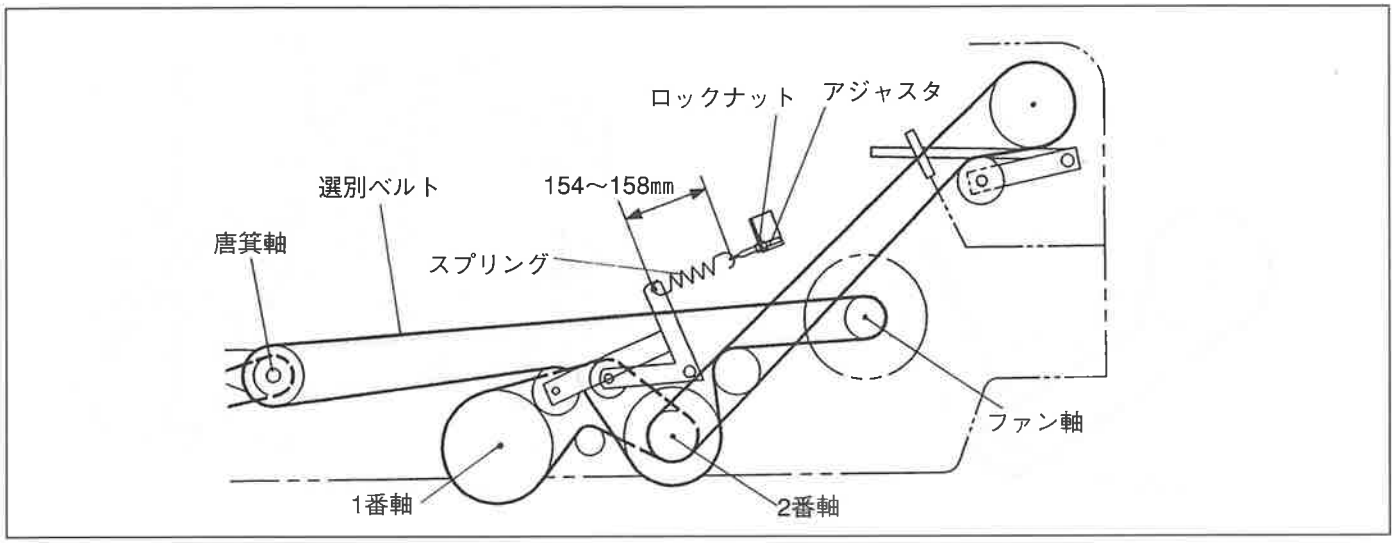
14. 選別ベルト

❶ 点検

スプリング長さが **154～158mm** になっていますか。

❷ 調整

脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。



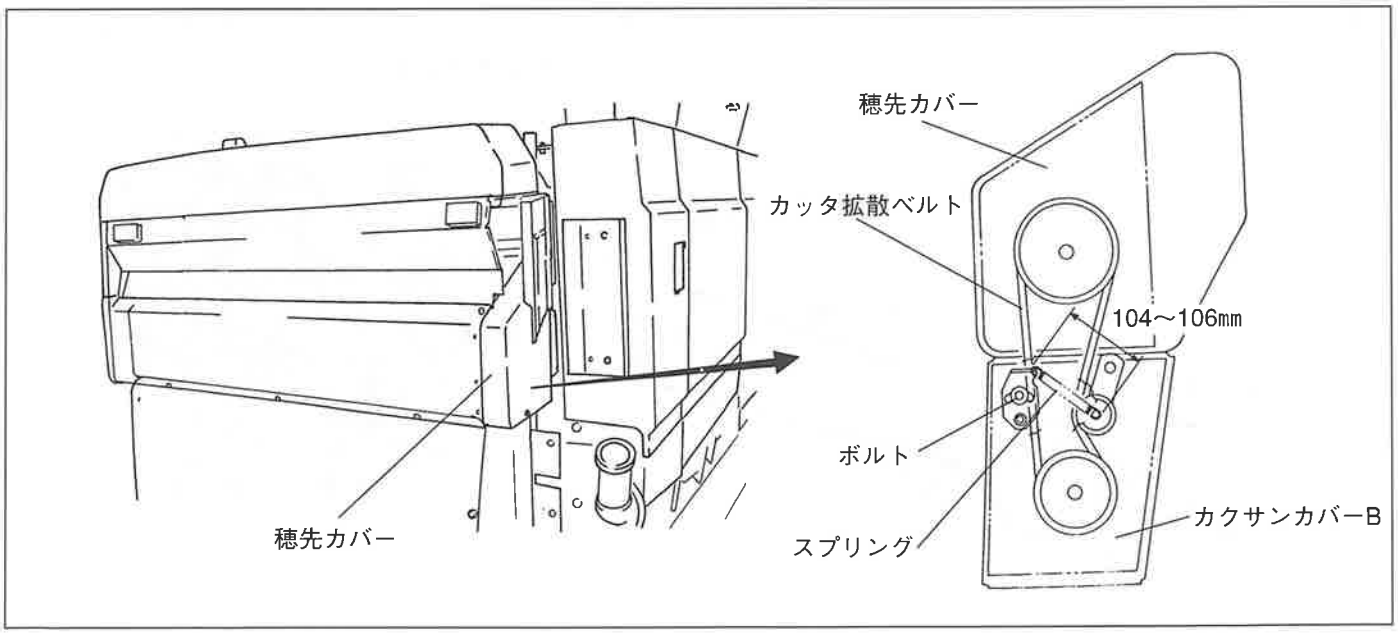
15. カッタ拡散ベルト

❶ 点検

スプリング長さが **104～106mm** になっていますか。

❷ 調整

穂先カバー，カクサンカバーBを外し，ボルトをゆるめてスプリング長さを調整します。



16. 排ワラ駆動ベルト

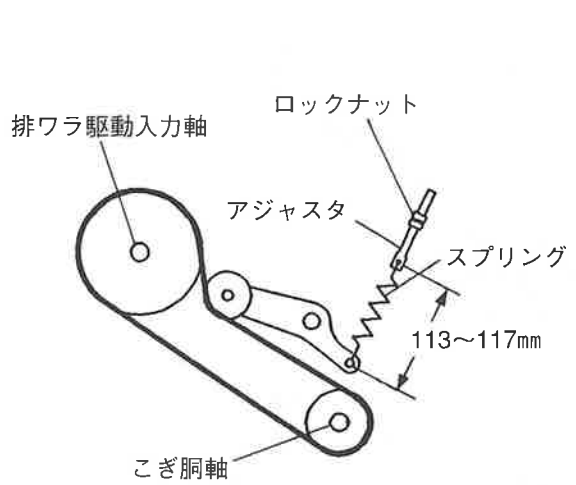
❶ 点検

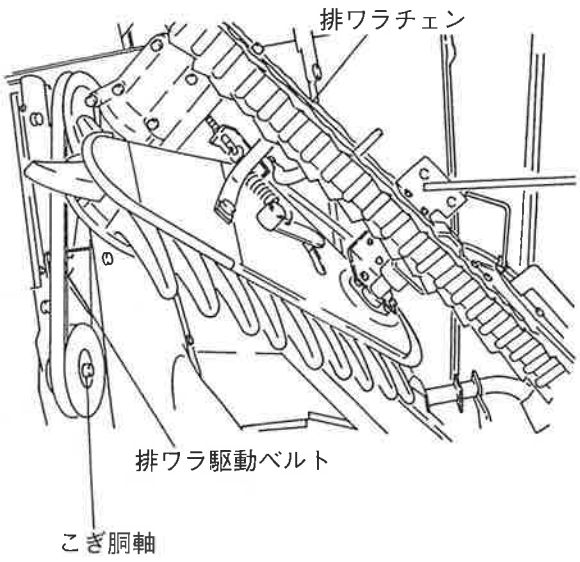
スプリング長さが **113～117mm** になっていますか。

❷ 調整

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。





17. グレン入力ベルト

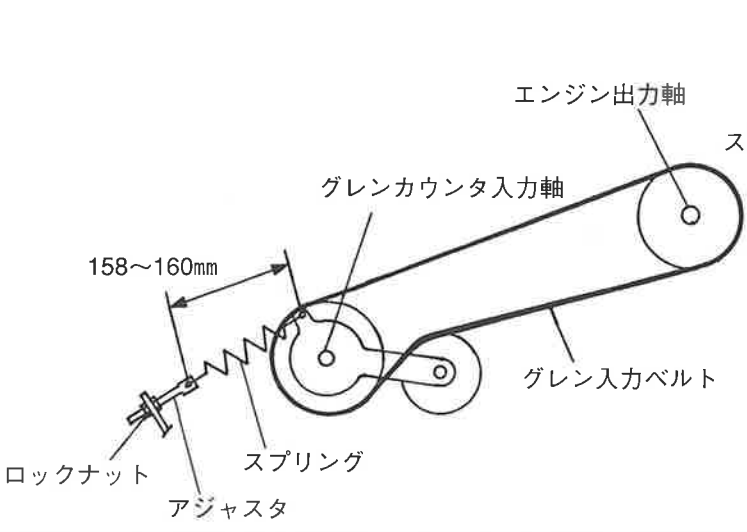
❶ 点検

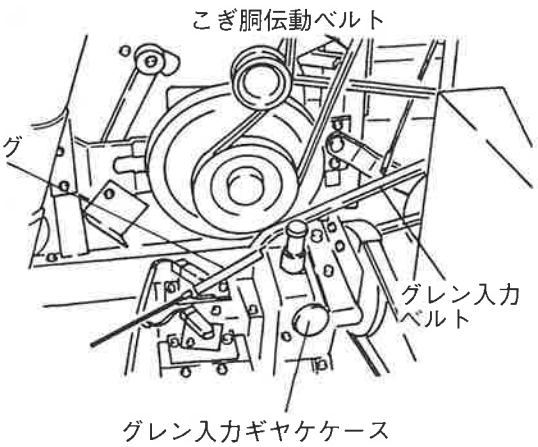
スプリング長さが **158～160mm** になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。





18. かき込みベルト（刈取部）

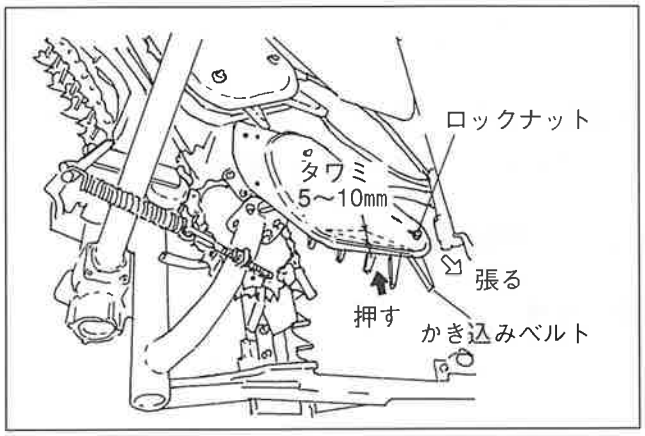
❶ 点検

ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10mm になっていますか。3個所（右，左，中央）

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。

(2) アイドラプーリのロックナット（表・裏）をゆるめてアイドラプーリで調整します。



19. コンプレッサベルト［キャビン仕様］

❶ 点検

コンプレッサベルトの下側の中央部を「10kg」で押して，タワミ量が 7～10mm となっていますか。

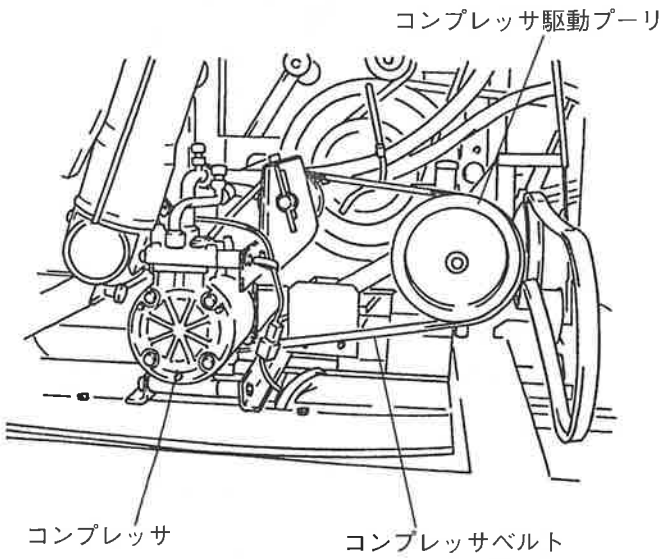
❷ 調整

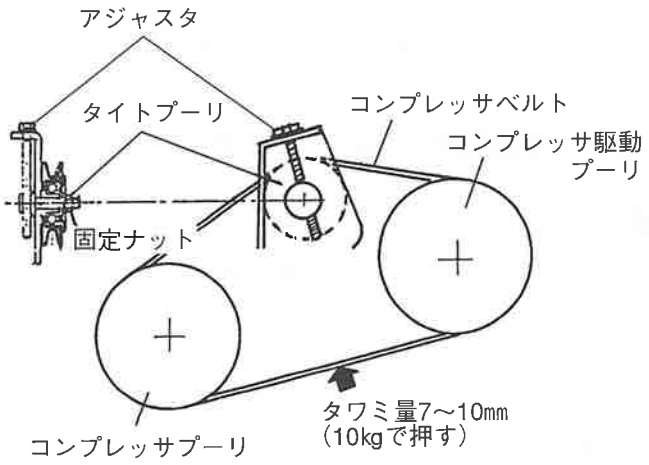
(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。

(2) タイトプーリの固定ナットをゆるめます。

(3) アジャスタボルトを締込みコンプレッサベルトの張り調整をします。

(4) 調整後，固定ナットを締付けます。





「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

- **調整ができなくなったら新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合はスプリングの寸法を正規な寸法に調整してください。**

20. 株元搬送チェン（左）

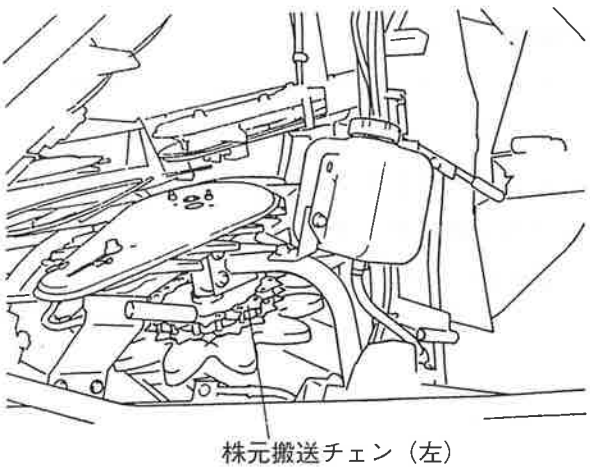
❶ **点検**

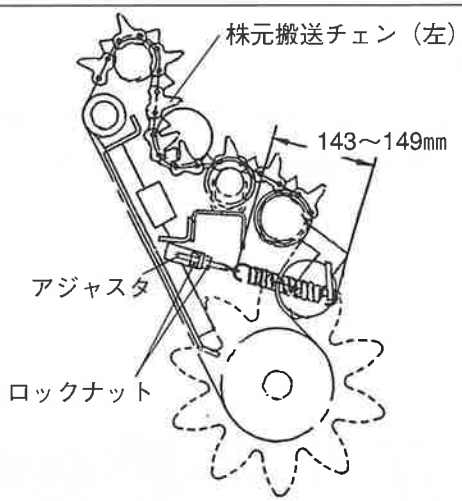
スプリング長さが **143～149mm** になっていますか。

❷ **調整**

(1) 刈取部サイドカバー（左）を外します。

(2) ロックナットをゆるめ，アジャスタ部で調整します。





21. 株元搬送チェン（右）

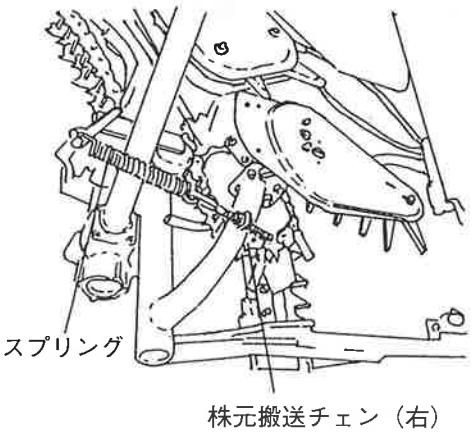
❶ **点検**

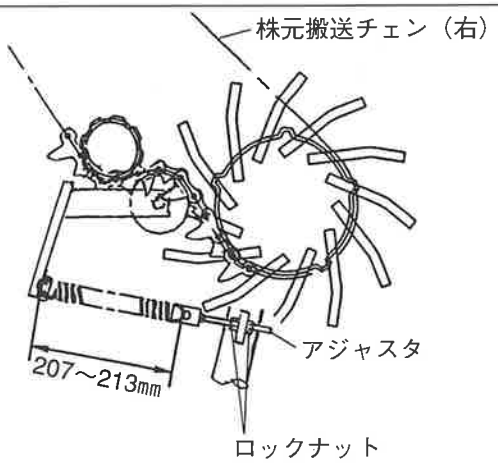
スプリング長さが **207～213mm** になっていますか。

❷ **調整**

(1) 刈取部サイドカバー（右）を外します。

(2) ロックナットをゆるめ，アジャスタ部で調整します。





22. こぎ深さ搬送チェン

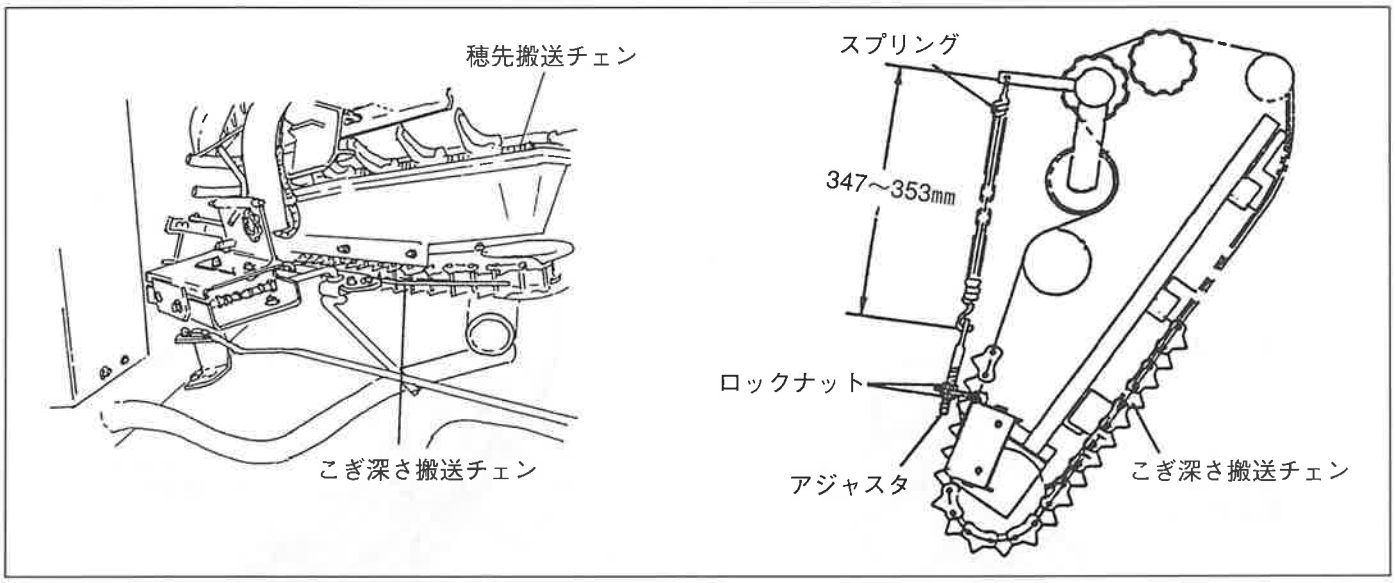
❶ 点検

スプリング長さが 347～353mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部をいっぱいあげ，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にし，フックをかけ，刈取部の下に固定脚を入れます。(19ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



23. 穂先搬送チェン

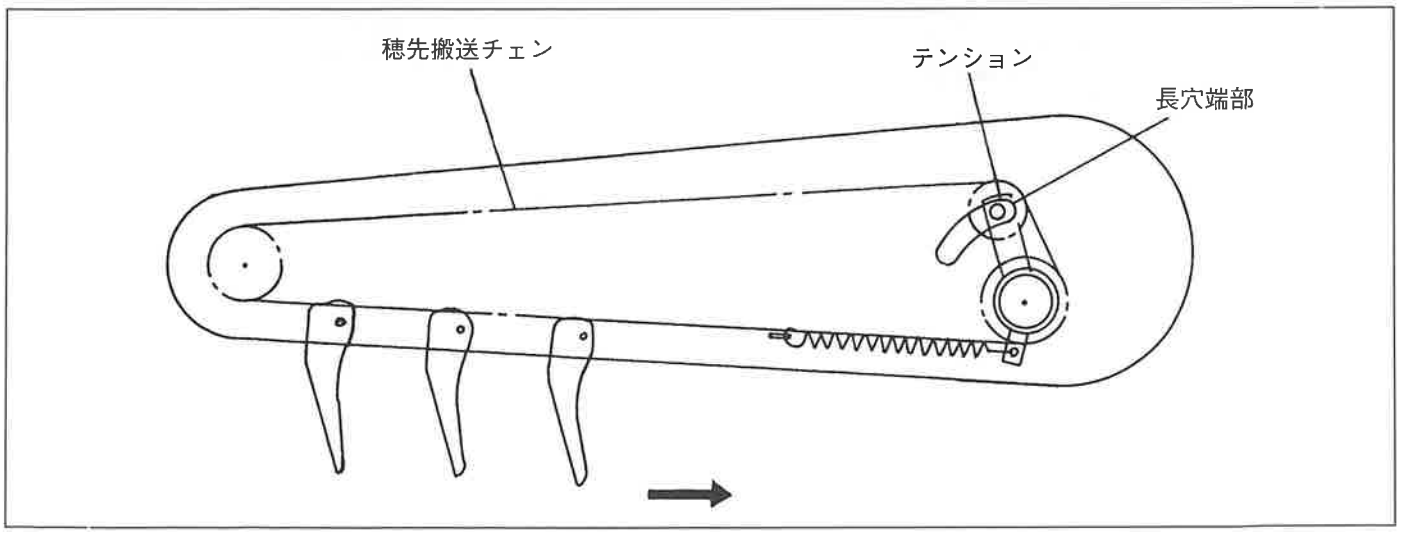
❶ 点検

テンションが長穴端部に当たっていませんか。

❷ 調整

(1) 刈取部をいっぱいあげ，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にし，フックをかけ，刈取部の下に固定脚を入れます。(19ページ参照)

(2) 下側から点検し，テンションが長穴端部に当たっていればチェンを交換します。



24. かき込み搬送チェン

❶ 点検

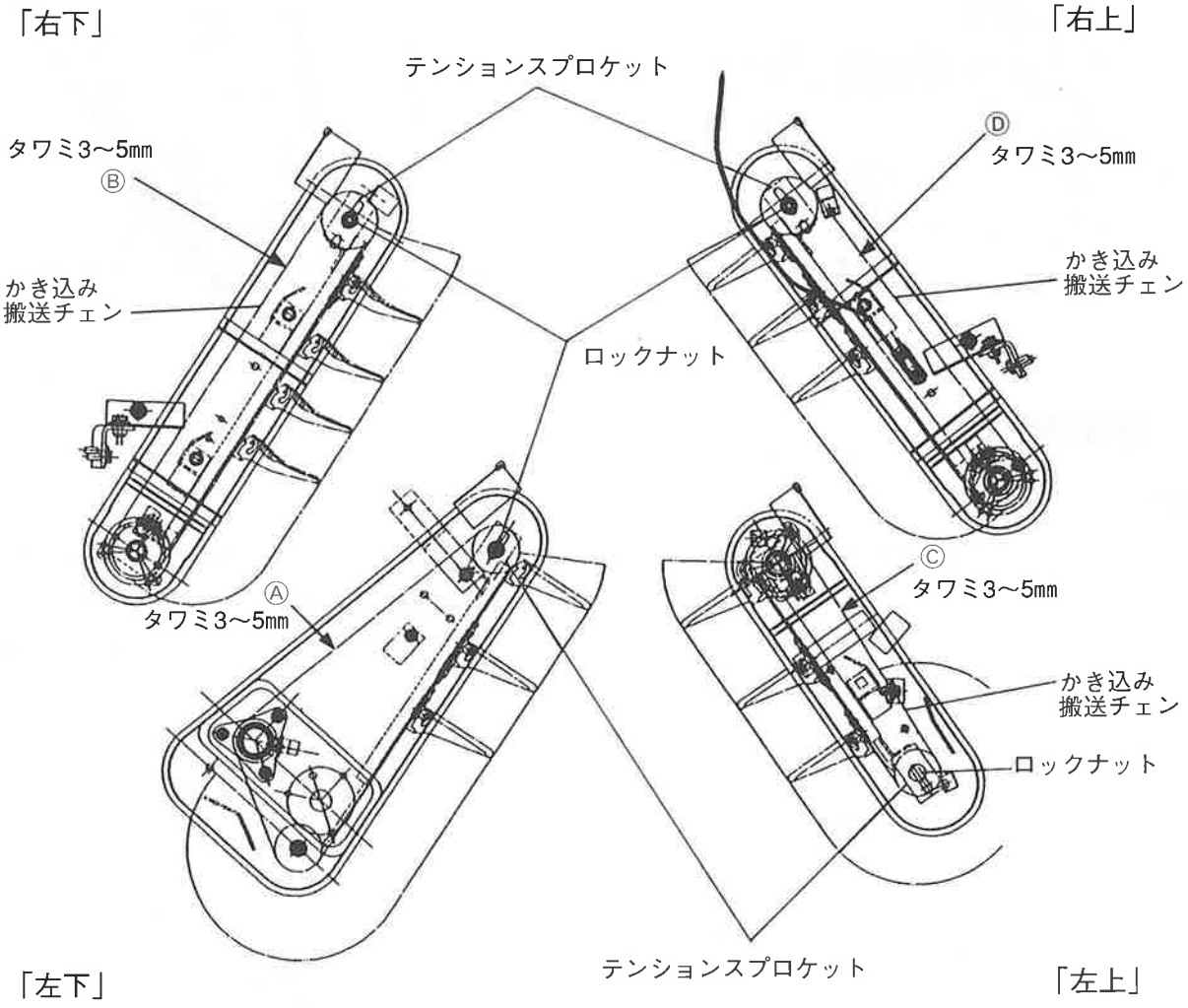
「右下，右上，左下，左上」

チェンのⒶ，Ⓑ，Ⓒ，Ⓓ部を手で軽く引き，タワミ量が 3～5㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右）（左）を外します。

(2) テンションスプロケットのロックナット（表・裏）をゆるめてテンションスプロケットで調整します。



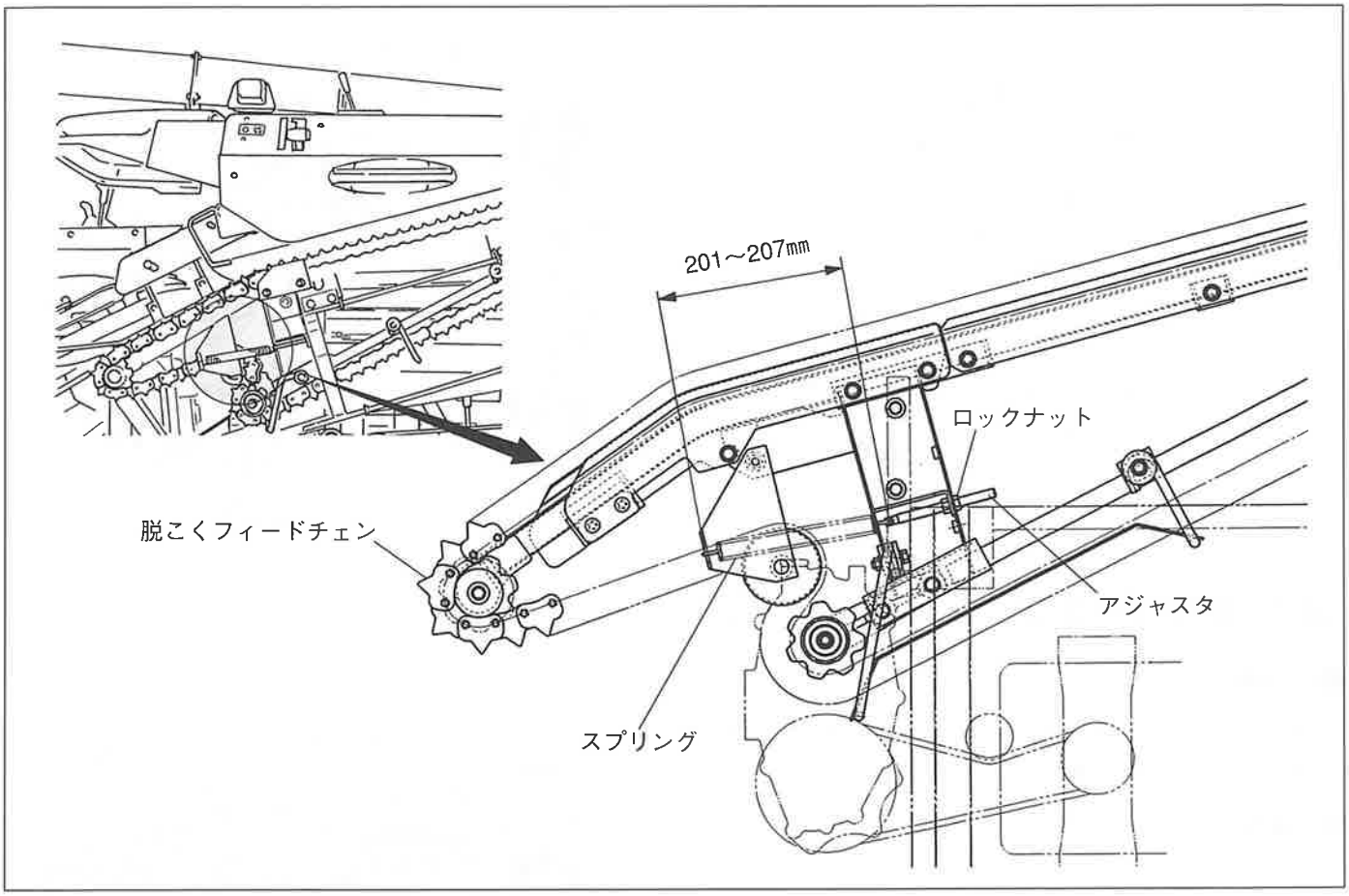
25. 脱こくフィードチェン

❶ 点検

スプリング長さが **201～207mm** になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



26. 穂先排ワラチェン

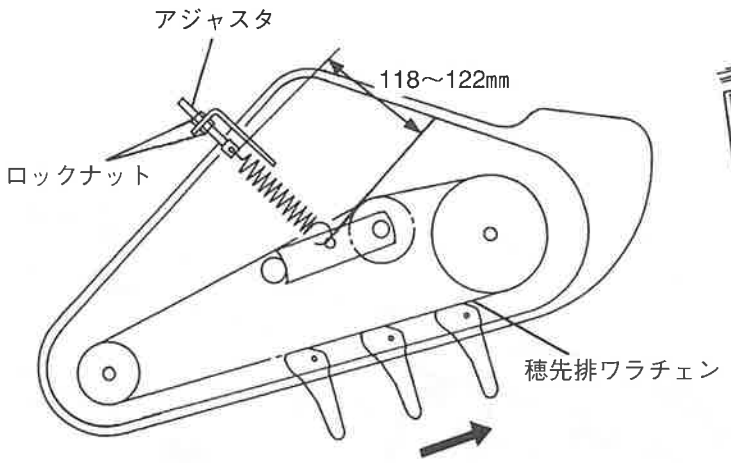
❶ 点検

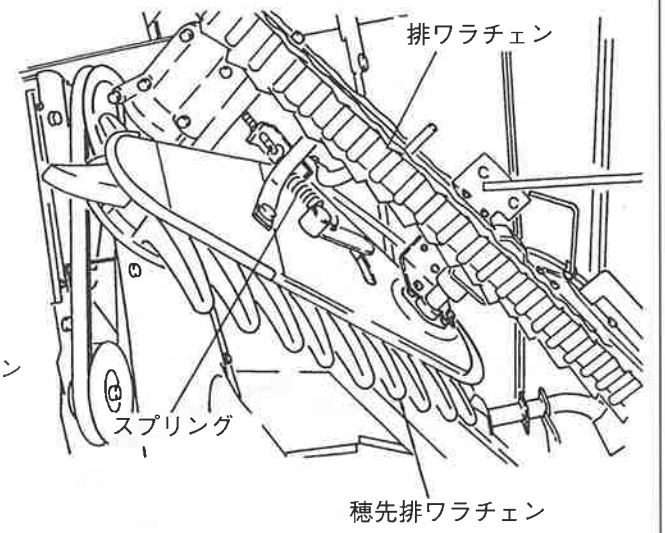
スプリング長さが 118～122mm になっていますか。

❷ 調整

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。





27. 排ワラチェン

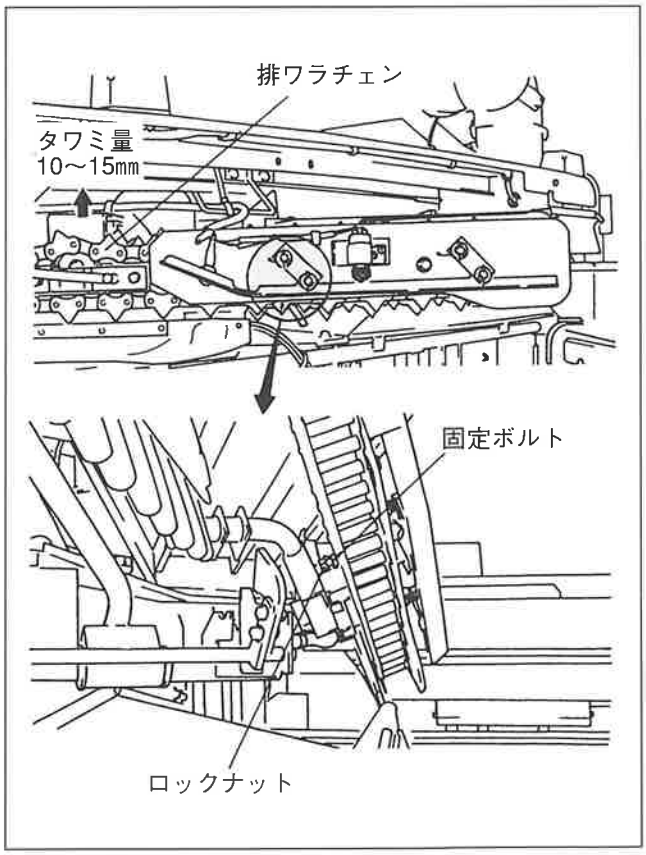
❶ 点検

排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10～15mm になっていますか。

❷ 調整

・カッタをオープンし，ストッパを掛けます。

ロックナットをゆるめた後固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。調整後固定ボルトを締付け，ロックナットで固定します。なお調整ができなくなったときはチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。



「クローラの点検・調整」

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキのは２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

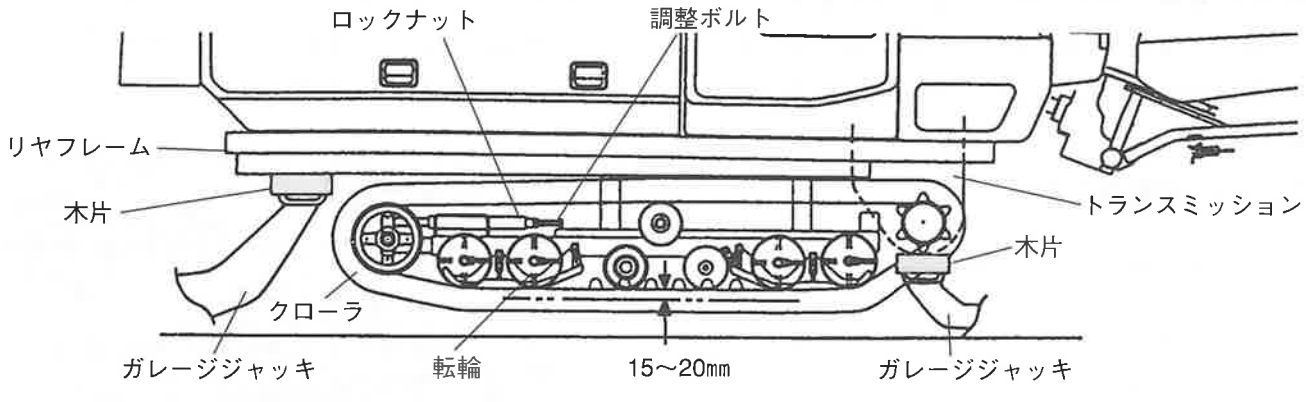
28．クローラ

❶ 点検

フレームをジャッキアップした状態で転輪とクローラのスキマが 15～20mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 図示のようにトランスミッションとリヤフレームの中側（右または左）にガレージジャッキで間に木片をかませてジャッキアップします。
(2) 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで張ります。



取扱いのポイント

- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けるとケースが破損する恐れがありますので，木片をかませて行なってください。

「刈刃の上下調節」

⚠警告 傷害事故防止のために

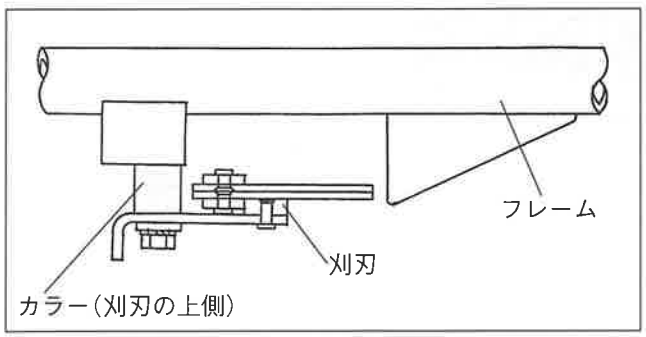
◆刈刃を取外す前に刈刃受プレートにピンが入っていることを確認してください。
◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから外側のボルトを外してください。
◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。
◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚等を入れて作業してください。

❶ 刈刃の上下調節

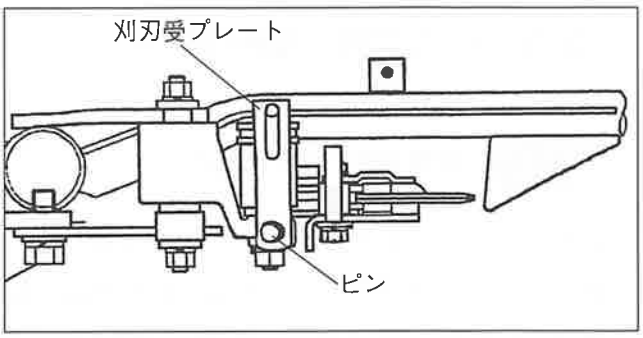
・出荷のときは「下セット」になっています。

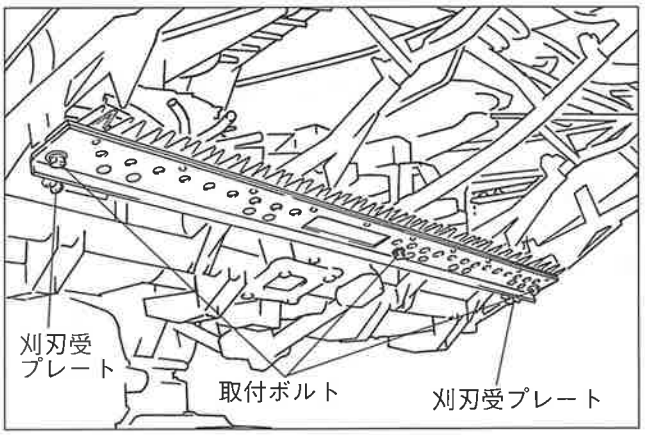
うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，カラーを入替えて刈刃を「上セット」にします。

「下セット」（出荷のとき）

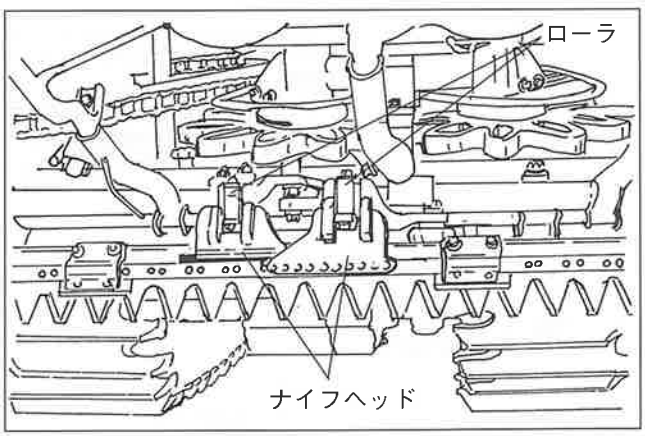


(1) 刈刃の両側の刈刃受プレートにピンが入っていることを確認します。





(2) 刈刃取付ボルト３個所のうち，内側のボルト１本及びカラー１個所を外します。外側２個所のボルト２本を緩めて，刈刃を手でささえながら外側のボルトを外すと，両側の刈刃受プレートで刈刃が支持されます。

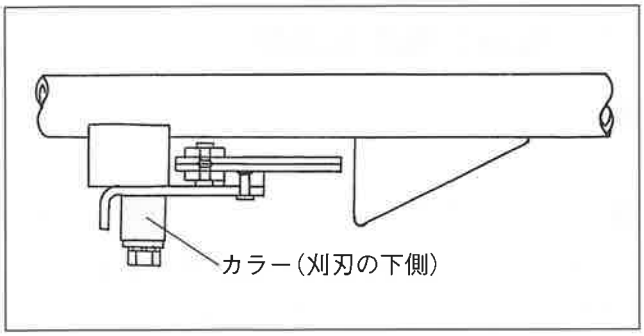


(3) 左側のカラーを入替え，ボルトを取付けます。

(4) ナイフヘッドとローラを合わせながら右側のスペーサを入替えボルトを取付けます。

(5) 内側のボルトのカラーを入替え，３個の取付ボルトを締付けます。

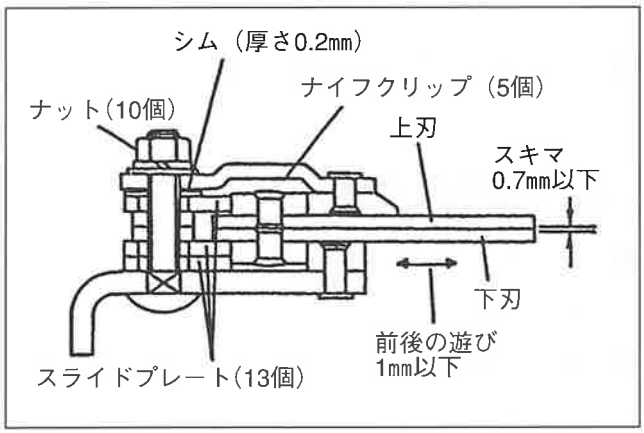
「上セット」



❷ 刈刃の調整

(1) 刈刃に付着している泥やワラクズを取除きます。

(2) ナット（10個）を緩め，ナイフクリップ（5個）の下側のシム（厚さ0.2㎜）で上刃と下刃のスキマが0.7㎜以下になるように調整します。



(3) 上刃，下刃の前後の遊びが１㎜以下になるようにナイフクリップとスライドプレートの位置を調整しナットを締付けます。

(4) 上刃，下刃共スムーズ（17㎏程度）に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- **１日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は刈刃に注油をし，刈刃の調整，または交換してください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったらつぎの作業をして格納します。

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。



◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電でヤケドや損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したりもれている場合は交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶　泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷　脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残溜こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。
（94～100ページ脱こく内部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶　刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷　チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸　塗装がはげた個所は補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

❶　エンジンコントロールレバーはいっぱいに戻しておきます。

❷　新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

❸　冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（77～78ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に該当する項目について点検・整備します。
（70～73ページ参照）

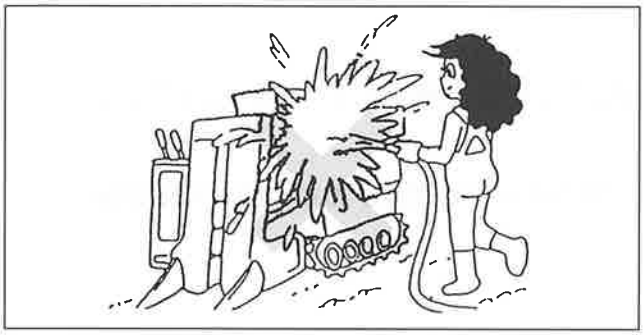
取扱いのポイント

- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。**

[キャビン仕様]

「水・スチーム厳禁」ラベル貼付付近（4個所）には水をかけないでください。

キャビン内部に水が入る恐れがあります。



5. 格　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

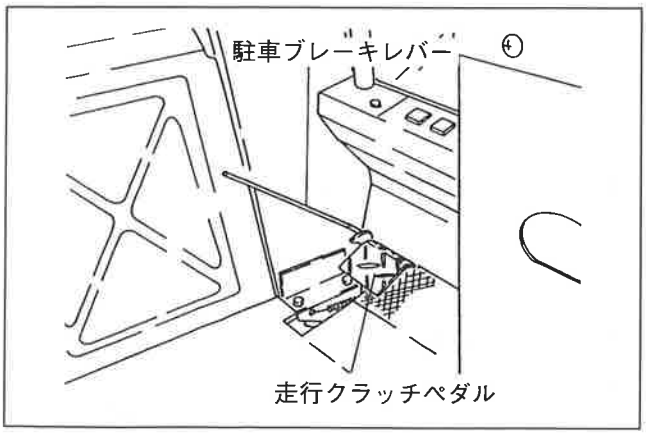
❶ 「**クローラ**」の下には板等を敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**N**》(**中立**)の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左）**」「**サイドステップ**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

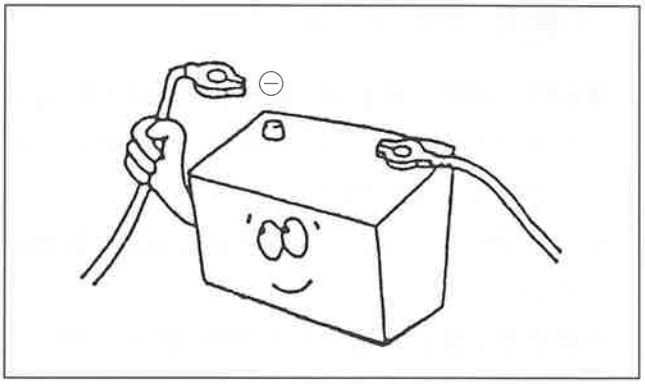
❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺ 駐車ブレーキをかけます。



❻ クローラに「**歯止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか、㊀側のコードをはずしておきます。1ケ月に1回，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **エンジンを回す前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を復元してください。**

6. 再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を正しく復元します。

❷ 始業点検を確実に行います。

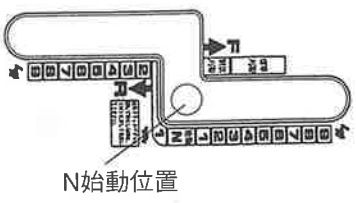
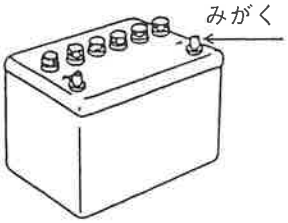
不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式**」,「**機械番号（製造番号）**」,「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をする時は，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

1．エンジン部

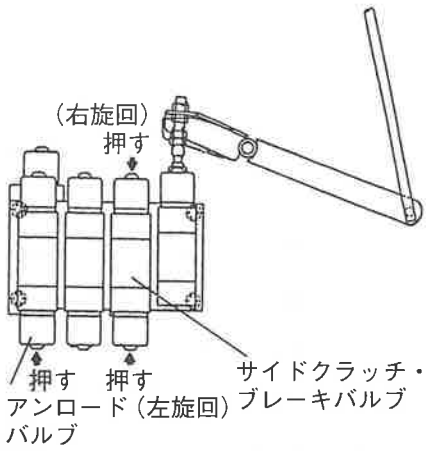
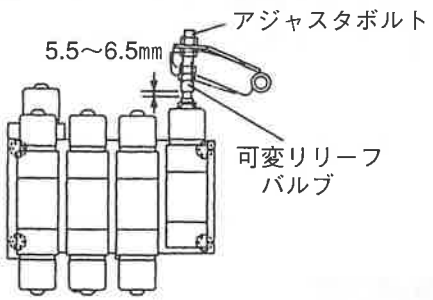
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 主変速（無段変速）レバーを《**N始動**》（**前進側N位置**）にして，クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速（無段変速）レバーを《**N始動**》（**前進側N位置**）にして走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。  N始動位置 	27
	❷ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。  みがく	88
	❸ ヒュージブルリンクが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，ヒュージブルリンクを交換します。	22～24
	❹ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	88～91
	❺ 《**スタータ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22～24

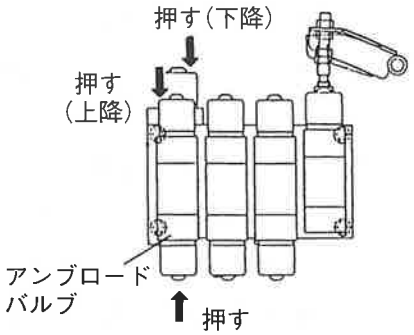
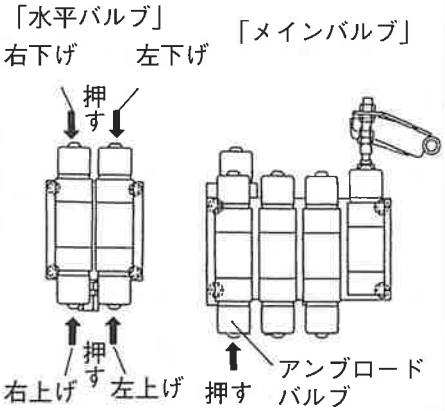
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶ 燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し,エア抜きをします。（ディーゼル軽油……42ℓ）	76，87
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアがたまっている。	●エア抜きをします。	87
	❸ 《ランプ・計器》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22～24
	❹ 《キー切り》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22～24
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶ 燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	87
	❷ エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	86
	❸ ラジエータ防じんフィルタの目詰まり。	●防じんフィルタを掃除します。	86
	❹ エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	74～77
	❺ 冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	77～78
	❻ エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	119
	❼ 《ランプ・計器》ヒューズが切れているため燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22～24
	❽ 《キー切り》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22～24

2. 走行・運転操作部

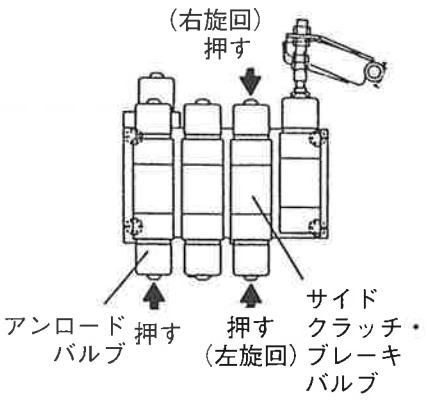
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速（無段変速）レバーを操作しても走行しない	❶ 副変速レバーが《N》（中立）位置になっている。	●条件に合わせ《 例伏 》，または《 標準 》，《 走行 》位置にセットします。	16～17
	❷ 油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給します。	79～80

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶ 《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22〜24
	❷ 油圧バルブへのゴミかみ。  	●各操作レバーを《**N**》（**中立**）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	—
	❸ スピンドライブターン「**入，切**」が確実になっていない。 ［**D仕様**］	●低速度で前進走行しながら切替えます。 ●副変速を《 倒伏 》位置に切替えます。	17
マルチステアリングレバーを操作しても急旋回ができない	❶ ブレーキの効きが悪い。	●可変リリーフバルブ部のアジャスタボルトを調整します。  	113
	❷ スピンドライブターンの「**入，切**」が確実になっていない。 ［**D仕様**］	●低速度で前進走行しながら切替えます。 ●副変速を《 倒伏 》位置に切替えます。 ●減速ターンにセットしている時は，マルチステアリングレバーを操作しても急旋回できません。減速ターンスイッチを《**切**》にします。	17

不調の状況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**22〜24**
	❷ 油圧バルブへのゴミかみ。  	●各操作レバーを《**N**》（**中立**）にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押したり，前処理リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	—
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。	**18〜19**
傾斜手動レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない [L仕様]	❶ 《**水平制御**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズまたは《**リフト・操向**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**22〜24**
	❷ 油圧バルブへのゴミかみ。  	●各操作レバーを《**N**》（**中立**）にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押します。ゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。）	—

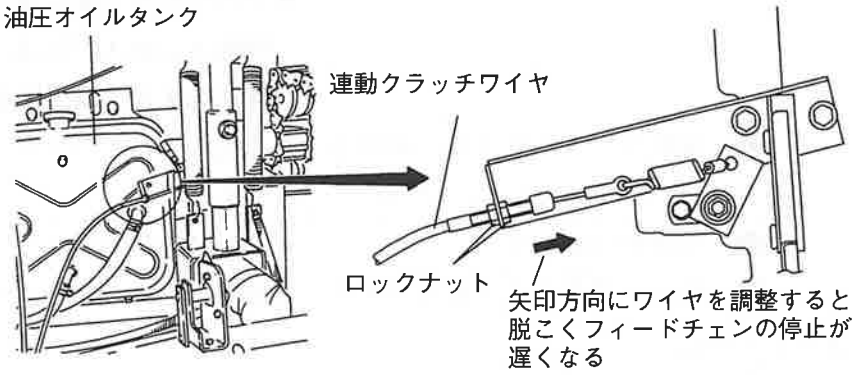
3. 電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶ 《**ランプ・計器**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ランプ・計器ヒューズ……15A マイコンヒューズ……10A	**22～24**
	❷ バッテリの放電。	●バッテリを充電します。	**88～91**
方向指示灯が点灯しない	❶ 《**フラッシャ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	**22～24**
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶ 《**こぎ深制御**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深制御ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A	**22～24**
	❷ 刈取部のこぎ深センサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取除きます。	**47～48** **56～57**
刈高さポジションコントロールが作動しない	❶ 《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**22～24**
選別自動制御が作動しない	❶ 《**選別制御**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別制御ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A	**22～24**
	❷ スイングシーブ部にワラクズがたまっている。	●ワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部の空運転をします。	**63**
方向自動制御が作動しない **［A，D仕様］**	❶ 《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	**22～24**
	❷ 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズ等がたまっている。	●草・泥・ワラクズ等を取除きます。	**57～59**
	❸ 油圧バルブへのゴミかみ。  	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	**—**

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》にして確認します。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	47～48
	❷ 刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	115
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	84～85
	❷ 刈刃の調整不良。(刈刃のスキマが広い)	●調整ライナでスキマを調整します。	131～132
	❸ 刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	131～132
	❷ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは，急激な操作はさける。	41

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶ 搬送通路に雑草・ワラクズ・泥等が溜まっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥等を取除きます。	―
	❷ **「深こぎ」または「浅こぎ」**となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。	**56〜57**
	❸ 刈取りスピードと脱こくフィードチェン速度が合っていない。	●フィードチェン速度を切替えます。	**38**
	❹ 刈取り搬送の停止より脱こくフィードチェンの停止が早い。	●リフトシャットは刈取り搬送の停止と同時か，それ以後に脱こくフィードチェンが停止するようにタイミングを調整します。 ●刈取部を下げ，脱こく入口下側の連動クラッチワイヤアジャスタ部で調整します。	―



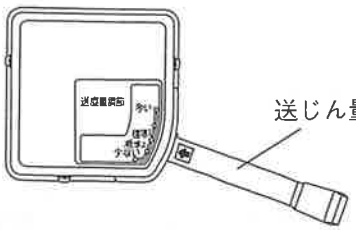
取扱いのポイント

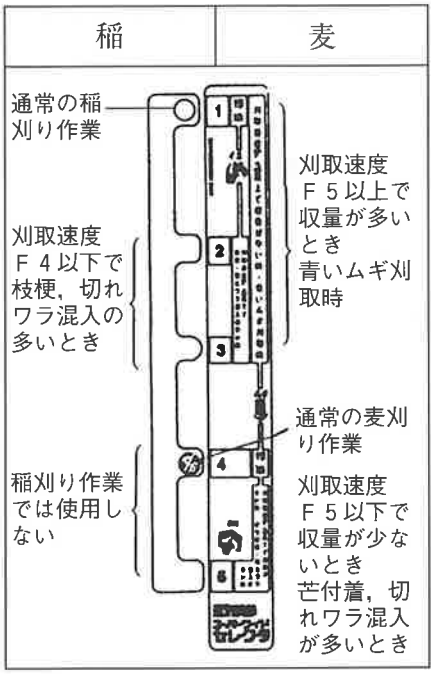
- **調整は「お買いあげ先」に相談してください。**

5. 脱こく部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶ 排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動） ❷ 脱こくフィードチェン終端部に詰まりがある。 （脱こくフィードチェン終端のエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にする。 ②脱こく・排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ③排ワラフィードチェンの張りを点検・調整する。 ④エンジンを始動する。 ⑤作業機クラッチレバーを《**入**》にして確認する。 **取扱いのポイント** **●処置後脱こく部の空運転をし，脱こく内部にたまったワラクズをきれいに排出してから刈取りを開始してください。**	**48**
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	**10～11**
	❷ ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	**115** **121** **122**
	❸ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」に合わせます。	**56～57**
	❹ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除。	**33** **94～95**
	❺ 刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	**33** **37～40**

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❻ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	63
	❼ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●開閉レバーを《**閉じる**》位置にし，ストッパをかけます。	95～96
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	33 94～95
	❷ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	56～57
	❸ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	10～11
	❹ 刈取り速度が早すぎる。	●主変速（無段変速）レバーで速度を下げます。	40
	❺ 送じんがスムースでない。	●送じん量調節レバーを《**多い**》側の位置にします。 	22
	❻ ワラ切カマが切れない。 **取扱いのポイント** ●**ワラ切カマはこぎ歯に当たらないように取付けてください。** ●**ワラ切カマの取付け方向を確認して取付けてください。**	●ワラ切カマの研磨または交換をします。	111
	❼ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	63

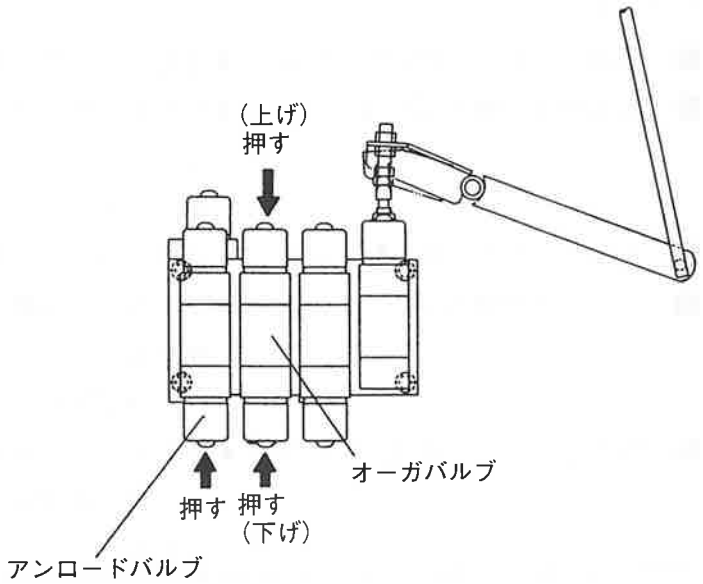
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モミの中に切れワラ，枝梗（しこう）付着粒が混入する	❶ スーパーワイドセレクタの調節が悪い。	●作物条件と刈取り速度により適正な位置にセットします。  	**39** **54**
三番ロスが多い	❶ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	**56～57**
	❷ 能率のあげすぎにより，揺動流板にワラクズ等が停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，主変速（無段変速）を１～２段下げて作業します。	**40**
	❸ 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	**33** **94～95**
	❹ 刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	**33** **40**
	❺ スーパーワイドセレクタ切替レバーのセット位置を誤って使用している。	●稲・麦の作業に合わせて，スーパーワイドセレクタ切替レバーを適切な位置にセットします。	**39** **54**
	❻ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	**63**

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
こぎ残しが多い	❶ こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置にあわせます。	56〜57
	❷ こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転にあわせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	10〜11
	❸ デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーをこきざみに操作する。（強く操作すると，「ブレーキ」がきき，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	37〜43

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
巻きつきが発生し馬力をとる	❶ 刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	102〜109 155
	❷ 排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にします。 ●作業条件に合った脱こくフィードチェン速度に切替えます。	56〜57 38
	❸ 排ワラ量の増加。	●作業速度を適正にします。	40
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶ 排ワラチェンの張り不良。	●チェンを張ります。	129
	❷ こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	56〜57

7. グレンタンク部

不調の状況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない	❶ 《**排出オーガ**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 排出オーガヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	**22〜24**
	❷ 油圧バルブへのゴミかみ。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《**上げ**》および《**下げ**》の手動プッシュを数回押すとゴミかみが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは運転席ステップの下にあります。）  	―
こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない	❶ ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	**116**
	❷ タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞留している）	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	**43〜45**

8. キャビン部

不調の状況	原　因（点検個所）	処　置	参照ページ
ワイパが作動しない	❶ ヒューズが切れている。	●キャビン内のヒューズを交換する。 ワイパウォッシャヒューズ……10A	23
ウォッシャ液がでない	❶ ウォッシャ液が不足している。 ❷ ヒューズが切れている。	●ウォッシャ液を補給する。 ●キャビン内のヒューズを交換する。 ワイパウォッシャヒューズ……10A	68 23
クーラが作動しない	❶ ヒューズが切れている。	●キャビン内のヒューズを交換する。 クーラヒューズ……20A	23
クーラの風量が少ない	❶ 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除する。	6
室内灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。 ❷ ヒューズが切れている。	●電球（バルブ）を交換する。 ●キャビン内のヒューズを交換する。 ルームランプヒューズ……20A	68 23
作業灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。 ❷ ヒューズが切れている。 ❸ 作業灯リレーが破損している。	●電球（バルブ）を交換する。 ●コンバイン本機のヒューズを交換する。 ランプ計器ヒューズ……20A ●作業灯リレーを交換する。 （お買いあげ先で点検を受けてください）	ー 22 ー

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

付　　表

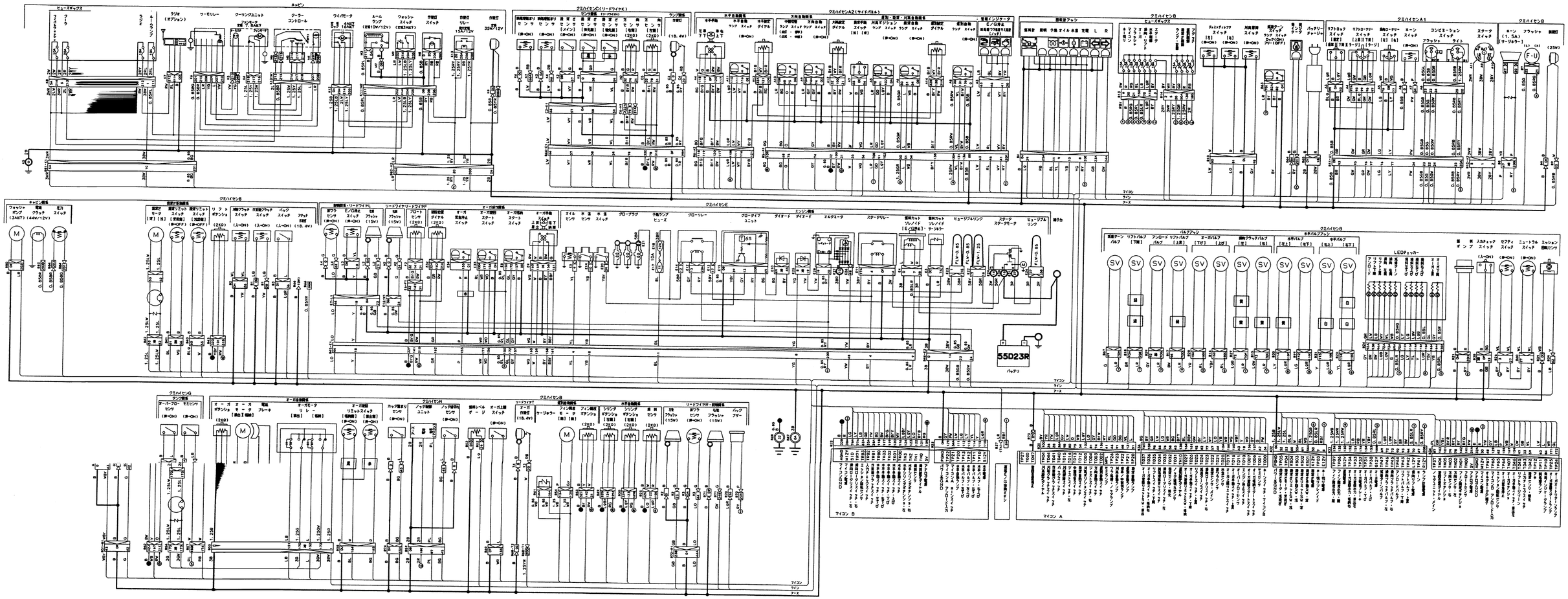
1．主要諸元

名称			コンバイン		
型式名			MC330G		
区分			GAM	DGLM	DGCLM
機体寸法（格納時）	全長	(mm)	3,960		
	全幅	(mm)	1,680		1,950
	全高	(mm)	1,990		2,500
機体質量（重量）		(kg)	2,290	2,440	2,590
エンジン	型式		三菱S3L2－T11C		三菱S3L2－T11CC
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総排気量	(cc{ℓ})	1,318 {1.318}		
	出力／回転速度	(PS{kW}/rpm)	33 {24.3} ／2,800		
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量	(ℓ)	42		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ	(V·Ah)	12・48		
走行部	クローラ 幅×接地長	(mm)	450×1,510		
	クローラ 中心距離	(mm)	1,030		
	クローラ 平均接地圧	(kgf/cm²{N/cm²})	0.17 {1.66}	0.18 {1.73}	0.19 {1.86}
	変速方式		油圧モータ（HST）		
	変速段数	(段)	前進無段・後進無段（副変速3段）		
	走行速度（m/s） 前進		0～2.27	0～2.38	
	走行速度（m/s） 後進		0～2.27	0～2.38	
刈取部	刈取り条数	(条)	4		
	デバイダ先端間隔	(mm)	1,400～1,450		
	刈取装置形式		往復動刃式		
	刃幅	(mm)	1,400		
	変速段数	(段)	車速連動式（引起し搬送全体変速）		
	刈高さ範囲	(mm)	40～130		
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動・手動併用）		
脱こく部	脱こく方式		増速ツインこぎ胴（複胴下こぎ軸流式）		
	こぎ胴 径×幅	(mm)	410×620		
	こぎ胴 回転速度	(rpm)	460・570		
	処理胴 径×幅	(mm)	140×610		
	処理胴 回転速度	(rpm)	1,560		
こく粒処理部	こく粒処理方式		グレンタンク		
	タンク容量	(ℓ)	850		
	―		―		
排ワラ処理装置			ディスク型マルチカッタ		
適応作動全長		(mm)	550～1,300		
倒伏適応性		(度)	追刈：85°以下，向刈：70°以下		
作業能率		(分/10a)	16～30		

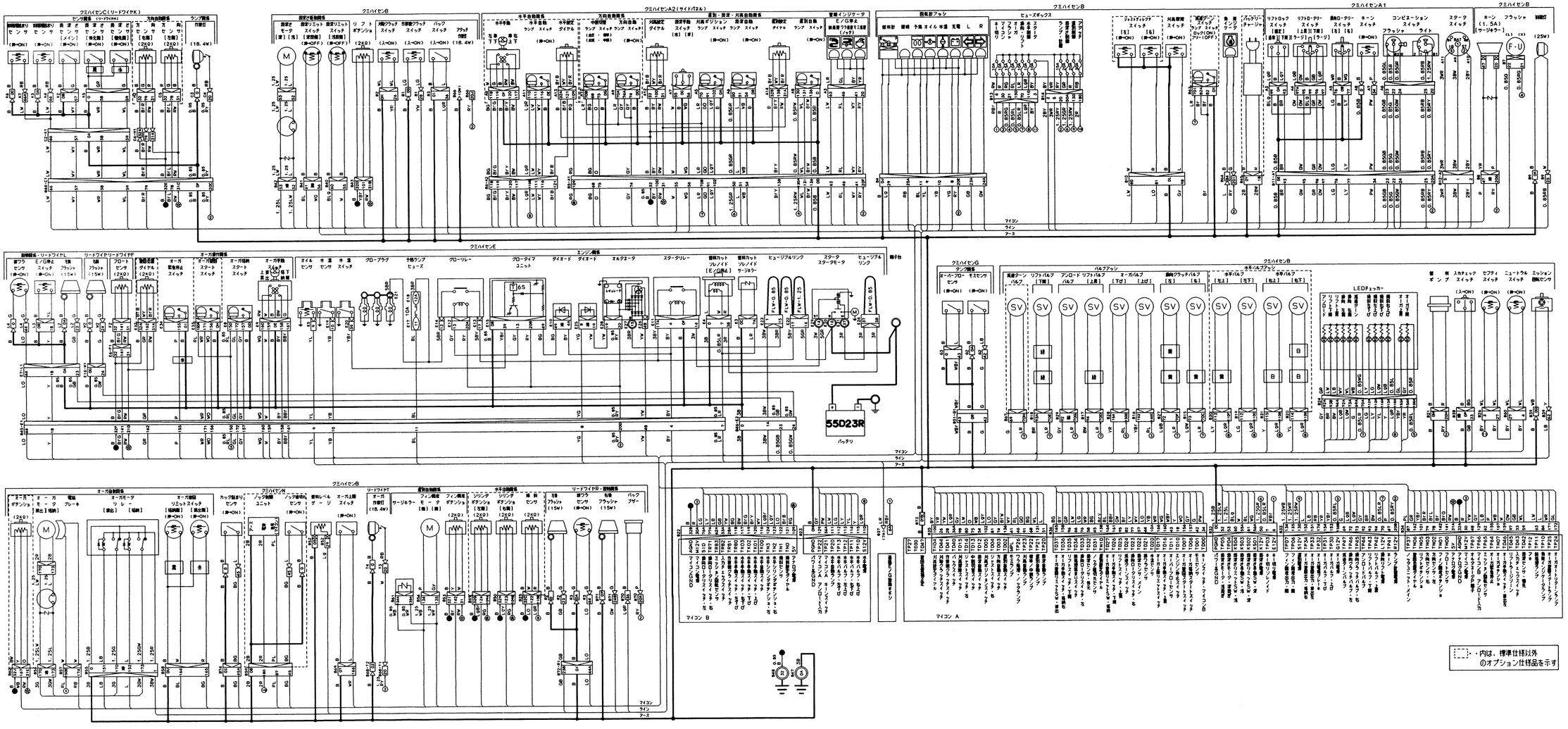
・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図

[キャビン付D仕様]

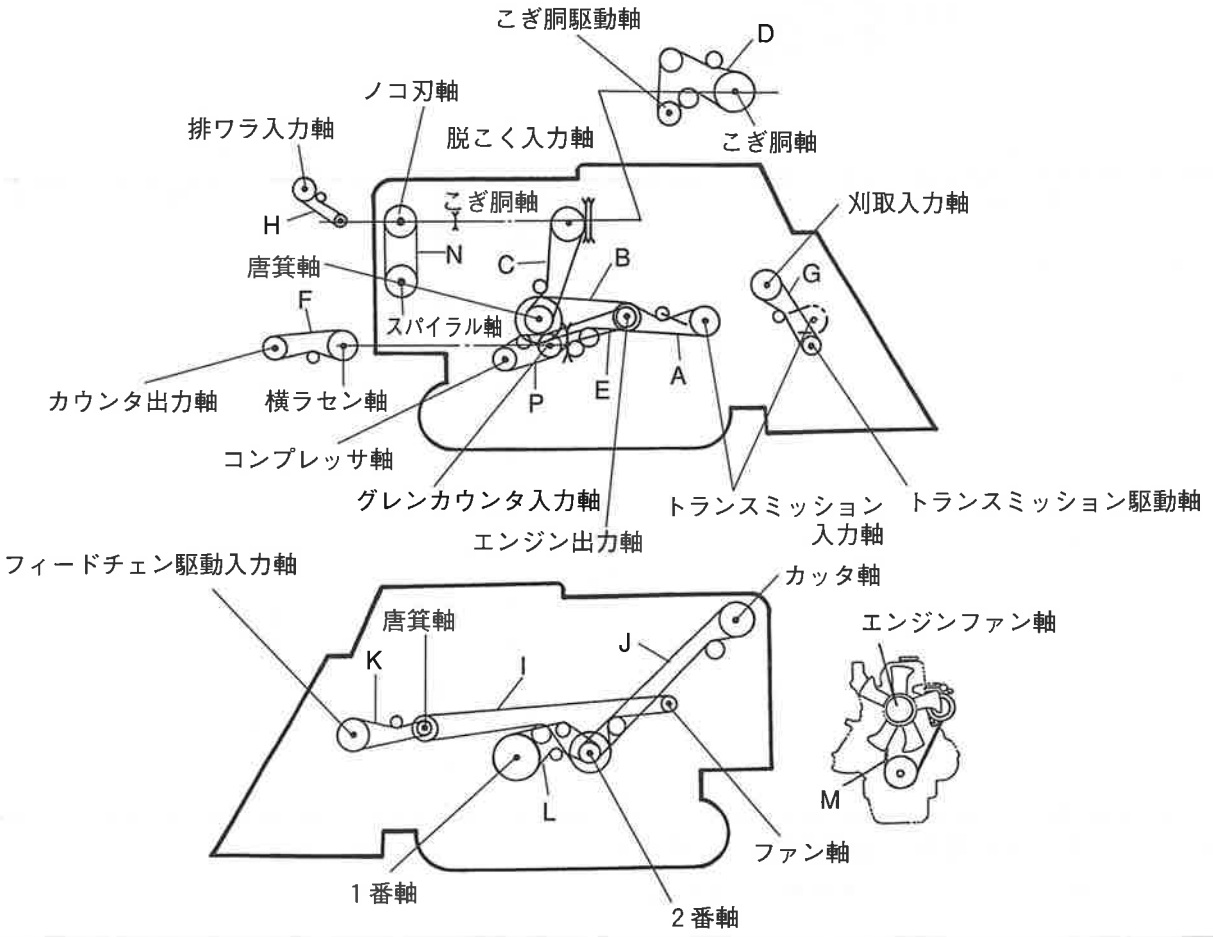


[D仕様]


クミハイセンC1（リードワイパ）
クミハイセンB
クミハイセンA2（サイドパネル）
クミハイセンB
クミハイセンA1
クミハイセンB
クミハイセンE
55D23R
バッテリ
クミハイセンG
クミハイセンB
クミハイセンB
マイコン ライン アース
マイコン A
マイコン B
・・内は、標準仕様以外のオプション仕様品を示す

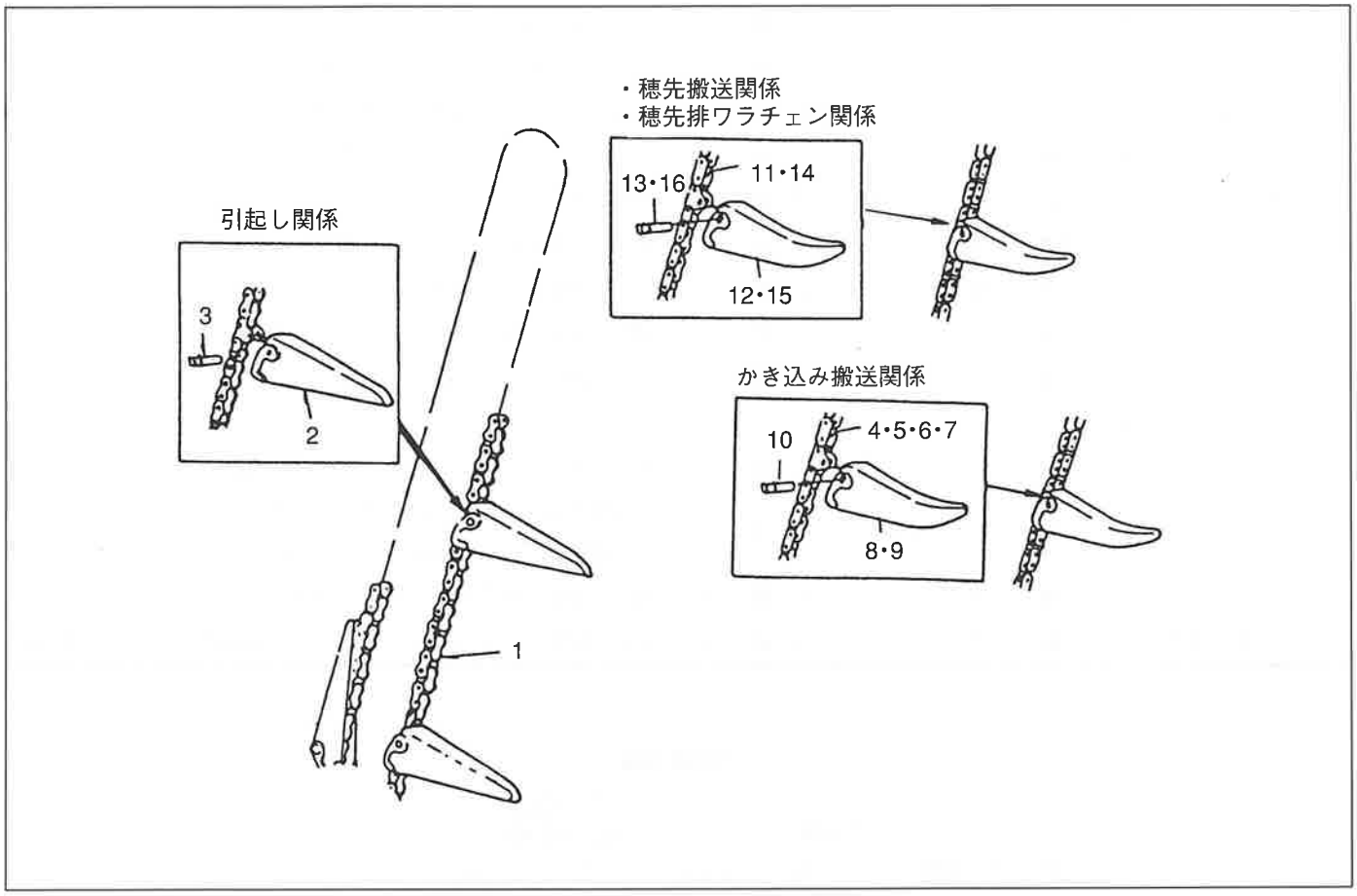
3. ベルト一覧表

記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3544 0055 000	LB56	走行ベルト
B	エンジン出力軸～唐箕軸	1	0853 1500 072	SC72	脱こく入力ベルト
C	唐箕軸～脱こく入力軸	1	3544 6107 000	SC68	こぎ胴伝動ベルト
D	脱こく入力軸～こぎ胴軸	2	0852 1500 066	SB66	こぎ胴ベルト
E	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1200 053	SB53	グレン入力ベルト
F	横ラセン軸～カウンタ出力軸	1	0852 1200 052	SB52	グレン駆動ベルト
G	トランスミッション駆動軸～刈取入力軸	1	3551 1212 000	LC54	刈取ベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0852 1500 036	SB36	排ワラ駆動ベルト
I	唐箕軸～ファン軸	1	0852 1300 106	SB106	選別ベルト
J	2番軸～カッタ軸	1	0852 1500 083	SB83	カッタベルト
K	フィードチェン駆動入力軸～唐箕軸	1	0852 1500 041	SB41	フィードチェン駆動ベルト
L	1番軸～2番軸	1	0851 1500 045	SA45	1番ラセン駆動ベルト
M	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	MD088955	980㎜	ファンベルト
			MD041704	970㎜	ファンベルト［キャビン仕様］
N	ノコ刃軸～スパイラル軸	1	0851 1000 038	SA38	カッタ拡散ベルト
P	グレンカウンタ入力軸～コンプレッサ軸	1	3544 3872 500	1080㎜	コンプレッサベルト［キャビン仕様］



4. 主な消耗部品

1. 爪関係

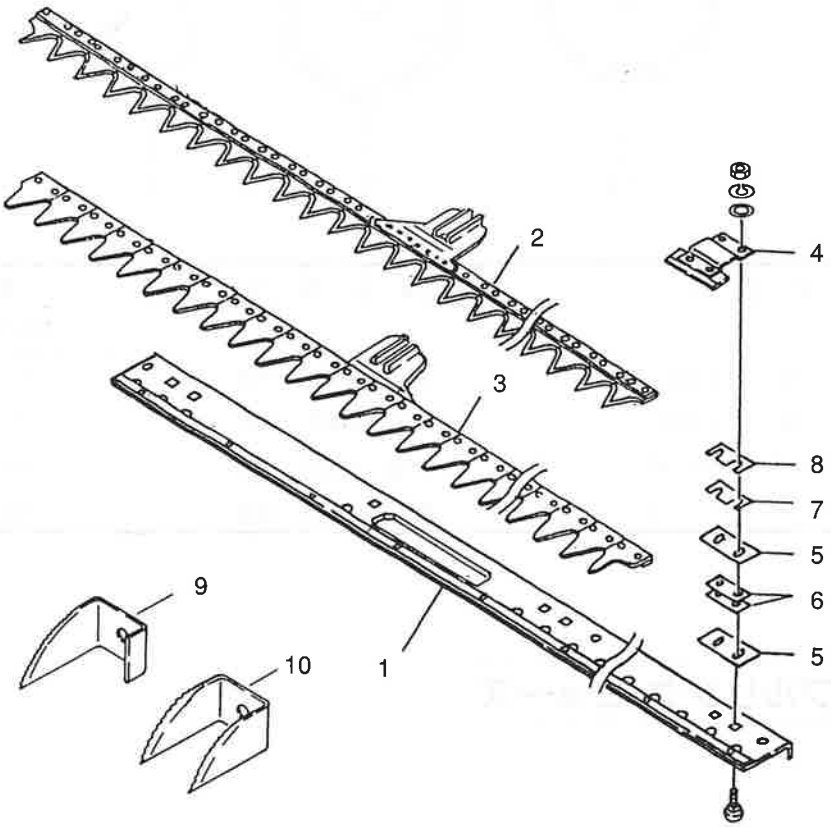


No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェン（4本）	3523 4426 000	
2	ツメ（40本）	3602 4327 002	
3	ピン（40本）	3523 4428 000	
4	チェン（1本）	3551 4712 001	右下
5	チェン（1本）	3551 4734 001	右上
6	チェン（1本）	3551 4756 001	左下
7	チェン（1本）	3551 4782 001	左上
8	ツメ（28本）	3523 4742 000	右下，右上，左下
9	ツメ（16本）	3501 5247 000	左上
10	ピン（44本）	3523 4428 000	
11	チェン（1本）	3523 5252 000	穂先搬送
12	ツメ（15本）	3704 5239 000	
13	ピン（15本）	3523 4428 000	
14	チェン（1本）	3544 7881 001	穂先排ワラ
15	ツメ（21本）	3543 7765 001	
16	ピン（21本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

・爪を交換する場合は，110ページを参照にして行なってください。

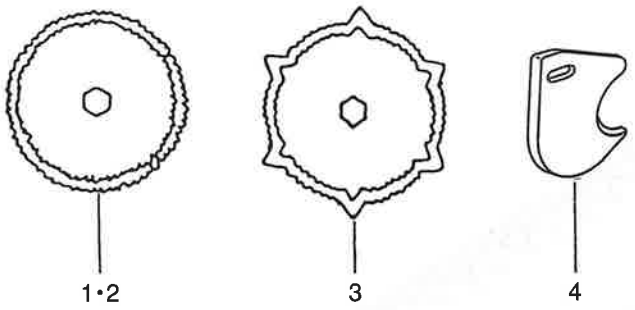
2. 刈刃・カマ関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1~8	カリハアッセンブリ	3551 4352 001	
1	ウケハダイ	3551 4353 001	
2	ウエバアッシ	3551 4356 000	
3	シタバアッシ	3551 4361 000	
4	ナイフクリップ（5個）	3532 4364 001	
5	スライドプレート（13個）	3532 4365 200	
6	ライナ（10個）	3532 4365 300	
7	シム（5個）	3532 4365 400	t＝0.8㎜
8	シム	3532 4365 500	t＝0.2㎜
9	ワラキリカマ（1個）	3544 7223 000	
10	ワラキリカマ（5個）	3735 7321 001	

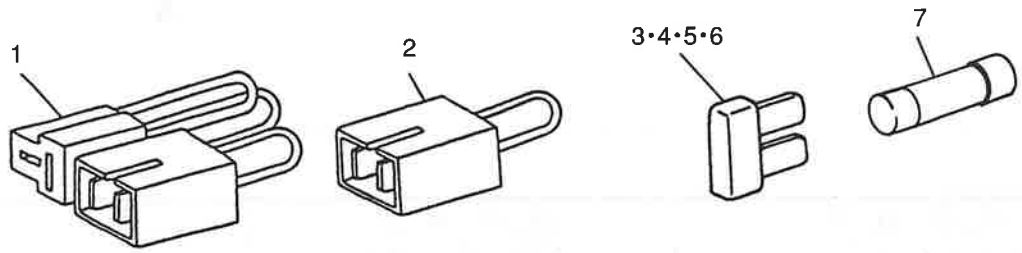
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	個数（1セット分）	
			DM33	DM33S
1	ノコ刃（φ160）	3819 0405 100	10	17
2	ノコ刃（φ200）	3817 0405 000	6	6
3	スターホイル刃	3819 0503 000	16	23
4	スクレーパ	3817 0551 001	10	13

4. ヒュージブルリンク・ヒューズ



No.	部品名称	部品番号	備考
1	ヒュージブルリンク	3518 0861 200	
2	ヒュージブルリンク	3732 0838 000	
3	ヒューズ	0980 1001 005	10A
4	ヒューズ	0980 1001 505	15A
5	ヒューズ	0980 1002 005	20A
6	ヒューズ	0980 1003 005	30A
7	ヒューズ	0980 1001 001	10A

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5. アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN-330	自動スライドノッタ	株元・穂先結束両用，大玉バスケット付
	DM33	マルチカッタ	切断長60／180㎜
	DM33S	スーパーマルチカッタ	切断長40／160㎜
	S－330D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	D－KN320	ノッタドロッパ	
	SP－33W	スーパーデバイダ	2連
	SP－33TQ	スーパーデバイダ	3連用キット
	R－KS330	スタンドノッタ	
	EXG－32A	延長オーガ	オーガ延長キット80cm
	CH210G－320G	コンバインフード	
	DM33－KIT （3817　2000　001）	マルチ交換キット	切断長60／180㎜から40／160㎜への変更キット
	DM33S－KIT （3817　2100　001）	スーパーマルチ交換キット	切断長40／160㎜から60／180㎜への変更キット

6. 潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4）
全農	クミアイディーゼルマルチオイル（SAE・10W－30）
三菱石油	ダイヤモンドHDS－3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30）
三菱石油	ダイヤモンドハイドロフルードEP46
日本石油	スーパーハイランド46

をお使いください。

3. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4） マルチGBオイル（SAE80W，GL－4） マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
全農	クミアイトラクタニュースーパーマルチオイル（SAE・75W－80）
三菱石油	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE80W）
三菱石油	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE140）
三菱石油	ダイヤモンドスーパーHPギヤオイル（SAE90，GL－5）

をお使いください。

取扱いのポイント

- **トランスミッションケースのオイルはギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。**

4. 三菱農機 (純正油) マルチオイル

・マルチSTOU（ストー）オイルは，１種類でエンジンオイル，ギヤオイルとして，一年中ご使用いただける，オールシーズンタイプです。
・マルチGBオイルは，ギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（G）と湿式ブレーキ（B）専用オイルです。
・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。



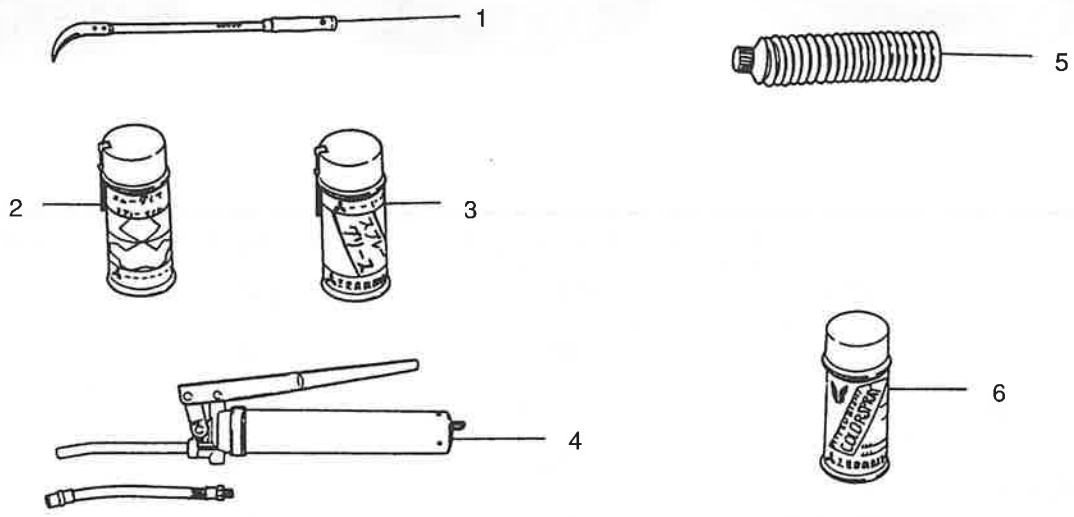
性状 ＼ 品名		マルチSTOUオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度	15℃ g／cm³	0.881	0.893	0.900
引火点	℃	210	230	230
流動点	℃	−37.5	−35.0	−22.5
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	78.4	188.5
	@ 100℃	10.8	9.8	17.5
粘度指数		168	104	100
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－4	GL－4	GL－5
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	80W	90
荷姿		ドラム・20ℓ缶	20ℓ缶	ドラム・20ℓ缶

・お買い求めは，弊社「特約販売店」で取扱っていますのでご相談ください。

7．コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	カラースプレー（赤）	0975　0000　270	補修用塗料
	〃　（白）	0975　0000　160	
	〃　（黒）	0975　0000　470	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

8．用語解説

取扱説明書に使用している用語の意味は次の通りです。

ア行

アタッチメント……コンバイン購入後に取付ける装置です。

アワメータ……作業時間の集計を表示します。

インジケータランプ……機械の状態を知らせるランプです。

エアクリーナエレメント……空気清浄器用のフィルタです。

カ行

コンビネーションスイッチ……前照灯と方向指示灯の操作機能を１つにまとめたスイッチです。

サ行

サブタンク……グレンタンクの容量を多くするための張り出しタンク部です。

増速ツインこぎ胴……こぎ胴部を前後に分割し，前後のこぎ胴に回転差をつけた機構です。

スーパーワイドセレクタ……揺動流板に設けてある選別調節を行う装置です。

タ行

デバイダ……分草板のことをいいます。

トルクリミッタ……作業中にワラなどが巻付き異常な力が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐ安全装置です。

ナ行

ナローガイド……刈取る作物を分ける前処理誘導稈です。

ノッタ……ワラの結束機です。

ハ行

バンパ……デバイダ先端に取付ける危険防止用の保護板です。

ヒュージブルリンク……大電流用のヒューズです。

マ行

マルチカッタ……レバーの切換で排ワラの切断長を変えることができるカッタです。

コンバイン(自脱型)検査成績表

合格番号	96091	型式名	三菱 MC330G
		依頼者名	三菱農機株式会社
		住所	島根県八束郡東出雲町大字揖屋町６６７番地１

平成9年2月4日 生物系特定産業技術研究推進機構



■ 乗用型，４条刈
■ 穀粒処理方式：タンク式
■ 機関出力：24.3kW {33PS} 2800/rpm
■ 走行変速方式：ＨＳＴによる無段変速（主変速）
ギヤ変速３段（副変速）
■ 走行速度：前進 0～2.20m/s，後進 0～2.20m/s
■ 自動方向制御装置，刈取位置設定装置，
自動こぎ深さ制御装置，自動選別制御装置，
自動車体水平制御装置

Ⅰ 主要諸元・構造

１．機体の大きさ（作業状態，カッタ付き）

■ 全長：416cm（デバイダ先端～カッタ後部）
■ 全幅：232cm（グレンタンク～左分草桿）
■ 全高：215cm（アンローダ）
■ 質量：2454kg

２．機関

■ 型式名：三菱　Ｓ３Ｌ２－Ｔ１１Ｃ
■ 種類：水冷４サイクル３気筒ディーゼル
■ 出力：24.3kW {33PS} 2800/rpm
■ 始動方式：セルモータ式

３．走行部

■ 形式：ゴムクローラ
■ 主変速：ＨＳＴ（無段）
■ 副変速：３段
■ 走行速度：前進
0～0.71，0～1.21，0～2.20m/s
後進
0～0.71，0～1.21，0～2.20m/s
（機関定格回転数における計算値）

４．前処理部

■ デバイダ最外側先端間隔：140cm
■ 昇降方式：油圧式（刈刃の高さ 4～52cm）

(1) 引起し装置
■ 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
■ 形式：往復動刃（ダブルナイフ）
■ 刃幅：140cm

(3) 搬送装置
突起付Ｖベルト，スターホイル，
タインドチェーン，搬送チェーン

５．脱穀・選別部

こぎ胴，処理胴，揺動板（篩），圧風ファン，
補助圧風ファン，吸引ファン
■ 脱穀形式：下こぎ式
■ こぎ胴の径と幅：41×62cm
■ こぎ胴回転数：456(前部)/560(後部)rpm

６．穀粒処理部

■ 処理方式：タンク式
■ 呼称容量：850 l（満杯容量）

７．排わら処理装置

ディスク型カッタ

Ⅱ 検 査 成 績

1．作業の性能

(1)能率試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

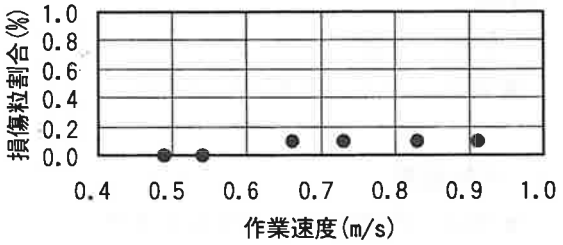
作物条件					
供試作物・品種	条間×株間	作物全長	含水率		概略もみ収量（含水率15%換算）
			穀粒	わら	
水稲　朝の光	29×16cm	95cm	22.6%	64.3%	740kg/10a

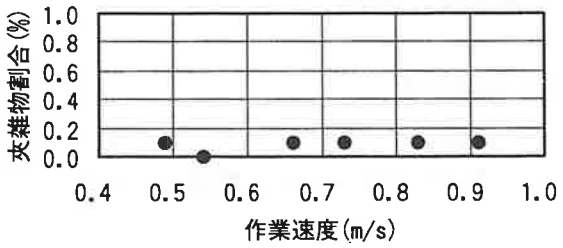
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
70.0×49.8m	3460 m²	4条左回り刈り	0.86m/s	2862kg/h	28.6a/h	23.2a/h(注)

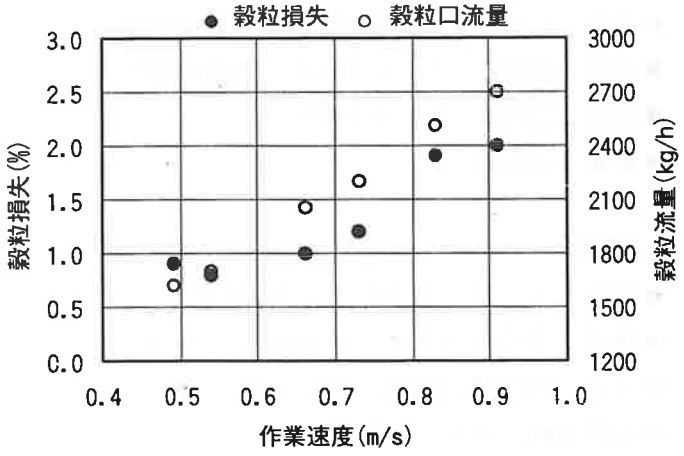
（注）ほ場4隅の手刈時間とその手こぎ時間を含めた場合の作業量は，19.3a/hであった。

(2)精度試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

作物条件					
供試作物・品種	条間×株間	作物全長	含水率		概略もみ収量（含水率15%換算）
			穀粒	わら	
水稲　朝の光	28×17cm	92cm	25.1%	68.5%	660kg/10a







2．騒　　音：92dB(A)

3．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

4．そ の 他：自動方向制御装置，刈取位置設定装置，自動こぎ深さ制御装置，自動選別制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間（刈取及びそれに伴う回行に要する時間）で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ 場 作 業 量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間作当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。

騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

Ⅲ 付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたコンバインの第Ⅱ類自脱型に属するものである。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式 _____

機械番号(製造番号) _____

●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先 _____

TEL　　(　　) _____